

-----  
2022年度 前期～後期

1.0単位

栄養教育実習（資格）

小林 麻貴  
-----

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

この科目では、栄養学部のDPに示す栄養教諭のリーダーとして社会で活躍できる技能を習得するため、教職に関する講義、栄養教諭の専門科目の講義、事前指導を受講した後に、栄養教諭の配置されている小学校、中学校等で栄養教育実習を行う。実習校においては、指導教諭等からの説明、児童及び生徒への個別的な相談・指導の実習、児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習、食に関する指導の連携・調整の実習を受ける。

< 到達目標 >

栄養教諭の職務内容が理解できる。

効果的な授業展開について理解できる。

児童・生徒とのコミュニケーションがとれる。

< 授業のキーワード >

栄養教諭、食に関する指導、小学校、中学校、給食

< 授業の進め方 >

教育委員会と協議した小学校で栄養教育実習を行う。

< 履修するにあたって >

栄養教諭概論、教育実習事前・事後指導で学修した内容を十分に復習しておくこと。

< 授業時間外に必要な学修 >

実習前に模擬授業テーマについて実習先の先生と綿密な打ち合わせをし、媒体、指導案、シナリオを準備する（10時間）

大学の担当教員とも十分な打ち合わせを行い、実習前に模擬授業の練習をする（5時間）

< 提出課題など >

授業終了後、実習ノートを提出すること。

実習ノートは確認後、返却を行う。

< 成績評価方法・基準 >

実習先での評価80%、実習前の準備状況・実習ノートの内容・実習報告の内容・仕方20%で評価を行う。

< 授業計画 >

第1回 栄養教育実習第1日目

第1日目 実習についてのオリエンテーションを受け、教育実習について理解を深める。

第2回 栄養教育実習第1日目

第1日目 実習についてのオリエンテーションを受け、教育実習について理解を深める。

第3回 栄養教育実習第1日目

第1日目 実習についてのオリエンテーションを受け、教育実習について理解を深める。

第4回 栄養教育実習第2日目

第2日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第5回 栄養教育実習第2日目

第2日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第6回 栄養教育実習第2日目

第2日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第7回 栄養教育実習第3日目

第3日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第8回 栄養教育実習第3日目

第3日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第9回 栄養教育実習第3日目

第3日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第10回 栄養教育実習第4日目

第4日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第11回 栄養教育実習第4日目

第4日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第12回 栄養教育実習第4日目

第4日目 模擬授業の準備、授業見学、児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第13回 栄養教育実習第5日目

第5日目 模擬授業・授業見学・児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第14回 栄養教育実習第5日目

第5日目 模擬授業・授業見学・児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

第15回 栄養教育実習第5日目

第5日目 模擬授業・授業見学・児童との交流を行い、栄養教諭について理解を深める。

-----  
2022年度 前期～後期

2.0単位

栄養教諭概論（資格）

小林 麻貴、大林 稔、小田原 左起子、蔵前 隆広、曾我 正子  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目では、栄養学部のDPに示す栄養教諭のリーダーとして社会で活躍できる技能を習得するため、栄養教諭の重要性・意義、学校給食の重要性、食育の重要性を学ぶ。

<到達目標>

栄養教諭の制度と役割について理解する。  
学校組織の中の栄養教諭の役割を理解する。  
学校給食と日本人の食生活について理解する。  
子供の発達と食生活について理解する。  
学習指導要領の意義と食育の在り方について理解する。  
食に関する指導の全体計画について理解する。  
食に関する指導の展開について理解する。

<授業のキーワード>

栄養教諭 学校給食 食に関する指導 食育

<授業の進め方>

講義を中心に進める。

<履修するにあたって>

栄養教育論、栄養教育論、教職教養科目で学修した知識を復習しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業内容について自分でまとめておく(1時間)

授業内容をヒントに、自分自身が模擬授業をする際のテーマを考えておく(30分)

<提出課題など>

授業内容についてのレポートを課題を出す。

レポート課題のフィードバックは集中講義期間中、オフィスアワーに行う。

<成績評価方法・基準>

授業への積極性50%、レポート50%、合計100%として評価を行う。

<テキスト>

金田雅代編著 『栄養教諭論—理論と実際—(四訂版)』  
建帛社 2019年 2800円+税

<参考図書>

文科省「小学校学習指導要領解説」

<授業計画>

第1回 栄養教諭制度と役割

栄養教諭創設の経緯、栄養教諭の資質能力の確保、栄養教諭の配置、栄養教諭の身分について理解する。

第2回 栄養教諭制度と役割

栄養教諭の職務、学校給食の歴史、学校給食法、食育基本法の施行、食育推進基本計画の決定について理解する。

第3回 学校組織と栄養教諭

学校組織と栄養教諭の位置づけ、委員会活動等における栄養教諭の役割について理解する。

第4回 学校給食と日本人の食生活

学校給食の食事内容の推移について理解する。

第5回 学校給食と日本人の食生活

地場産物の活用と郷土食について理解する。

第6回 子どもの発達と食生活

体位と健康、食習慣と健康、調査から見える食生活の課題、学校給食でのエネルギー及び栄養素の摂取量について理解する。

第7回 学習指導要領の意義と食育の在り方

学習指導要領改訂の趣旨、学校における体育・健康に関する指導と食育の推進について理解する。

第8回 学習指導要領の意義と食育の在り方

現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力、カリキュラム・マネジメント、栄養教諭に求められるものについて理解する。

第9回 食に関する指導の全体計画

食に関する指導の全体計画の作成の必要性について理解する。

食に関する指導の目標と内容について理解する。

第10回 食に関する指導の全体計画

全体計画作成の手順及び内容について理解する。

第11回 食に関する指導の全体計画

食育推進の評価について理解する。

第12回 食に関する指導の展開

指導内容の整理と指導計画について理解する。

第13回 食に関する指導の展開

年間指導計画に基づいた指導の成果について理解する。

学習指導の評価について理解する。

第14回 食に関する指導の展開

特別支援学校における食に関する指導について理解する。

第15回 まとめ

栄養教諭概論で学修した内容について総まとめをし、理解を深める。

-----  
2022年度 前期～後期

2.0単位

栄養教諭概論 (資格)

小林 麻貴、曾我 正子  
-----

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

この科目では、栄養学部のDPに示す栄養教諭のリーダーとして社会で活躍できる技能を習得するため、栄養教諭の重要性・意義、学校給食の重要性、食育の重要性を学ぶ。

<到達目標>

給食の時間における食に関する指導を理解する。

教科等における食に関する指導を理解する。

個別栄養相談指導の意義と方法を理解する。

家庭・地域社会との連携を理解する。

<授業のキーワード>

食育 生活科 家庭科 特別活動

<授業の進め方>

講義・演習を中心に進める。

<履修するにあたって>

栄養教育論、栄養教育論、教職教養科目で学修した内容を十分に復習しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業内容について自分でまとめておく（1時間）  
授業内容をヒントに、自分自身が模擬授業をする際のテーマを考えておく（30分）

< 提出課題など >

教科等における食に関する指導部分で、自分で考えた内容で模擬授業を行う。模擬授業に使用する、学習指導案、媒体、シナリオ、ワークシートは提出すること。また、フィードバックは最終回の授業で行う。

< 成績評価方法・基準 >

授業への積極性70%、模擬授業に関わる提出物30%で評価を行う。

< テキスト >

金田雅代編著 『栄養教諭論－理論と実際－(四訂版)』  
建帛社 2019年 2800円＋税

< 参考図書 >

文科省「小学校学習指導要領解説」

< 授業計画 >

- 第1回 給食の時間における食に関する指導  
給食の時間における食に関する指導について理解する。
- 第2回 給食の時間における食に関する指導  
指導における留意点について理解する。
- 第3回 教科等における食に関する指導  
生活科における食に関する指導について理解する。
- 第4回 教科等における食に関する指導  
家庭科・技術・家庭科（家庭分野）における食に関する指導について理解する。
- 第5回 教科等における食に関する指導  
体育科、保健体育科における食に関する指導について理解する。
- 第6回 教科等における食に関する指導  
総合的な学習の時間における食に関する指導について理解する。
- 第7回 教科等における食に関する指導  
総合的な学習の時間における食に関する指導について理解する。
- 第8回 教科等における食に関する指導  
特別活動における食に関する指導について理解する。
- 第9回 教科等における食に関する指導  
社会科における食に関する指導について理解する。
- 第10回 教科等における食に関する指導  
理科における食に関する指導について理解する。
- 第11回 教科等における食に関する指導  
特別教科 道徳における食に関する指導について理解する。
- 第12回 個別栄養相談指導の意義と方法  
個別栄養相談の意義、個別栄養相談の方法について理解する。
- 第13回 個別栄養相談指導の意義と方法  
個別栄養相談指導の実際について理解する。
- 第14回 家庭・地域社会と連携

家庭・地域社会との連携について理解する。

第15回 まとめ

栄養教諭概論、で学修した内容をまとめ、栄養教諭について理解を深める。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

英語コミュニケーション論（資格）

藏菌 和也  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、言語文化領域の専門科目に属し、学部のDPに示す 1.「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」、5.「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、7.「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」に関係します。異文化に属する人のことを理解する方法の一つとして、相手の考え方やものの見方、その国ごとに形成された制度や文化の背景を理解するという方法があります。現代の日本にも根付いている異なる文化から取り入れられた制度や文化にも目を向けて、その制度や文化が成立した背景について歴史や宗教、民族など様々な観点から考えていきます。

< 到達目標 >

1. 日本と世界の国々の文化的な違いとその背景を理解し、説明できる。
2. 中学、高校で学んだ語彙、語法、文法を使って英文の内容を正確に理解し、説明できる。
3. 異なる意見を持つ仲間と積極的に議論し、自分の考えを表現することができる。

< 授業のキーワード >

intercultural communication、ceremony、food、gender、religion、past vs. future

< 授業の進め方 >

異文化について書かれた英語テキストを精読しながら、日本と異なる国々との間に存在する文化的な違いとその背景について理解を深めます。授業までに予習してきてもらい、授業中は日本語訳の完成度を高めるためにグループで議論を行ってもらい、その成果を発表してもらいます。授業の終わりには小テストを行います。何も見ない状態で授業で学んだ英文の日本語訳などをしてもらいます。

< 履修するにあたって >

授業中に単語の意味が分からない場合にその都度調べられるように、英和辞典もしくは英英辞典（電子辞書可）を持参してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

毎回授業の内容について予習し、分からないことがあれば辞書や文法書を調べる（1時間）。授業後には学習した内容を復習し、中間および最終発表の準備を進める（30分）。

< 提出課題など >

前半に中間レポート課題を出します。また、最終授業では授業全体で学んだ内容に関する最終レポートを書いてもらいます。授業では振り返りのための小テストを行います。英文の日本語訳や英語訳等をしてもらいます。次回授業で小テストの解答を提示し、皆で見て復習します。レポートについては、評価基準を公開します。

< 成績評価方法・基準 >

中間レポート15%、最終レポート15%、小テスト60%、授業への積極的な参加10%

< テキスト >

石井隆之 監修 『Cross-Cultural Awareness : 英語で学ぶ異文化の不思議』 開文社

< 参考図書 >

なし

< 授業計画 >

第1回目 はじめに

自己紹介、授業の進め方や成績の付け方等の説明をします。

第2回目 Wedding ceremonies in the world

結婚式は宗教や考え方によってスタイルが異なる。その背景にはどのような考え方の違いがみられるのかについて考えます。

第3回目 Funerals in the world

仏教式、神道式、キリスト教式、無宗教葬など、葬式と埋葬文化の違いについて考えます。

第4回目 Coming-of-age ceremonies in the world

日本と世界とで成人年齢や成人式のやり方に違いはあるのか。また、なぜ成人の日を祝うのかについて文化の違いから考えます。

第5回目 Toilets in the world

日本では時代と共におまる、かわや、ウォッシュレットへと変わってきたトイレですが、世界の文化とトイレとの関りについて考えます。

第6回目 Unusual foods in the world

ある国では当然のように食べる食べ物でも、ほかの国ではその捉え方は異なります。食文化とその文化が成立した背景について考えます。

第7回目 Greek and Japanese mythologies

人や国によって信じるものは異なりますが、異国に伝えられる神話にも共通点がみられます。神話の背景に存在する異同について考えます。

第8回目 中間レポート

これまでの学んだ内容に関して調べ学習をしてもらい、授業内で中間レポートを書いてもらいます。

第9回目 Children's recreation in the world

子どもの夢は現代社会を映し出す鏡とも言えます。社会、文化を反映する世界の子供の遊びについて考えます。

第10回目 Sports of the world

アテネで始まった近代オリンピックが成立した背景やその精神、そして現代のオリンピックが持つ意味合いについて考えてみます。

第11回目 A strange custom

古来より人類には土を食べるという習慣があったとされます。その習慣が成立した背景に存在するものの見方、考え方について考えます。

第12回目 Regions vary in the world

宗教の違いが言語観や自然観の形成にどのような影響を与えるのかという観点から、日本と西洋の文化的な違いについて考えます。

第13回目 Is "right" always right?

日本語で「右腕」はプラス、「左遷」は - イメージを想起しますが、異なる言語では右と左にどのようなイメージを想起するのかについて考えます。

第14回目 P-time culture and M-time culture

時間の概念は文化によって異なります。単一的時間と多元的時間という時間概念の違いとその概念が成立した背景について考えます。

第15回目 最終レポート

これまでの学んだ内容に関して調べ学習をしてきてもらい、授業内で最終レポートを書いてもらいます。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

英語音声学 (資格)

服部 亮祐

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部専門科目の言語・文学科目群の一科目並びに教職（英語）の資格科目に属している。人文学部DPのひとつである、「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現できる」能力を養うことを目的とする。英語音声に関する正しい知識や技能を修得し、英語を正しく聞き取り、発音することを目指す。

< 到達目標 >

日本語と英語の音の体系の違いを正しく認識できる。正しいイントネーションとリズムを用いて英語の発音ができる。実践的な英語の発音指導法を身に付ける。

< 授業のキーワード >

音声学、音素、アクセント、イントネーション

< 授業の進め方 >

各テーマについて、解説及び例示をする。その後、演習、ペアワーク等を通して実践的に学ぶ。また、学修した内

容について口頭で試験を行い、理解を確認する。

<履修するにあたって>

演習やペアワーク等を通して実際に練習することが重要なので、積極的に授業に参加することが不可欠です。

<授業時間外に必要な学修>

復習として、各回で学んだことについて、発話練習を欠かさないこと。(30分?程度)

<提出課題など>

その都度、授業中に指示します。

<成績評価方法・基準>

授業内での取り組み：20%、口頭試験(中間：40%、最終：40%)

<テキスト>

深沢俊昭(2015)『改訂版 英語の発音パーフェクト学習事典』アルク、2,600円+税

<授業計画>

第1回 イントロダクション

自己紹介、授業の進め方、成績の付け方などの説明

第2回 英語の音の基本

音素と発音記号の必要性について、解説する。

第3回 母音

英語に使われる音素(母音)について学び、練習する。

第4回 子音

英語に使われる音素(子音)について学び、練習する。

第5回 英語のリズム

ストレスアクセントの強弱の差が英語独自のリズムを生むことを理解し、練習する。

第6回 英語のイントネーション

日本語にはない複雑なピッチの変化やイントネーションの使い方を理解し、練習する。

第7回 中間口頭試験

これまで学んだことを踏まえて、音素の読み取り、音読のテストを行う。

第8回 音の連結

単語が滑らかにつながっていく現象を理論的に理解し、練習する。

第9回 音の同化

単語と単語が隣合わさることで音が変わる現象を理解し、練習する。

第10回 短縮形

短縮形になった単語の発音について確認し、練習する。

第11回 破裂音の消失

破裂音があっても、実際には発音されない事例を理解し、練習する。

第12回 脱落

母音や子音の発音が省略される現象について理解し、練習する。

第13回 子音連続

日本語と異なり、母音が入らずに子音だけが続く場合の発音を理解し、練習する。

第14回 これまでのまとめ

これまで学んだことを復習し、練習する。

第15回 最終口答試験

これまで学んだことについて、口頭試験を行う。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

英語科教育法 (資格)【GC以外】

出水 孝典  
-----

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この授業では、英語をきちんと教えるために何が必要かを追究する。一言で言うと、自分できちんとテキストを予習して、学生に正しい英語の知識を習得させることのできる、一人前の教員になるためには、何をしておくべきかということ、一緒に考えていく。辞書の引き方、文法書(今日では『総合英語...』という参考書として出版されていることが多い)の参照の仕方、英語が読めているかどうか検証するやり方を、『速読英単語』(必修編)の英文1~50とその日本語訳を参照しながら、実際に訓練していく。また、英文を音読したCDと一緒にリピートすることで、英文を正しい発音で読めるようになることも目標とする。

<到達目標>

1. 大学入試レベルまでの英文をきちんと理解し、その文法・語法・内容について学習者に説明することができるようになる。
2. 総合英語として出版されている文法書、および英和辞典・英英辞典などの内容を理解し、実際の英文に当てはめる形で学習者に説明することができる。
3. 英語の単語だけでなく、文も含めて、正しく発音することができる。
4. ある英文を題材にして、長文総合問題を作成することができる。

<授業の進め方>

毎回の授業で、『速読英単語』のReadingパートの英文を2つずつ取り上げる。受講者は2つの英文に関して、まず、自分で読んで意味を取ってみた上で構文の解説や日本語訳を参照して、自分自身がその英文を正しく理解できているのか確認する。その後、本文に出てきた文法事項・構文などを『総合英語able』で調べ、それを学習者に授業で教える場合にどのように説明すれば有効なのかを考えてくる。毎回、2つの英文に含まれる文のいくつかについて、受講者に説明してもらうのできちんと予習してくることが前提となる。また、毎回の授業の開始時に、その日に読む英文のVocabularyパートに関して、本文の日本語訳から頭文字が与えられた状態で元の英単語を書く形の単語テストを行い、平常点に含めるので、

勉強した上で遅刻しないように来ること。

<履修するにあたって>

単位取得の要件として、英検2級またはTOEIC500点以上の取得を課します。最終授業か後期末テストの際に、担当教員にその証明書を提示すること。あと、テキストの引いた箇所に付箋をつけるので、付箋を買ってテキストと共に毎回持参すること。

<授業時間外に必要な学修>

毎回授業開始時に単語テストをするので、しっかり勉強してくること(45分)。授業後は、その日に取り上げた英文を10回は音読するようにする(45分)。

<提出課題など>

夏休みに『速読英単語』の英文51~70について自習してもらう。後期一回目の授業で、VocabularyパートとReadingパートに関して、確認テストを行い、評価に加える。

<成績評価方法・基準>

授業中での受け答え45%、期末テスト40%(20%×2)、模擬授業15%

<テキスト>

1. 風早寛 (2019) 『分冊 速読英単語 (1)必修編 [改訂第7版]』Z会出版、ISBN978-4865312287

2. 佐藤誠司 (著) (2022) 『SKYWARD 総合英語』東京：桐原書店、ISBN-13: 978-4342208638

毎回授業に持参し、英語を読みながら、文法の知識で疑問となった点を一緒に参照し、そこに日付を書いた付箋をつけるという作業をする。

<授業計画>

第1回 前期の導入

英語を教えて生徒に理解させる場合、教員の側にどのような知識が必要なのかを担当者が説明する。その後、授業で用いるテキスト『総合英語able』を紹介し、このような総合英語の文法書はそもそもどのように使うべきなのか話をする。その後、受講者同士の自己紹介を行う。

第2回 英語の学習と教え方の研究1

『速読英単語』の英文1.オオカミの子育て、2.お茶の種類を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第3回 英語の学習と教え方の研究2

『速読英単語』の英文3.ジェスチャーの違い、4.ビタミンCの働きを取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第4回 英語の学習と教え方の研究3

『速読英単語』の英文5.drugの定義、6.皮膚の役割を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行

う。

第5回 英語の学習と教え方の研究4

『速読英単語』の英文7.紳士服と婦人服でボタンが違う理由、8.紫色のもとを取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第6回 英語の学習と教え方の研究5

『速読英単語』の英文9.本当のほほえみと偽りのほほえみ、10.「熱い」か「辛い」かを取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第7回 英語の学習と教え方の研究6

『速読英単語』の英文11.12.食の安全と有機農業(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第8回 英語の学習と教え方の研究7

『速読英単語』の英文13.数学の歴史(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第9回 英語の学習と教え方の研究8

『速読英単語』の英文15.遺伝子と行動、16.風邪に関する常識を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第10回 英語の学習と教え方の研究9

『速読英単語』の英文17.18.英単語はいくつあるか(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第11回 英語の学習と教え方の研究10

『速読英単語』の英文19.20.結婚式の慣習(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第12回 英語の学習と教え方の研究11

『速読英単語』の英文21.22.遊びを通して学ぶこと(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

第13回 英語の学習と教え方の研究12

『速読英単語』の英文23.24.サッカーの起源(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストを

した上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第14回 英語の学習と教え方の研究13

『速読英単語』の英文25.26.ハエの超能力(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第15回 英語の学習と教え方の研究14

『速読英単語』の英文27.28.アレルギーが増加する背景(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第16回 夏休みの宿題の確認テスト

夏休みに宿題として課した『速読英単語』の英文51~70について、VocabularyパートとReadingパートの確認テストを行う。

#### 第17回 英語の学習と教え方の研究15

『速読英単語』の英文29.30.外国語を学ぶ際に必要なもの(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第18回 英語の学習と教え方の研究16

『速読英単語』の英文31.32.ディズニーの大きな決断(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第19回 英語の学習と教え方の研究17

『速読英単語』の英文33.ディズニーの大きな決断(3)、34.ネコの習性を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第20回 英語の学習と教え方の研究18

『速読英単語』の英文35.36.「触れること」の作用(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第21回 英語の学習と教え方の研究19

『速読英単語』の英文37.38.インターネット時代の印刷物の役割(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第22回 英語の学習と教え方の研究20

『速読英単語』の英文39.40.つらい経験について書くこ

との効用(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第23回 英語の学習と教え方の研究21

『速読英単語』の英文41.42.テレビゲームの影響(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第24回 英語の学習と教え方の研究22

『速読英単語』の英文43.44.真実を使つたうそ(1)(2)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第25回 英語の学習と教え方の研究23

『速読英単語』の英文45.個人主義と協調主義、46.テクノロジーは人間の職を奪うか(1)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第26回 英語の学習と教え方の研究24

『速読英単語』の英文47.テクノロジーは人間の職を奪うか(2)、48.群集心理(1)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第27回 英語の学習と教え方の研究25

『速読英単語』の英文49.50.群集心理(2)(3)を取り上げ、授業開始時にVocabularyパートの単語テストをした上で、Readingパートの英文の理解確認、学生への説明方法の検討、正しい発音を習得するための音読を行う。

#### 第28回～第30回 模擬授業

『速読英単語』の英文1~20の比較的平易な英文を用いて、模擬授業をしてもらい、ピアレビューを行う。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

英語科教育法 (資格)【GC】

深田 将揮  
-----

<授業の方法>

講義(対面授業及び遠隔授業の併用)

<授業の目的>

この科目は、以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

4.(英語コース)教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる  
この授業科目は教員の免許状取得のための必修科目であ

る。この授業を通して、英語教員として必要な専門的知識および生徒と関わる姿勢を身に付けることが目的である。外国語習得理論、外国語教授法、コミュニケーション能力の育成、文法・語彙指導などについての講義から知識を得るだけでなく、これらの理論や教授法を日本の英語教育現場でどのように活かし得るかについて、グループワークや模擬授業等を通して、受講者が主体的に考え、理解を深める。

〔教員の実務経験〕

英語科教員として指導をしていた時の経験を活かし、生徒の実態に即した英語科の授業づくりの視点を教示している。

<到達目標>

- (1) 英語教育学における基本的知識の理解を深め、その知識を授業構築において活用できる。
- (2) 模擬授業を通して、実践的指導力を養い、自信を持って指導できる。
- (3) 学習者視点の指導ができる。

<授業のキーワード>

教科教育法、英語科教育、中学校外国語科、高等学校外国語科

<授業の進め方>

英語教育学全般について理論から実践的内容までを扱い、学習者に適した英語教育環境を提供できる、また、学習者の能力を最大限に伸ばすことができる指導者を目指す。取り扱う内容は、英語教育における理論や教授法の歴史、今後の英語教育の動向、中学校、高等学校で英語教育を理解、発展させる上で不可欠な学習指導要領、教科書、小学校・中学校・高等学校の連携の在り方等を扱う。また、模擬授業などを通して、実践的指導力を養うとともに、教材活用（発展的な学習内容の探求と学習指導への位置づけ）や評価方法、情報機器の活用なども体験的に学ぶ。さらに、生徒の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた学習者視点の授業設計をするため、学習者要因や学習方略など学習者中心の授業展開についても幅広く学び、次世代にふさわしい英語教員を育成する。

<履修するにあたって>

教員を目指す学生が受講対象のため、講義の遅刻・欠席は、厳しく対処する。

「英語教育」って一体何なのでしょう。その疑問をこの講義で皆さんと一緒に議論したいと思います。講義内では、理論から実践までを取扱います。次世代にふさわしい英語教師像を共に考えていきましょう。

<授業時間外に必要な学修>

マイクロティーチング（受講生による模擬授業）を課すので、事前準備をしっかりとすること。

<提出課題など>

レポート課題、英語科学習指導案等。

<成績評価方法・基準>

課題(60%)、マイクロティーチング及びレクチャー(

30%)、授業中の質疑・発表(10%)

<テキスト>

東京書籍（令和3年度版）『NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1,2,3』東京書籍

望月昭彦編著（2018）『第3版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店

文部科学省（最新版）『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

文部科学省（最新版）『高等学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

<参考図書>

講義内で紹介する。

<授業計画>

第1回 導入

英語教育学とは

第2回 概要（1）

英語教育の歴史とこれから - 日本の英語教育と様々な教授法 -

第3回 概要（2）

学習指導要領と小・中・高の連携

第4回 概要（3）

教材研究と学習指導案の作成

第5回 概要（4）

学習者要因と学習方略

第6回 4技能（1）

リーディング（読むこと）の指導と教材

第7回 4技能（2）

ライティング（書くこと）の指導と教材

第8回 4技能（3）

スピーキング（やり取り、発表）の指導と教材

第9回 4技能（4）

リスニング（聞くこと）の指導と教材

第10回 評価

評価とテスト

第11回 授業構成とインタラクション

授業を組み立てるために

第12回 マイクロティーチング（1）

受講生による模擬授業：教材活用（発展的な学習内容）の観点から

第13回 マイクロティーチング（2）

受講生による模擬授業：学習内容（語彙、表現、文法）の観点から

第14回 マイクロティーチング（3）

受講生による模擬授業：チーム・ティーチングの観点から

第15回 マイクロティーチング（4）

受講生による模擬授業：異文化理解の観点から



-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

英語科教育法 (資格)【GC以外】

竹下 厚志  
-----

< 授業の方法 >

講義・実技

< 授業の目的 >

「学校教育の目的や目標、地域社会の課題を理解し、様々な要求や問題解決に取り組み、知識や技能の伸長を図る社会人として活躍することができる」人材の育成を目指しています。特に将来、中学校や高等学校等で英語科教員として理論と実践力を持ち合わせ先進的な取り組みができる基礎力を身に付けることを主な目的とします。なお、この授業担当者は、実務経験のある教員で、現職の高校教員です。今までに、英語教育関係者を対象にした多くの講演会、ワークショップを行い、文部科学省(国立教育政策研究所)から委嘱された英語評価委員として、また教育委員会における指導主事として多くの学校現場の指導に当たり、文部科学省より指名を受けて全国の代表として公開模擬授業を行ったり、検定教科書や実践書の執筆、指導用DVDやSDGsをテーマにした問題集を公刊したりするなど多方面にわたって英語教育に携わってきています。

< 到達目標 >

1. 英語教育の在り方について主体的に考えることができる。
2. 将来、学校現場で活躍するための授業実践力の基礎を身に付けることができる。
3. 第二言語習得理論の基本を理解することができる。
4. 将来、児童・生徒にとって英語学習者モデルとなる英語力を身に付けることができる。
5. 自ら課題を見つけ、その解決に向けた取組ができるメタ認知力を身に付けることができる。

< 授業のキーワード >

SLA(第二言語習得理論)、動機づけ、テストイング、5技能統合、CLIL、focus on Form、授業づくり

< 授業の進め方 >

講義に加え、ディスカッションと発表(プレゼンテーション)を中心に授業を進めていき、最終的には教壇に立てるレベルの模擬授業を目指します。

< 履修するにあたって >

1. 授業中の積極的な発言を期待します。
2. 英語を使用する場面を適宜設けるので、日頃から英語の発話練習をしてください。
3. 教員にとって最も大切な「元気でははつらつとした姿」を授業で示し続けて下さい。

< 授業時間外に必要な学修 >

1. 英語で書かれた理論書または実践書を最低1冊は読

み終えてください。

2. 英語コミュニケーション能力の向上は日々意識して、英語を使う機会を積極的に探し、また資格試験を受験してください。

3. 出身中学校、高校の先生方と積極的に交流してください。

4. 指定テキストや参考テキストを読み込んで、理解できない点や疑問点を挙げて積極的に担当教員に質問してください。

< 提出課題など >

1. 指導案
2. 課題レポート(複数回)
3. 指定テキストに関するレポート
4. 参考図書等に関するレポート

< 成績評価方法・基準 >

1. 授業で提示された課題レポートおよびパフォーマンス 30%
2. 模擬授業の成果 40%
3. 授業への参加状況 30%

< テキスト >

「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法

酒井英樹 廣森友人 吉田達弘他

大修館書店

ISBN978-4-469-24622-3 C3037

2,400円

< 参考図書 >

1. 小学校学習指導要領解説 外国語活動 外国語編
2. 中学校学習指導要領解説 外国語編
3. 高等学校学習指導要領解説 外国語編
4. 英語教師のための第二言語習得論入門 白井恭弘 大修館書店
5. Second Language Acquisition Myths. Steven Brown, Jenifer Larson-Hall. Michigan..
6. Techniques & Principles in Language Teaching. Diane Larsen-Freeman, Marti Anderson. Oxford.
7. Motivational strategies in the language classroom. Zoltan Dörnyei. Cambridge University Press

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

0. 自己紹介

1. 授業に関する説明、学生自身の英語学習歴の振り返り
2. 日本の学校英語教育に関する意見共有
3. 目指すべき学校英語教育と教師像

第2回 SLA 1

1. 第二言語習得論
2. SLAから見た指導案分析

第3回 SLA 2

1. 第二言語習得論
2. レッスンプラン作成

- 第4回 SLA 3  
1. 動機付け研究 1
- 第5回 SLA 4  
1. 動機付け研究 2  
2. やる気を起こさせる方法の検討
- 第6回 目標設定 1  
1. 学習指導要領概要  
2. CEFR概要
- 第7回 目標設定 2  
1. CEFR-J概要  
2. 学生自身の英語力向上のためのロードマップ作成
- 第8回 CLIL 1  
1. CLIL概要
- 第9回 CLIL 2  
1. 映像分析  
2. 小中学校におけるCLILをもとにした授業略案の作成
- 第10回 focus on form 1  
1. focus on form 概要
- 第11回 focus on form 2  
1. focus on form をもとにした指導例の検討
- 第12回 映像と教科書分析 1  
1. 小学校編
- 第13回 映像と教科書分析 2  
1. 中学校編
- 第14回 映像と教科書分析 3  
1. 高等学校編
- 第15回 Team Teaching 1  
1. 意義  
2. メリット&デメリット
- 第16回 Team Teaching 2  
1. 学生によるデモンストレーション
- 第17回 テスティング 1  
1. テスティング概要  
2. 観点別評価
- 第18回 テスティング 2  
1. テスト作成
- 第19回 GCEと英語教育  
1. Global Citizenship Education (GCE) から見た日本の英語教育
- 第20回 教材作成 1  
1. 逆向き設計 (wash back effect)  
2. 教材とタスクの概要
- 第21回 教材作成 2  
1. 目標・教材・タスク作成
- 第22回 学習方略  
1. 学習方略概要
- 第23回 技能統合 1  
1. 技能統合例の概観
- 第24回 技能統合 2  
1. タスク・オーダーの作成

- 第25回 単元構想 1  
1. 単元構想の考え方
- 第26回 単元構想 2  
1. 単元構想作成  
2. 指導案作成
- 第27回 模擬授業 1  
1. 指導案に基づく模擬授業と検証
- 第28回 模擬授業 2  
1. 指導案に基づく模擬授業と検証
- 第29回 模擬授業 3  
1. 指導案に基づく模擬授業と検証
- 第30回 リフレクション  
1. 1年間の振り返りと英語力向上の確認

-----  
2022年度 前期

2.0単位

英語科教育法 (資格)【GC】

深田 将揮  
-----

< 授業の方法 >

講義、演習

< 授業の目的 >

この科目は、以下のディプロマ・ポリシーと深く関係する科目である。

4. (英語コース)教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる英語教員として必要な専門的知識と、他者と関わる際の姿勢を身に付ける。授業の構成、教材・教具、4技能の指導法などについての講義から知識を得るだけでなく、これらの理論や教授法を日本の英語教育現場でどのように活かし得るかについて、グループワークや模擬授業等を通して、受講者が主体的に考え、理解を深める。

〔教員の実務経験〕

英語科教員として指導をしていた時の経験を活かし、生徒の実態に即した英語科の授業づくりの視点を教示している。

< 到達目標 >

(1) 模擬授業を通して、実践的指導力を養い、理論的裏付けを持って指導できる。

(2) 学習者視点の指導ができる。

(3) 発展的な学習内容を探究し、学習指導へ応用できる。

< 授業のキーワード >

教科教育法、英語科教育、中学校外国語科、高等学校外国語科

< 授業の進め方 >

各技能の指導法研究としてリスニング(聞くこと)の指導法、スピーキング(やり取り、発表)の指導法について学び、学習者の技能を学習者に合わせた手法で向上させることのできる実践力を持った指導者を育成する。取

り扱う内容は、それぞれの指導法の理論的背景や、現場で活用できる効果的な指導手法を幅広く学び、授業指導案の作成や模擬授業を通して確かな授業力を磨く。また、英語教育学における実践研究の動向を知り、授業設計のより良い進展を図る。

<履修するにあたって>

教員を目指す学生が受講対象のため、講義の遅刻・欠席は、厳しく対処する。

英語指導に必要な英語力（英検2級以上、TOEIC600点以上）を有していることが望ましい。

「英語教育」って一体何なのでしょう。その疑問をこの講義で皆さんと一緒に議論したいと思います。講義内では、理論から実践までを取扱います。次世代にふさわしい英語教師像を共に考えていきましょう。

<授業時間外に必要な学修>

マイクロティーチング（受講生による模擬授業）を課すので、事前準備（指導案の作成に約90分程度）をしっかりとすること。

<提出課題など>

レッスンプランの作成及び授業後のリフレクションシートを随時課し、授業中のディスカッション、または、GC Squareを用いてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

試験(60%)、マイクロティーチング及びレッスンプラン(40%)

<テキスト>

東京書籍（令和3年度版）『NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1,2,3』東京書籍

望月昭彦編著（2018）『第3版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店

文部科学省（最新版）『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

文部科学省（最新版）『高等学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

<参考図書>

講義内で随時紹介する。

<授業計画>

第1回 導入

イントロダクション

第2回 基礎

リスニングとスピーキング指導の基礎

第3回 リスニングの指導法研究 理論編

聞くことの科学

第4回 リスニングの指導法研究 実践編

授業づくりと学習指導案

第5回 マイクロティーチング（リスニング）（1）

受講生による模擬授業：教材活用を中心に

第6回 マイクロティーチング（リスニング）（2）

受講生による模擬授業：学習活動を中心に

第7回 振り返り（1）

受講生によるマイクロティーチングの振り返りと改善

第8回 スピーキングの指導法研究 理論編

話すことの科学

第9回 スピーキングの指導法研究 実践編

授業づくりと学習指導案

第10回 マイクロティーチング（スピーキング）（1）

受講生による模擬授業：教材活用を中心に

第11回 マイクロティーチング（スピーキング）（2）

受講生による模擬授業：学習活動を中心に

第12回 振り返り（2）

受講生によるマイクロティーチングの振り返りと改善

第13回 現場の先生から学ぶ（1）

実践事例から授業設計を学ぶ

第14回 現場の先生から学ぶ（2）

現場の先生の模擬授業・授業観察

第15回 評価方法

聞くこと、やり取り・発表の評価について

-----  
2022年度 後期

2.0単位

英語科教育法 （資格）【GC】

深田 将揮

-----  
<授業の方法>

講義、演習

<授業の目的>

この科目は ディプロマポリシーの「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語科教育法 に引き続き、英語教員として必要な専門的知識および技術を身に付けることを目的とする。講義は英語教育理論と手法についての知識を深め、習得した知識を実際の授業に活用するべく模擬授業を実施する。

〔教員の実務経験〕

英語科教員として指導をしていた時の経験を活かし、生徒の実態に即した英語科の授業づくりの視点を教示している。

<到達目標>

（1）模擬授業を通して、実践的指導力を養い、理論的裏付けを持って指導できる。

（2）学習者視点の指導ができる。

<授業のキーワード>

教科教育法、英語科教育、中学校外国語科、高等学校外国語科

<授業の進め方>

各技能の指導法研究としてリーディング（読むこと）の指導法、ライティング（書くこと）の指導法について学び、学習指導要領の3つの資質・能力を元に、また、学習者の技能を学習者に合わせた手法で向上させることのできる実践力を持った指導者を育成する。取り扱う内容

は、それぞれの指導法の理論的背景や、現場で活用できる効果的な指導手法を幅広く学び、授業指導案の作成や模擬授業を通して確かな授業力を磨く。

また、英語教育学における実践研究の動向を知り、授業設計のより良い進展を図る。

<履修するにあたって>

教員を目指す学生が受講対象のため、講義の遅刻・欠席は、厳しく対処する。

英語指導に必要な英語力（英検2級以上、TOEIC600点以上）を有していることが望ましい。

「英語教育」って一体何なのでしょう。その疑問をこの講義で皆さんと一緒に議論したいと思います。講義内では、理論から実践までを取扱います。次世代にふさわしい英語教師像を共に考えていきましょう。

<授業時間外に必要な学修>

マイクロティーチング（受講生による模擬授業）を課すので、事前準備（指導案の作成に約90分程度）をしっかりとすること。

<提出課題など>

レッスンプランの作成及び授業後のリフレクションシートを随時課し、授業中のディスカッション、または、GC Squareを用いてフィードバックを行う。

<成績評価方法・基準>

課題(60%)、マイクロティーチング及びレッスンプラン(40%)

<テキスト>

東京書籍（令和3年度版）『NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1,2,3』東京書籍

望月昭彦編著（2018）『第3版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店

文部科学省（最新版）『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

文部科学省（最新版）『高等学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

<参考図書>

講義内で随時紹介する。

<授業計画>

第1回 導入

イントロダクション

第2回 基礎

リーディングとライティング指導の基礎

第3回 リーディングの指導法研究 理論編

読むことの科学

第4回 リーディングの指導法研究 実践編

授業づくりと学習指導案

第5回 マイクロティーチング（リーディング）（1）

受講生による模擬授業：教材活用を中心に

第6回 マイクロティーチング（リーディング）（2）

受講生による模擬授業：学習活動を中心に

第7回 振り返り（1）

受講生によるマイクロティーチングの振り返りと改善

第8回 ライティングの指導法研究 理論編

書くことの科学

第9回 ライティングの指導法研究 実践編

授業づくりと学習指導案

第10回 マイクロティーチング（ライティング）（1）

受講生による模擬授業：教材活用を中心に

第11回 マイクロティーチング（ライティング）（2）

受講生による模擬授業：学習活動を中心に

第12回 振り返り（2）

受講生によるマイクロティーチングの振り返りと改善

第13回 現場の先生から学ぶ（1）

実践事例から授業設計を学ぶ

第14回 現場の先生から学ぶ（2）

現場の先生の模擬授業・授業観察

第15回 評価

読むこと、書くことの評価について

-----  
2022年度 後期

2.0単位

英語科教育法 （資格）【GC】

深田 将揮

-----  
<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は ディプロマポリシーの「4.教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる」ことを目的としている。英語科教育法 に引き続き、英語教員として必要な専門的知識および技術を身に付けることを目的とする。講義は英語教育理論と手法についての知識を深め、習得した知識を実際の授業に活用するべく模擬授業を実施する。

〔教員の実務経験〕

英語科教員として指導をしていた時の経験を活かし、生徒の実態に即した英語科の授業づくりの視点を教示している。

<到達目標>

（1）教材作成、模擬授業を通して、実践的指導力を養い、理論的裏付けを持って指導できる。

（2）ICTを駆使した英語教材を作成及び利活用ができる。

<授業のキーワード>

教科教育法、英語科教育、中学校外国語科、高等学校外国語科

<授業の進め方>

リスニング（聞くこと）、スピーキング（やり取り、発表）、リーディング（読むこと）、ライティング（書くこと）、それぞれの指導時に活用できる教材作成能力を育成する。授業では、学習指導案の作成や模擬授業を通して確かな授業力を磨き、教材を利活用しながら、複数

の領域を有機的に統合できる言語活動の指導についても考える。さらに、近年のICT活用の重要性の観点から、デジタル教材の利点と問題点を考察し、次世代に即した新しいメディア活用能力を持った英語教員を目指す。

<履修するにあたって>

教員を目指す学生が受講対象のため、講義の遅刻・欠席は、厳しく対処する。

英語指導に必要な英語力（英検2級以上、TOEIC600点以上）を有していることが望ましい。

「英語教育」って一体何なのでしょう。その疑問をこの講義で皆さんと一緒に議論したいと思います。講義内では、理論から実践までを取扱います。次世代にふさわしい英語教師像を共に考えていきましょう。

<授業時間外に必要な学修>

マイクロティーチング（受講生による模擬授業）を課すので、事前準備（90分程度が必要）をしっかりとすること。

<提出課題など>

レポート課題、プレゼンテーション課題等。

<成績評価方法・基準>

レポート及び課題(50%)、マイクロティーチング(50%)

<テキスト>

東京書籍（令和3年度版）『NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1,2,3』東京書籍

望月昭彦編著（2018）『第3版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店

文部科学省（最新版）『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

文部科学省（最新版）『高等学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版

<参考図書>

講義内で紹介する。

<授業計画>

第1回 導入

教材の利活用と中学校・高等学校での英語教育

第2回 リスニング教材とその指導 基礎編

デジタル音声の基礎とその活用

第3回 リスニング教材とその指導 実践編

デジタル音声を使った教材作成

第4回 マイクロティーチング(1)

受講生による模擬授業：デジタル音声の活用を中心に

第5回 スピーキング教材とその指導 基礎編

デジタル動画の基礎とその活用

第6回 デジタル動画の基礎とその活用

デジタル動画を使った教材作成

第7回 マイクロティーチング(2)

受講生による模擬授業：デジタル動画の活用を中心に

第8回 リーディング教材とその指導 基礎編

ハンドアウト教材の基礎とその活用

第9回 リーディング教材とその指導 実践編

ハンドアウト教材作成

第10回 マイクロティーチング(3)

受講生による模擬授業：ハンドアウト教材の活用を中心に

第11回 ライティング教材とその指導 基礎編

ライティング教材の基礎とその活用

第12回 ライティング教材とその指導 実践編

ライティング用教材の作成

第13回 マイクロティーチング(4)

受講生による模擬授業：ライティング教材の活用を中心に

第14回 現場の先生から学ぶ教材活用

中学校または、高等学校教師の出張講義

第15回 教育環境について

電子黒板、校内LAN、e-Learning、LMSについて考える

-----  
2022年度 後期

2.0単位

英語表現法（資格）

藏菌 和也

-----  
<授業の方法>

講義

<授業の目的>

この科目は、人文学部人文学科の専門教育科目に属します。人文学部人文学科のDPのうち 2.「自然と人間に関する専門知識や人間の社会的・文化的活動に関する専門知識を総合的、体系的に身につけ、異なる分野の知識が相互に関連することを理解している」、5.「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、9.「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」に関係します。英語学の知見を利用して今までに学んできた英語に対する理解をさらに深め、有用な語彙を活用して自分の考えを表現する力を高めることを目的としています。書くためのいわゆる堅い英語だけでなく、身近な日常表現でよく使われる口語英語を学ぶことで、より幅広い語彙や構文の活用方法に慣れ、伝えたい内容を表現するための適切な語彙や構文を選択できるようになりましょう。

<到達目標>

1. 英語の語彙や構文などの意味と働きを理解することができる。
2. 英語の語彙や構文などの特徴を理解し、活用することができる。
3. 授業期間を通して、課題の解決のために辞書や関連する文献を調べて自立的な学習に努めることができる。

<授業のキーワード>

verb pattern、tense、aspect、voice、mood、narration、non-finite verb、noun、adjective、relative、adverb、comparison

<授業の進め方>

指定した部分の英文を日本語訳してもらいます。その後、英語を読み書きするための英文法や語彙の知識について整理します。

<履修するにあたって>

英語を苦手とする人の中には、文法用語は暗記したものの意味や使い方を十分理解できず嫌になってしまった人もいるのではないのでしょうか。

そういった人であっても、この授業で5文型の意義やどのように活用するとよいのかについて日英語対照的に、さらに言語学的な視点から考えることは英語を外国語として学ぶ日本語母語話者にとって有意義なことだと思います。身近な場面で使う表現を学ぶことで、どのような意図で「動名詞」「to不定詞」などが使われているのかといった日本語母語話者にはないネイティブの感覚を理解し説明できるようになります。英語が苦手な人でも参加してもらい英語を言語学的に分析していくことで新たな発見をしてもらいたいと思います。

<授業時間外に必要な学修>

テキストの英作文は毎回入念に予習し、疑問点があれば辞書や文法書で調べる(1時間)。復習以外にも毎日英語に触れて、英語力の向上をはかる(1時間)。

<提出課題など>

授業の終わりには復習のために小テストを行います。何も見ない状態で、その日学んだ英文を英作文もしくは日本語訳してもらいます。次回授業で小テストの解答を提示し、皆で見て復習します。15回目には確認プリントを解いてもらい、解答・評価基準を公開します。

<成績評価方法・基準>

小テスト39%、まとめテスト50%、コメント等授業への積極的な参加11%

<テキスト>

八木克正.『文法活用の日常英語表現』英宝社

<参考図書>

江川泰一郎.(1991).『英文法解説』東京:金子書房.

友繁義典.(2016)『英語の意味を極める II - 動詞・前置詞編 -』東京:開拓社.

八木克正.(2007)『世界に通用しない英語』東京:開拓社.

八木克正.(2018)『英語にまつわるエトセトラ』東京:研究社.

<授業計画>

第1回目 導入

授業の進め方、成績の付け方を説明します。また、実際に辞書や文法書を使って英作文を行う方法について説明していきます。

第2回目 動詞と動詞型

英語は動詞を中心に文型が決定されること、また様々な文の種類があることに関する理解を深めます。また、5文型の他にも7文型や8文型といった文型について考えてみます。

第3回目 時制とアスペクト

進行形・完了形と関係する「時制と相(アスペクト)」についてみていきます。また、I'm seeing it. や I'm loving it. のように普通、進行形にできない状態動詞の意味と用法などについて考えます。

第4回目 助動詞

Will you open the window, please? のような依頼を表す場合などにも使われる助動詞の意味と用法について考えます。

第5回目 態

I like apples. は言えても Apples are liked by me. は避けられます。受動態をとれる動詞、とれない動詞について考えます。

第6回目 法

It's time you went to bed. ではなぜwentが過去時制で表されるのか。直説法、命令法、仮定法の特徴について考えます。

第7回目 動名詞

Actually writing the letters と the actual writing of the letters のどちらが動名詞なのかといった問題から、動名詞の特徴について考えます。

第8回目 不定詞

come to see me と come to see that SV とでは意味が異なります。不定詞の特徴と不定詞を用いた表現等について考えます。

第9回目 現在分詞と過去分詞

現在分詞、過去分詞の特徴を概観します。また、A fallen leaf という場合に過去分詞が本当に受身の意味になるのかについて考えてみます。

第10回目 名詞

英語 a/the lionと lionsの違いや総称的に用いられる youとweの意味の違いなど名詞について考えます。

第11回目 形容詞

限定用法・叙述用法や一時性・永続性など英語の形容詞がもつ特徴について考えます。

第12回目 関係詞

関係詞の特徴を概観し、その使い方や訳し方についても見ていきます。

第13回目 副詞

Happily, John died.とJohn died happily.とでは意味が異なります。副詞および副詞的な修飾語句の意味や用法について考えます。

第14回目 比較級

比較・最上級の特徴について概観し、その使い方や訳し方について考えます。

第15回目 まとめ

これまでの講義で扱った内容に関する確認プリントを解いてもらいます。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

英文法（資格）

服部 亮祐  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部専門科目の言語・文学科目群の一科目並びに教職（英語）の資格科目に属している。人文学部DP2「人間の行動や文化に関する専門知識と技能を総合的、体系的に身につけている」こと、およびDP5「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現できる」能力を養うことを目的とする。言語学や英語学に基づいた理論を通して、英文法を科学的見地から分析する能力を養い、同時に英文を読む能力を養うことを目指す。また、小テストや課題を通して、自分の考えを口頭や文章で的確に表現する能力を身につけることを目指す。

< 到達目標 >

英文法に関して理論的に解説し、具体例を提示しながら説明できる。英文法に関する問題に解答し、その過程について適切に説明することができる。英文法の重要性を理解し、指導することができる。

< 授業のキーワード >

英語学、生成文法、統語論

< 授業の進め方 >

各事項について説明したのちに、クラス全体あるいはグループで課題を解き、解説を加える。また、各回の授業後に、学んだ内容について小テストを課す。

< 履修するにあたって >

3分の2以上の出席に達しないときは、特別の事情がない限り、単位認定されない。

< 授業時間外に必要な学修 >

予習を行うこと。また、小テストに備え、各回で学んだことについて、復習を欠かさないこと。（1時間程度）

< 提出課題など >

小テストについては授業内で解答を提示する。また、課題については添削して返却する。

< 成績評価方法・基準 >

課題40%、授業中の取り組み20%、小テスト40%

< テキスト >

なし

< 参考図書 >

阿部潤（2008）『問題を通して学ぶ生成文法』ひつじ書房 1600円＋税、  
北川善久、上山あゆみ（2004）『生成文法の考え方』研究社 2800円＋税

< 授業計画 >

第1回 インTRODクシヨン

自己紹介、授業の進め方、成績の付け方などの説明

第2回 「文法」とは

生成文法における「文法」とその変遷について

第3回 「文法」とは

人間の言語習得の観点から「文法」とは何かを説明する

第4回 句構造

統語構造における規則について概観する

第5回 句構造

構造的同音異義について

第6回 句構造

句構造規則の限界について説明する

第7回 音と意味の分離

名詞、文の派生における音と意味の分離について説明する

第8回 変形規則

深層構造と変形規則

第9回 変形規則

変形規則に関わる一般的条件

第10回 意味解釈規則

代名詞の意味解釈に関する規則について

第11回 意味解釈規則

「作用域」について

第12回 「主語」とは何か

「文法上の主語」と「意味上の主語」について説明する

第13回 「主語」とは何か

「主語」の移動について説明する

第14回 生成文法研究が指すもの

生成文法の研究対象について説明する

第15回 生成文法研究の指すもの

生成文法の研究手法について説明する  
-----

2022年度 後期

2.0単位

英米文学研究（資格）

長谷川 弘基  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は資格に関する科目（英語・中学校一種、英語・高等学校一種）にも指定されており、英米文学の中でも最も充実していた時代とも言われているロマン派の詩の読解を通して、西洋近代の自我意識の特徴を確認することを目指している。この点において、人文学科のDPに示されている専門知識の獲得と、異なる分野の知識が相互に関連していることを実践的に理解することをも視野において授業を進めることになる。

[ 主題 ]

19世紀ロマン派詩人（Blake, Wordsworth, Shelley, Keats）、及びそれ以後の若干の詩人の作品を、日本語の翻訳を参考にしつつ鑑賞し、ロマン主義及び近代西洋文学の特性について学ぶ。

〔目標〕

1) 個々の翻訳詩及び原詩の意味を理解し、詩の楽しみを理解する。

2) 細かい表現に注目し、そこから批評的解釈を試みる。

3) それぞれの詩人を比較し、その相違点を理解する。

<到達目標>

1) 19世紀の英語の詩が持つ形式的特徴を知る。

2) ロマン派の特質を理解する。

3) ロマン派第一世代（ブレイク、ワーズワース）と第二世代（シェリー、キーツ）の比較を通し、両者の違いを認識する。

<授業のキーワード>

ロマン派、西洋近代、自我、egotistic sublime、女性性

<授業の進め方>

個々の作品の読解・解説を中心とした講義。一回の講義で1? 2編の詩を読むことになる。

<授業時間外に必要な学修>

翻訳を利用するとはいえ、英語の詩を読むことになるので、英語の語彙や表現などに関しては、気になることはこまめに辞書で調べることが必要である。また、19世紀のイギリスの社会・歴史的背景に関する知識があることが望ましいことは言うまでもない。おおむね1? 2時間の予習・復習が求められる。

<提出課題など>

学期末に作品解釈に関するレポートを書いてもらう。レポートは要請があればコメント・評価を記した上で返却する。

<成績評価方法・基準>

毎授業の小さなレポート（200字未満）の合算が50%。

残りの50%は学期末のレポート課題による。

<テキスト>

初回の授業にプリントを配布する。

<参考図書>

特に指定はしないが、それぞれの詩人の作品には多くの翻訳があるので、手元にあると便利であろう。

<授業計画>

第1回 イントロダクション

授業の概要及び目標の説明（リアルタイムのZOOMで行います）

『イギリスロマン派』の文学史的意義

第2回 ブレイク # 1

ブレイクの『無垢の歌、経験の歌』から複数の作品を選び、ロマン派の作品の特徴を、18世紀の作品と比べて確認する。

第3回 ブレイク # 2

引き続きブレイクの『無垢の歌、経験の歌』から複数の作品を選び、ロマン派の作品の特徴を、18世紀の作品と比べて確認する。

第4回 ワーズワース # 1

WordsworthのいわゆるLucy Poemsを読み、イギリスの抒情詩の特徴に触れ、理解を深める。

第5回 ワーズワース # 2

WordsworthのDaffodilsを読み、ロマン派に特徴的な自我の表象について考察する。

第6回 ワーズワース # 3

WordsworthのThe Solitary Reaperを読み、いわゆるEgotistic Sublimeの本質を理解すると同時に、ロマン派第二世代への導入を図る。

第7回 ワーズワース # 4

引き続きWordsworthのThe Solitary Reaperを読み、いわゆるEgotistic Sublimeの理解を深める。

第8回 キーツ # 1

John KeatsのLa Belle Dame sans Merciを、The Solitary Reaperと比較しつつ読解し、KeatsのWordsworth批判の意味を確認する。

第9回 キーツ # 2

引き続きJohn KeatsのLa Belle Dame sans Merciを、The Solitary Reaperと比較しつつ読解し、KeatsのWordsworth批判の意味を確認する。

第10回 キーツ # 3

Ode on a Grecian Urnをthe Negative Capabilityと関連づけた上で読解する。

第11回 キーツ # 4

引き続きOde on a Grecian Urnをthe Negative Capabilityと関連づけた上で読解する。

第12回 キーツ # 5

引き続きOde on a Grecian Urnをthe Negative Capabilityと関連づけた上で読解する。

第13回 キーツ # 6

The Negative Capabilityの意義について確認する。

第14回 ロマン派からモダニズムへ # 1

エズラ・パウンド（Ezra Pound）とT. S. エリオット（Eliot）の作品を読み、20世紀初頭の、いわゆるモダニズムとロマン派の違いについて考察する。

第15回 ロマン派からモダニズムへ # 2

引き続きエズラ・パウンド（Ezra Pound）とT. S. エリオット（Eliot）の作品を読み、20世紀初頭の、いわゆるモダニズムとロマン派の違いについて考察する。



-----  
2022年度 前期

2.0単位

学校心理学（資格）

難波 愛  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

学校心理学（教育・学校心理学）は、心理学部2年次生以降を対象に開講される専門科目群の講義科目です。また、教職に関する科目（選択科目）でもあります。本講義は心理学部のDP1、2の獲得を目指しています。

現在、通常の学級に在籍するLD等の特別な支援を必要とする児童生徒の増加や、学級崩壊、いじめ、不登校など、教育現場は多様な課題を抱えています。本講義では、学校心理学における心理教育的援助サービスの理論や技法、子どもの行動や学習、教師や保護者などの関わりについて学びます。なお、学校心理学は心理学と学校教育が統合した応用領域であるため、特別支援教育の変化など、最新の教育事情に焦点を絞って解説します。特別支援教育とは、障害のある児童生徒の自立や社会的参加に向けて、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な支援を行うものです。教職に関する科目でもあるため、教師としての姿勢、必要となる知識など、幅広く理解を深めましょう。

また、この科目の担当者は公認心理師であり、学校の児童生徒および教職員に対する5年以上のカウンセリング経験があります。現在もこれらを対象とした活動を続けている、実務経験のある教員です。演習の中では、カウンセリングスキルを活かした心理援助の方法についても言及しながら、実践的な理解へと繋げていきます。

< 到達目標 >

学校心理学とは何か（概要）を説明できる。

学校教育の心理学的な諸問題、心理学による支援方法などについて意見を述べるができる。

教師が行うべき心理学的援助について興味を持つ。

< 授業のキーワード >

学校心理学・特別支援教育・発達障害・いじめ・不登校・学級崩壊など

< 授業の進め方 >

講義形式で行います。

< 履修するにあたって >

毎回、授業に関する資料を配付します。

< 授業計画 >

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として授業計画の各回の配布資料をよく読んでおくこと（目安として45分）。

試験の前にはさらに授業のポイントを整理し、理解を深めておくこと（目安として3?4時間）。

< 提出課題など >

毎回の授業の内容に関する小テストもしくは小レポートの提出。課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とします。次回以降の講義にて解答を示すとともに補足の解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト・小レポート課題等50% 定期試験50%

なお課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とします。

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の進め方、全般的な諸注意、成績評価などについて説明します。

第2回 学校心理学とは

学校心理学とは何かについて、学校心理学における研究テーマについて概説します。

第3回 最新の教育事情

学級崩壊、いじめ、不登校などの心理教育的問題や特別支援教育、学校支援体制の変化などの学校教育の現状について解説します。

第4回 教育の制度・法律

教育に関する権利と義務、公認心理師と関連する学校教育制度、社会教育制度について解説します。

第5回 通常の学級に在籍する多様な子ども達

自閉症スペクトラム障害という発達障害についてDVD映像やチェックリスト等を紹介しながら解説します。

第6回 通常の学級に在籍する多様な子ども達

ADHD（注意欠如多動性障害）という発達障害について解説します。

第7回 通常の学級に在籍する多様な子ども達

SLD（限局性学習障害）という発達障害について解説し、学習支援について学びます。

第8回 心理教育的アセスメント

知能検査、子どもの学力を測る検査、自己効力感尺度などの心理教育尺度、行動観察法について解説します。

第9回 心理教育的アセスメント

知能検査、子どもの学力を測る検査、自己効力感尺度などの心理教育尺度、行動観察法について解説します。

第10回 思春期を取り巻く心理教育的問題

中学生、高校生が抱える不安やうつ、つまずき、トラブル、非行・暴力行為等について解説します。

第11回 思春期を取り巻く心理教育的問題

最新のいじめ問題について、スクールカウンセリングの

話を交えながら、解説します。

#### 第12回 思春期を取り巻く心理教育的問題

最新の不登校事情について、スクールカウンセリングの話をお交えしながら、解説します。

#### 第13回 授業を見直す

学級崩壊、通常学級における学級経営、ユニバーサルデザインなど、教育の視点からの課題を考えます。あわせて、情報倫理にも触れます。

#### 第14回 教育関係者へのコンサルテーション

教師、保護者等の教育関係者に対するコンサルテーション、チーム学校について解説します。

#### 第15回 まとめ

本講義の全般的なまとめを行います。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

漢文学概論 (資格)

藤井 宏  
-----

< 授業の方法 >

対面授業 (実習)

特別警報 (すべての特別警報) または暴風警報発令の場合 (大雨、洪水警報等は対象外)

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

緊急事態が発生した場合の取扱い

教務センター所長の判断により措置するものとし、その内容を速やかに大学ホームページ (学内情報サービス) に掲示することで、周知するものとします。

なお、問い合わせの際のメールアドレスは以下の通りです。

ダミー@ge.kobegakuin.ac.jp

< 授業の目的 >

簡単な例文や練習問題、短い物語や論説文などを教材にして、漢文の語法の基礎を学び、あわせて必要な基礎知識を学ぶ。

この授業を通して、複数の分野の基礎知識を身につけ、獲得した知識を活用して自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察を通して、解決・解明へと導くことができるようになることを目指す。

< 到達目標 >

大学生として身につけておくべき漢文の基礎を身につけ、一般教養程度の漢文が読めるようにする。

< 授業の進め方 >

例文を解説しながら、皆さんに意見を聞き、答えてもらいます。

< 履修するにあたって >

毎回きちんと予習をしてきてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

封建時代の中国に関する本を、どんな本でもいいので読んでみてください。1時間程度の予習・復習をしてください。

< 提出課題など >

授業中に指示する。

< 成績評価方法・基準 >

平常の発表点とまとめテストによる。

< テキスト >

プリント使用。

< 参考図書 >

特になし。

< 授業計画 >

第1回 教材プリント ( 1 ) の配布とガイダンス。

この授業についての説明と漢文の学習の仕方についての説明など。

第2回 基礎的な漢文の語法の説明。

教材文を使っての文法解説。

第3回 基礎的な漢文の語法の説明と練習問題など。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第4回 教材プリント ( 2 ) の配布と教材文を使って

の文法解説。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第5回 基礎的な漢文の語法の説明と練習問題など。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第6回 教材プリント ( 3 ) の配布と教材文を使って

の文法解説。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第7回 教材プリント ( 4 ) の配布と教材文を使って

の文法解説。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第8回 基礎的な漢文の語法の説明と練習問題など。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第9回 基礎的な漢文の語法の説明と練習問題など。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第10回 教材プリント(5)の配布と教材文を使った文法解説。

教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第11回 基礎的な漢文の語法の説明と練習問題など。教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第12回 基礎的な漢文の語法の説明と練習問題など。教材文を使って文法解説と練習問題などをやり、基礎的な漢文の語法の仕組みを学ぶ。

第13回 前期のまとめ  
前期のまとめと質疑応答。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

漢文学講読(資格)

藤井 宏  
-----

<授業の方法>

(対面授業)講義と実習の組み合わせ。

問い合わせの際のメールアドレスは以下の通りです。

ダミー@ge.kobegakuin.ac.jp

特別警報(すべての特別警報)または暴風警報発令の場合(大雨、洪水警報等は対象外)の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治体の指示に従って行動してください。

緊急事態が発生した場合の取扱い

教務センター所長の判断により措置するものとし、その内容を速やかに大学ホームページ(学内情報サービス)に掲示することで、周知するものとします。

<授業の目的>

漢文学概論で得た知識をもとに、まとまった長さの漢文の講読を行なう。教材としては当代伝奇小説や中国人のものの考え方を理解する上で参考になる唐宋八家文などを予定している。

この授業を通して、複数の分野の基礎知識を身につけ、獲得した知識を活用して自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察を通して、解決・解明へと導くことができるようになることを目指す。

<到達目標>

国語の授業の中の漢文教材がよくわかり生徒に説明できる力をつける。

<授業の進め方>

例文を解説しながら、皆さんに意見を聞き、答えてもらいます。

<履修するにあたって>

毎回きちんと予習をしてきてください。

<授業時間外に必要な学修>

特に指定はしませんが各自漢文に関する読書をしてみてください。1時間程度の時間をかけて予習・復習をしてください。

<提出課題など>

授業中に指示する。

<成績評価方法・基準>

平常の発表とまとめテストによる。

<テキスト>

プリント使用。

<参考図書>

特になし。

<授業計画>

第1回 プリントの配布とガイダンス。

教材プリント(前半分)の配布とこの授業についての説明、教材文についての説明。

第2回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第3回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第4回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第5回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第6回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第7回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第8回 プリント(後半部)の配布と教材の読解。

教材プリント(後半分)の配布と教材文の読み進め。

第9回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第10回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第11回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第12回 内容の読解。

文法や語彙、文化的なことに注意しながら、教材文の読解を進めていきます。

第13回 まとめ

この授業のまとめと質疑応答。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

教育原論 (資格)

水谷 勇  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

教員養成課程の資格科目の中核をなす科目の一つとして、日本国の学校教育に関する政策と関連法規を正しく理解するとともに、教育の本質を理解し、教育についての高い見識と技能の形成を目的としている。

教育及び子育て・人間形成に関する人類の叡智を整理し、教育とは何か、最新の教育学の成果に依拠しながら、教職に必要な基礎的知識を概説する。

教職コアカリキュラムで指定された、教育の基本概念的の修得と教育を成り立たせる諸要因とそれらの相互の関係理解を目的とする。また、教育に関する諸思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解することを目的としている。

マスコミで取り上げられない日はないほどに、教育問題は人々の関心を集め、また事実深刻である。また、教育については専門的な学者の意見に耳を傾けるよりは、市井の企業家、親、他分野の学者、スポーツ等の達人・名人、それぞれの分野で成功を収めた人士たちが、自らの教育経験を元に、教育に関する重要な発言を繰り返し、教育の実践や政策に大きな影響を与えている。こうした事実をふまえ、各界・各分野で活躍している人々の成功談や発言に注目しつつ、同時に、教育学(心理学・生理学を含む)という専門科学を学ぶことの必要性をも示す形で、教育の本質・特質を明らかにしていく。さらに、発達と教育の関係、教育学諸概念の整理、学校教育の特質と課題、教育目的・教育評価の意義、いじめ・体罰の根絶、生涯学習・社会教育、家庭・地域社会における教育について講義し、基本的な知識と教育学的思考の形成をはかる。講義に当たっては、その都度、できる限り関連する現実問題を取り上げ、考察を深めるとともに、受講学生が自らの問題としてとらえ、主体的に解決する姿勢と態度、思考様式を身につけることを目的とする。

この授業は、積極的に参画することで、全学DP(ディプロマ・ポリシー)すべてに関わってその基礎を形成するものである。

< 到達目標 >

1. 教育の本質及び目標を理解するとともに、教育学の

諸概念に精通する。

2. 子ども・教員・家庭・学校など、教育を成り立たせる要素とその相互関係を理解している。

3. 家庭や子どもに関わる教育の思想を理解している。

4. 学校や学修に関わる今日言う思想を理解している。

5. 上記の学修成果を踏まえ、教育への深い理解を形成するとともに、文献を読み込み理解する

力、自らの経験を省察し、それを文章にまとめて他人に伝える力、自分が書いた文章を読み

返して、論理構成や記述を見直し、レポートとしてまとめる力をつける。

< 授業のキーワード >

教育及び子育て・人間形成に関する人類の叡智

最新の教育学の成果

学校教育の現状と課題

自己や他者の経験の省察

< 授業の進め方 >

初めの2回を除き、オンデマンドで実施する。ドットキャンパスでの配付資料には事前に目を通して、わからないことがあれば、事前に辞書等で調べた上で、質問内容を絞って、学習証明であるアンケートにおいて質問してください。直接メールで問い合わせることも可です。これらの質問に答えるとともに、講義資料のポイントを説明・補足して、疑問点に答えるという形で講義を進める。dotCampusにレジユメおよび主要資料をpdfでアップする。ただし、講義ビデオはone-driveにアップする。資料に目を通した上で、講義ビデオを視聴し、学習した成果(質問・疑問を含む)を毎回ドットキャンパスにアンケートとして投稿してもらいます。受講生の質問や疑問に答え、学習成果を踏まえて、補足を加えながら次の課題を提示する形で授業を進めます。情勢により講義形式が対面が変わるなど噴口があるかもしれないので、大学からの案内に注意してください。

< 履修するにあたって >

教師になる気があり、どんな難しいことにも意欲を持って取り組み、積極的に授業に臨むことを期待する。

質問・問い合わせは、[dami-human.kobegakuin.ac.jp](mailto:dami-human.kobegakuin.ac.jp)まで。

< 授業時間外に必要な学修 >

配布された資料・レジメの熟読と関連する調べ学習として、概ね1時間以上の予・復習を求める。

< 提出課題など >

毎回、出席カード(もしくは、dotcampusのアンケート)に授業内容での気づき・学びの報告(意見・質問を含む)を求め、毎授業終了時に提出してもらう。提出された課題に対しては、次回の授業で、適宜フィードバックして、双方向コミュニケーションを図ります。

また、期間中に課題について調査、研究しレポートにまとめる課題を4題出すので、そのレポートの提出を求める(4題とも)。

## <成績評価方法・基準>

毎回の小レポート(学びの記録):15%、4題ある課題レポート(45%)、定期試験(40%)による。

学びの記録では、講義内容の理解度(正確に理解し、自分の言葉で語れているか)を評価し、4つの課題レポートにおいては、それぞれの課題について適切に答えたレポートになっているか、講義を踏まえつつも、独自に学習・調査してどれだけ教育の本質について自己の見解を広げ、深めたか(学習の質と量)、さらには、文章構成や論理展開力をも評価します。しっかり学修してください。また、定期試験においては、講義内容を振り返り、論述試験として4問(選択式なのでそれ以上に出題)の設問に答える筆記試験として行います。ただし、定期試験が受験できない学生のために代替レポートを課します。

## <テキスト>

特に指定はしない(講義の都度、詳細なレジュメ・資料を配付し、それをもとに授業していく)

## <参考図書>

『解説教育六法2020』三省堂

『中学校学習指導要領 総則編』2017年

『高等学校学習指導要領 総則編』2018年

広田照幸・伊藤茂樹『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター

『2008年学習指導要領を読む視点』白澤社

広田照幸『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店、

木村元ほか『教育学をつかむ』有斐閣

教育科学研究会『現代教育のキーワード』大月書店

相馬伸一『教育的思考のトレーニング』東信堂

ほか、その講義中に適宜追加提示する。

## <授業計画>

### 第1回 オリエンテーション(教育の語義)

本講義のオリエンテーションとして、講義の概要・評価について述べるとともに、導入として、教育についての学生諸君の既成観念を洗い出し、教育の語義などから、その修正を図る。

Zoomミーティングに参加する

<https://zoom.us/j/ダミー?pwd=dG1KQXpCYWVEQ3crMFRTSHoycldmQT09>

ミーティングID: 948 4378 2308

パスコード: 202768

### 第2回 人間にとっての教育とは

資料を基に、人間にとって教育とは必要かつ不可欠なものであること、また、人間が教育が可能な唯一ともいえる存在であることを示す。

### 第3回 人間にとって教育とは(2)

教育の本質についての考察(1)

教育、形成、学習、教化、指導など類似概念等の異同や、語義の検討をして教育についての認識を深める。

### 第4回 教育の本質についての考察(2)

発達の定義

前時に続いて、教育、形成、学習、教化、指導など類似概念について深めて、教育への理解を深めるとともに、発達の定義を押さえる。

### 第5回 発達とは何か、発達と教育との関係

人間の発達の特徴を理解し、達と保障するための諸手立てを考察する。ことについて学ぶ。また、発達と教育との望ましい関係について理解を深める。

### 第6回 教育学の諸概念の整理(学力、人格、個性、など)

学力、人格、個性、能力などの諸概念を吟味し、深める。

### 第7回 学校教育の特質と課題(その1:定義及び歴史)

学校とは何か定義および歴史について深める。

### 第8回 中間テスト

中間テストによってこれまでの学習を振り返り、理解を整理・点検する。

### 第9回 学校教育の特質と課題(その2:学校の機能と役割、問題点)

学校とは何か、機能と役割、問題点について深める..

### 第10回 教育目的の意義

学校教育の問題点の補足をした上で、学校教育における教育目的・目標の意義について考察する。

### 第11回 教育評価の意義と機能

教育評価と評定の違いなど、教育評価に着いての基本的知識の習得、教育評価の意義と機能、望ましいあり方などを探る。

### 第12回 教育評価(2)、いじめ・体罰の根絶に向けて(1)

前時の復習に加え、ポートフォリオ評価など最新の評価方法も含め、望ましいあり方を探る。また、後半では、いじめや体罰がどうして起こるのか、その背景について考察しつつ、いじめや体罰の根絶に向けて取られている対策について解説する。

### 第13回 いじめ・体罰の根絶に向けて(2)、生涯学習・社会教育

いじめや体罰を根絶するにはどうすれば良いか、前時の復習をしつつ原稿の対策の意義と問題点を整理し、教育の根本原理に照らしながら考察する。あわせて、いじめや体罰が部活で多発していることから、部活と学校教育(教師)との関係を考える。また、生涯学習論誕生の背景と生涯学習論の系譜について解説する。

### 第14回 家庭教育・地域社会における教育

前時を踏まえて生涯学習論とその理論的背景について考究する。また、家庭教育・地域社会における教育の現状と問題点、再生方策を考察する。

### 第15回 全体まとめ

全体を通してのまとめと補足、総括を行う。このことにより、学習の深化・定着を図る。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

教育原論（資格）

山内 乾史  
-----

< 授業の方法 >

本授業は対面で行われます。毎回授業を行った後に課題を出しますので、ミニツツペーパーに回答していただきます。学期末に論述式の試験を行います。

< 授業の目的 >

現在の日本の教育をささえる基本的な思想、理念について学ぶことが目的です。教育の本質、教育制度、教育の歴史、学校、教育の社会的性格などについて、学校教育に焦点をあて、基礎的な知識についての理解を深めていきます。

< 到達目標 >

日本の学校教育を支える理念や思想について説明できる。日本の教育制度の基礎をなす制度とその変遷について基礎的な理解と、教育改革の現状について考察することができる。今日の学校教育が直面する諸問題について自分なりに考察することができる。

< 授業のキーワード >

教育の理念 教育を支える思想 学校教育の現状と課題  
日本の教育の歴史 教育改革

< 授業の進め方 >

講義形式で実施します。ほぼ毎回、授業で映像等を使用し、内容を概説したのちに、課題に対する回答や自分の意見や質問などをミニツツペーパーにおいて記述していただきます。次の時間にその質問について解説します。

< 履修するにあたって >

テキストは必ず用意してください。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業後に、テキストの指定された章を読み、自分の言葉でまとめる(30分)

< 提出課題など >

毎回、出席カードをかねたミニツツペーパーに授業で出された課題への回答及び、自分の意見、質問を書いて提出していただきます。

< 成績評価方法・基準 >

平常点と論述式試験で評価します。平常点は30%で、毎回の授業後に作成するミニツツペーパーをもとに総合的に評価します。論述式試験は70%で、テキストのみ持ち込み可で行います。

< テキスト >

山内清郎・原清治・春日井敏之編著『教育原論』ミネルヴァ書房、2020年

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

本講義のオリエンテーションとして、講義の概要・評価

について説明する。また、導入として社会的な文脈のなかで学校教育について理解を深める。第1章(p.2-21)

第2回 教育の定義

教育制度の全体像を理解し、教育の定義について論じる。第2章(p.22-37)

第3回 教育のモデル論

教育思想家の言説や、教育モデル論、自己省察について。第3章(p.38-55)

第4回 教育学者・教育思想家について

コメニウスの新しいスタイルの学校 第4章(p.56-74)

第5回 教育学者・教育思想家について

ルソー・カント 世界市民という思想 第5章(p.75-94)

第6回 教育学者・教育思想家について

ペスタロッチ・フレーベルの教育思想 近代教育学の展開 第6章(p.95-114)

第7回 教育学者・教育思想家について

デューイの近代教育学 第7章(p.115-129)

第8回 近代教育批判としての脱学校論

学校化された教育、脱学校という思想 第8章(p.130-148)

第9回 監獄としての学校

規律・訓練型の権力の弊害 第9章(p.149-163)

第10回 教育の現代的な課題

いじめ・不登校と教育実践 第10章(p.164-181)

第11回 教育の現代的な課題

学力格差と子ども達の間人間関係 第11章(p.182-195)

第12回 異文化コミュニケーションと市民性育成教育

グローバル化をめぐる日本の状況 第12章(p.196-212)

第13回 教師・大人であるということ

グローバルな時代における教師という仕事 第13章(p.213-228)

第14回 教育学・教員養成について

知識社会の中の教員 第14章(p.229-239)

第15回 まとめ

まとめをおこない知識の定着をはかる。  
-----

2022年度 前期

2.0単位

教育史（資格）

水谷 勇  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

教職の入門科目として、教育の歴史を知ることを通して、教育についての理解を深め、教師としての専門的素養の一端を身につけることを目的としている。教員採用試験も見通して授業を展開するので、採用試験対策の一つとして上回生の履修もお勧めである。

履修上選択科目ではあるが、新しい教員養成政策に基

づく教員養成コアカリキュラムのうち、教育に関する歴史と思想を扱う中核科目であり、本気で教職を目指す全ての学生の履修を期待する。

本講義では、教育の歴史に関する基礎知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至までの教育及び学校の変遷を理解することも目的としている。

また、教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実査の教育及び学校との関わりを歴史的に理解することを目的としている。

こうして、教育の歴史についての基本的な知識を修得するとともに、教育の歴史を作り出し動かしてきた力についての認識を形成し、教育史研究をしていく上での初歩的な知識・技術の習得を目的としている。

この授業は、積極的に参画することで、全学DP(ディプロマ・ポリシー)すべてに関わってその基礎を形成するものである。

<到達目標>

1. 人間形成・教育の歴史について、とりわけ下記の諸点を理解し、他人に対して説明できる。

(1) . 家族と社会による教育の歴史を理解している。

(2) . 近代教育制度の成立と展開を理解している。

(3) . 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。

(4) . 代表的な教育家の思想を理解している。

2. 教育の歴史を作り出し動かしてきた力についての認識を形成し、他人に対して説明できる。

3. 上記学修の成果を踏まえ、特定の時代における教育(制度・実践)史もしくは思想家の原著論文を読み込み、その成果レポートとしてまとめることができる。

<授業のキーワード>

教育の歴史、教育概念の成立、学校の歴史、様々な教育思想

<授業の進め方>

初回を除く各回の授業で事前に配布(非登学学生向けにはdotCampusにレジюмеをpdfでアップ)した上で、配付資料を補則解説する形で授業をしていきます。配付資料によく目を通し、事前に質問意見をまとめてきて授業に参加してください。ドットキャンパスは履修登録した全ての学生が利用出来ます。なくした場合や欠席したときの補充に活用ください。

受講生の質問や疑問に答え、学習成果を踏まえて、補足を加えながら次の課題を提示する形で授業を進めます(一種の反転学習)。

<履修するにあたって>

教職課程の必修ではない任意科目であるが、教育の歴史を通して本質を理解する、必修科目の教育原論での学習を深めたり助ける大切な科目であるので、意欲ある学生の旺盛な学びを期待したい。時折、教員採用試験対策の問題を演習を行って、採用試験対策をするものの、講義

自体は学問を究めることで教員としての資質を形成することを目指している。

質問・問い合わせは、[ダミー@human.kobegakuin.ac.jp](mailto:ダミー@human.kobegakuin.ac.jp)まで。

特別警報または暴風警報発令時の場合の対応について、授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を優先し、自治体の指示に従って行動してください。

<授業時間外に必要な学修>

事前配付の資料をよく読んで参加すること。その他、教育や教育の歴史に関心を持って様々な書物を読むなど関連学習をして授業に参加することが望ましい。概ね1時間前後の予復習が必須です。

<提出課題など>

教育史を研究した成果としてのレポート(2000字以上、読書感想文ではない)の提出を課します。

授業中に適宜、「学びの記録」として小レポートの提出を課します。提出された課題に対しては、次の授業で、適宜フィードバックして、双方向コミュニケーションを図ります。

<成績評価方法・基準>

毎回の学びの記録としての小レポート(15%)、期末での2千字以上の最終レポート(35%)、定期試験(50%)。以上の成績をもとに総合判定する。レポートでは、講義内容を踏まえつつも、学生諸君がどれだけ独自の学習を展開して、自己の見識を深めているか、授業以外での学びの量と質を測定する。定期試験は講義内容をどれだけ理解出来たか、論述式の設問に講義内容をまとめて記述する筆記試験である。

<テキスト>

特になし(毎回詳細なレジюме・資料を配布し講義していく)

<参考図書>

江藤恭二監修『新版 子どもの教育の歴史』名古屋大学出版会

<授業計画>

第1回 オリエンテーション、原始社会における学習・教育

本講義の概要を説明するとともに、人間(人類)にとっての教育の意義を原始社会における学習および教育の特質の解説を通して概説する。

第2回 古代(ギリシャ・ローマ)における教育・学習  
西洋教育の原点に当たる古代ギリシャ・ローマにおける教育とその特徴を解説する。併せて、中国から学ぶことが主であった日本の古代社会における教育にもふれる。

第3回 中世における教育・学習

前時の補足をするとともに、中世における教育の特質を解説する。中世は暗黒時代とよく言われるが、その根拠(正当性)と誤り(一面性)についても論究する。また、日

本の中世における教育についても若干ではあるが触れる。

#### 第4回 大学の成立と発展

10世紀から始まる西洋における大学の成立史について解説し、大学教育の原点と今日発展を受講生と確認し合いたい。

#### 第5回 ルネッサンスと教育

ルネッサンス期の生活の変化と、それに伴う教育の変容について述べる。

#### 第6回 宗教改革の意義

宗教改革の教育的意義について触れ、今日的教育概念がここで初めて成立(完成)することも論証する。併せて日本の平安末・鎌倉期の新宗教との共通点・相違点も明確にし、日本と西洋の教育概念の相違の歴史的根拠を押さえたい。

#### 第7回 自然科学の進歩と教育

ルネッサンス以降の自然科学の発展とそれが教育に及ぼした影響を抑える。

#### 第8回 中間まとめ

教育学の始祖とも言えるコメニウスの教育思想を詳述し、これまでの講義の中間総括をするとともに、近代以降の教育・教育学の発展との関わりについて論究する。

#### 第9回 絶対主義と教育

絶対主義時代における教育の特質を押さえる。総論が主だが、各国におけるそのありようについても解説する。

#### 第10回 18世紀の教育改革者たち

18世紀における民主主義の発展と教育思想の飛躍的前進について、ルソーとコンドルセ、ペスタロッチを中心に解説する。

#### 第11回 産業革命と教育

産業革命の教育に及ぼした絶大な影響について解説する。ロバート・オーエンら、教育思想家・実践家の業績にも触れる。

#### 第12回 近代公教育制度の意義と問題点

普通教育・義務教育などを主とする近代教育制度の成立とその特徴を押さえる。

#### 第13回 19世紀の教育思想

19世紀～20世紀の教育の発展と変容を重要人物・出来事を中心に押さえる。時代の全般的特徴と代表的人物、教育業績を概説する。

#### 第14回 新教育運動の思想と展開、現代の教育(第2次世界大戦後の教育の発展)、

19世紀末から20世紀初めにかけて、諸科学の発展とそれを受けての教育の発展が新教育という形で花開く。その背景と特徴、代表的人物などを押さえる。現代の教育思想の特徴と教育改革を支える思想の特徴についても受講生と意見交換し、お互いに高め合いたい。

#### 第15回 総括・まとめ

第2次世界大戦後の教育の発展を振り返り、現代教育の課題とこれからの教育のあり方を歴史から読み解く。また、本講義の総括的まとめを行い、定期試験対策を行

う。

2022年度 前期

2.0単位

教育史 [遠隔] (資格)

水谷 勇

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

教職の入門科目として、教育の歴史を知ることを通して、教育についての理解を深め、教師としての専門的素養の一端を身につけることを目的としている。教員採用試験も見通して授業を展開するので、採用試験対策の一つとして上回生の履修もお勧めである。

履修上選択科目ではあるが、新しい教員養成政策に基づく教員養成コアカリキュラムのうち、教育に関する歴史と思想を扱う中核科目であり、本気で教職を目指す全ての学生の履修を期待する。

本講義では、教育の歴史に関する基礎知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至までの教育及び学校の変遷を理解することも目的としている。

また、教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実査の教育及び学校との関わりを歴史的に理解することを目的としている。

こうして、教育の歴史についての基本的な知識を修得するとともに、教育の歴史を作り出し動かしてきた力についての認識を形成し、教育史研究をしていく上での初歩的な知識・技術の習得を目的としている。

この授業は、積極的に参画することで、全学DP(ディプロマ・ポリシー)すべてに関わってその基礎を形成するものである。

<到達目標>

1. 人間形成・教育の歴史について、とりわけ下記の諸点を理解し、他人に対して説明できる。

- (1) . 家族と社会による教育の歴史を理解している。
- (2) . 近代教育制度の成立と展開を理解している。
- (3) . 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。
- (4) . 代表的な教育家の思想を理解している。

2. 教育の歴史を作り出し動かしてきた力についての認識を形成し、他人に対して説明できる。

3. 上記学修の成果を踏まえ、特定の時代における教育(制度・実践)史もしくは思想家の原著論文を読み込み、その成果レポートとしてまとめることができる。

<授業のキーワード>

教育の歴史、教育概念の成立、学校の歴史、様々な教育思想

<授業の進め方>



初回を除く各回の授業で事前に配布(非登学学生向けにはdotCampusにレジユメをpdfでアップ)した上で、配付資料を補則解説する形で授業をしていきます。配付資料によく目を通し、事前に質問意見をまとめてきて授業に参加してください。ドットキャンパスは履修登録した全ての学生が利用出来ます。なくした場合や欠席したときの補充に活用ください。

受講生の質問や疑問に答え、学習成果を踏まえて、補足を加えながら次の課題を提示する形で授業を進めます(一種の反転学習)。

<履修するにあたって>

教職課程の必修ではない任意科目であるが、教育の歴史を通して本質を理解する、必修科目の教育原論での学習を深めたり助ける大切な科目であるので、意欲ある学生の旺盛な学びを期待したい。時折、教員採用試験対策の問題を演習を行って、採用試験対策をするものの、講義自体は学問を究めることで教員としての資質を形成することを目指している。

質問・問い合わせは、[ダミー@human.kobegakuin.ac.jp](mailto:dami@human.kobegakuin.ac.jp)まで。

特別警報または暴風警報発令時の場合の対応について、授業を実施します。ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を優先し、自治体の指示に従って行動してください。

<授業時間外に必要な学修>

事前配付の資料をよく読んで参加すること。その他、教育や教育の歴史に関心を持って様々な書物を読むなど関連学習をして授業に参加することが望ましい。概ね1時間前後の予復習が必須です。

<提出課題など>

教育史を研究した成果としてのレポート(2000字以上、読書感想文ではない)の提出を課します。

授業中に適宜、「学びの記録」として小レポートの提出を課します。提出された課題に対しては、次回の授業で、適宜フィードバックして、双方向コミュニケーションを図ります。

<成績評価方法・基準>

毎回の学びの記録としての小レポート(15%)、期末での2千字以上の最終レポート(35%)、定期試験(50%)。以上の成績をもとに総合判定する。レポートでは、講義内容を踏まえつつも、学生諸君がどれだけ独自の学習を展開して、自己の見識を深めているか、授業以外での学びの量と質を測定する。定期試験は講義内容をどれだけ理解出来たか、論述式の設問に講義内容をまとめて記述する筆記試験である。

<テキスト>

特になし(毎回詳細なレジユメ・資料を配布し講義していく)

<参考図書>

江藤恭二監修『新版 子どもの教育の歴史』名古屋大学出版会

<授業計画>

第1回 オリエンテーション、原始社会における学習・教育

本講義の概要を説明するとともに、人間(人類)にとっての教育の意義を原始社会における学習および教育の特質の解説を通して概説する。

第2回 古代(ギリシャ・ローマ)における教育・学習  
西洋教育の原点に当たる古代ギリシャ・ローマにおける教育とその特徴をを解説する。併せて、中国から学ぶことが主であった日本の古代社会における教育にもふれる。

第3回 中世における教育・学習  
前時の補足をするとともに、中世における教育の特質を解説する。中世は暗黒時代とよく言われるが、その根拠(正当性)と誤り(一面性)についても論究する。また、日本の中世における教育についても若干ではあるが触れる。

第4回 大学の成立と発展  
10世紀から始まる西洋における大学の成立史について解説し、大学教育の原点と今日発展を受講生と確認し合いたい。

第5回 ルネッサンスと教育  
ルネッサンス期の生活の変化と、それに伴う教育の変容について述べる。

第6回 宗教改革の意義  
宗教改革の教育的意義について触れ、今日的教育概念がここで初めて成立(完成)することも論証する。併せて日本の平安末・鎌倉期の新宗教との共通点・相違点も明確にし、日本と西洋の教育概念の相違の歴史的根拠を押さえたい。

第7回 自然科学の進歩と教育  
ルネッサンス以降の自然科学の発展とそれが教育に及ぼした影響を抑える。

第8回 中間まとめ  
教育学の始祖とも言えるコメニウスの教育思想を詳述し、これまでの講義の中間総括をするとともに、近代以降の教育・教育学の発展との関わりについて論究する。

第9回 絶対主義と教育  
絶対主義時代における教育の特質を押さえる。総論が主だが、各国におけるそのありようについても解説する。

第10回 18世紀の教育改革者たち  
18世紀における民主主義の発展と教育思想の飛躍的前進について、ルソーとコンドルセ、ペスタロッチを中心に解説する。

第11回 産業革命と教育  
産業革命の教育に及ぼした絶大な影響について解説する。ロバート・オーエンら、教育思想家・実践家の業績にも触れる。

第12回 近代公教育制度の意義と問題点  
普通教育・義務教育などを主とする近代教育制度の成立

とその特徴を押さえる。

#### 第13回 19世紀の教育思想

19世紀～20世紀の教育の発展と変容を重要人物・出来事を中心に押さえる。時代の全般的特徴と代表的人物、教育業績を概説する。

#### 第14回 新教育運動の思想と展開、現代の教育（第2次世界大戦後の教育の発展）、

19世紀末から20世紀初めにかけて、諸科学の発展とそれを受けての教育の発展が新教育という形で花開く。その背景と特徴、代表的人物などを押さえる。現代の教育思想の特徴と教育改革を支える思想の特徴についても受講生と意見交換し、お互いに高め合いたい。

#### 第15回 総括・まとめ

第2次世界大戦後の教育の発展を振り返り、現代教育の課題とこれからの教育のあり方を歴史から読み解く。

また、本講義の総括的まとめを行い、定期試験対策を行う。

-----  
2022年度 前期～後期

2.0単位

教育実習（資格）

立田 慶裕

#### < 授業の方法 >

実習

#### < 授業の目的 >

教育実習とは、教育職を志す学生が、大学で学んできた教育についての理論・知識・技術を実際に学校教育の現場で体験する学習機会をいう。教育実習において、実習生は経験豊かな教員の指導、助言、援助のもとで、教育実践に意欲的に取り組み、大学で学んだ理論・知識と学校での教育実践を統合するように努力することが必要とされる。こうした教育実習の機会をとおして、実習生は教員の教育活動を観察し教育実践を体験する中で、教員に必要とされる資質・能力を理解するとともに、教師の責任の重大さを自覚する。また、教育実習をとおして学校生活を共にする中で、子ども理解を深める。

以上の授業から、本学DPに示された教育現場に通用する教員としての専門的知識とスキル、そして相互に協同して学ぶ態度が身につくようにする。

担当教員は、国立教育政策研究所にての20年以上の教育実践と理論研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

#### < 到達目標 >

到達目標は以下の3点になる。教育実習によって、学校教育の実態と課題を論じることができる。教育実習によって、教育課程としての教科・科目、道徳、特別活動及び総合的学習の時間の指導ができる。教育実習によって、教師の使命、職務、責任を自分の考えで表現することができる。

#### < 授業のキーワード >

教育実習生 学校 教員免許 生徒指導 学業指導

#### < 授業の進め方 >

中学校教員免許取得希望者は3週間、高等学校教員免許取得希望者は2週間、実際の学校現場で実習を行う。

#### < 履修するにあたって >

中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、この科目を履修し、単位を修得しなければならない。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

専門教科の教材研究などは、実習期間前に一ヶ月程度の間で準備をし、

実習中は毎日、2時間以上をかけて校務の準備に努めなければならない。

実習後は、実習レポートの作成に2時間以上を要する。

#### < 提出課題など >

教育実習日誌と簡単なレポートの提出を求める。

#### < 成績評価方法・基準 >

教育実習日誌、教育実習反省記録、実習校からの教育実習成績評価表などを考慮して総合的に評価する。

各レポートでの評価を80%、総括的な評価20%で評価する。

#### < テキスト >

資料『教育実習について』神戸学院大学教職課程編

#### < 参考図書 >

特になし

#### < 授業計画 >

4月 事前指導後の取組

教育実習事前指導を受けた後の問題点の整理、さまざまな情報の収集

5月前半

教育実習への準備

収集した情報をもとに実際上の準備を行う。教材資料の取り寄せ、交通経路の確認等を確実にを行う。

5月後半 実習校との連絡

実習校との連絡を密に行うように指導。教材資料を再点検する。

6月前半 実習校訪問教員との打ち合わせ

ゼミ担当教員等の実習校を訪問する教員と連絡を取り合い、訪問日程の調整を図ると共に教材研究についてのアドバイスをもらうような指導を行う。

6月後半 実習の反省と事後指導

実習日誌の記載等とおして教育実習全体を振り返る。内容に問題があったならば反省を行い、今後の糧とする。（振り返りシートの作成）

7月前半 後期実習生を中心に事前指導後の取組

後期実習生を中心に、教育実習事前指導を受けた後の問題点の整理、さまざまな情報の収集

7月後半 後期実習生を中心に教育実習への準備

後期実習生を中心に、収集した情報をもとに実際上の準備を行う。教材資料の取り寄せ、交通経路の確認等を確実に行う。

9月後半 後期実習生を中心に実習校との連絡

後期実習生を中心に、実習校との連絡を密に行うように指導。教材資料等を再点検する。

10月前半

後期実習生を中心に実習校訪問教員との打ち合わせ  
後期実習生を中心に、ゼミ担当教員等の実習校を訪問する教員と連絡を取り合い、訪問日程の調整を図ると共に教材研究についてのアドバイスをもらうような指導を行う。

10月後半 後期実習生を中心に、実習の反省

後期実習生を中心に、実習日誌の記載等とおして教育実習全体を振り返る。内容に問題があったならば反省を行い、今後の糧とする。(振り返りシートの作成)

-----  
2022年度 前期～後期

2.0単位

教育実習 (資格)

立田 慶裕

-----  
< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

教育実習とは、教育職を志す学生が、大学で学んできた教育についての理論・知識・技術を実際に学校教育の現場で体験する学習機会をいう。教育実習において、実習生は経験豊かな教員の指導、助言、援助のもとで、教育実践に意欲的に取り組み、大学で学んだ理論・知識と学校での教育実践を統合するように努力することが必要とされる。こうした教育実習の機会をおして、実習生は教員の教育活動を観察し教育実践を体験する中で、教員に必要とされる資質・能力を理解するとともに、教師の責任の重大さを自覚する。また、教育実習をおして学校生活を共にする中で、子ども理解を深める。

以上の授業から、本学DPに示された教育現場に通用する教員としての専門的知識とスキル、そして相互に協同して学ぶ態度が身につくようにする。

担当教員は、国立教育政策研究所にての20年以上の教育実践と理論研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

< 到達目標 >

到達目標は以下の3点になる。教育実習によって、学校教育の実態と課題を論じることができる。教育実習によって、教育課程としての教科・科目、道徳、特別活動及び総合的学習の時間の指導ができる。教育実習によって、教師の使命、職務、責任を自分の考えで表現することができる。

< 授業のキーワード >

教育実習 学校 教員免許 生徒指導 学業指導

< 授業の進め方 >

中学校教員免許取得希望者は3週間、高等学校教員免許取得希望者は2週間、実際の学校現場で実習を行う。

< 履修するにあたって >

中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、この科目を履修し、単位を修得しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

専門教科の教材研究などは、実習期間前に一ヶ月程度の間で準備をし、

実習中は毎日、2時間以上をかけて校務の準備に努めなければならない。

実習後は、実習レポートの作成に2時間以上を要する。

< 提出課題など >

教育実習日誌と簡単なレポートの提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

教育実習日誌、教育実習反省記録、実習校からの教育実習成績評価表などを考慮して総合的に評価する。

各レポートでの評価を80%、総括的な評価20%で評価する。

< テキスト >

資料『教育実習について』神戸学院大学教職課程編

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

4月 事前指導後の取組

教育実習事前指導を受けた後の問題点の整理、さまざまな情報の収集

5月前半

教育実習への準備

収集した情報をもとに実際上の準備を行う。教材資料の取り寄せ、交通経路の確認等を確実に進行。

5月後半 実習校との連絡

実習校との連絡を密に行うように指導。教材資料を再点検する。

6月前半 実習校訪問教員との打ち合わせ

ゼミ担当教員等の実習校を訪問する教員と連絡を取り合い、訪問日程の調整を図ると共に教材研究についてのアドバイスをもらうような指導を行う。

6月後半 実習の反省と事後指導

実習日誌の記載等とおして教育実習全体を振り返る。内容に問題があったならば反省を行い、今後の糧とする。(振り返りシートの作成)

7月前半 後期実習生を中心に事前指導後の取組

後期実習生を中心に、教育実習事前指導を受けた後の問題点の整理、さまざまな情報の収集

7月後半 後期実習生を中心に教育実習への準備

後期実習生を中心に、収集した情報をもとに実際上の準備

備を行う。教材資料の取り寄せ、交通経路の確認等を確実に行う。

9月後半 後期実習生を中心に実習校との連絡

後期実習生を中心に、実習校との連絡を密に行うように指導。教材資料等を再点検する。

10月前半

後期実習生を中心に実習校訪問教員との打ち合わせ  
後期実習生を中心に、ゼミ担当教員等の実習校を訪問する教員と連絡を取り合い、訪問日程の調整を図ると共に教材研究についてのアドバイスをもらうような指導を行う。

10月後半 後期実習生を中心に、実習の反省

後期実習生を中心に、実習日誌の記載等をおして教育実習全体を振り返る。内容に問題があったならば反省を行い、今後の糧とする。(振り返りシートの作成)

-----  
2022年度 前期～後期

2.0単位

教育実習 (資格)

立田 慶裕  
-----

< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

教育実習とは、教育職を志す学生が、大学で学んできた教育についての理論・知識・技術を実際に学校教育の現場で体験する学習機会をいう。教育実習において、実習生は経験豊かな教員の指導、助言、援助のもとで、教育実践に意欲的に取り組み、大学で学んだ理論・知識と学校での教育実践を統合するように努力することが必要とされる。こうした教育実習の機会をとおして、実習生は教員の教育活動を観察し教育実践を体験する中で、教員に必要とされる資質・能力を理解するとともに、教師の責任の重大さを自覚する。また、教育実習をとおして学校生活を共にする中で、子ども理解を深める。

以上の授業から、本学DPに示された教育現場に通用する教員としての専門的知識とスキル、そして相互に協同して学ぶ態度が身につくようにする。

担当教員は、国立教育政策研究所にての20年以上の教育実践と理論研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

< 到達目標 >

到達目標は以下の3点になる。教育実習によって、学校教育の実態と課題を論じることができる。教育実習によって、教育課程としての教科・科目、道徳、特別活動及び総合的学習の時間の指導ができる。教育実習によって、教師の使命、職務、責任を自分の考えで表現することができる。

< 授業のキーワード >

教育実習生 学校 教員免許 生徒指導 学業

指導

< 授業の進め方 >

中学校教員免許取得希望者は3週間、高等学校教員免許取得希望者は2週間、実際の学校現場で実習を行う。

< 履修するにあたって >

中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、この科目を履修し、単位を修得しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

専門教科の教材研究などは、実習期間前に一ヶ月程度の間で準備をし、

実習中は毎日、2時間以上をかけて校務の準備に努めなければならない。

実習後は、実習レポートの作成に2時間以上を要する。

< 提出課題など >

教育実習日誌と簡単なレポートの提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

教育実習日誌、教育実習反省記録、実習校からの教育実習成績評価表などを考慮して総合的に評価する。

各レポートでの評価を80%、総括的な評価20%で評価する。

< テキスト >

資料『教育実習について』神戸学院大学教職課程編

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

4月 事前指導後の取組

教育実習事前指導を受けた後の問題点の整理、さまざまな情報の収集

5月前半

教育実習への準備

収集した情報をもとに実際上の準備を行う。教材資料の取り寄せ、交通経路の確認等を確実にを行う。

5月後半 実習校との連絡

実習校との連絡を密に行うように指導。教材資料を再点検する。

6月前半 実習校訪問教員との打ち合わせ

ゼミ担当教員等の実習校を訪問する教員と連絡を取り合い、訪問日程の調整を図ると共に教材研究についてのアドバイスをもらうような指導を行う。

6月後半 実習の反省と事後指導

実習日誌の記載等をおして教育実習全体を振り返る。内容に問題があったならば反省を行い、今後の糧とする。(振り返りシートの作成)

7月前半 後期実習生を中心に事前指導後の取組

後期実習生を中心に、教育実習事前指導を受けた後の問題点の整理、さまざまな情報の収集

7月後半 後期実習生を中心に教育実習への準備

後期実習生を中心に、収集した情報をもとに実際上の準備を行う。教材資料の取り寄せ、交通経路の確認等を確

実に行う。

9月後半 後期実習生を中心に実習校との連絡

後期実習生を中心に、実習校との連絡を密に行うように指導。教材資料等を再点検する。

10月前半

後期実習生を中心に実習校訪問教員との打ち合わせ  
後期実習生を中心に、ゼミ担当教員等の実習校を訪問する教員と連絡を取り合い、訪問日程の調整を図ると共に教材研究についてのアドバイスをもらうような指導を行う。

10月後半 後期実習生を中心に、実習の反省

後期実習生を中心に、実習日誌の記載等とおして教育実習全体を振り返る。内容に問題があったならば反省を行い、今後の糧とする。（振り返りシートの作成）

-----  
2022年度 前期～後期

2.0単位

教育実習（資格）

立田 慶裕

-----  
< 授業の方法 >

実習

< 授業の目的 >

教育実習とは、教育職を志す学生が、大学で学んできた教育についての理論・知識・技術を実際に学校教育の現場で体験する学習機会をいう。教育実習において、実習生は経験豊かな教員の指導、助言、援助のもとで、教育実践に意欲的に取り組み、大学で学んだ理論・知識と学校での教育実践を統合するように努力することが必要とされる。こうした教育実習の機会をとおして、実習生は教員の教育活動を観察し教育実践を体験する中で、教員に必要とされる資質・能力を理解するとともに、教師の責任の重大さを自覚する。また、教育実習をとおして学校生活を共にする中で、子ども理解を深める。

以上の授業から、本学DPに示された教育現場に通用する教員としての専門的知識とスキル、そして相互に協同して学ぶ態度が身につくようにする。

担当教員は、国立教育政策研究所にての20年以上の教育実践と理論研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

< 到達目標 >

到達目標は以下の3点になる。教育実習によって、学校教育の実態と課題を論じることができる。教育実習によって、教育課程としての教科・科目、道徳、特別活動及び総合的学習の時間の指導ができる。教育実習によって、教師の使命、職務、責任を自分の考えで表現することができる。

< 授業のキーワード >

教育実習生 学校 教員免許 生徒指導 学業指導

< 授業の進め方 >

中学校教員免許取得希望者は3週間、高等学校教員免許取得希望者は2週間、実際の学校現場で実習を行う。

< 履修するにあたって >

中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、この科目を履修し、単位を修得しなければならない。

< 授業時間外に必要な学修 >

専門教科の教材研究などは、実習期間前に一ヶ月程度の間で準備をし、

実習中は毎日、2時間以上をかけて校務の準備に努めなければならない。

実習後は、実習レポートの作成に2時間以上を要する。

< 提出課題など >

教育実習日誌と簡単なレポートの提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

教育実習日誌、教育実習反省記録、実習校からの教育実習成績評価表などを考慮して総合的に評価する。各レポートでの評価を80%、総括的な評価20%で評価する。

< テキスト >

資料『教育実習について』神戸学院大学教職課程編

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

4月 事前指導後の取組

教育実習事前指導を受けた後の問題点の整理、さまざまな情報の収集

5月前半

教育実習への準備

収集した情報をもとに実際上の準備を行う。教材資料の取り寄せ、交通経路の確認等を確実に進行。

5月後半 実習校との連絡

実習校との連絡を密に行うように指導。教材資料を再点検する。

6月前半 実習校訪問教員との打ち合わせ

ゼミ担当教員等の実習校を訪問する教員と連絡を取り合い、訪問日程の調整を図ると共に教材研究についてのアドバイスをもらうような指導を行う。

6月後半 実習の反省と事後指導

実習日誌の記載等とおして教育実習全体を振り返る。内容に問題があったならば反省を行い、今後の糧とする。（振り返りシートの作成）

7月前半 後期実習生を中心に事前指導後の取組

後期実習生を中心に、教育実習事前指導を受けた後の問題点の整理、さまざまな情報の収集

7月後半 後期実習生を中心に教育実習への準備

後期実習生を中心に、収集した情報をもとに実際上の準備を行う。教材資料の取り寄せ、交通経路の確認等を確実に進行。

9月後半 後期実習生を中心に実習校との連絡

後期実習生を中心に、実習校との連絡を密に行うように指導。教材資料等を再点検する。

10月前半

後期実習生を中心に実習校訪問教員との打ち合わせ  
後期実習生を中心に、ゼミ担当教員等の実習校を訪問する教員と連絡を取り合い、訪問日程の調整を図ると共に教材研究についてのアドバイスをもらうような指導を行う。

10月後半 後期実習生を中心に、実習の反省

後期実習生を中心に、実習日誌の記載等をおして教育実習全体を振り返る。内容に問題があったならば反省を行い、今後の糧とする。(振り返りシートの作成)

-----  
2022年度 前期～後期

1.0単位

教育実習事前・事後指導(資格)

立田 慶裕、井上 豊久、小寄 麻由、小林 麻貴、道城 裕貴、水谷 勇、山下 恭

-----  
<授業の方法>

講義、実習、演習

<授業の目的>

中等教育学校教員免許状を取得するために必要な教育実習の事前説明会、教職課程ガイダンス、教育実習事後反省会などを通して、本学DPに示された教育現場に通用する教員としての専門的知識とスキル、そして相互に協同して主体的に学ぶ態度が身につくようにする。担当教員は、国立教育政策研究所にての20年以上の教育実践と理論研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

<到達目標>

目標 1. 事前指導では、教育実習担当教員による全般的説明と具体的説明により、教科指導ならびに教科外指導及び生徒指導の教育技術などを学ぶことで、教育実習に必要な知識や技術を身につけることができる。2. 事後指導では、教育実習の経験を踏まえて、学校教育の実態についての反省的思考を深め、今後の進路選択について決定することができる。

<授業のキーワード>

教育実習 教員免許状 学校 教材研究 生徒指導 校務 勤務

<授業の進め方>

多くの教員による講義と演習を実施する。講義については多くは教育実習に関わる知識とスキルを学び、心構えについて考える機会となる。演習については免許状の教科ごとに授業実践力を高める。また教育実習を振り返り、反省を行う。

<履修するにあたって>

教育実習に参加する者を対象とした授業であり、実習参加要件を満たしていることが必要である。

<授業時間外に必要な学修>

3日間の集中講義を行う予定であるので、前日に1時間程度の予習をしておくことが望ましく、講義後は、1時間程度でその日の講義内容をまとめること。

<提出課題など>

簡単なレポートの提出を求める。

<成績評価方法・基準>

各種の授業・説明・ガイダンスへの参加意欲や態度、提出物を考慮して総合的に評価する。各回のミニッツレポートでの評価を80%、総轄レポート20%で評価する。

<テキスト>

資料『教育実習について』神戸学院大学教職課程編

<参考図書>

特になし

<授業計画>

第1回 教育実習オリエンテーション

オリエンテーションの実施 挨拶と心構え 教務上の注意

第2回 教育実習に向けて

教育実習に向けて準備すること

第3回 教育実習に向けて

教育実習生としての心構え

第4回 教育実習中の教材研究準備

教材研究の方法

第5回 教育実習中の教材研究準備

教材研究の方法

第6回 教育実習中の生活

教育実習中の過ごし方

第7回 教育実習中の生活

教育実習中の生活と行動

第8回 教育実習に向けて

教育実習生としての心構え

第9回 生徒指導について

中学校での校務としての生徒指導

第10回 教育実習に向けて

教育実習生としての心構え

第11回 教育実習に向けて

学校組織と校務分掌の理解と活用

第12回 教育実習に向けて

教育実習中の特別活動

第13回 教育実習中の生活

教育実習中の過ごし方

第14回 生徒指導について

高等学校での校務としての生徒指導

第15回(7月上旬予定) 教育実習の事後反省

教育実習の事後報告と反省

-----  
2022年度 前期～後期

1.0単位

教育実習事前・事後指導（資格）

立田 慶裕、井上 豊久、小寺 麻由、小林 麻貴、道城 裕貴、水谷 勇、山下 恭

-----  
< 授業の方法 >

講義、実習、演習

< 授業の目的 >

中等教育学校教員免許状を取得するために必要な教育実習の事前説明会、教職課程ガイダンス、教育実習事後反省会などを通して、本学DPに示された教育現場に通用する教員としての専門的知識とスキル、そして相互に協同して主体的に学ぶ態度が身につくようにする。担当教員は、国立教育政策研究所にての20年以上の教育実践と理論研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

< 到達目標 >

目標 1．事前指導では、教育実習担当教員による全般的説明と具体的説明により、教科指導ならびに教科外指導及び生徒指導の教育技術などを学ぶことで、教育実習に必要な知識や技術を身につけることができる。2．事後指導では、教育実習の経験を踏まえて、学校教育の実態についての反省的思考を深め、今後の進路選択について決定することができる。

< 授業のキーワード >

教育実習 教員免許状 学校 教材研究 生徒指導 校務 勤務

< 授業の進め方 >

多くの教員による講義と演習を実施する。講義については多くは教育実習に関わる知識とスキルを学び、心構えについて考える機会となる。演習については免許状の教科ごとに授業実践力を高める。また教育実習を振り返り、反省を行う。

< 履修するにあたって >

教育実習に参加する者を対象とした授業であり、実習参加要件を満たしていることが必要である。

< 授業時間外に必要な学修 >

3日間の集中講義を行う予定であるので、前日に1時間程度の予習をしておくことが望ましく、講義後は、1時間程度でその日の講義内容をまとめること。

< 提出課題など >

簡単なレポートの提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

各種の授業・説明・ガイダンスへの参加意欲や態度、提出物を考慮して総合的に評価する。各回のミニツツレポートでの評価を80%、総括レポート20%で評価する。

< テキスト >

資料『教育実習について』神戸学院大学教職課程編

< 参考図書 >

特になし

< 授業計画 >

第1回 教育実習オリエンテーション  
オリエンテーションの実施 挨拶と心構え 教務上の注意

第2回 教育実習に向けて  
教育実習に向けて準備すること

第3回 教育実習に向けて  
教育実習生としての心構え

第4回 教育実習中の教材研究準備  
教材研究の方法

第5回 教育実習中の教材研究準備  
教材研究の方法

第6回 教育実習中の生活  
教育実習中の過ごし方

第7回 教育実習中の生活  
教育実習中の生活と行動

第8回 教育実習に向けて  
教育実習生としての心構え

第9回 生徒指導について  
中学校での校務としての生徒指導

第10回 教育実習に向けて  
教育実習生としての心構え

第11回 教育実習に向けて  
学校組織と校務分掌の理解と活用

第12回 教育実習に向けて  
教育実習中の特別活動

第13回 教育実習中の生活  
教育実習中の過ごし方

第14回 生徒指導について  
高等学校での校務としての生徒指導

第15回（7月上旬予定） 教育実習の事後反省  
教育実習の事後報告と反省

-----  
2022年度 前期

2.0単位

教育心理学（資格）

石野 陽子

-----  
< 授業の方法 >

【5/20更新】

授業形態：本務大学の疫病対策ガイドラインの都合により、オンデマンド授業（教職課程のmanabaを利用）に変更します。

開講期間：8月9日（火）～8月26日（金）

連絡先：ダミー@edu.shimane-u.ac.jp

問い合わせの際は「大学名、学部名、学年、学籍番号、氏名、履修科目名」以上6点を件名と本文のはじめに必

ず記すこと。上記の記載がなければメールを確認しないこともあるので気を付けること。

#### 【4月時点の情報】

##### 講義（対面）

対面型授業を行う予定です(日時は現在未定。例年8月頃に実施しています)。

ただし、本務大学の疫病対策ガイドラインによってはオンライン授業（オンデマンド）となる場合があります。

##### < 授業の目的 >

当然のことながら教員とは、各教科をどのように教えるか等享受者としての本務を担っている。しかし、それと同時に、子ども一人一人の身体的心理的発達の理解と支援をも期待される存在である。まさに成長期にある子ども達は、他者との関わりや文化・社会からの影響等によって、パーソナリティを形成し興味・関心を変容・拡大させるときである。教員はその変化をとらえ、場合によっては的確な指導を行わなければならない。ここでは、教育に対して心理学がどのように貢献しているかを学んだ上で、人がどのように身体的心理的発達を行なっているかを概観する。

##### < 到達目標 >

教育心理学の基礎を理解し、実践できる土台を養う

##### < 授業の進め方 >

テーマによっては小実験や話し合い活動を行なう。また、その結果などをまとめたものの提出を求める。よって、講義への積極的参加を期待する。私語など授業の進行を妨げる行為は一切認めない。非常に悪質な場合は退室を求める場合があることを理解願いたい。

##### < 授業時間外に必要な学修 >

それぞれの終わりにレポートを学修されたかの確認レポートを課します。よって、その課題のために適切な復習をして下さい。該当箇所は授業中に知らせます。

##### < 成績評価方法・基準 >

単元ごとのレポートを求め、その内容を成績の対象とする

##### < テキスト >

杉森伸吉 他（2020）コアカリキュラムで学ぶ教育心理学 培風館

##### < 参考図書 >

絶対役に立つ教養の心理学 ミネルヴァ書房

##### < 授業計画 >

第1回 教育心理学の定義・領域・歴史

教育心理学の研究方法を学ぶ内容を概観する

第2回 研究の方法

教育心理学の研究方法を学ぶ

第3回 発達

発達に関する理論を学ぶ

第4回 発達の過程

発達はいつどのようになされるのかを概観する

第5回 学習・記憶・問題解決の基礎

学習・記憶の定義を知る

第6回 障害のある幼児、児童及び生徒の学習過程

障害児の学習過程を概観する

第7回 教授学習過程 プログラム学習 発見学習 有意義受容学習

プログラム学習、発見学習などを確認する

第8回 教授学習過程 小集団学習 オープンスクール 総合学習

小集団学習、オープンスクールなどを確認する

第9回 人格・性格の概念と形成

人格・性格の概念とその形成のされ方を概観する

第10回 知能の概念と発達

知能とその概念を確認する

第11回 動機づけと学習意欲

学習への動機づけと意欲について考える

第12回 教育評価 目標 分類

教育評価に関する目標と分類を考える

第13回 教育評価 最近の動向

教育評価に関する最近の動向について確認する

第14回 発達課題



発達段階とその課題について確認する

第15回 障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達過程

障害児の発達過程を概観する

-----  
2022年度 後期

2.0単位

教育心理学 (資格)

道城 裕貴  
-----

< 授業の方法 >

講義 (遠隔オンデマンド授業)

< 授業の目的 >

教育心理学は、教職に関する科目でもあり、配当年次は2年次生、中高共通必修科目です。

学校教育においては、非行、学級崩壊、不登校、いじめ、中1ギャップ、小1プロブレムなど、最近ではSNSなどに関わる問題も注目を集めており、時代を反映するような諸問題が存在しています。これらの諸問題にともなって、心理学の実践研究やアプローチは常に行われてきています。そして、「生きる力」や「自己教育力」などが必要とされている現代社会においては、日々変化する社会と合致した学校教育、あるいは学校教育のあり方を考える必要があるといわれています。それらを踏まえ、本講義においては、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な力を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することを目標とします。

「教育心理学」は一般心理学を教育に応用する応用心理学の一領域、あるいはそれにとどまらない教育実践の中で独自の目的と理論をもつ実践科学であるとするなど、さまざまな捉え方があります。研究領域は、大きく分けて一般的に「発達」「学習」「適応」「評価」の4領域とされることが多いです。教育心理学において行われてきた研究知見や学校に存在するさまざまな問題への答えとなるような事象を学びましょう。

また、この科目の担当者は公認心理師であり、学校の児童生徒および教職員に対する10年以上のカウンセリング経験があります。現在もこれらを対象とした活動を行っている、実務経験のある教員です。演習の中では、カウンセリングスキルを活かした心理援助の方法についても言及しながら、実践的な理解へと繋げていきます。

< 到達目標 >

幼児、児童及び生徒の発達に対する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解し、説明できる。(知識)

様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し、説明できる。(知識)

主体的な学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特長と関連付けて理解している。(知識)

教育心理学における代表的な研究知見について意見を述べるができる。(知識)

学校教育と教育心理学の関連について興味を持つ。(態度・習慣)

< 授業のキーワード >

学校教育・発達・学習・適応・評価・学級集団

< 授業の進め方 >

講義形式で行います。

< 履修するにあたって >

毎回、授業に関する資料を配付します。

< 授業時間外に必要な学修 >

事後学習として授業計画の各回の配布資料をよく読んでおくこと(目安として45分)。課題に取り組む際にはさらに授業のポイントを整理し、理解を深めておくこと(目安として30分)。

< 提出課題など >

毎回の授業の内容に関する小テストへの解答もしくは小レポートの提出を求めます。またそれらの代替として大レポートも課します。課題総数のうち2/3以上の提出を単位認定の要件とします。なお小テストの正答およびレポートのフィードバックについては次回の講義冒頭で行うとともに補足の解説を行います。

< 成績評価方法・基準 >

小テスト50%、定期試験50%

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

はじめに、授業の進め方、全般的な諸注意、成績評価などについて説明します。

第2回 教育心理学とは

教育心理学とは何か、その歴史、主要な4領域、学校教育の最新事情について概説します。

第3回 領域 「発達」

発達の基礎として、たとえば幼児、児童及び生徒の認知・言語の発達と教育、感情・社会行動の発達と教育、心身の発達の規定要因、初期経験の重要性、代表的発達理論等を概説します。

第4回 領域 「学習」

学習の基礎として、学習のメカニズム(学習理論)、記憶と知識の獲得、心の理論などについて概説します。

第5回 領域 「適応」

適応の基礎として、適応とは何か、適応規制、ストレスについて概説します。

第6回 領域 「評価」

評価の基礎として、教育評価の理論的枠組みや評価の類型等について概説します。

第7回 領域 「学習」研究知見

領域 「学習」の続きとして、内発的及び外発的動機づけ、無気力、原因帰属について解説します。

第8回 領域 「学習」研究知見

領域 「学習」の続きとして、学習指導や主体的学習に関する研究知見を解説します。例えば、知的能力の発達、学業不振、学習性無力感などです。

第9回 領域 「学習」研究知見

領域 「学習」の続きとして、学習指導に関する研究知見を解説します。例えば、セルフモニタリング、適性処遇交互作用、自己調整学習、教授法などです。

第10回 領域 「適応」研究知見

領域 「適応」の続きとして、学校不適応に関する研究知見を解説します。例えば、いじめ、不登校、非行、学生相談などに関わるものです。

第11回 領域 「適応」研究知見

領域 「適応」の続きとして、学校不適応に関する研究知見を解説します。例えば、自己効力感、学校適応感、居場所感などです。

第12回 研究 「評価」研究知見

領域 「評価」の続きとして、教育評価に関する研究知見を解説します。例えば、様々な評価方法、学習観点、指導要録と通知表などです。

第13回 領域 「評価」研究知見

領域 「評価」の続きとして、教育評価に関する研究知見を解説します。例えば、学力観、知性観、児童生徒への心理的影響、海外の実践などです。

第14回 学級集団

4領域の補足として、集団づくり、学級集団の意義、特徴、その発達、リーダーシップなどについて解説します。

第15回 まとめ

本講義の全般的なまとめを行い、教育心理学に関する理解を深める。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

教育相談（資格）

難波 愛  
-----

< 授業の方法 >

講義形式

< 授業の目的 >

この科目では、全学部DP3 に示す、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察を通して解決・解明へと導くことができる。また、全学DP5に示す、多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働出来ることを目指します。

教育相談は、教職を目指すなかで、個々の児童生徒を理解し教育活動を行う上で重要なスキルであり概念でもあります。本授業では、小学校から高校までの児童思春期の子どもたちの心理的発達プロセスとそのアセスメントに始まり、カウンセリングの基本的な技法、学校における連携や協働、児童虐待やいじめ、不登校、発達障害を持つ子どもへの対応といった学校現場における重要な課題への理解と具体的な対について学ぶとともに、保護者への対応や教師自身のメンタルヘルスについても学んで生きます。

自身が教師になった時に起こり得る状況をイメージしながら、具体的な対応力をつけることを目標とします。

< 到達目標 >

< 知識 > 教育相談に関わる基本的知識を獲得し説明することができる。

< 体験 > ミニワークを体験することを通じて自己理解を深め、児童生徒や保護者といった他者理解につなげることができる。

< 技能 > カウンセリングの基本的技能を習得し、ロールプレイを通して実際に活用することができる。

< 授業のキーワード >

児童生徒の理解とアセスメント 学校現場での心理的課題とその対応 保護者の理解と対応および教師自身のメンタルヘルス

< 授業の進め方 >

テキストを使います。講師からテキストの要点を示したレジュメを配布しますが、適宜テキストに示された資料を参照したり、テキストに記載されたワークをその場で行ったりますので、必ずテキストを持参してください。教育相談は、基本的な知識と実際のスキルが両輪となって、現場で使える技能にすることができます。受講生同士での意見交換や学校現場での具体的な場面を想定したロールプレイなど、体験型のワークも取り入れて行きますので、積極的に参加するようにしてください。

< 履修するにあたって >

ニュースや報道で「教育相談」に関係する時事ニュースに関心を持ちましょう。社会の風潮は即教育現場に反映しますし、教育現場での事件は社会的にも耳目を引きます。子ども達を社会全体で育てることを目指しつつ、学校では何ができるのかを考える視点が重要です。

< 授業時間外に必要な学修 >

90分の予習。テキストを予め読み込みんできてください。授業中にすべてを読んでいくことはできません。内容定着のための復習90分。

< 提出課題など >

理解を自ら評価するために、授業の中で小レポートを作成してもらいます。授業のなかで全体に向けてレポートについてコメントをフィードバックします。

< 成績評価方法・基準 >

全授業の3分の2以上の出席をした場合に、単位認定・評価の対象とする。毎回のミニレポート20%、2回の小テスト20×2=30%、期末試験50%。公式の授業欠席届を提出した場合でも、少なくとも過半数の出席（15回授業の場合は8回）を求める。小テスト2回、定期試験はいずれも資料の持ち込み不可。

<テキスト>

『教育相談ワークブック 子どもを育む人になるために』  
桜井美加・齋藤ユリ・森平直子

2016年 北樹出版 2000円+税

<授業計画>

第1回 本講義についてのガイダンス

「教育相談」の全体的な流れと授業への取り組み方について教示した後、キーワードを通して本講義の全体像をつかむ。

第2回 第1章 教育相談とは

いままぜ「教育相談」が求められているのか、現場の課題を示しつつ、教育相談の形態と方法について学びます。  
テキストp2～p8

第3回 第2章 児童・思春期の発達とアセスメント

児童・思春期の子どもの発達理論を概観します。アセスメントについて理解し、その方法を学びます。また教師の立場でできるアセスメントについて考えていきます。  
テキストp9～p16

第4回 第3章 カウンセリングの基本を学ぶ

カウンセリングに関する基本的な知識を学んだ上で、具体的なカウンセリングの技法を体験的に学びます。二人組～3人組でロールプレイを行い体験的に学習します。  
テキストp17～p26

第5回 第4章 学校における連携と協働

教育現場におけるカウンセリングをコミュニティ心理学の視点から見ていきます。学校における連携の大切さと具体的な方法について学んでいきます。  
テキストp26～p31

第6回 小テスト1

第1章から第4章までの内容についての小テスト1を実施し、関連する内容について補充教材で学習します。持ち込みは不可です。

第7回 第5章 児童虐待への理解と対応

児童虐待についての基本的な知識を学び、虐待が子どもに及ぼす影響について考えていきます。被虐待を疑った際の学校の対応についても学んでいきます。  
テキストp32～p40

第8回 第6章 特別支援教育を必要とする子どもたち

発達障害についてその概念と種類について学び、ADHD、LD、ASDの各発達障害の子どもへの理解と対応について具体

的な例に基づいて学びます。テキストp41～p56

第9回 第7章 不登校の子どもへの理解と対応

不登校について基本的な知識を学んだ後、状態に応じた適切な対応について、家庭での支援および教師による支援について学びます。テキストp57～p66

第10回 第8章 いじめの被害者・加害者への理解と対応

いじめについて、我が国における対策について法律を含めた知識を学び、いじめの四層構造、ネット上のいじめ、いじめ防止のためにすべきことについて概要を学びます。また、学校での被害者・加害者に対する具体的な支援について考えていきます。テキストp67～p77

第11回 小テスト2

第5章から第10章までの範囲について小テスト2を実施します。その後、この範囲に関連する内容を補足資料を用いて学習します。持ち込みは不可です。

第12回 第9章 学校における危機介入と心のケア

学校における危機とは何かについて概観した後、学校への緊急支援について学びます。またトラウマとそのケア、自殺予防について学び、危機を回避するための日常的な対応について考えます。テキストp78～p87

第13回 第10章 非行問題への理解と対応

少年非行について行動説明や心理的特徴について学んだのち、非行少年との関わり方、および外部機関との連携について学びます。テキストp88～p98

第14回 第11章 保護者の理解と対応

保護者との関係作りは学校現場は必須の事項です。保護者とのコミュニケーションをとるか、学校での様子を伝えるか等について学んだのち、具体的な保護者との面談場面で心がけることについて学習します。  
p99～p106

第15回 第12章 教師のメンタルヘルス

教室のメンタルヘルスについて、ストレスとコーピング、燃え尽き症候群の予防の観点から学習します。また日本の教師の置かれた立場を踏まえての教師のメンタルヘルスの向上について学んでいきます。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

教育相談（資格）

石野 陽子

-----  
<授業の方法>

講義（対面）

対面型授業を行う予定です（日程は現在未定。例年は2月頃に実施しています。）。

ただし、本務大学の疫病対策ガイドラインによってはオンライン授業（オンデマンド）となる場合があります。

< 授業の目的 >  
教育相談とは、成長期にある子どもが諸問題を抱えた時、本人や本人を取り巻く者に対して望ましい相談活動や援助を行なうことである。ここでは、学級という集団や教育評価の特性と問題点を学び、現場における教育相談の役割と方法について、実践を交えながら理解を深める。

< 到達目標 >  
教育現場で相談業務を行なうことの意義を身につけ、実践できる土台を養う

< 授業の進め方 >  
テーマによっては小実験や話し合い活動を行なう。また、その結果などをまとめたものの提出を求める。よって、講義への積極的参加を期待する。私語など授業の進行を妨げる行為は一切認めない。非常に悪質な場合は退室を求める場合があることを理解願いたい。

< 授業時間外に必要な学修 >  
この授業は4期に分けられ、それぞれの終わりにレポートを学修されたかの確認レポートを課します。よって、その課題のために適切な復習をして下さい。該当箇所は授業中に知らせます。

< 成績評価方法・基準 >  
出席は当然しなければならない。レポート50%、小レポート20%、授業での発言とその内容30%

< テキスト >  
未定（決まり次第お知らせします）

< 授業計画 >

第1回 教育評価

教育評価の歴史と昨日、方法と分類

第2回 教育評価

教育評価の歴史と昨日、方法と分類

第3回 学習環境としての集団

学級の特質と理解、発達と指導

第4回 学習環境としての集団

学級の特質と理解、発達と指導

第5回 教育相談

意義と役割、組織と方法、診断と処遇

第6回 教育相談

意義と役割、組織と方法、診断と処遇

第7回 教育臨床

教育臨床の意味、教育相談との関係、学校心理士の活動内容

第8回 教育臨床

教育臨床の意味、教育相談との関係、学校心理士の活動内容

第9回 心身障害の理解

障害の分類と程度、心身障害と発達、発達保障とQOL

第10回 心身障害の理解

障害の分類と程度、心身障害と発達、発達保障とQOL

第11回 適応障害の理解

適応の仕組、適応障害のタイプ、発現の要因と対応

第12回 適応障害の理解

適応の仕組、適応障害のタイプ、発現の要因と対応

第13回 適応障害の理解

適応の仕組、適応障害のタイプ、発現の要因と対応

第14回 症例と対応

症例を確認しながらどのような対応を取るべきか考える

第15回 症例と対応

症例を確認しながらどのような対応を取るべきか考える

-----  
2022年度 後期

2.0単位

教育方法論（資格）

小寄 麻由  
-----

< 授業の方法 >

対面授業（講義、演習）

< 授業の目的 >

本講座は教員免許取得に必要な資格授業科目であり、こ

れからの社会を担う中学・高校の生徒たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、目的に適した指導技術を身に付ける。特に協同学習の理論に基づき、小集団を使った学習方法のワークショップを通して今後の教育方法のあり方を考える。また、文部科学省が進めるICT教育についても考察し、適切な教材を創造する。これは本学ディプロマ・ポリシーの「獲得した知識や技能を活用し、国内外において、価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して、社会に役立てることができる」学生の育成につながるものである。なお、この授業の担当者は、教育現場で20年以上の実務経験のある教員である。

<到達目標>

- 1) 教育方法の基礎的理論と実践を説明することができる
- 2) 協同学習の理論に基づいた多様な学習方法を学び、それらを実践的に活用する力を獲得できる
- 3) ICT教育の実際を知り、指導案にそった適切なICT活用授業を創造することができる
- 4) グループワークを通して、様々な視点を持つ他者と協同する経験を持ち自分の考えを伝えることができる

<授業のキーワード>

教育方法・協同学習・グループワーク・評価・教育の情報化・ICT活用授業

<授業の進め方>

講義形式とともにグループワークを取り入れて授業を行う。

プレゼンテーションソフトを使った教材の作成を求め、授業中に相互評価を行う。

講義の最後に出席カードを記入し、次の時間に感想や意見を共有する。

<履修するにあたって>

小集団でのグループワークや議論に積極的な参加を求める。

学習支援システム「ロイロノート」を使用したICT活用授業を体験的に学ぶ授業を行う。この時、自分のデバイスに「ロイロノート」のアプリを事前にインストールする必要がある。

ICTを使用した授業の指導略案と教材の作成を課し、manabaを使って提出させる予定である。

教職サポート室を積極的に利用すること。相談員の先生と面談して作成するレポートを課すこともある。

<授業時間外に必要な学修>

レポート課題 は目安として3時間

レポート課題 は指導案とICT教材作り。目安として5時間。ただし教職サポート室の訪問はそれ以外で約1時間程度必要。

<提出課題など>

レポート課題は講座の前期にレポート、中期にレポート、後期にレポートを課す予定である。 は教育

方法の歴史について、レポート はICT活用授業について。レポート は指導略案、レポート は指導略案にそって、独自のICT活用教材を作成して提出する。期日を守って提出すること。

レポート課題の期日や内容の詳細は授業中で指示する。提出されたレポートは授業で相互評価する。

課題によっては、教職サポート室の相談員の先生のアドバイスを求めることを必須とする。

出席カードに講義内容についての感想を必ず記入して提出すること。

<成績評価方法・基準>

感想やコメント30%、レポート70%（定期試験は実施しない）

<テキスト>

適宜プリントを配布

<参考図書>

ジョンソン, D.W ほか『学習の輪 学び合いの協同教育入門 改訂新版』二瓶社

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

講義の目標、内容と方法、評価の説明、自己紹介

「高等学校までの授業の中で印象に残っている教材、または授業」というテーマで作文を書く

第2回 教育方法の歴史

現在の教育方法にいたる歴史を理解する

第3回 教育方法の歴史

現在の教育方法にいたる歴史を理解する

第4回 現代の教育方法

主体的・対話的で深い学び、問題解決学習、アクティブラーニングなど今求められる学びについて理解する

第5回 現代の教育方法

GIGAスクール構想、教育の情報化、ICT活用授業などについて理解する

第6回 ICT活用授業

プレゼンテーションソフトを使った授業実践を知り、思考力を育成する授業のあり方について考える

第7回 ICT活用授業の実際

教育支援システム「ロイロノート」を実際に体験し、ICTを活用した授業について考察する

第8回 ICT活用授業の実際

現職の学校教員を招聘して実際にどのように授業でICTやデジタル教科書を使用しているかを紹介し、効果的なICT活用授業について考える

第9回 思考ツール

ホワイトボードで思考ツールを使った授業実践を紹介したのち、「ロイロノート」のシンキングツールを活用した授業を体験し、効果的なICT活用授業について考える

第10回 協同学習の理論

協同学習の理論を協同学習の手法で学ぶ

#### 第11回 協同学習の実践

協同学習の理論を用いた実践をワークショップ形式で体験し、効果的なアクティブラーニングについて考える

#### 第12回 協同学習の実践

協同学習の理論を用いた実践をワークショップ形式で体験し、効果的なアクティブラーニングについて考える

#### 第13回 ジグソー法

ジグソー法を用いた実践をワークショップ形式で体験し、効果的なアクティブラーニングについて考える

#### 第14回 メディアを用いた授業の創造

ICTを用いた指導略案を書き提出する。またその授業で使用するICT教材を作成し提出する。それらについて相互にプレゼンテーションする。

#### 第15回 本講座のまとめ

本講座の総括を行い、自分の学びについて論述する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

教育方法論 (資格)

立田 慶裕

#### < 授業の方法 >

コロナ禍の状況により、対面か、遠隔講義（オンデマンド）を決めます。

LMSとして、manabaを利用します。

#### < 授業の目的 >

本講義では、継続的な学習者としての教員の資質向上を図り、従来の教育方法に加えてIT活用を重視し、学習者の動機付けと学習スキルの向上を図る多様な教育と学習法を実践的手法により学ぶ。特に今後学校教育において展開される教育方法として、学習の動機付けと学習スキルを大きく向上できる「調べる学習」に焦点を当て、児童・生徒が自ら知識を生成するプロセスを支援できるような教材作りを実践を通じて学ぶ。同時に、授業を運営する方法としてのカリキュラムマネジメントのスキルを習得する。本講義によって、本学のDPに掲げられた教員としての専門知識とスキル、協働して活動できる社会的態度の形成を目指す。

#### < 到達目標 >

到達目標として次のことができることを目指す。

(1) 教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を行う。

(2) 多様な学習方法を学び、それらを教育の場で実践的に活用できる。

(3) ITを活用した多様な学習方法を学び使える。

(4) 自己の学習マネジメントとカリキュラムマネジメント

トができる。

(5) 教科に応じた調べる学習を支援できる。

(6) 児童・生徒の調べる学習を支援できる教材をマルチメディアで作成できる

#### < 授業のキーワード >

教育方法、ポートフォリオ、調べる学習、マルチメディアの教材作成、カリキュラムマネジメント

#### < 授業の進め方 >

授業では、いろいろなグループワークも課しますし、パソコンやスマホを学習のツールとして活用します。Youtubeを見たり、本を読んだり、映画を見たり、できるだけ、学ぶことが楽しい授業を目指します。

学習システムとして、manabaを利用します。

Manabaには、みなさんのIDとパスワードを用いて入ります。

Manabaのシステムには、

大学の学内情報システムから入ることができますが、大学外部からアクセスするときは

<https://teacher.human.kobegakuin.ac.jp>

のアドレスを利用してください。

まずは、学習への動機付けを行うアイスブレイクの手法を実践的に学び、相互理解を深める。いくつかのアイスブレイクができるようになれば、各教科に応じた教育法として、調べ学習や知識の整理法、データベースの作り方を学び、多様な学習法を用いた学習成果を生み出し、対話的な学習法による形成的評価の方法を学んでいく。学習とカリキュラムをマネジメントの観点から考え、生徒に指導できるよう、多様な授業の方法と学習法を学ぶ

#### < 履修するにあたって >

授業を通じて、話すのが苦手な人にも伝え方、表現の方法などを学んでいってもらいます。ノートの取り方や情報収集の方法を身につけていきますので、コンピュータが苦手な人にもわかりやすく解説しますが、みなさんがいろんなことに興味を持つようにしてください。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

自宅でも、他の講義でも、自分なりのノートのまとめ方を工夫して行ってください。ノートテイキングは、教育や学習の基本となりますので、他の講義でも自分なりの生涯使えるノートを作っていく行ってください。ポートフォリオは、自宅でも利用し、授業1回につき、事前・事後4時間程度の予習、復習をしてください。

#### < 提出課題など >

オンライン上のアンケート回答。プロジェクト学習でのレポート提出等。

#### < 成績評価方法・基準 >

成績は平常受講の評価と課題達成を重視。下記のミニッツレポート15回(40%)、中間課題レポート2回(40%)

)、最終課題レポート(20%)の総合判断。

<参考図書>

各回に指示

<授業計画>

第1回 オリエンテーション 教育の方法

講義の目標、内容と方法、評価の説明 教育の方法の基本的考え方を説明する

第2回 日本の教育改革

日本は、近年大きな教育改革が進行している。その背景について講義する

第3回 世界の学習環境の革新

日本の教育改革の背景にある世界の教育改革の動向を講義する

第4回 多様な学習法

教育指導を行う上で、これまで蓄積されてきた多様な学習法を振り返る

第5回 児童・生徒のコンピテンシーを育てる

新たな学習指導要領では、児童・生徒の資質能力、コンピテンシーの育成が求められている。そのコンピテンシーとは何かについての講義を行う。

第6回 教育の情報源データベース

教育的知識の基本となる情報源データベースを作成する

第7回 学習指導の方法

学習指導要領を踏まえながら、学習指導について、特に今後重要視される探究学習を論じる

第8回 探求学習の方法

実際の授業では、学習指導要領を参考とするため、その内容を方法論的に検討し、近年発展をとげる「調べる学習」=探求学習の指導要領上の位置づけを学ぶ。

第9回 問題解決学習

教科にかかわらず、学習が必要とされる多様な社会的課題をとりあげ、どのようにして教科に位置づけるかを考える

第10回 学校図書館の活用

各教科において必要とされる学校図書館の活用について、学校図書館の基礎的知識と活用法を学ぶ

第11回 発問法、板書法、ノートテイキング

基本的な教育法として、発問法、板書法、ノートの取り方のコツを学ぶ

第12回 ICTを活用した教育(1)

現在進みつつある電子メディアを導入した教育法について、その変化や動向を説明する

第13回 ICTを活用した教育(2)

電子メディアの授業への導入によって、授業で用いられる多様なICT教育の方法を学ぶ

第14回 経験学習の方法と意義

学校外の地域で学ぶサービスラーニングの方法について、経験教育のプログラムを学ぶ

第15回 総括評価

教育目標の設定から始まる授業のプロセスに最後には、

学習成果の評価を行うことが求められる。学習評価の理論から実践を最後に学ぶ。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

教育方法論(資格)

井上 豊久  
-----

<授業の方法>

講義とワークショップ等

メールアドレスはダミー@human.kobegakuin.ac.jpです。

私はメールは必ず1日に何度も見えますので、次の日までにもし私からの返信が無ければ、うまく届いてないことが考えられますので、再送してみてください。

急ぎの場合はケータイ電話090-ダミー-ダミーに連絡ください。留守電付きです。留守電に入れておいてもらうとこちらからも電話できます。

授業の方法・内容等については変更があるかもしれません。

<授業の目的>

これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、目的に適した指導技術を身に付ける。DP主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の実践的な育成を目指す。将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に学修できる力量形成を目的とする。

<到達目標>

1.教育方法の基礎的理論と実践の理解、2.主体的対話的で深い学びの理解と実践、3.授業構成と技術の理解、4.機器の理解と活用

<授業のキーワード>

アクティブラーニング、社会に開かれた教育課程、クロスカリキュラム、アイスブレイキング、指導案、メディアリテラシー

<授業の進め方>

対面、オンライン授業とレポート、指導案の検討等で行う

<履修するにあたって>

自己研究を着実にを行うことを求めます。

<授業時間外に必要な学修>

課題の提出、自己研究を重視し、テーマに合わせ180分程度の時間外の学習を基本とする。

<提出課題など>

ミニレポート、中間レポート、最終レポート、提出物は成績評価に反映させるほか、適宜、匿名にて論評を行う。

<成績評価方法・基準>

毎回のレポート40%、中間レポート20%、最終レポ

ート40%の総合判断

<参考図書>

学習指導要領、立田慶裕・今西幸蔵編『学校教員の現代的課題』法律文化社

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

講義の目標・内容と方法、評価の説明

第2回 教育方法論の概要と意義

教育方法の理念、意義、諸問題

第3回 教育方法論の歴史1

ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト等の教育方法論

第4回 教育方法論の歴史2

デュイ、ブルーナー等の教育方法論、日本の教育方法史

第5回 教授理論

問題解決学習、系統学習、経験学習等

第6回 授業の構造と設計

学習指導の過程、授業設計、指導案の作成の基礎

第7回 主体的対話的で深い学び

主体的対話的で深い学びの意義と実践

第8回 中間レポート

これまでの授業の復習と中間まとめ

第9回 ワークショップ1

参画学習とは、アイスブレイキング、アクティビティー1

第10回 ワークショップ2

アクティビティー2、ブレインストーミング、カード分類法、

第11回 ワークショップ3

シェアリング、プレゼンテーション、気づきと共有、改善

第12回 指導案作成1

指導案作成の基礎・基本の理解、教育方法におけるICTなどメディアの理解

第13回 指導案作成2

指導案作成実践、メディアリテラシー、学校とICT、PC等の活用

第14回 プレゼンテーション、ICTを活用した授業

レポート提出による指導案発表、ICTを活用した教材の作成とプレゼンテーション、シェアリング

第15回 まとめ

総括と最終レポートに向けて

-----  
2022年度 後期

2.0単位

教職実践演習（栄養教諭）（資格）

小林 麻貴

-----  
<授業の方法>

演習

<授業の目的>

この科目では、栄養学部のDPに示す栄養教諭のリーダーとして社会で活躍できる技能を習得するため、栄養教諭免許取得の最終段階として、身につけた資質能力が有機的に形成されたかについて最終的に確認し、栄養教諭としての全体的な能力の涵養を図ることを目的とする。

<到達目標>

効果的な授業方法を身につけることができる。

児童とのコミュニケーション能力を身につけることができる。

<授業のキーワード>

エコ・クッキング、和風だし体験講座、食農活動

<授業の進め方>

少人数のグループワークを中心に行う。

<履修するにあたって>

栄養教諭概論、栄養教育実習で学修したことを復習しておくこと。

<授業時間外に必要な学修>

授業の練習をする（1時間）

<提出課題など>

授業の最終回に課題を提出する。課題のフィードバックはオフィスアワーに行う。

<成績評価方法・基準>

演習への積極性（食育授業への取り組み、媒体作成）90%、課題10%で評価を行う。

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

本科目の趣旨、目的を理解する。

第2回 学校訪問の準備

食育計画の打ち合わせ・作成を行うことで、食育準備に必要なことを理解する。

第3回 学校訪問の準備

食育計画の打ち合わせ・作成を行うことで、食育準備に必要なことを理解する。

第4回 学校訪問の準備

食育計画の打ち合わせ・作成を行うことで、食育準備に必要なことを理解する。

第5回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第6回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第7回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

第8回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。



## 第9回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

## 第10回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

## 第11回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

## 第12回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

## 第13回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

## 第14回 学校訪問の実施

小・中学校を訪問し、食育授業を行い、効果的な授業の方法について理解する。

## 第15回 まとめ

学校訪問の実施で得たことをまとめ、効果的な授業方法、児童とのコミュニケーションに大切なことについて理解を深める。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

教職実践演習（中・高教諭）（資格）

中村 健治

-----  
< 授業の方法 >

対面授業（講義・演習・実習）

< 授業の目的 >

本講座は、教職課程の他の科目や教職課程外での様々な活動を通して受講者自身が身に付けた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的かつ総括的に確認するものであり、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」となるものである。受講生はこの科目の履修を通じて、将来教員となる上で何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等をを補い、その定着を図ることにより、教員生活をより円滑にスタートさせることを目的としている。

なお、この授業担当者は、神戸市立高等学校で地理歴史科公民科教諭・教頭・校長として、また、教育委員会事務局においては社会科・地理歴史科公民科の指導主事、特別支援教育課の指導主事も経験した実務経験のある教員である。学校現場や教育行政の現場の実態を踏まえ、より実践的な授業を行います。

< 到達目標 >

1．教育に対する使命感と情熱、高い倫理観と規範意識を持ち、真摯に教育課題と向き合い、自己の職責を果た

そうとする姿勢が身に付いている。（態度・習慣）

2．教員を目指す身として、その職責や組織の一員としての自覚を持つことの必要性を理解し、目的や状況に応じた適切な言動をとり、他者と協働することができる。

（技能、態度・習慣）

3．感性やコミュニケーション能力を磨き、子供の発達や心身状況に応じて、公正かつ受容的な態度で適切な指導を行うことができる。（知識、技能、態度・習慣）

4．専門教科・科目の知識や指導方法を習得し、生徒の興味・関心を高める教科指導を行うことができる。（知識、技能、態度・習慣）

< 授業のキーワード >

使命感 共感力 対応力 人間関係形成能力 生徒指導力 教科指導力

< 授業の進め方 >

・講義も行うが、基本的には課題に対して受講者同士が討論・発表などを行う「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業形態をとる。（グループワーク、ロールプレイング、事例研究など）

< 履修するにあたって >

・受講生が将来教員になることを前提に授業を行うので、「必ず教員になる」という強い意志と覚悟を持って授業に臨んでください。

・授業に関係のない私語・スマホ操作・授業中の入退室は禁じます。

・受講者同士の討論・発表など、受講者主体の授業となるので、積極的な姿勢で臨んでください。

・教育実習時に使用した「教育実習日誌」や「学習指導案」、「履修カルテ」を活用する場合がありますので、準備しておいてください。

< 授業時間外に必要な学修 >

・「履修カルテ」に基づいた教職課程ポートフォリオの作成

今まで履修した教職課程の科目について整理することによって、自己の課題を発見したり、

自身の力量形成を紡ぎだすツールとなるため、是非取り組んでもらいたい。

・第2回の講義時に自身の教育実習の概要について発表してもらうので、事前に教育実習日誌等で振り返りを行い、発表内容をまとめておくこと。

・課題レポート作成、総括レポート作成

・教育関係ニュース等の収集・分析

< 提出課題など >

毎回の授業のリフレクションシート（出席票を兼ねる）

授業中に指示する課題レポート

授業総括レポート

授業記録シート

< 成績評価方法・基準 >

・定期考査は実施しない。

・到達目標に照らして、どの程度達成できたかによって総合的に評価を行う。

毎回の授業のリフレクションシート（40％）

課題レポート（30％） 授業総括レポート（20％）

グループワーク、意見発表など授業への積極的参加姿勢（10％）

<テキスト>

テキストは使用しない。 毎回必要な資料プリントを配付する。

<参考図書>

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編（文部科学省発行）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編（文部科学省発行）

生徒指導提要（文部科学省発行）

その他必要に応じて提示する

<授業計画>

#### 第1回 オリエンテーション

- ・担当教員自己紹介
- ・受講生自己紹介
- ・講義の狙いと概要、評価方法等の説明

#### 第2回 自己分析と課題設定

- ・受講生自身が行った教育実習概要発表（各自3分以内）
- ・「履修カルテ」や「教育実習日誌」等を用いてこれまでの学修を振り返り、自己分析を行う。
- ・自己分析結果を発表し、全体で共有する。
- ・自己分析結果を踏まえ、各自の課題設定を行う。

#### 第3回 学校組織と教員の役割

- ・教職の意義、学校組織と教員の役割と職務内容等について（講義）
- ・学校の果たす役割と課題について考える。（グループ討議・発表）
- ・教員として求められるものは何かについて考える。（グループ討議・発表）

#### 第4回 学校組織と教員の役割

- ・教職の意義、学校組織と教員の役割と職務内容等について（講義）
- ・学校の果たす役割と課題について考える。（グループ討議・発表）
- ・教員として求められるものは何かについて考える。（グループ討議・発表）

#### 第5回 学級経営（講義・演習・発表）

- ・豊かな人間性を育てる学級経営について考える。
- ・学級経営を進めるための基礎基本について理解する。

#### 第6回 学級経営（講義・演習・発表）

- ・学級経営案について理解し、作成演習を行うことによって、学級担任としての資質・能力を高める。

#### 第7回 学級経営（講義・演習・発表）

多岐にわたる学級経営上の視点を知り、円滑な学級運営を行う上での留意点や具体的な方策を理解する。

- ・生徒との人間関係づくり、叱り方・ほめ方の事例研究
- ・学級の組織づくり
- ・教室環境づくり

#### 第8回 生徒理解と生徒指導（講義・事例研究）

・生徒理解の基礎基本を理解し、生徒理解のための観点を知ることによって、生徒の健全育成、自己実現を図るための能力の育成に資するための生徒指導力の基礎を培う。

- ・事例研究を行うことによって、実践力を養う。

#### 第9回 生徒理解と生徒指導（講義・事例研究）

・生徒指導に取り組む基本姿勢、生徒指導体制充実のポイントを理解し、生徒指導力の基礎を培う。

- ・事例研究を行うことによって、実践力を養う。

#### 第10回 生徒理解と生徒指導（講義・事例研究）

・不登校生徒への対応、いじめ問題への対応に関する短縮事例研究を行うことによって、対応の視点や方法を学び、生徒指導に関する実践力を養う。

#### 第11回 特別支援教育の理解

・特別支援教育及び特別支援教育の視点を生かした生徒指導について理解を深める。

#### 第12回 特別支援教育の理解

・高等学校における特別支援教育や通級による指導の現状と課題を理解する。

#### 第13回 教科指導力の向上に向けて

・資料を基に素材研究を行い、実際の授業の中でどのような「問い」をたて、授業を行うかを考える。

#### 第14回 教育における今日的課題

・コンプライアンスの意味する内容を学ぶことによって、その本質を理解する。

- ・教職員による不祥事が起こる背景とその影響について考え、それらを防止する方策を検討し、全体で共有することによって、教員としての資質・能力を高める。

#### 第15回 講義のまとめ・振り返り

・教職実践演習で学んだ内容を振り返り、各自が当初に設定した課題の達成状況や教職関係科目への取組を自己評価し、教職課程全般の総括を行う。

- ・「教員として必要な資質・能力」、「教員としてあるべき姿」について討論・発表し、授業総括レポートとしてまとめ後日提出する。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

教職実践演習（中・高教諭）（資格）

中村 健史  
-----

< 授業の方法 >

対面、演習

< 授業の目的 >

この科目は教職課程の教科（国語）に関する科目です。この授業は各種の教職課程科目およびそのほかの活動を通じて、教職を目指す受講生が、身につけた資質能力を有機的に統合し、形成することができたかを確認するためのものです。受講生はこの科目の履修を通じて、将来教員となるうえで自分にとって何が課題であるか自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着をはかることが期待されます。

この科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「学部教育と融合した教職教育をとおして、学校教育の目的や目標、地域社会の課題を理解し、さまざまな要求や問題解決に取り組み、生徒の知識や技能、主体的・協働的に学習に取り組む態度の育成を図る教員として活躍できる」を目指して実施される。

授業の目的は以下の通りである。

(1) 教員としての使命感・責任感・教育的愛情に基づき、自己の職責を果たそうとする姿勢を身につける。

(2) 適切な社会性や対人関係能力に基づき、教員として生徒・同僚・保護者と良好な人間関係を築けるようになる。

(3) 個々の生徒の状況に応じて抱える問題を理解し、適切な指導を行えるようになる。

(4) 生徒とのあいだに信頼関係を築き、学級集団を把握して学級経営を行えるようになる。

(5) 学習指導の基本的事項を身につけ、生徒の反応や学習の定着状況に応じて必要な工夫を行える。

この科目は、実務経験（高等学校を中心とする国語科教員）のある教員が担当する。必要に応じて、教育現場での実例や知見にも触れつつ授業を進めてゆく。

< 到達目標 >

(1) 教員としての使命感・責任感・教育的愛情に基づき、自己の職責を果たそうとする姿勢が身につけている。

(2) 適切な社会性や対人関係能力に基づき、教員として生徒・同僚・保護者と良好な人間関係を築くことができるようになる。

(3) 個々の生徒の状況に応じて抱える問題を理解し、適切な指導を行うことができるようになる。

(4) 生徒とのあいだに信頼関係を築き、学級集団を把握して学級経営を行うことができるようになる。

(5) 学習指導の基本的事項を身につけ、生徒の反応や学習の定着状況に応じて必要な工夫を行うことができるよ

うになる。

< 授業のキーワード >

教職

< 授業の進め方 >

講義形式、事例研究、発表と意見交換、模擬授業などを適宜織り交ぜながら授業を進めてゆきます。

なお授業の性質上、授業計画（進度、内容）が予定から多少変更される場合があります。

< 履修するにあたって >

教育実習で使用した実習ノート、研究授業の指導案などを保管し、適宜持参できるようにしておいてください。後期に教育実習を行う人は、第1回授業の際に申し出てください。

< 授業時間外に必要な学修 >

発表やグループワーク、ディスカッションなど、受講生が積極的に参加することで学習活動を深めてゆくことが想定されている授業ですので、毎回、あらかじめ指定された課題について下調べを行い、実践例や解決法を調査した上で、自分の意見をまとめる予習の時間が必要です。また、ふりかえりシートの作成のために復習の時間も取る必要があります。両者を合わせて、毎回3時間程度の授業時間外学習が必要です。

< 提出課題など >

発表やグループワーク、ディスカッションを行った回には、発表や討議の内容（自身のものを含む）について検討したふりかえりシートを作成し、提出するものとします。

< 成績評価方法・基準 >

(イ) 授業への参加度 70% 評価基準は「適切にグループワークやディスカッションをすすめることができたか」「到達目標にかかげた内容について一定の理解を持ち、それに基づいて具体的な事象を解決するための提案を行えたか」「適切な方法を用いてレファレンスを行い、みずから解決方法を探求できたか」「自律的に学ぶ意欲とそのための技法・知識を習得できたか」。

(ロ) ふりかえりシートの内容 30% 評価基準は到達目標の(1)～(5)。

< テキスト >

なし

< 授業計画 >

第1回 教員としてはたらくためには(1)

学校で教員として働くには、教員としての使命感・責任感が必須であることを理解し、教育現場でどのような教員が求められているか、具体的事象を通して学びます。教職ポートフォリオを基に、グループディスカッション等を交えながら考えてゆきましょう。到達目標(1)(2)に該当。

第2回 教員としてはたらくためには(2)

学校で教員として働くには、教員としての教育的愛情が必須であることを理解し、教育現場でどのような教員が

求められているか、具体的事象を通して学びます。教職ポートフォリオを基に、グループディスカッション等を交えながら考えてゆきましょう。到達目標（１）（２）に該当。

### 第3回 教員としてはたらくためには（３）

学校で教員として働くには、教員として社会性や対人関係能力が必須であることを理解し、教育現場でどのような教員が求められているか、具体的事象を通して学びます。教職ポートフォリオを基に、グループディスカッション等を交えながら考えてゆきましょう。到達目標（１）（２）に該当。

### 第4回 事例研究によって理解を深めよう（１）

いじめや不登校について事例研究と意見交換を行い、個々の生徒、あるいは個別の状況に応じた対応を修得します。なお事例研究ではグループでの発表を行います。到達目標（３）に該当。

### 第5回 事例研究によって理解を深めよう（２）

特別支援教育について事例研究と意見交換を行い、個々の生徒、あるいは個別の状況に応じた対応を修得します。なお事例研究ではグループでの発表を行います。到達目標（３）に該当。

### 第6回 事例研究によって理解を深めよう（３）

学校における安全の確保について事例研究と意見交換を行い、個々の生徒、あるいは個別の状況に応じた対応を修得します。なお事例研究ではグループでの発表を行います。到達目標（３）に該当。

### 第7回 教育実習での経験から学ぼう（１）

教育実習のなかで経験した内容を発表し、相互に意見交換、グループワーク、ディスカッションを行います。主に教員としての意欲・姿勢にかかわる問題を取り上げます。到達目標（１）（２）に該当。

### 第8回 教育実習での経験から学ぼう（２）

教育実習のなかで経験した内容を発表し、相互に意見交換、グループワーク、ディスカッションを行います。主に生徒指導にかかわる問題を取り上げます。到達目標（３）に該当。

### 第9回 教育実習での経験から学ぼう（３）

教育実習のなかで経験した内容を発表し、相互に意見交換、グループワーク、ディスカッションを行います。主に学級経営にかかわる問題を取り上げます。到達目標（４）に該当。

### 第10回 実習での経験を踏まえ授業づくりを深めよう（１）

教育実習における授業実践やそのほかの事例を参照し、相互に意見交換や模擬授業、グループディスカッション等をまじえつつ授業を進めてゆきます。この回ではもっぱら英語の授業を扱います。生徒の反応を生かし、学習の定着状況に応じて適切な授業を展開できるよう、授業作りの力を自律的に育てゆくためには、何が必要か考えてみましょう。到達目標（５）に該当。

### 第11回 実習での経験を踏まえ授業づくりを深めよう（２）

教育実習における授業実践やそのほかの事例を参照し、相互に意見交換や模擬授業、グループディスカッション等をまじえつつ授業を進めてゆきます。この回ではもっぱら中学校国語の授業を扱います。生徒の反応を生かし、学習の定着状況に応じて適切な授業を展開できるよう、授業作りの力を自律的に育てゆくためには、何が必要か考えてみましょう。到達目標（５）に該当。

### 第12回 実習での経験を踏まえ授業づくりを深めよう（３）

教育実習における授業実践やそのほかの事例を参照し、相互に意見交換や模擬授業、グループディスカッション等をまじえつつ授業を進めてゆきます。この回ではもっぱら高校国語の授業を扱います。生徒の反応を生かし、学習の定着状況に応じて適切な授業を展開できるよう、授業作りの力を自律的に育てゆくためには、何が必要か考えてみましょう。到達目標（５）に該当。

### 第13回 学級経営案を作ってみよう（１）

学級経営案作成の意義や具体的方法について学びましょう。学習を通じて、学級担任の役割や実務、ほかの教職員との協力のあり方を修得します。到達目標（４）に該当。

### 第14回 学級経営案を作ってみよう（２）

教育実習での経験を基に、学級経営案を作成してみましょう。作業を通じて、学級担任の役割や実務、ほかの教職員との協力のあり方を修得します。到達目標（４）に該当。

### 第15回 まとめ

免許取得に向けた四年間の学修を各自振り返り、教員として自己の職責を果たしてゆくには、これからどのように学び続けてゆかなくてはならないか、目標やそれを実現するための手段について考察します。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

教職実践演習（中・高教諭）（資格）

山下 恭

-----  
< 授業の方法 >

○「演習」形式です。（対面授業で実施）

○教育実習報告会を中心に行います

教育実習校での教育実習の細かい報告

教育実習校での研究授業の再現

受講生全体からの評価が行われます

○神戸学院大学附属中高等学校への授業参観（コロナ禍により実現できない場合があります）

ICT活用の授業の参観

授業参観のレポート作成と発表

○外部講師を招いてICTを活用した授業について講義が

あります。

講義への積極的参加

講義の中での課題への積極的対応

授業の感想を提出

○複数の課題レポートが課せられます。

#### < 授業の目的 >

本講座は教職課程の総括をする講座としての性格が強い。教育実習を終えて教師の途を確固たるものにした受講生を対象にするものである。その意味で教育実習を振り返り、各自の課題を明らかにし、さらにその克服のための専門性の向上を目的とするものである。具体的には教壇に立った時に要求される教師の表現能力（説明力・板書力など）の向上を図るものである。またICT活用の授業について研究し授業案を作成し授業を実践できるなど対応できる能力を育成する。担当講師は中学校に8年間、高等学校に33年間の勤務経験があり、かつ大学の教職教育に12年間携わった実務経験のある教員です。

#### < 到達目標 >

教育実習報告会を通じて、これまでの教職課程の総まとめができる。将来教員として教壇立った時に自分のスタイルを持つことができる。ICTを活用した授業に関心を持ち、学習指導案を作成し、授業を実践できる。教育問題に関心を持ち、教員の立場として考えることができる。

#### < 授業のキーワード >

教育実習体験報告 実習校での研究授業の再現 ICT活用授業 授業見学会 グループ討議

#### < 授業の進め方 >

○教育実習を振り返り、自身の体験を報告する。用語の説明・板書技術の向上を図り、各自の授業スタイルを構築する。教育実習で行った同じテーマで模擬授業を行い合評を実施する。

○神戸学院大学附属高等学校でICT授業実践を見学する予定です。見学が困難な場合には、外部講師を招いてICT活用の講義を行っていただく予定です。

#### < 履修するにあたって >

教育実習時の自分を振り返る。実習中の資料は保管しておく。反省点問題点を整理しておく 講義中の入退室は認めません 20分以上の遅刻者には出席カードは配りません。授業に臨むに当たり携帯・スマホの電源はOFFにしてください。10回以上の出席がなければ評価の対象になりません。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

教育実習で見つかった自身の課題を振り返り克服する方法を考える。実習先で行った研究授業を基礎にさらに授業技術の向上を図るために用語説明力をつける。そのために訓練をおこなうことが必要である。実習先で行った研究授業を再度行うための準備が3時間必要となる。課

題レポートの作成には数時間必要となる。またICTを活用した授業について、学習指導案を作成するのに数時間、また教材研究に数時間かかる。

#### < 提出課題など >

教育実習体験レポート 模擬授業体験レポート 学習指導案 授業見学会レポート  
授業で課したレポート

#### < 成績評価方法・基準 >

定期考査は実施しない。

複数の課題レポートを課します。その内容を評価します。

教育実習体験報告会の発表内容

- ・実習校での実習内容の詳細な報告
- ・実習校での研究授業の再現、研究授業での諸資料（学習指導案など）

- ・受講生からの評価

神戸学院附属中高等学校への授業参観

- ・積極的な参加

- ・授業参観の感想・発表

外部講師による授業

- ・積極的な参加

- ・授業を受けての感想

毎回配布する出席カードに記入する授業への感想・意見・質問などの内容

#### < テキスト >

講師がプリントなどの資料を用意します。

#### < 参考図書 >

授業中に随時紹介します。

#### < 授業計画 >

第1回 ガイダンス 開講にあたって

1．講座の概要 2．教育実習報告会 3．評価基準  
4．授業に当たり守って欲しい事

第2回 教育実習報告・研究授業の再現（1）教育実習を振り返って

1．教育実習の報告と質疑応答 2．研究授業の再現  
3．課題レポート「教育実習を終えて学んだこと」

第3回 教育実習報告・研究授業の再現（2）教育実習を振り返って

1．教育実習の報告と質疑応答 2．研究授業の再現  
3．課題レポート「教育実習を終えて学んだこと」

第4回 教育実習報告・研究授業の再現（3）教育実習を振り返って

1．教育実習の報告と質疑応答 2．研究授業の再現  
3．課題レポート「教育実習を終えて学んだこと」

第5回 教育実習報告・研究授業の再現（4）教育実習を振り返って

1．教育実習の報告と質疑応答 2．研究授業の再現  
3．課題レポート「教育実習を終えて学んだこと」

第6回 教育実習報告・研究授業の再現（5）教育実習を振り返って

1. 教育実習の報告と質疑応答 2. 研究授業の再現  
 3. 課題レポート「教育実習を終えて学んだこと」  
 第7回 教育実習報告・研究授業の再現(6) 教育実習を振り返って  
 1. 教育実習の報告と質疑応答 2. 研究授業の再現  
 3. 課題レポート「教育実習を終えて学んだこと」  
 第8回 教育実習報告・研究授業の再現(7) 教育実習を振り返って  
 1. 教育実習の報告と質疑応答 2. 研究授業の再現  
 3. 課題レポート「教育実習を終えて学んだこと」  
 第9回 教育実習報告・研究授業の再現(8) 教育実習を振り返って

1. 教育実習の報告と質疑応答 2. 研究授業の再現  
 3. 課題レポート「教育実習を終えて学んだこと」  
 第10回 教育現場への見学(1)  
 付属中学校・高等学校の訪問。実際の授業を見学する。コロナ禍で見学が難しい場合には、附属中高等学校の教師を外務講師として招きICT活用の講義を行っていただく予定です。

- 第11回 教育現場への見学(2)  
 付属中学校・高等学校の授業見学について発表。コロナ禍で見学が難しい場合には、附属中高等学校の教師を外務講師として招きICT活用の講義を行っていただく予定です。

- 第12回 ICT活用模擬授業(1)  
 ICT活用の模擬授業(ICTを取り入れた学習指導案の作成と30分模擬授業)

- 第13回 ICT活用模擬授業(2)  
 ICT活用の模擬授業(ICTを取り入れた学習指導案の作成と30分模擬授業)

- 第14回 ICT活用模擬授業(3)  
 ICT活用の模擬授業(ICTを取り入れた学習指導案の作成と30分模擬授業)

- 第15回 ICT活用模擬授業(4)  
 ICT活用の模擬授業(ICTを取り入れた学習指導案の作成と30分模擬授業)

-----  
 2022年度 後期

2.0単位

教職実践演習(中・高教諭)(資格)【GC】

深田 将揮  
 -----

<授業の方法>

演習(対面授業及び遠隔授業の併用)

<授業の目的>

・この科目は教職課程におけるグローバル・コミュニケーション学部英語コース教職に関する科目(英語)に属し、学部のDPに示す「教育現場で有効な、英語に関する体系的で専門的な知識と指導法を習得することができる

」ことを目的とする。

・本演習は教職課程における「学びの軌跡の集大成」として位置づけられ、本学の教員養成の理念や到達目標に照らして、受講生の資質・能力を最終的に確認するために開設されたものである。

〔教員の実務経験〕

様々な英語教育現場を経験した教員がそれぞれの経験を活かし、日本の英語教育現場の知識を示し、英語の授業を行うにあたって必要とされる実践方法を学生に教示している。

<到達目標>

自らの教育実践力を客観的かつ具体的に評価し、改善するためのセルフマネジメント力を身に付ける。その上で、学習指導力、生徒理解と学級経営力、社会性や対人関係能力、教員としての使命感や責任感などの資質や能力について、不足するものを補完するとともに、教育実践力の統合と深化をはかる。

<授業のキーワード>

教科教育法、英語科教育、中学校外国語科、高等学校外国語科

<授業の進め方>

大学4年間の各授業科目で学んだ理論と、教育実習等で得られた実践的指導力について、履修カルテを活用して振り返り、その理解度を把握する。その上で、各自の課題を克服するための活動に取り組む。また、多様な教育現場を経験した教職経験者により授業を実施するとともに、現職教員による講義を取り入れることで、教育現場における今日的課題に気付き、その解決のための方法について討議する。さらに、ロールプレイングやグループワークなどを行い、学習した内容について、学習知から実践知への移行を図る。また、実践的な学習指導力の向上に向けて、模擬授業の企画や実施後の討議を通して、より具体的な授業実践の方法について学ぶ。

<履修するにあたって>

教員を目指す学生が受講対象のため、講義の遅刻・欠席は、厳しく対処する。

教職を目指すために必要な様々な事柄について一緒に考えます。実践的な内容が多いため、今までの学び、教育実習での経験、事前のリサーチなどが必要になります。

<授業時間外に必要な学修>

自分の考えや意見を現職教員や他の学生と交流することで4年間の学びを実践的に発展させるためには、授業までに自分自身の考え方の整理や必要な情報の収集が必要です。授業に主体的に臨めるよう、しっかりとした準備をしておくようにしなさい。事前リサーチ、準備などに約90分程度が必要です。

<提出課題など>

教職履修カルテ、プレゼンテーション課題等

<成績評価方法・基準>

授業時の発表内容や、作成した授業案の内容70%。授業

中の質疑・発表30%。

<テキスト>

講義内で提供する。

<参考図書>

講義内で紹介する。

<授業計画>

第1回 振り返り

履修カルテによる振り返りと、自己課題の発見。(グループワーク)

第2回 生徒指導(1)

集団に対する場面での生徒指導における教員としての対応

第3回 生徒指導(2)

個別に対応する場面での生徒指導における教員としての対応

第4回 生徒指導(3)

生徒指導に関する事例研究とロールプレイング

第5回 現場との交流(1)

学校現場の現状と取り組みを学ぶ(学校教員を交えた意見交流)

第6回 課題の検討(1)

ワークショップによる今日的教育課題の認識

第7回 課題の検討(2)

集団討議による今日的教育課題の解決法の模索

第8回 現場との交流(2)

生徒や保護者に信頼される教師像(教育委員会指導主事による講義)

第9回 学級経営

自分が目指す学級経営(意見発表)

第10回 具体的実践

生徒の学びをつくる発問と板書の具体的実践(学校教員による実践発表及び演習)

第11回 授業設計と模擬授業(1)

授業研究テーマの設定

第12回 授業設計と模擬授業(2)

授業構想についての研究討議

第13回 授業設計と模擬授業(3)

授業展開の発表

第14回 授業設計と模擬授業(4)

模擬授業

第15回 プレゼンテーション

大学4年間の成長や変容と10年後の在りたい自分

-----  
2022年度 前期

2.0単位

教職入門(資格)【人文学部】

立田 慶裕

-----  
<授業の方法>

1回目は、対面講義で行う。

2回目以降は、オンデマンド講義とする。

録画は、one drive上にアップします。

ManabaにみなさんのIDとパスワードを用いて入ります。

Manabaの画面には、大学外部からアクセスするときは

<https://teacher.human.kobegakuin.ac.jp>

(スマホの場合も同様のアドレスです)のアドレスを用います。

大学内では、学内情報サービス画面で、

「学内システム」の最下部にアクセスコマンドが用意されています。

IDは、みなさんの学籍番号です。

<授業の目的>

本講義を通じて、急激な社会の変化の中で生じている学校教育現場の課題をふまえながら、これからの社会に求められる教員の役割と職務についての認識を持つようにし、教育課題への問題意識の向上を図る。特に、本学のディプロマポリシーの内容に即して、教員としての専門性と公共的役割を考え、教員となるために必要な基本的資質や能力、態度の習得を目指す。そのために、講義を通じて、ICT等の道具を活用する能力や、協働で問題を解決する人間関係力を高め、自主的自律的に学習に取り組む力を毎回の講義で習慣として育てる。その過程で受講生自身により、教員としての適性についての考察を促す。この目的達成のため、本学DPの専門的知識・技能を身につけ、思考力・判断力・表現力と共に、主体的に深い学びを行うことを目指す。国立教育政策研究所にての20年以上の教育研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

<到達目標>

(1)自己の教育体験を相対化するレポートの作成や、グループ討論を通じて、各自の授業や学校生活の経験から、教師の役割についての理解を深めることができる。

(2)教員の専門性と公共性を理解し、教員の仕事の目的が、児童・生徒の人格の向上や完成にあることを理解できる。

(3)教員養成制度や資質向上のための研修制度について学び認識すると共に、自らの教員適性やキャリア選択について判断できる。

(4)児童・生徒の発達に応じて、どのような教育内容や方法が必要かを認識し、そのための教科指導や学級運営、生活指導の方法を習得できる。

(5)学校組織や地域社会の一員としての教員についての認識を深め、具体的な役割について考えることで、教員の社会的な役割を知ることができる。

<授業のキーワード>

教師の役割、教職の基本的知識、教師の資質、学校の課題



## < 授業の進め方 >

本教職課程の講義では、  
第1回は、対面講義で行う。

第2回の講義から、eLearning システムのmanaba を用いて、教材コンテンツの提供を行う。  
オンデマンドのデータは、下記の遠隔授業を参照

manabaの利用は、学内情報システムの画面上のタブ「学内システム」をクリックし、その下部にある「manaba」をクリックして、ユーザー画面でIDとパスワードを入力して利用する。IDとパスワードは、別途、受講者に連絡する。

できるだけ、講義時間内での参加を推奨し、アクセスを行ってほしい。

大学外でスマホなどを利用する場合は、<https://teacher.human.kobegakuin.ac.jp> よりアクセスできる。

manaba上のコンテンツ画面で、PDF教材を提供するとともに、毎回のレポート課題を指定する。  
授業は、講義を基本とするが、講義内では、多様な学習法を同時に学べるようにするとともに、動画を適宜用いる。

## < 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、参考書や資料を1時間程度読んでくるなど学習の仕方を授業中に指示する。事後学習として、資料や参考文献を読んでレポートを2時間程度でまとめるなど、詳細は、授業中に指示する。

## < 提出課題など >

オンライン上のアンケート回答。レポート提出等。

## < 成績評価方法・基準 >

個人レポートの提出（1回）を求め、形成的な評価を行う一方、最後の小テストを含めた総括的な評価を行う。レポートの提出は8割以上の成績、テストも8割以上を合格基準とする。できるだけ、講義内でのキーワードをきちんとノートにまとめてください。キーワードを中心に最終テストを行います。

## < 参考図書 >

立田慶裕『キー・コンピテンシーの実践ー学び続ける教師のために』明石書店、2014

立田慶裕・今西幸蔵編『学校教員の現代的課題』法律文化社、2010

## < 授業計画 >

### 第1回 ガイダンス

教員という職業について、これまでみなさんが持ってきたイメージを振り返る学習を行い、人として学ぶことと、教えることの意味を深く学ぶ。また、今日の重要な教育課題を説明する。

### 第2回 教職の意義

教職は、基本的に児童・生徒の人格の完成をめざして指

導することが目的であり、教師の職務内容やその役割について知ると共に、教育公務員として法を遵守し、研修を通じて、教員自身が人間としての成長を図っていくことの重要性を学ぶ。

### 第3回 公務員としての教員

小学校から、高校までの学校教員は、公務員として雇用される。その任用制度や教員免許制度について、詳しく学ぶ。公務員としての教員が守るべき規則や考え方を知る。教員志望学生へのアンケートの実施により、学習志望教科を尋ねる。

### 第4回 教員の専門的な資質と能力

教員養成制度や資質向上のための研修制度について学び、自らの教員適性やキャリア選択について深く考え、学んでいく。

### 第5回 教育の現場から

新たな教育の取り組みや先端的な教育の事例を知ることによって、教育の未来像について話し合う。

### 第6回 学級の経営

子どもの自律的な発達に即して、どのように学級の運営を行っていくか、を学ぶ。

### 第7回 教育課程の編成

授業作りのための前提として、学校段階に応じて、どのような教育課程の編成が行われているかについての知識を習得するとともに、学習指導要領の変化の中で、カリキュラム・マネジメントのような手法をどう取り入れていくかを学ぶ。

### 第8回 学習指導と授業づくり

各教科に応じた指導案の作成を通じて、どのようにして授業を形作るか、また授業作りの経験から、教員が何を学んでいくかについて学ぶ。年間の指導計画、各授業の指導案、単元における指導案など、指導案のテンプレートを用いながら、基本的な授業計画の立て方を学ぶ。

### 第9回 多様な教育のスキル

教員は、生徒ひとりひとりの学習者としての特性を把握しながら、授業や学校生活の場を通じて指導する専門的スキルを持つことが求められる。教育の方法について、古典的な教育スキルから、現代のICTを活用したスキルまで、多様な教育方法について概観し、基礎的な教育スキルを学ぶ。

### 第10回 生徒の理解と生徒指導

教員は、生徒ひとりひとりとの対話を通じて、生徒の個別的な発達に応じた指導を展開していくことが求められる。その指導は、教科や授業の指導だけではなく、生徒の家庭や学校での行動や発言の日常的な観察を素にして、注意深く行っていく必要がある。そのような生徒の理解と生活指導の知識とスキルを学ぶ。

### 第11回 学校の校務分掌と運営

教員は、学級運営や授業作りだけではなく、その他にも



学校組織の一員として多様な校務を分掌している。その校務の内容や仕事について学ぶとともに、同僚との関係をどのようにして作っていくかを考える。また、学校の管理や運営は、専ら校長や教頭の管理職の仕事というだけでなく、チーム学校という視点に立てば、教員自体や多くの学校行事や学校の運営、危機管理を学び、参加していくことが求められつつある。学校組織の一員として、学習する組織としての学校について学ぶ。

#### 第12回 地域社会との協働

20世紀後半の生涯学習政策以降、学校と地域社会との連携の重要性が増しつつある。特に、地域の教育力や家庭の教育力が減退する中で、学校は、単なる保護者対応という視点ではなく、積極的に地域との協働を進めることが求められつつある。コミュニティスクールやサービスラーニング、調べる学習等の事例を通じて、教員がいかに学校と地域社会との協働を図っていくかについて学ぶ。

#### 第13回 教員としての人生と未来

本講義を通じて、教職についての知識と理解を深め、いくつかの指導の方法を学ぶことから、受講者自身が教員としての適性をどの程度有しているか、自己診断として教師力チェックを行う。

教職を選択し、教員採用試験に合格して教員として採用された場合、その教員は、一定の地域社会の中で学校という社会の中で人生を送るような時代から、現代は、教員が積極的に地域社会と関わることが求められつつある。学校での仕事を行いながら、教育委員会や地域社会での活動への参加を通じて、教員として生きていく場合、どのような未来があるか、プロジェクト学習を通じて、自分なりの教員としての人生像を設計する。

最後に、教職に係る基本的な知識についてのテストを行い、自己採点によって、教員採用試験に応じた知識の理解を深める。

#### 第14回 参考文献の紹介

講義で用いた参考文献を紹介する。

#### 第15回 Q & A

講義についての疑問に回答する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

教職入門（資格）【人文学部以外】

立田 慶裕

-----  
< 授業の方法 >

1回目は、対面講義で行う。

2回目以降は、オンデマンド講義とする。

講義の録画は、one drive上にアップします。

ManabaにみなさんのIDとパスワードを用いて入ります。

Manabaの画面には、大学外部からアクセスするときは

<https://teacher.human.kobegakuin.ac.jp>

（スマホの場合も同様のアドレスです）のアドレスを  
用います。

大学内では、学内情報サービス画面で、

「学内システム」の最下部にアクセスコマンドが用意されて  
います。

IDは、みなさんの学籍番号です。

何か、質問がある場合は、

[damie@human.kobegakuin.ac.jp](mailto:damie@human.kobegakuin.ac.jp) へ遠慮なくどうぞ。

< 授業の目的 >

本講義を通じて、急激な社会の変化の中で生じている学校教育現場の課題をふまえながら、これからの社会に求められる教員の役割と職務についての認識を持つようにし、教育課題への問題意識の向上を図る。特に、本学のディプロマポリシーの内容に即して、教員としての専門性と公共的役割を考え、教員となるために必要な基本的資質や能力、態度の習得を目指す。そのために、講義を通じて、ICT等の道具を活用する能力や、協働で問題を解決する人間関係力を高め、自主的自律的に学習に取り組む力を毎回の講義で習慣として育てる。その過程で受講生自身により、教員としての適性についての考察を促す。この目的達成のため、本学DPの専門的知識・技能を身につけ、思考力・判断力・表現力と共に、主体的に深い学びを行うことを目指す。国立教育政策研究所にての20年以上の教育研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

< 到達目標 >

(1)自己の教育体験を相対化するレポートの作成や、グループ討論を通じて、各自の授業や学校生活の経験から、教師の役割についての理解を深めることができる。

(2)教員の専門性と公共性を理解し、教員の仕事の目的が、児童・生徒の人格の向上や完成にあることを理解できる。

(3)教員養成制度や資質向上のための研修制度について学び認識すると共に、自らの教員適性やキャリア選択について判断できる。

(4)児童・生徒の発達に応じて、どのような教育内容や方法が必要かを認識し、そのための教科指導や学級運営、生活指導の方法を習得できる。

(5)学校組織や地域社会の一員としての教員についての認識を深め、具体的な役割について考えることで、教員の社会的な役割を知ることができる。

< 授業のキーワード >

教師の役割、教職の基本的知識、教師の資質、学校の課題

< 授業の進め方 >

本教職課程の講義では、

第1回は、対面講義で行う。

第2回の講義から、eLearning システムのmanaba を用いて、教材コンテンツの提供を行う。  
オンデマンドのデータは、下記の遠隔授業を参照

manabaの利用は、学内情報システムの画面上のタブ「学内システム」をクリックし、その下部にある「manaba」をクリックして、ユーザー画面でIDとパスワードを入力して利用する。IDとパスワードは、別途、受講者に連絡する。

できるだけ、講義時間内での参加を推奨し、アクセスを行ってほしい。

大学外でスマホなどを利用する場合は、<https://teacher.human.kobegakuin.ac.jp> よりアクセスできる。

manaba上のコンテンツ画面で、PDF教材を提供するとともに、毎回のレポート課題を指定する。

授業は、講義を基本とするが、講義内では、多様な学習法を同時に学べるようにするとともに、動画を適宜用いる。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習として、参考書や資料を1時間程度読んでくるなど学習の仕方を授業中に指示する。事後学習として、資料や参考文献を読んでレポートを2時間程度でまとめるなど、詳細は、授業中に指示する。

< 提出課題など >

オンライン上のアンケート回答。レポート提出等。

< 成績評価方法・基準 >

個人レポートの提出（1回）を求め、形成的な評価を行う一方、最後の小テストを含めた総括的な評価を行う。レポートの提出は8割以上の成績、テストも8割以上を合格基準とする。できるだけ、講義内でのキーワードをきちんとノートにまとめてください。キーワードを中心に最終テストを行います。

< 参考図書 >

立田慶裕『キー・コンピテンシーの実践—学び続ける教師のために』明石書店、2014

立田慶裕・今西幸蔵編『学校教員の現代的課題』法律文化社、2010

< 授業計画 >

### 第1回 ガイダンス

教員という職業について、これまでみなさんが持ってきたイメージをふり返る学習を行い、人として学ぶことと、教えることの意味を深く学ぶ。また、今日の重要な教育課題を説明する。

### 第2回 教職の意義

教職は、基本的に児童・生徒の人格の完成をめざして指導することが目的であり、教師の職務内容やその役割について知ると共に、教育公務員として法を遵守し、研修を通じて、教員自身が人間としての成長を図っていくことの重要性を学ぶ。

### 第3回 公務員としての教員

小学校から、高校までの学校教員は、公務員として雇用される。その任用制度や教員免許制度について、詳しく学ぶ。公務員としての教員が守るべき規則や考え方を知る。教員志望学生へのアンケートの実施により、学習志望教科を尋ねる。

### 第4回 教員の専門的な資質と能力

教員養成制度や資質向上のための研修制度について学び、自らの教員適性やキャリア選択について深く考え、学んでいく。

### 第5回 教育の現場から

新たな教育の取り組みや先端的な教育の事例を知ることによって、教育の未来像について話し合う。

### 第6回 学級の経営

子どもの自律的な発達に即して、どのように学級の運営を行っていくか、を学ぶ。

### 第7回 教育課程の編成

授業作りのための前提として、学校段階に応じて、どのような教育課程の編成が行われているかについての知識を習得するとともに、学習指導要領の変化の中で、カリキュラム・マネジメントのような手法をどう取り入れていくかを学ぶ。

### 第8回 学習指導と授業づくり

各教科に応じた指導案の作成を通じて、どのようにして授業を形作るか、また授業作りの経験から、教員が何を学んでいくかについて学ぶ。年間の指導計画、各授業の指導案、単元における指導案など、指導案のテンプレートをを用いながら、基本的な授業計画の立て方を学ぶ。

### 第9回 多様な教育のスキル

教員は、生徒ひとりひとりの学習者としての特性を把握しながら、授業や学校生活の場を通じて指導する専門的スキルを持つことが求められる。教育の方法について、古典的な教育スキルから、現代のICTを活用したスキルまで、多様な教育方法について概観し、基礎的な教育スキルを学ぶ。

### 第10回 生徒の理解と生徒指導

教員は、生徒ひとりひとりとの対話を通じて、生徒の個別的な発達に応じた指導を展開していくことが求められる。その指導は、教科や授業の指導だけではなく、生徒の家庭や学校での行動や発言の日常的な観察を素にして、注意深く行っていく必要がある。そのような生徒の理解と生活指導の知識とスキルを学ぶ。

### 第11回 学校の校務分掌と運営

教員は、学級運営や授業作りだけではなく、その他にも学校組織の一員として多様な校務を分掌している。その校務の内容や仕事について学ぶとともに、同僚との関係をどのようにして作っていくかを考える。また、学校の管理や運営は、専ら校長や教頭の管理職の仕事というだ

けではなく、チーム学校という視点に立てば、教員自体や多くの学校行事や学校の運営、危機管理を学び、参加していくことが求められつつある。学校組織の一員として、学習する組織としての学校について学ぶ。

#### 第12回 地域社会との協働

20世紀後半の生涯学習政策以降、学校と地域社会との連携の重要性が増しつつある。特に、地域の教育力や家庭の教育力が減退する中で、学校は、単なる保護者対応という視点ではなく、積極的に地域との協働を進めることが求められつつある。コミュニティスクールやサービ斯拉ーニング、調べる学習等の事例を通じて、教員がいかに学校と地域社会との協働を図っていくかについて学ぶ。

#### 第13回 教員としての人生と未来

本講義を通じて、教職についての知識と理解を深め、いくつかの指導の方法を学ぶことから、受講者自身が教員としての適性をどの程度有しているか、自己診断として教師力チェックを行う。

教職を選択し、教員採用試験に合格して教員として採用された場合、その教員は、一定の地域社会の中で学校という社会の中で人生を送るような時代から、現代は、教員が積極的に地域社会と関わることが求められつつある。学校での仕事を行いながら、教育委員会や地域社会での活動への参加を通じて、教員として生きていく場合、どのような未来があるか、プロジェクト学習を通じて、自分なりの教員としての人生像を設計する。

最後に、教職に係る基本的な知識についてのテストを行い、自己採点によって、教員採用試験に応じた知識の理解を深める。

#### 第14回 参考文献の紹介

講義で用いた参考文献を紹介する。

#### 第15回 Q & A

講義についての疑問に回答する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

教職入門（資格）

藤田 敏和

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

学校教育の現状と課題を踏まえ、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等を追究する。また、これによって受講者が教員としての適性を有するか否かの自己判断を行う助けとする。科目の性格上、受講者が全学DP 所載の1～5の能力を学修することに資することを目指す。

なお、この授業の担当者は、高等学校の教諭として41年間勤めた実務経験のある教員であるので、授業内容は実践を踏まえたものとなる。

< 到達目標 >

1. 公教育の場としての学校の役割を把握することができる。
2. 教員としての心構えやあるべき姿を理解し、実践することができる。
3. 学校と保護者・地域住民との関係づくりにとりくむ心構えができる。
4. 教員の今日的課題にとりくむ心構えができる。

< 授業のキーワード >

教員 学校 教育行政 生徒指導 学習指導  
サービスと研修

< 授業の進め方 >

講義を中心に進める。適宜、課題レポートや小課題の提出を求める。

< 履修するにあたって >

この科目のノートを作成すること。

< 授業時間外に必要な学修 >

課題レポートや小課題の提出を求めるので、授業時間外に一定の学修が必要になる。シラバスとテキストを熟読することがその助けになる。以下に最低限の想定時間を示す。予復習に各回当たり最低2時間。課題レポートに1本当たり24時間として3本で72時間。指定図書や参考書、自分で探した書籍等、1冊を読むのに5時間かかるとして、たとえば6冊で30時間。

< 提出課題など >

課題レポートを3編程度と、各回授業時に小課題の提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験は実施しない。課題レポート75%、授業関連25%（参加態度と小課題解答を総合的に評価）で評価する。

< テキスト >

今西幸蔵・古川治・矢野裕俊編著『教職に関する基礎知識(第3版)』八千代出版2021年2420円

< 参考図書 >

解説教育六法編修委員会編『解説 教育六法 2022 令和4年版』三省堂2022年2970円、古川治・五百住満・今西幸蔵編著『教師のための教育法規・教育行政入門』ミネルヴァ書房2018年2640円

< 授業計画 >

第1回 教員の任用、教員免許制度、大学教職課程  
教員任用の実際、教員免許制度、大学の教職課程について学ぶ。

第2回 教職と学校  
教職とは何か、教職の役割、近代学校制度と教職について学ぶ。

第3回 教職の歴史と教員養成制度  
教職の歴史、教員養成の歴史について学ぶ。

第4回 教員の専門性と能力  
日本における「教員の専門性」論議、2つの「教員の資質」論について学ぶ。

## 第5回 日本の学校制度と学校の設置者

日本の学校制度の歴史、学校の設置者、学校教育の現状について学ぶ。

## 第6回 学校組織と学校経営

学校組織の分類、校務分掌の意義・手順・組織、学校管理と学校経営について学ぶ。

## 第7回 教員生活と服務・研修

教員の生活と勤務、教員と服務、教員と研修について学ぶ。

## 第8回 教育内容と教育方法

学校の教育活動の内容、教育方法の改善と学習指導の工夫について学ぶ。

## 第9回 学習指導要領と教育課程の編成

教育課程の定義、教育課程編成のしくみ、学習指導要領について学ぶ。

## 第10回 授業運営と教材研究

授業の運営と教材研究について学ぶ。

## 第11回 生徒指導、体罰、人権教育

生徒指導のあり方、体罰、学校における人権教育について学ぶ。

## 第12回 特別活動と総合的な学習・探究の時間

特別活動と「その指導、総合的な学習・探究の時間とその指導について学ぶ。

## 第13回 学校保健と健康管理

学校における保健活動、児童・生徒の健康の管理について学ぶ。

## 第14回 学校安全、災害安全、危機管理

学校安全と安全教育、災害安全と防災教育、学校の危機管理について学ぶ。

## 第15回 生涯学習社会の学校教育

生涯学習の意義、学校教育との関係について学ぶ。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

現代文講読（資格）

白方 佳果  
-----

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

本授業は人文学部専門教育科目と、教職課程の「教科に関する科目」（国語）を兼ねます。人文学部のディプロマ・ポリシーに掲げられた「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」、「相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見を口頭や文章で的確に表現することができる」、「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」ことを目指しています。

本授業では、近代以降の日本文学作品を的確に読み解き、

自らの理解・解釈を適切に表現する能力を向上させることを目標とします。おもに短編・中編小説を扱い、小説を精読する方法や、「語り」「典拠・翻案」という視点をふまえて作品を読むことができるようになることを目標とします。

< 到達目標 >

(1) 文学に対する関心を高める。

(2) 文学に関する基礎的な知識を身に付け、それを説明できる。

(3) 文学研究・鑑賞の一般的な手法を理解し、応用できる。

(4) 文学作品を的確に理解し、そこから得た自分なりの問題意識や考え、感想などを適切に表現することができる。

< 授業のキーワード >

文学 読解 日本文学

< 授業の進め方 >

講義を基本としますが、参加者に発言を求める場合があります。積極的な授業参加を期待します。

< 履修するにあたって >

・講義形式で授業を進めますが、受講者の授業参加・発言を求める場合があります。

・文学作品を中心に扱います。文学作品を読むことや感想を述べること、グループワークに抵抗がある人の受講はおすすめしません。

・予習状況・理解度などを確認するミニツツペーパー・ワークシートの提出を求める場合があります。きちんと予習したうえで授業に参加して下さい。

・授業の性質上、受講者数や受講者の理解度等により、授業の進め方や授業計画（進度、内容等）は予定から変更される場合があります。

< 授業時間外に必要な学修 >

各回120分程度の事前・事後学習が必要です。事前学習として、事前に配付した資料や授業で取り上げる作品を読み込み、自分なりの考えを用意したうえで授業に臨んでください。事後学習として、授業内容を再確認してください。また課題にきちんと取り組み、期限までに提出して下さい。

< 提出課題など >

毎回ミニツツペーパーを提出してもらいます。また授業の予習状況や理解度を問うワークシートを数回課します。レポートと、それに基づいたグループワークを課します。

< 成績評価方法・基準 >

ミニツツペーパー / 授業についてのコメント・ワークシート・小テスト等70%、期末レポート30%で総合的に評価します。

1) ミニツツペーパー / 授業についてのコメント、ワークシート・小テスト等の評価基準は「到達目標」を達成できているか、適切に予習を行うなど、授業に対し

て真摯に取り組む姿勢を見せているか、の2点です。

2) レポートの評価基準は授業に対して真摯に取り組む姿勢を見せているか、「到達目標」です。

<テキスト>

プリントを配布、もしくはファイルをweb上に掲示します。図書館での閲覧、またはインターネット上のテキストの閲覧を指示する場合があります。

<参考図書>

授業中に指示します

<授業計画>

第1回 ガイダンス

授業のねらいや、受講上の注意について説明します。

第2回 『坊っちゃん』

夏目漱石『坊っちゃん』を例に、「語り」について考えます。

第3回 『地獄変』1

芥川龍之介『地獄変』について概説します。また本作を例に、「語り」について考えます。

第4回 『地獄変』2

引き続き、芥川龍之介『地獄変』を例に、「語り」について考えます。

第5回 『地獄変』3

引き続き、芥川龍之介『地獄変』を例に、「語り」について考えます。

第6回 『地獄変』4

『地獄変』の「語り」についてまとめます。また、谷崎潤一郎について概説を行います。

第7回 『春琴抄』1

谷崎潤一郎『春琴抄』の映像を鑑賞します。

第8回 『春琴抄』2

谷崎潤一郎『春琴抄』を、「語り」に注目して読み解きます。

第9回 『春琴抄』3

前回到引き続き、『春琴抄』を「語り」に注目して読み解きます。

第10回 『お伽草紙』1

太宰治『お伽草紙』を精読します。

第11回 『お伽草紙』2

前回到引き続き、太宰治『お伽草紙』を精読します。

第12回 『お伽草紙』3

太宰治『お伽草紙』などを例に、文学作品の典拠や翻案について学びます。

第13回 『新釈 走れメロス』1

森見登美彦『新釈 走れメロス』を例に、文学作品の翻案について考えます。

第14回 『新釈 走れメロス』2

森見登美彦『新釈 走れメロス』を例に、文学作品の翻案について考えます。

第15回 グループワーク

レポートの内容に基づき、グループワークを実施します。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

国語科教育法 (資格)

小崎 麻由  
-----

<授業の方法>

対面授業(講義、演習、実習、実技)

<授業の目的>

本講座は教員免許取得に必要な資格授業科目であり、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領に示された国語科教育の目標を理解し、その内容を実践できる能力を身につける。また、国語の授業に関する基礎的な知識や技能を身につけることができる。学習材の研究・指導と評価の方法などについて事例から学ぶとともに、模擬授業やグループワークを積極的に行い、授業力の向上を目指す。これは、本学ディプロマ・ポリシーの「専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」学生の育成につながるものである。なお、この授業の担当者は、教育現場で20年以上の実務経験のある教員である。

<到達目標>

- 1) 学習指導要領に示された目標や内容及び全体構造を説明できる。
- 2) 各領域の学習内容について指導上の留意点を説明できる。
- 3) 各領域の学習評価の考え方を説明できる。
- 4) 各領域と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
- 5) 既存の形にとらわれず発展的な学習を試み、学習指導への位置づけを考察することができる。

<授業のキーワード>

・国語科の指導と実践      ・国語力の向上      ・授業研究  
・学習指導要領      ・学習指導案

<授業の進め方>

- 1) 学校現場の生徒の認識・思考・学力などの実態を視野に入れた授業設計を試みる。
- 2) 情報機器及び教材の効果的な活用法を視野に入れる。
- 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成を目指す。この時1つの単元を数人で担当し、アイデアを出しながら指導案の作成を行う予定である。
- 4) 学生同士で互いに模擬授業を受けることで、問題点や参考点を発見し、自身の模擬授業の反省や改善につなげていく。
- 5) 実践研究の動向を広く探り、自身の授業設計の向上を図る。

<履修するにあたって>

- 1) 将来国語科教育に携わるという気持ちを強く持つ学生を期待する。

2) 遅刻・欠席・早退をしない。特に自分が模擬授業をする回を欠席した場合は単位の履修を認めない。

3) 中学校・高等学校の教科書を熟読して教材研究に努め、指導案を磨く。指導案を提出しない場合は単位の履修を認めない。

4) 中学校・高等学校の副教材(辞書・国語便覧・文法書・古文単語集など)を用意しておく。

5) 今年のセンター試験の国語、教員採用試験問題を解いてみる。

6) 教職サポート室を積極的に利用し、見識を深める。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 国語の学力向上

2) 読書・新聞の購読

3) 模擬授業のための準備(目安として1回の模擬授業に対して5時間)

4) その他、授業内で示す課題の作成(目安として1つの課題に対して2時間)

< 提出課題など >

1) 模擬授業の学習指導案、板書計画、ワークシート

2) 模擬授業の相互評価表

3) 模擬授業ふり返りレポート

4) 課題として指示するレポート

< 成績評価方法・基準 >

模擬授業20%、学習指導案20%、レポート20%、授業中の発言・発表30%、相互評価表10%(定期考査は実施しない)特に模擬授業の実施、指導案提出は必須。できなかった者には単位は与えない。

< テキスト >

適宜プリント配布

< 参考図書 >

「中学校学習指導要領解説・国語編」東洋館出版社

「高等学校学習指導要領解説・国語編」東洋館出版社

その他、適宜紹介する

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス

1年間の講義の内容について説明する。相互に自己紹介する。

「なぜ国語科教員を目指すのか」というテーマで作文を書く。

第2回 国語科教育の目標・内容

学習指導要領をもとに国語科の目標や内容について解説する。

第3回 国語科の授業を創る

国語科の授業を成立させるための授業計画・学習材研究・学習者研究・発問や板書・授業展開・評価について解説する。

中学校、高等学校の国語科教材について紹介する。

第4回 「話すこと・聞くこと」

「話すこと・聞くこと」の指導内容と指導法・評価

実践授業の紹介をワークショップ形式で行う。

第5回 「書くこと」

「書くこと」の指導内容と指導法・評価

実践授業の紹介をワークショップ形式で行う。

第6回 「書くこと」

「書くこと」の指導内容と指導法・評価

実践授業の紹介をワークショップ形式で行う。

第7回 「読むこと」(韻文)

「読むこと」の指導内容と指導法・評価

実践授業の紹介をワークショップ形式で行う。

第8回 「読むこと」(韻文)

「読むこと」の指導内容と指導法・評価

実践授業の紹介をワークショップ形式で行う。

第9回 「読むこと」(古典)

「読むこと」の指導内容と指導法・評価

実践授業の紹介をワークショップ形式で行う。

第10回 「読むこと」(古典)

「読むこと」の指導内容と指導法・評価

実践授業の紹介をワークショップ形式で行う。

第11回 「読むこと」(散文)

「読むこと」の指導内容と指導法・評価

実践授業の紹介をワークショップ形式で行う。

第12回 「読むこと」(散文)

「読むこと」の指導内容と指導法・評価

実践授業の紹介をワークショップ形式で行う。

第13回 ICT活用授業

国語の授業におけるICTについて、体験を通してその活用を考える。

第14回 学習材研究

中学校・高等学校の教科書の学習材を各自一つ選び、それについて各自研究して発表する。その内容はレポートにまとめて提出する。

第15回 前期のまとめと、夏季休業中の課題について前期のまとめを行うとともに夏季休業中の課題について説明する。課題の詳細は授業中に説明する。

第16回 読書指導

中学・高校における読書指導について実践から学ぶ。学校司書教諭との連携や教科に生かす図書館教育について学ぶ。

第17回 レポートの発表・模擬授業準備

夏季休業中の課題を発表する。

模擬授業の準備として、板書の仕方、発問、指導方法などの留意事項について理解する。

第18回 模擬授業

学生による模擬授業。2~3人ずつ(以下、全体の受講人数により、増減あり)。他の学生は生徒役となり授業を受ける。質疑応答と指導教員からのアドバイス。また授業者も含め全員が相互評価表を作成し、提出。

第19回 模擬授業

学生による模擬授業

第20回 模擬授業  
学生による模擬授業  
第21回 模擬授業  
学生による模擬授業  
第22回 模擬授業  
学生による模擬授業  
第23回 模擬授業  
学生による模擬授業  
第24回 模擬授業  
学生による模擬授業  
第25回 模擬授業  
学生による模擬授業  
第26回 模擬授業  
学生による模擬授業  
第27回 模擬授業  
学生による模擬授業  
第28回 模擬授業  
学生による模擬授業

第29回 模擬授業のまとめ

模擬授業について全体的な振り返りを行う。課題や学んだこと、考えたことを話し合う。

第30回 講座のまとめ

1年間の総括を行う。教職を目指すうえで何をすべきかを考える。1年間の授業で学んだ内容から考察したことを作文にまとめる。模擬授業について全体的な振り返りを行う。課題や学んだこと、考えたことを話し合う。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

国語科教育法 (資格)

小寄 麻由

-----  
< 授業の方法 >

対面授業(講義、演習、実技)

< 授業の目的 >

本講座は教員免許取得に必要な資格授業科目であり、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領に示された国語科教育の目標を理解し、その内容を実践できる能力を身につける。また、国語の授業に関する基礎的な知識や技能を身につけることができる。学習材の研究・指導と評価の方法などについて事例から学ぶとともに、模擬授業やグループワークを積極的に行い、授業力の向上を目指す。これは、本学ディプロマ・ポリシーの「専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」学生の育成につながるものである。なお、この授業の担当者は、教育現場で20年以上の実務経験のある教員である。

< 到達目標 >

1) 学習指導要領に示された目標や内容及び全体構造を理解している。

2) 各領域の学習内容について指導上の留意点を説明できる。

3) 各領域の学習評価の考え方を説明できる。

4) 各領域と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

5) 既存の形にとらわれず発展的な学習を試み、学習指導への位置づけを考察することができる。

< 授業のキーワード >

・国語科の指導と実践 ・国語力の向上 ・授業研究  
・学習指導要領 ・学習指導案

< 授業の進め方 >

1) 学校現場の生徒の認識・思考・学力などの実態を視野に入れた授業設計を試みる。

2) 情報機器及び教材の効果的な活用法を視野に入れる。

3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学修指導案の作成を目指す。

4) 学生同士で互いに模擬授業を受けることで、問題点や参考点を発見し、自身の模擬授業の反省や改善につなげていく。

5) 実践研究の動向を広く探り、自身の授業設計の向上を図る。

< 履修するにあたって >

1) 将来国語科教育に携わるという気持ちを強く持つ学生を期待する。

2) 遅刻・欠席・早退をしない。特に自分が模擬授業をする回を欠席した場合は単位の履修を認めない。

3) 中学校・高等学校の教科書を熟読して教材研究に努め、指導案を磨く。指導案を提出しない場合は単位の履修を認めない。

4) 中学校・高等学校の副教材(辞書・国語便覧・文法書・古文単語集など)を用意しておく。

5) 今年のセンター試験の国語、教員採用試験問題を解いてみる。

6) 教職サポート室を積極的に利用し、見識を深める。

< 授業時間外に必要な学修 >

1) 国語の学力向上

2) 読書・新聞の購読

3) 模擬授業のための準備(目安として1回の模擬授業に対して5時間)

4) その他、授業内で示す課題の作成(目安として1つの課題に対して2時間)

< 提出課題など >

1) 模擬授業の学習指導案、板書計画、ワークシート

2) 模擬授業の相互評価表

3) 模擬授業振り返りレポート

4) 課題として指示するレポート

< 成績評価方法・基準 >

模擬授業20%、学習指導案20%、レポート20%、授業中の発言・発表30%、相互評価表10%(定期考査は実施しない)特に模擬授業の実施、指導案提出は必須。できな

かった者には単位は与えない。

<テキスト>

適宜プリントを配布

<参考図書>

「中学校学習指導要領解説・国語編」東洋館出版社

「高等学校学習指導要領解説・国語編」東洋館出版社

その他、適宜紹介する

<授業計画>

第1回 ガイダンス

1年間の講義の内容について説明する。相互に自己紹介する。

「中学校時代の国語の授業」というテーマで作文を書く。

第2回 中学校国語科の学習内容

中学校国語科の学習内容について解説する。

学校現場における諸問題について解説する。

模擬授業について準備を指示する。

第3回 模擬授業（韻文1）

学生による模擬授業。3人ずつ（以下、全体の受講人数により、増減あり）。他の学生からの質疑応答と指導教員からのアドバイス。また授業者も含め全員が相互評価表を作成し、提出する。授業におけるICTの活用についても適宜指導する。

第4回 模擬授業（韻文2）

学生による模擬授業

第5回 模擬授業（韻文3）

学生による模擬授業

第6回 模擬授業（韻文4）

学生による模擬授業

第7回 模擬授業（韻文5）

学生による模擬授業

第8回 模擬授業（韻文6）

学生による模擬授業

第9回 模擬授業（古典1）

学生による模擬授業

第10回 模擬授業（古典2）

学生による模擬授業

第11回 模擬授業（古典3）

学生による模擬授業

第12回 模擬授業（古典4）

学生による模擬授業

第13回 模擬授業（古典5）

学生による模擬授業

第14回 模擬授業（古典6）

学生による模擬授業

第15回 前期のまとめと、夏季休業中の課題について前期中に実施した模擬授業について全体的な反省をし、前期のまとめを行う。夏季休業中の課題について説明す

る。

第16回 課題提出と後期の模擬授業の説明

夏季休業中の課題提出。後期の模擬授業について説明と分担を行う。

第17回 書写指導

中学校における書写指導について体験的に学ぶ。

第18回 模擬授業（散文1）

学生による模擬授業

第19回 模擬授業（散文2）

学生による模擬授業

第20回 模擬授業（散文3）

学生による模擬授業

第21回 模擬授業（散文4）

学生による模擬授業

第22回 模擬授業（散文5）

学生による模擬授業

第23回 模擬授業（散文6）

学生による模擬授業

第24回 模擬授業（散文7）

学生による模擬授業

第25回 模擬授業（散文8）

学生による模擬授業

第26回 模擬授業（散文9）

学生による模擬授業

第27回 模擬授業（散文10）

学生による模擬授業

第28回 模擬授業のまとめ

模擬授業について全体的な反省を行う。問題点を上げ、解決方法を話し合う。

第29回 教育実習・採用試験について

教育実習と採用試験に向けて準備すべきことを説明する。

第30回 講座のまとめ

1年間の総括を行う。教職を目指すうえで何をすべきかを考える。1年間の授業で学んだ内容から考察したことを作文にまとめる。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

自然地理学（資格）

梅田 真樹

-----  
<授業の方法>

・受講生が興味をもった身近な地形の写真を撮影し、その写真を使って、地形の生い立ちを解説します。

・兵庫県の地形は日本の縮図です。担当教員が撮影した兵庫県の地形の写真を使って、日本の地形がどのようにしてできたのかを学びます。

・兵庫県の砂丘、周氷河地形、火山、断層などから、地球が経験した気候変化を解説します。海外のダイナミックな地形も紹介します。



・パワーポイントで様々な地形や自然の写真を紹介し解説するだけでなく、校庭などで実際に植生の観察もとりいれ、地形が気候や自然にどのような影響を与えているかを学びます。

質問はダミー@sch.otani.ac.jpまでお願いします。

非登校者は

[https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hm103219\\_human\\_kobegakuin\\_ac\\_jp/EoufT80tvM9KsdEeR-jSn6wBYVbvLhZfwPYdAxBmbTbrrg?e=2PJxPD](https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hm103219_human_kobegakuin_ac_jp/EoufT80tvM9KsdEeR-jSn6wBYVbvLhZfwPYdAxBmbTbrrg?e=2PJxPD)

に授業のパワーポイントのpdfファイルがあります。

参照してファイルを確認し、感想を書いて、mumeda@sch.otani.ac.jpに送信して下さい。

見ることができない、方法がわからないなど質問はmumeda@sch.otani.ac.jpまでお願いします。

< 授業の目的 >

この科目では、DPに掲げるうち、2. 専門分野に高い関心を持ち、課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている、3. 幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる、を目指している。

神戸にはアジアを代表する良港があり、世界の船乗りが愛した水がある。灘の酒や有馬温泉もある。これらはすべて神戸ならではの地形が生み出した自然の恵みである。一方、このような地形は、大きな地震を伴う地殻変動によってつくられた。まず、これらの身近な自然地理について学び、その対象を日本から世界へと広げていき、地球規模の大きな視点から地域を捉えることができるようにする。この授業を履修することで、地理学的な関心をもって自然景観に目を向け、その面白さを知ることができるようになる。地域学習の重要性が認識でき、授業に対応できる必要最低限の知識を身に付けることを目的とする。

< 到達目標 >

1 地形、地震、火山、気候についての基礎知識を持ち、説明できる。

2 身近な自然環境（六甲山など）の成り立ちと生い立ちについて、総合的に学び、興味を持って考えることができる。

3 地形を見て、その場所の自然史を語るようになる。

< 授業のキーワード >

自然環境 地形 断層 火山 氷河

< 授業の進め方 >

パワーポイントを用いた講義と観察を組み合わせで行う。高校で地理を選択していない学生にも配慮する。

< 履修するにあたって >

積極的に授業に参加し、課題に取り組んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

特定の教科書は指定しませんが、各自読みやすい自然地理学の本を探し、入手してください（ガイダンス時に紹介します）。

授業時にプリント教材をまとめて配布するので、予習の際に目を通し、用語について調べておいてください（60分程度）。学修は復習を中心にを行い、ノートをまとめてください。また、時間中に終えられなかった課題があれば完成させ、関連する書籍を読み、理解を深めてください（120分程度）。

< 提出課題など >

授業ごとに課題を課し、提出してもらいます。提出課題は点検し、返却します。

< 成績評価方法・基準 >

授業毎提出75%、期末レポート25%。

< テキスト >

使用しない。

< 参考図書 >

なし。

< 授業計画 >

ガイダンス

地球とはどんな星で、自然地理学とはどのような学問か。

身近な植生

校庭などの身近な植物を観察し、それらの植物がどの地域に起源をもち、どうしてそこに生えているのかについて解説する。

白亜紀の火成活動による地形：桶居山、中山連山  
恐竜が生きていた約1億年前、日本列島の地下では活発にマグマが活動し、地表ではたくさんの火山が噴火した。白亜紀の火成活動がつくった兵庫県地形について解説する。

兵庫県の火山地形：甲山、神鍋山

約1300年前に噴火した甲山、約2万5千年前に噴火した神鍋山など、兵庫県の火山の地形について紹介する。

兵庫の山地：六甲山地

六甲山がどのようにしてできたのかについて、芦屋のロックガーデン・須磨アルプスと蓬莱峡・白水峡の地形の違いからひもとく。

太古の海水が湧き出す温泉：有馬温泉、宝塚温泉、見つけた温泉

有馬温泉や宝塚温泉がなぜそこにあるのかについて学び、温泉が湧くしくみと湧く地形の条件を知る。教員が六甲山地の地形を見て、山を歩き、見つけた温泉を紹介する。プレートと火山がつくる温泉：城崎温泉、湯村温泉  
東日本大震災を引き起こした太平洋プレートは兵庫県北部の地下まで届き、火山性の温泉（城崎温泉や湯村温泉）をつくる。プレートの沈み込みがつくる火山性温泉と地形から、兵庫県の土台がどのようにしてできたのか解説する。

盆地はどのようにしてできたのか：三田盆地、篠山盆地、

## 大阪湾

三田盆地は太古の第二瀬戸内海の跡、篠山盆地は太古の湖の跡、大阪湾の将来は盆地？、などのエピソードを通して、盆地から大地の歴史をひもとく。

氷河期にできた地形：有馬富士、雄岡山、峰山高原  
数万年前、地球に氷河期が訪れた。兵庫県には、氷河期にできた数々の美しくなだらかな地形がある。兵庫県の地形から氷河期の謎を解く

台地はどのようにしてできたのか：播磨平野、上ヶ原台地

兵庫県には台地が多い。台地は大地の間欠的な隆起と気候変化による海の移動によってつくられた。台地に残された海の跡や縄文時代の亜熱帯の森の名残りを紹介する。平野はどのようにしてできたのか：三原平野、神戸の扇状地、中世都市尼崎

どのようにして河川が平野をつくったのかについて、兵庫県最大の扇状地のある三原平野（淡路島）、六甲山地がつくる扇状地と天井川、尼崎の海岸線の変化を通して探る。

地形がつくる水：布引の水、灘の宮水、揖保川  
なぜ六甲布引の飲料水は腐らないのか、なぜ西宮や住吉に湧く水は名酒になるのか、なぜ揖保川の水はしょうゆやそうめんを作るのに適しているのか。これらの水質をつくる地形の違いについて解説する。

海峡はどのようにしてできたのか：明石海峡、鳴門海峡  
海峡は大昔の河川の跡である。河川が海峡に変化する過程について、明石海峡や鳴門海峡を通して解説する。また、明石のタコが世界一美味しい理由、明石海峡大橋を通して本州と淡路島が少しずつ離れていることを紹介する。

海岸の地形はどのようにしてできたのか：但馬海岸、慶野松原、須磨海水浴場

リアス式の但馬海岸、慶野松原の砂丘、須磨海水浴場の砂浜のできたかを通して、波や風がどのようにして海岸の地形をつくるかについて解説する。

兵庫の地形は日本の縮図

前期のまとめとして、兵庫県の大地の歴史から、日本列島の歴史をひもとく。

## 秋の植物地理

身近な植物から、地球に何が起きているのかについて考える。

## 海の地形

海の体積の90%は深海で、海嶺や海溝など、海は起伏に富んだ地形をしています。そのしくみに迫ります。

## 地球温暖化の未来

約7千万年前、現在よりもはるかに深刻な地球温暖化が進んだ。そのような過去の温暖化と現在の温暖化を照らし合わせ、未来の地球の環境を予測する。

## 雲と気候

校庭で雲を観察し、雲の成因と名前を知り、地形が生み

出す雲と気候について考える。

## 秋の植生

校庭の植物を観察し、気候からみた植生を考える。

## 波はどうしておきるのか

風がつくる波と地震がつくる津波の違い、月の引力がつくる潮汐波、それらの波がつくる地形について解説する。

## 川はどうしてできるのか

川は陸上だけでなく、南極の氷の下にも、砂漠の地下にも、海底にも存在する。川はどこでできて、どこを流れ、どこへたどり着くのか、そして川の流れはどんな地形をつくるのかについて解説する。

## 砂漠の地形と気候

オーストラリアの砂漠を題材にして、なぜ砂漠ができるのか、なぜ砂漠にオアシスが湧くのかなどのエピソードを紹介しながら、砂漠の地形と気候について解説する。  
世界の氷河がつくる地形

ヨーロッパの氷河がつくる美しい地形について紹介する。

## 世界の火山と地形

イタリアやハワイ島などの火山の特徴と、火山がつくる地形について学ぶ。

## 地震はどうしておきるのか

地震についての知識を習得し、活断層や南海トラフ地震に対する思い込みと誤解を解く。

## 地球外惑星の地形

地形の研究成果は、地球外惑星の環境を知る手掛かりになる。火星や金星の地形から、それらの惑星が辿った歴史を探る。

## 地形の謎

興味のある世界の地形の成因について調べる。

## 地形の謎

興味のある世界の地形の成因についてまとめる。

## 後期分のまとめ

興味のある地形の成因について発表する。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

自然地理学（資格）

梅田 真樹

## <授業の方法>

- ・受講生が興味をもった身近な地形の写真を撮影し、その写真を使って、地形の生い立ちを解説します。
- ・兵庫県の地形は日本の縮図です。担当教員が撮影した兵庫県の地形の写真を使って、日本の地形がどのようにしてできたのかを学びます。
- ・兵庫県の砂丘、周氷河地形、火山、断層などから、地球が経験した気候変化を解説します。海外のダイナミックな地形も紹介します。
- ・パワーポイントで様々な地形や自然の写真を紹介し解

説するだけでなく、校庭などで実際に植生の観察もとりいれ、地形が気候や自然にどのような影響を与えているかを学びます。

質問はダミー@sch.otani.ac.jpまでお願いします。

非登校者は

[https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hm103219\\_human\\_kobegakuin\\_ac\\_jp/EoufT80tvM9KsdEeR-jSn6wBYVbvLhZfwPYdAxBmbTbrrg?e=2PJxPD](https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hm103219_human_kobegakuin_ac_jp/EoufT80tvM9KsdEeR-jSn6wBYVbvLhZfwPYdAxBmbTbrrg?e=2PJxPD)

に授業のパワーポイントのpdfファイルがあります。

参照してファイルを確認し、感想を書いて、mumeda@sch.otani.ac.jpに送信して下さい。

見ることができない、方法がわからないなど質問はmumeda@sch.otani.ac.jpまでお願いします。

< 授業の目的 >

この科目では、DPに掲げるうち、2. 専門分野に高い関心を持ち、課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている、3. 幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導くことができる、を目指している。

神戸にはアジアを代表する良港があり、世界の船乗りが愛した水がある。灘の酒や有馬温泉もある。これらはすべて神戸ならではの地形が生み出した自然の恵みである。一方、このような地形は、大きな地震を伴う地殻変動によってつくられた。まず、これらの身近な自然地理について学び、その対象を日本から世界へと広げていき、地球規模の大きな視点から地域を捉えることができるようにする。この授業を履修することで、地理学的な関心をもって自然景観に目を向け、その面白さを知ることができるようになる。地域学習の重要性が認識でき、様々な場面に対応できる必要最低限の知識を身に付けることを目的とする。

< 到達目標 >

1 地形、地震、火山、気候についての基礎知識を持ち、説明できる。

2 身近な自然環境（六甲山など）の成り立ちと生い立ちについて、総合的に学び、興味を持って考えることができる。

3 地形を見て、その場所の自然史を語るようになる。

< 授業のキーワード >

自然環境 地形 断層 火山 氷河

< 授業の進め方 >

パワーポイントを用いた講義と観察を組み合わせで行う。高校で地理を選択していない学生にも配慮する。

< 履修するにあたって >

積極的に授業に参加し、課題に取り組んでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

特定の教科書は指定しませんが、各自読みやすい自然地

理学の本を探し、入手してください（ガイダンス時に紹介します）。

授業時にプリント教材をまとめて配布するので、予習の際に目を通し、用語について調べておいてください（60分程度）。学修は復習を中心に行い、ノートをまとめてください。また、時間中に終わられなかった課題があれば完成させ、関連する書籍を読み、理解を深めてください（120分程度）。

< 提出課題など >

授業ごとに課題を課し、提出してもらいます、提出課題は点検し、返却します。

< 成績評価方法・基準 >

授業毎提出物75%、期末レポート25%。

< テキスト >

使用しない。

< 参考図書 >

なし。

< 授業計画 >

ガイダンス

地球とはどんな星で、自然地理学とはどのような学問か。

身近な植生

校庭などの身近な植物を観察し、それらの植物がどの地域に起源をもち、どうしてそこに生えているのかについて解説する。

白亜紀の火成活動による地形：桶居山、中山連山

恐竜が生きていた約1億年前、日本列島の地下では活発にマグマが活動し、地表ではたくさんの火山が噴火した。白亜紀の火成活動がつくった兵庫県の地形について解説する。

兵庫県の火山地形：甲山、神鍋山

約1300年前に噴火した甲山、約2万5千年前に噴火した神鍋山など、兵庫県の火山の地形について紹介する。

兵庫の山地：六甲山地

六甲山がどのようにしてできたのかについて、芦屋のロックガーデン・須磨アルプスと蓬莱峡・白水峡の地形の違いからひもとく。

太古の海水が湧き出す温泉：有馬温泉、宝塚温泉、見つけた温泉

有馬温泉や宝塚温泉がなぜそこにあるのかについて学び、温泉が湧くしくみと湧く地形の条件を知る。教員が六甲山地の地形を見て、山を歩き、見つけた温泉を紹介する。

プレートと火山がつくる温泉：城崎温泉、湯村温泉

東日本大震災を引き起こした太平洋プレートは兵庫県北部の地下まで届き、火山性の温泉（城崎温泉や湯村温泉）をつくる。プレートの沈み込みがつくる火山性温泉と地形から、兵庫県の土台がどのようにしてできたのか解説する。

盆地はどのようにしてできたのか：三田盆地、篠山盆地、大阪湾

三田盆地は太古の第二瀬戸内海の跡、篠山盆地は太古の湖の跡、大阪湾の将来は盆地？、などのエピソードを通して、盆地から大地の歴史をひもとく。

氷河期にできた地形：有馬富士、雄岡山、峰山高原  
数万年前、地球に氷河期が訪れた。兵庫県には、氷河期にできた数々の美しくなだらかな地形がある。兵庫県の地形から氷河期の謎を解く

台地はどのようにしてできたのか：播磨平野、上ヶ原台地

兵庫県には台地が多い。台地は大地の間欠的な隆起と気候変化による海の移動によってつくられた。台地に残された海の跡や縄文時代の亜熱帯の森の名残りを紹介する。平野はどのようにしてできたのか：三原平野、神戸の扇状地、中世都市尼崎

どのようにして河川が平野をつくったのかについて、兵庫県最大の扇状地のある三原平野（淡路島）、六甲山地がつくる扇状地と天井川、尼崎の海岸線の変化を通して探る。

地形がつくる水：布引の水、灘の宮水、揖保川  
なぜ六甲布引の飲料水は腐らないのか、なぜ西宮や住吉に湧く水は名酒になるのか、なぜ揖保川の水はしょうゆやそうめんを作るのに適しているのか。これらの水質をつくる地形の違いについて解説する。

海峡はどのようにしてできたのか：明石海峡、鳴門海峡  
海峡は大昔の河川の跡である。河川が海峡に変化する過程について、明石海峡や鳴門海峡を通して解説する。また、明石のタコが世界一美味しい理由、明石海峡大橋を通して本州と淡路島が少しずつ離れていることを紹介する。

海岸の地形はどのようにしてできたのか：但馬海岸、慶野松原、須磨海水浴場

リアス式の但馬海岸、慶野松原の砂丘、須磨海水浴場の砂浜のできかたを通して、波や風がどのようにして海岸の地形をつくるかについて解説する。

兵庫の地形は日本の縮図

前期のまとめとして、兵庫県の大地の歴史から、日本列島の歴史をひもとく。

秋の植物地理

身近な植物から、地球に何が起きているのかについて考える。

海の地形

海の体積の90%は深海で、海嶺や海溝など、海は起伏に富んだ地形をしています。そのしくみに迫ります。

地球温暖化の未来

約7千万年前、現在よりもはるかに深刻な地球温暖化が進んだ。そのような過去の温暖化と現在の温暖化を照らし合わせ、未来の地球の環境を予測する。

雲と気候

校庭で雲を観察し、雲の成因と名前を知り、地形が生み出す雲と気候について考える。

秋の植生

校庭の植物を観察し、気候からみた植生を考える。

波はどのようにおきるのか

風がつくる波と地震がつくる津波の違い、月の引力がつくる潮汐波、それらの波がつくる地形について解説する。川はどのようにできるのか

川は陸上だけでなく、南極の氷の下にも、砂漠の地下にも、海底にも存在する。川はどこでできて、どこを流れ、どこへたどり着くのか、そして川の流れはどんな地形をつくるのかについて解説する。

砂漠の地形と気候

オーストラリアの砂漠を題材にして、なぜ砂漠ができるのか、なぜ砂漠にオアシスが湧くのかなどエピソードを紹介しながら、砂漠の地形と気候について解説する。世界の氷河がつくる地形

ヨーロッパの氷河がつくる美しい地形について紹介する。世界の火山と地形

イタリアやハワイ島などの火山の特徴と、火山がつくる地形について学ぶ。

地震はどのようにおきるのか

地震についての知識を習得し、活断層や南海トラフ地震に対する思い込みと誤解を解く。

地球外惑星の地形

地形の研究成果は、地球外惑星の環境を知る手掛かりになる。火星や金星の地形から、それらの惑星が辿った歴史を探る。

地形の謎

興味のある世界の地形の成因について調べる。

地形の謎

興味のある世界の地形の成因についてまとめる。

後期分のまとめ

興味のある地形の成因について発表する。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

社会科・公民科教育法（資格）

藤田 敏和  
-----

< 授業の方法 >

前期：講義・演習、後期：演習

< 授業の目的 >

中学校社会科（以下「社会科」と略する）および高等学校公民科（以下「公民科」と略する）の教員免許取得希望者を対象に、教育についての理解を深め教職に対する意欲を喚起すること、社会科・公民科教員として必要な資質を確認させること、社会科・公民科教育の目的と内容を把握させること、生徒の学習意欲を高める授業を創造するために必要な基本姿勢と技術を伝達することを目的とする。科目の性格上、受講者が全学DP所載の1～

5の諸能力を学修することに資することを旨とする。  
なお、この授業の担当者は、高等学校の教諭を41年間勤めた実務経験のある教員であるので、授業内容は実践を踏まえたものとなる。

#### <到達目標>

1. 教育関連法規の概要および学習指導要領改定の推移について理解し、説明することができる。
2. 学習指導要領における社会科・公民科の目標及び主な内容並びに全体構造について理解し、説明することができる。
3. 社会科・公民科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
4. 社会科・公民科の学習指導および評価の方法や手順について理解し、説明することができる。
5. 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計を行い、社会科・公民科の学習指導案を実際に作成することができる。
6. 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけることができる。
7. 社会科・公民科教員として任用された際に授業その他の学習指導を行うことができる。

#### <授業のキーワード>

教育関連法規 学習指導要領 教科書 学習指導案 模擬授業

#### <授業の進め方>

第10回までは講義中心の授業である。第11回以降は模擬授業演習で、1人ひとりが教壇に立つなど授業の構成に参加し、相互に批評する形式となる。

#### <履修するにあたって>

社会科・公民科教員として教壇に立つことになるということをはっきり自覚した上で授業に臨むこと。公民科で履修した科目を復習しておくこと。履修していない科目についても少なくともイメージをつかんでおくこと。

#### <授業時間外に必要な学修>

第10回までの講義内容の毎回の復習 指定図書・参考書のできる限りの参照 学習指導案の作成ははじめ模擬授業の入念な準備（については最低でも各回について1時間はかかると思われる。各回あたり1時間かけるとすれば年間で約30時間。5～6冊。これで最低限度ぐらいであろう。最低でものべ24時間はかかると思われる）

#### <提出課題など>

前期末・後期末にレポートの提出を求める。

第10回までは授業ごとに小課題の提出を求める。

第11回以後は模擬授業演習ごとに、授業担当者に学習指導案の提出を、他の出席者に「評価票」の提出を求める。

#### <成績評価方法・基準>

定期試験は実施しない。レポート内容50%（内訳：前期末レポート50%、後期末レポート50%）、授業関

連50%（内訳：担当模擬授業内容50%、学習指導案25%、評価票および前期小課題25%）で評価する。

#### <テキスト>

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社2018年208円、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』東京書籍2019年1100円

#### <参考図書>

今西幸蔵・古川治・矢野裕俊編著『教職に関する基礎知識(第3版)』八千代出版2021年2420円、古川治・今西幸蔵・五百住満編著『教師のための教育法規・教育行政入門』ミネルヴァ書房2018年2640円、解説教育六法編修委員会編『解説教育六法 2022 令和4年版』三省堂2022年2970円、久米公編著『漢字指導の手引き第八版』教育出版2017年1760円

#### <授業計画>

##### 第1回 ガイダンス

科目の目的、目標、授業の概要と進め方を知り、注意事項の説明を受ける。

##### 第2回 教育関連法規の概要

教育基本法・学校教育法・学校教育法施行令・学校教育法施行細則のそれぞれの概要を学ぶ。

##### 第3回 学習指導要領とは何か

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領の意義・概要・変遷を学ぶ。

##### 第4回 中学校・高等学校の現状、社会科・公民科教育の意義

中学校・高等学校の現状を概観し、中学・高校教育に期待されていることとは何かを考察するとともに、社会科・公民科教育の歴史・特質・構造・目標・内容・意義について学ぶ。

##### 第5回 社会科・公民科の学習指導と評価

社会科・公民科学習の指導形態、学習資料活用と教材研究の方法、授業研究、実地の授業の展開方法と学習指導案の作成法、評価とその方法について学ぶ。

##### 第6回 現行幼稚園教育要領・学習指導要領の特徴と意義

現行幼稚園教育要領・学習指導要領の構造、求められる資質・能力とその育成、「主体的・対話的で深い学び」について学ぶ。

##### 第7回 中学校社会科の概要

現行学習指導要領における中学校社会科の目標、旧要領からの改訂の趣旨、内容構成、指導上の配慮事項を学ぶ。

##### 第8回 中学校社会科公民的分野の概要

現行学習指導要領における中学校社会科公民的分野の目標、旧要領からの改訂の趣旨、内容構成、指導上の配慮事項を学ぶ。

##### 第9回 高等学校公民科と科目「公共」の概要

現行学習指導要領における高校公民科の目標、趣旨と要点、科目「公共」の目標と内容構成・指導上の配慮事項を学ぶ。

第10回 高校科目「倫理」「政治・経済」の概要  
高校科目「倫理」「政治・経済」の目標と内容構成・指導上の配慮事項を学ぶ。

第11回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第12回 模擬授業演習

受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第13回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第14回 模擬授業演習④  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第15回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第16回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第17回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第18回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第19回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第20回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第21回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第22回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場

でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第23回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第24回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第25回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第26回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第27回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第28回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第29回 模擬授業演習  
受講者が順次模擬授業を行い、他の受講者は生徒の立場でこれを受ける。模擬授業終了後合評を行い、生徒役の受講者は「評価票」を作成して提出する。

第30回 総括  
担当者と受講者とで1年間の成果について総括する。また、受講者は社会科・公民科教員となるにあたっての抱負を披瀝する。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

社会科・公民科教育法（資格）

山下 恭

-----  
<授業の方法>

○「講義」と「演習」（模擬授業を中心とする対面授業です。）

○模擬授業は、受講者数によって変動します。昨年度の場合受講生一人あたり4回実施しました。

○模擬授業を行うにあたり、テーマの決定 教材研究 学習指導案の作成 模擬授業の実践

模擬授業の合評会 体験レポート作成 これらが模擬授業ごとに課せられます。

### < 授業の目的 >

本授業は受講生が将来中学校の社会科、高等学校の公民科を担当する教員として教壇に立つことを前提として、受講生の資質を高め、教育技術を向上させることを目的とする。授業での教材研究の重要性や資料の提示法などを習得し、模擬授業では受講生の能力の伸長を図る。具体的には教材研究の手法、説明技術、表現方法、さらに学習指導案の作成、模擬授業の実践を通じて授業に必要なスキルを養う。担当講師は中学校8年間、高等学校33年間の勤務経験があり、なおかつ大学で社会科・地理歴史科教育法・社会科公民科教育法を12年間担当した実務経験をもつ教員です。教育法は授業での教授体験を通してのみ身に付くことを受講生に知ってもらいたいと思います。

### < 到達目標 >

「学習指導要領」「学習指導要領解説（社会）」などを教材として、社会科・公民科教育の目的・内容の取扱いなどについて学ぶ。

教材研究の意義と方法について学ぶ。

学習指導案（略案・細案）の作成ができる。

学習指導案にもとづいて模擬授業を行うことができる。

模擬授業の実践を通じて、教科指導の難しさとともに重要性を認識できる。

反省点をレポートにまとめ、自身の模擬授業を振り返り、客観的に分析することができる。

### < 授業のキーワード >

対面授業 模擬授業 中学校社会分野 高等学校公民分野 公共 政治経済 学習指導案 合評会  
学習指導要領

### < 授業の進め方 >

レポート等の課題を適宜指示します

学習指導案の作成をします

学習指導案にもとづいて対面での模擬授業を行います

毎回出席カードに、その日の授業の感想・意見・質問を記入します。

### < 履修するにあたって >

資料をmanabaを通じて配布することがあります。manabaから資料をダウンロードしてください。manabaのリマインダー機能を設定しておいてください。

課題レポートや学習指導案作成、模擬授業体験レポートなどが課せられます。これらはmanabaを通じて出題されます。また提出もmanabaレポート欄に提出することになります。

受講生は学習指導案を作成し、それにもとづいて対面で模擬授業を複数回行う。

受講生の人数によって模擬授業の回数は変動します。この模擬授業はレポートなどに代えることはできません。

模擬授業を無断欠席した場合には評価の対象になりません。

前期・後期それぞれ10回以上の出席が必要です。満たない場合は評価できません。

授業中の入退室は認めません。また20分以上たってからの入室は欠席扱いとします。

受講に当たり携帯・スマホの電源はOFFにしてカバンに仕舞ってください。

授業中の飲食は控えてください。また飲食物を机上に置かないでください。

### < 授業時間外に必要な学修 >

受講後、講義内容の整理および出された課題の考察、提出物の作成に2時間ほどかかります。模擬授業を始めるにあたって実践するための諸準備に相当の時間がかかります。担当テーマに対する教材研究（15時間）と使用教材の精選、学習指導案の作成（細案と略案の作成10時間）、模擬授業前の練習（8時間）、さらに使用資料の用意（10時間）などがある。また模擬授業終了後は体験レポートの作成に4時間の時間がかかります。

### < 提出課題など >

課題レポート

学習指導案（細案と略案）

模擬授業体験レポート

模擬授業合評での評価票

毎時間の授業感想・意見・質問など出席カードに記入

### < 成績評価方法・基準 >

模擬授業の実践（複数回）と他の受講生が行う模擬授業への積極的参加。合評会での積極的な参加と模擬授業評価表の記入内容。

学習指導案作成（略案・細案）・模擬授業体験レポートなど。

複数回のレポートが課せられます。

後期に実施する定期考査の成績

出席カードに記入の意見・感想・質問などの内容

### < テキスト >

中学校社会科公民分野教科書「社会科 中学生の公民」（帝国書院）

高等学校「公共」

### < 参考図書 >

文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』（平成29年度告示）

文部科学省『中学校学習指導要領解説』（平成29年度告示）

文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年度告示）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』（平成30年度告示）

### < 授業計画 >

第1回 ガイダンス 開講にあたって



講師の紹介 オンライン授業・模擬授業について 第2回 学習指導要領について 1. 中学校社会科(公民分野)の目標と内容 2. 高等学校公民科の目標と内容 第3回 中学校社会科公民分野と高等学校公民科の学習内容 学習指導要領の目標と学習内容 1. 中学校社会科公民分野の内容 2. 高等学校「政治経済」の内容 3. 高等学校「現代社会」の内容 高等学校「倫理」の内容 第4回 教材研究の意義と方法(1)  1. さまざまな教材研究の方法 第5回 教材研究の意義と方法(2) 1. さまざまな教材研究の方法 第6回 学習指導案の作成(1) 学習指導案の意義と作成方法 決定したテーマに沿って学習指導案を作成 自宅学習で作成作業継続 第7回 学習指導案の作成(2) 学習指導案の修正と完成 完成した学習指導案を修正 模擬授業に必要な教材の作成 第8回 授業の進め方 模擬授業を始めるにあたって 授業の進め方( 黒板の使い方 用語の説明 話し方・姿勢・表情 指示の出し方 第9回 公民分野の授業研究(1) 公民分野の授業例 教材研究 板書事項の検討 第10回 公民分野の授業研究(2) 公民分野の授業例 教材研究 板書事項の検討 第11回 公民分野の授業研究(3) 公民分野の授業例 教材研究 板書事項の検討 第12回 公民分野の授業研究(4)  公民分野の授業例 教材研究 板書事項の検討 第13回 公民分野の授業研究(5) 公民分野の授業例 教材研究 板書事項の検討 第14回 公民分野の授業研究(6) 公民分野の授業例 教材研究 板書事項の検討 第15回 前期のまとめと後期の模擬授業実施について 1. 前期授業の総括 2 後期の実施予定の模擬授業のテーマ一覧 3. 模擬授業の概要説明 第16回 ガイダンス(後期) 1. 模擬授業についてテーマ決定 1. 模擬授業の進め方 2. 模擬授業評価票 3. 模擬授業合評 4. 模擬授業体験レポート 第17回 模擬授業 - 1 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業	資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート 第18回 模擬授業 - 2 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業 資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート 第19回 模擬授業 - 3 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業 資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート 第20回 模擬授業 - 4 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業 資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート 第21回 模擬授業 - 5 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業 資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート 第22回 模擬授業 - 6 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業 資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート 第23回 模擬授業 - 7 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業 資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート 第24回 模擬授業 - 8 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業 資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート 第25回 模擬授業 - 9 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業 資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート
---	--



## 験レポート

第26回 模擬授業 - 10 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート

第27回 模擬授業 - 11 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート

第28回 模擬授業 - 12 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート

第29回 模擬授業 - 13 中学校社会公民的分野、高等学校現代社会、政治経済の分野から各自選択したテーマでの模擬授業

資料配布 模擬授業実践 合評会 生徒役としての積極的参加 模擬授業評価票提出 模擬授業体験レポート

第30回 まとめ 模擬授業の総括

グループ討議「授業の反省とスキルの向上にむけて大切なこと」

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

社会科・地理歴史科教育法（資格）

中村 健治

-----  
< 授業の方法 >

対面授業（講義・演習・実習）

< 授業の目的 >

中学校社会科・高等学校地理歴史科の教師を目指すにあたって、学習指導を行う際に必要とされる知識や指導技術・指導方法を習得し、併せてその心構えの醸成を図る。学習指導要領を読解し、何をどのように教えなければならないかを総合的に理解し、学習指導案の作成や模擬授業実習、小グループによるグループワーク、教材（素材）研究実習などを通して、社会科・地理歴史科教師に求められる実践的な資質・能力を身につけることを目的とする。

なお、この授業担当者は、神戸市立高等学校で地理歴史科公民科教諭・教頭・校長として、また、教育委員会事務局においては社会科・地理歴史科公民科の指導主事も経験した実務経験のある教員である。学校現場で社会

科・地理歴史科の教員として、どのように考え、どのように授業に臨み、教員としてどのようにあるべきかを学校現場の実態を踏まえながら授業を行います。

< 到達目標 >

1. 中学校社会科・高等学校地理歴史科の学習指導要領に示された目標及び主な内容並びに全体の構造を理解できる。（知識）
2. 学習指導要領に示された学習内容の取扱い、指導上の留意点を理解できる。（知識）
3. 授業計画や教材研究の方法を理解し、学習指導要領に基づいた適切な学習指導案を作成できる。（知識・技能）
4. 学習指導案に基づいて適切に模擬授業を行うことができる。（技能・態度）
5. 学習評価の考え方・方法を理解できる。（知識・技能）
6. 他者の授業を適切に評価できる。（技能・態度）
7. 講義に積極的に参加し、協調的・建設的な議論ができる。（態度・習慣）

< 授業のキーワード >

学習指導要領、学習指導案、主体的・対話的で深い学び、学習評価、模擬授業

< 授業の進め方 >

- ・受講生が近い将来教壇に立つことを前提に、受講者主体の実践的な授業を行う。
  - ・担当者からの講義のみならず、少人数によるグループワーク（学習指導案検討・教材検討）等、受講生が主体的に参加できる授業形態を取り入れる。
  - ・受講生全員が1回以上模擬授業を行い、授業者以外はその評価を行うとともに、その授業について合評を行う。
  - ・受講生数によっては、授業計画を変更する場合もある。
- < 履修するにあたって >
- ・受講生が将来教員になることを前提に授業を行います。1年間30回という長丁場の講義となりますし、内容的にもかなりハード・濃密になります。生半可な気持ちで受講するのではなく、「教員になる」という強い意志と覚悟を持って授業に臨んでください。
  - ・授業に関係のない私語・スマホ操作・授業中の入退室は禁じます。
  - ・受講生同士の討論・発表など、受講生主体の授業となるので、積極的な姿勢で臨んでください。
- < 授業時間外に必要な学修 >
- ・前期の授業後には、基本的な内容に関する小テストを実施することがあるため、その復習（1時間程度）が必要となる。
  - ・前期の授業後には、授業内容等に関する課題を課すことがあるため、その課題に取り組む時間が必要となる。
  - ・後期の模擬授業への準備時間として、授業内容の教材研究・教材の準備・板書内容の構成・学習指導案の作成などで最低数時間を要する。また、模擬授業終了後のレ

ポート作成には授業時間外で2～3時間程度の学修が必要となる。

<提出課題など>

毎回の授業リフレクションシート（出席票を兼ねる）  
課題プリント 学習指導案 模擬授業評価表（模擬授業自己評価表） 模擬授業総括レポート（後期） 授業記録シート（前期）

<成績評価方法・基準>

- ・定期考査は実施しない。
- ・到達目標に照らしてどの程度達成できたかを以下の観点によって総合的に評価を行う。

模擬授業への取組（学習指導案・教材研究・板書計画等）

他者の模擬授業への積極的参加及び模擬授業評価表  
模擬授業総括レポート

リフレクションシートの内容

課題レポート 小テスト

グループワーク・意見発表など、授業への積極的参加姿勢

（ ～ : 50% : 40%

: 10%）

<テキスト>

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編（文部科学省発行）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編（文部科学省発行）

上記の2冊は必ず購入しておくこと。

前期授業では、学習指導要領の内容やポイント並びに各回の授業主題に応じた内容をまとめたプリント資料を使用して授業を進めるが、必要に応じて上記2冊を使用する。

<参考図書>

・自分が中学校で使用した社会科の教科書・資料集・地図帳

・自分が高等学校で使用した地理・日本史・世界史の教科書・資料集・地図帳等

・新課程用中学校社会科教科書

（学習指導案作成や模擬授業

実施時に必要となる）

<授業計画>

第1回 オリエンテーション

・担当教員自己紹介 ・受講生自己紹介

・講義の狙いと概要説明 ・評価方法

第2回 中学校社会科学習指導要領の理解

中学校社会科学習指導要領に示された、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の目標及び主な内容並びに全体構造や内容の取扱いを理解する。

第3回 中学校社会科学習指導要領の理解

中学校社会科学習指導要領に示された、地理的分野・歴

史的分野・公民的分野の目標及び主な内容並びに全体構造や内容の取扱いを理解する。

第4回 高等学校学習指導要領地理歴史科の理解

高等学校学習指導要領地理歴史科に示された各科目（地理総合・歴史総合・地理探求・日本史探求・世界史探求）の目標及び内容並びに全体構造や内容の取扱いを理解する。

第5回 高等学校学習指導要領地理歴史科の理解

高等学校学習指導要領地理歴史科に示された各科目（地理総合・歴史総合・地理探求・日本史探求・世界史探求）の目標及び内容並びに全体構造や内容の取扱いを理解する。

第6回 学習指導案作成演習

学習指導案に関する基本的な事項を把握し、その作成意義や作成上の留意点を理解する。

第7回 学習指導案作成演習

中学校社会科学習指導要領及び高等学校学習指導要領地理歴史科の趣旨に基づき、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業計画と学習指導案を作成する。

第8回 学習指導案作成演習

中学校社会科学習指導要領及び高等学校学習指導要領地理歴史科の趣旨に基づき、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業計画と学習指導案を作成する。

第9回 学習指導案作成演習

中学校社会科学習指導要領及び高等学校学習指導要領地理歴史科の趣旨に基づき、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業計画と学習指導案を作成する。

第10回 教材研究の意義と方法

様々な教材研究法について学び、綿密な教材研究の必要性・重要性を理解する。

第11回 教材（素材）研究の実践演習

具体的な教材（史資料）をもとに、素材研究を行い、どのように授業に取り入れ、展開するかを個人・小グループで考え、発表する。

第12回 教材（素材）研究の実践演習

具体的な教材（史資料）をもとに、素材研究を行い、どのように授業に取り入れ、展開するかを個人・小グループで考え、発表する。

第13回 授業の進め方について

教壇に立って授業を行う際、留意すべき点やその進め方について理解する。

第14回 模擬授業の実施に向けて

模擬授業についての概要（授業時間・進め方・評価）について理解する。

模擬授業の実施に向けての授業の割り振りを決定する。

授業を行うにあたっての心構えについて学ぶ。

第15回 前期のまとめ

前期に行った学習内容をまとめる。学習指導案の作成、教材研究、板書方法等について討議を行い、意見交換をする。

後期の模擬授業についての詳細を確認する。

#### 第16回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第17回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第18回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第19回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第20回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第21回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第22回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第23回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第24回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第25回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第26回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第27回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第28回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第29回 模擬授業演習

受講者が作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、他の受講者は生徒として参加し、その模擬授業について評価表を用いて評価を行うとともに、その授業について合評を行う。

#### 第30回 1年間のまとめ

1年間の授業を通して、社会科・地理歴史科教員として授業を行う上で必要な知識・技能・心構え等について振り返り、受講者各自が今後の教職科目への取組や目指す教員像等について意見交換を行う。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

社会科・地理歴史科教育法（資格）

山下 恭  
-----

< 授業の方法 >

○「講義」と「演習」（模擬授業の実施を中心とする対面授業）

○対面で実施します

○manabaの社会科・地理歴史科教育法コースに連絡事項が随時記載されます。ご覧ください。

< 授業の目的 >

教師の力量は教科指導の分野で発揮されるといっても過言ではない。それほど重要である。教科指導の両輪は深い専門性に支えられた知識とそれを生徒に魅力的に伝える技術である。専門的知識は絶え間ない自己研鑽と知的好奇心に裏付けられた探究心によって培われる。また後者の教授技術は生徒に分かってもらいたいという愛情に源がある。本講座では模擬授業を体験することによってそのことを強く認識してもらうことが目的である。受講

生には、模擬授業に向けての何が必要かを考察し、その準備を万全にしてこの講座に臨んでもらいたい。なお担当講師は中学校8年間、高等学校33年間の勤務経験があり、また大学の社会科・地歴科教育法を12年間担当した実務経験のある教員です。実践的な授業を目指したいと思っています。

<到達目標>

1. 教科指導の大切さ難しさを実感できる。 2. 教材研究の重要性を知る 3. 学習指導案が作成できそのプランに基づいた授業ができる 4. 模擬授業体験レポートを作成し、自身の授業を振り返り次の模擬授業に活かすことができる。

<授業のキーワード>

対面授業 模擬授業 学習指導案 教材研究 学習指導要領

<授業の進め方>

○授業では、パワーポイントなどを使い、具体的な教材資料を提示し、教科内容の指導力を高めたい。

○対面授業では、受講生が近い将来教壇に立つことを前提として模擬授業を進めます。実践的な内容です。履修生には学習指導要領の内容理解、教材研究の方法と実践、学習指導案作成とそれに基づく模擬授業の体験とその反省、生徒役としての積極的な参加を求めます。模擬授業については合評会を通じて活発な意見交換を行い教師としての技量を高めます。授業を通じて基本的な教育技術を習得するとともに研究意欲を高めるようにしたい。

○模擬授業とは、教材研究 学習指導案作成 模擬授業実施 合評会での意見交換 模擬授業体験レポートの作成(反省と次の模擬授業への展望)を言います。これらを複数回課します。

○教員採用試験に関する情報なども随時提供していきます。

<履修するにあたって>

○授業を実施するにあたり、事前に資料をmanabaを通じて配布したり、課題を課したりする場合があります。manaba掲載資料に注意してください。リマインダー機能をセットしてください。

○対面授業を前提として模擬授業を実施します。

模擬授業は必須です。レポート等に代えることはできません。受講生には必ず模擬授業を課します。模擬授業の回数は受講生の人数によって変動があります。模擬授業を行わなかった場合は評価の対象となりません。授業中の入退室は認めません。また20分以上の遅刻者には出席カードは与えません。受講にあたり携帯・スマホの電源はOFFにしてください。前期・後期ともにそれぞれ10回以上の出席がなければ評価の対象となりません。欠席せず出席を心がけてください。

○授業がオンライン授業(遠隔授業)となった場合には、別途指示します。

<授業時間外に必要な学修>

この科目では毎回の講義について復習のために2時間ほどかかります。模擬授業への準備期間には毎日2時間の時間外の学習が必要になります。模擬授業の準備とは、教科内容の予習、教材の準備、板書内容の構成、学習指導案の作成などです。また模擬授業終了後の体験レポートの作成には授業時間外に3時間の学修が必要となります。

<提出課題など>

模擬授業体験レポート 学習指導案(細案と略案) 模擬授業評価票 出席カードへの感想文記載、授業で課したレポートの提出

<成績評価方法・基準>

課題レポート、学習指導案の作成、模擬授業の実践、他の模擬授業への積極的な参加、模擬授業体験レポート、合評会評価表、出席カード記載の意見・感想による。また複数回の課題の提出およびその評価。後期に実施予定の定期考査の成績を評価します。

<テキスト>

現在神戸市の中学校で使用されている中学校社会科の教科書

『社会科 中学生の地理』(帝国書院)

『中学校 社会科地図』(帝国書院)

『社会科中学生の歴史』(帝国書院)

高等学校の歴史総合・地理総合の教科書

<参考図書>

○文部科学省「中学校学習指導要領(平成二十九年告示)」

○文部科学省「中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 社会編」

○文部科学省「高等学校学習指導要領(平成三十年告示)」

○文部科学省「高等学校学習指導要領(平成三十年告示)解説 地理・歴史科」

『新詳日本史』(浜島書店)

高等学校で使用した地理・歴史の資料集など

<授業計画>

第1回 ガイダンス 開講にあたって

1. 講師紹介 2. 受講生自己紹介 3. 講義のねらいと概要 4. 授業実施要領 5. 評価方法

第2回 授業の進め方

初めて教壇に立つ人へ

1. 授業の進め方について

第3回 学習指導案について

1. 学習指導案とは何か 2. 学習指導案の作り方

第4回 教材研究の意義と方法

1. 教材研究はなぜ必要か 2. 教材研究の方法 3.

## 様々な教材研究

### 第5回 学習指導要領について

1. 中学校社会科の目標とその内容
2. 高等学校地理・歴史科の目標とその内容

### 第6回 歴史分野の授業研究(1)

1. 歴史分野授業
2. 教材研究
3. 板書事項の検討

### 第7回 歴史分野の授業研究(2)

1. 歴史分野の授業
2. 教材研究
3. 板書例

### 第8回 歴史分野の授業研究(3)

1. 歴史分野の授業
2. 教材研究
3. 板書事項の検討

### 第9回 歴史分野の授業研究(4)

1. 歴史分野の授業
2. 教材研究
3. 板書事項の検討

### 第10回 歴史分野の授業研究(5)

1. 歴史分野の授業
2. 教材研究
3. 板書事項の検討

### 第11回 地理分野の授業研究(1)

1. 地理分野の授業
2. 教材研究
3. 板書事項の検討

### 第12回 地理分野の授業研究(2)

1. 地理分野の授業
2. 教材研究
3. 板書事項の検討

### 第13回 地理分野の授業研究(3)

1. 地理分野の授業
2. 教材研究
3. 板書事項の検討

### 第14回 地理分野の授業研究(4)

1. 地理分野の授業
2. 教材研究
3. 板書事項の検討

### 第15回 前期授業を終えて・アンケート

#### 後期授業の概要

後期の模擬授業テーマ一覧について説明・希望調査票記入

### 第16回 後期講座のガイダンス・模擬授業( )計画

中学校の地理・歴史分野、高等学校の日本史・世界史・地理の分野から、受講生の模擬授業テーマ決定。実施日を調整

1. 模擬授業の実施日と実施者確定

第17回 模擬授業 - 1 各自が中学校歴史分野、高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備
2. 模擬授業の実施・受講生の参加
3. 合評会
4. 模擬授業体験レポートの作成・提出

第18回 模擬授業 - 2 各自が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備
2. 模擬授業の実施・受講生の参加
3. 合評会
4. レポートの作成・提出

第19回 模擬授業 - 3 各自が高等学校日本史・世界

史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備 2. 模擬授業の実施・受講生の参加

3. 合評会 4. レポートの作成・提出

第20回 模擬授業 - 4 各自が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備
2. 模擬授業の実施・受講生の参加
3. 合評会
4. レポートの作成・提出

第21回 模擬授業 - 5 各自が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備
2. 模擬授業の実施・受講生の参加
3. 合評会
4. レポートの作成・提出

第22回 模擬授業 - 6 各自が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備
2. 模擬授業の実施・受講生の参加
3. 合評会
4. レポートの作成・提出

第23回 模擬授業 - 7 各自が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備
2. 模擬授業の実施・受講生の参加
3. 合評会
4. レポートの作成・提出

第24回 模擬授業 - 8 各自が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備
2. 模擬授業の実施・受講生の参加
3. 合評会
4. レポートの作成・提出

第25回 模擬授業 - 9 各自が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備
2. 模擬授業の実施・受講生の参加
3. 合評会
4. レポートの作成・提出

第26回 模擬授業 - 10 各自が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備
2. 模擬授業の実施・受講生の参加
3. 合評会
4. レポートの作成・提出

第27回 模擬授業 - 11 各自が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備
2. 模擬授業の実施・受講生の参加
3. 合評会
4. レポートの作成・提出

第28回 模擬授業 - 12 各自が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備
2. 模擬授業の実施・受講生の参加
3. 合評会
4. レポートの作成・提出

第29回 模擬授業 - 13 各自が高等学校日本史・世界史・地理分野から選んだテーマについて模擬授業を行う

1. 資料準備
2. 模擬授業の実施・受講生の参加
3. 合評会
4. レポートの作成・提出

第30回 模擬授業を終えて 来年度の教育実習へむけて集大成としてグループ討議

2022年度 前期

2.0単位

社会学概論（資格）

濱田 武士

< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

主題：社会学の成果を学び、それをもとに現代社会の性格について考える。

目標：主な社会学理論を検討しながら、社会学とはどのような学問であるかを把握する。そしてその成果をふまえて、いくつかの社会的現象をとりあげて、それらがもつ意味を考える。

心理学部ディプロマ・ポリシーにしたがい、特に「社会の中で身の回りにある現象を観察し、問題の有無を適切に判断し、それを解決することができる」能力を培う機会として、本講義は位置づけられる。前半では、社会学の基礎知識の修得を経て、主な学説を学ぶことから始める。そこでの知見をもとに、地域から国際社会まで視野を広くもって、社会現象を観察し、その意味や問題点を適正に把握するための力を養う。後半では、現代社会の特性やその問題点を、「ゆたかさ」をキーワードにして考察を進める。前半での成果をもとに、現代日本社会のゆたかさがもつ意味と、そこにはらむ矛盾について、事例を用いて考察を進める。

< 到達目標 >

第1に、社会学の基礎知識の習得が目指される。第2には、基礎知識をもとに、現代社会の特性や問題について、その意味や背景を明らかにすることが目標となる。

< 授業のキーワード >

社会学 現代社会 ゆたかさ

< 授業の進め方 >

担当者による講義（解説）が中心となる。

< 履修するにあたって >

各回にて文献を適宜紹介する。一部文献に関しては、期間を設け、部分を定めて精読をお願いする。課題は当該文献の通読の成果をはかるものを用意する。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業各回で検討されたキーワードについて、該当する具体例や関連する事柄について検索し、調べる。どのように調べるかは授業にて案内する。

< 提出課題など >

講義中に課題の提出をお願いする（回数は未定）。

< 成績評価方法・基準 >

課題提出物70%（70点）、期末レポート30%（30点）で評価する。

< テキスト >

特になし。適宜プリントを配布する。

< 授業計画 >

第1回 社会学の基礎的理解

19世紀において社会学が誕生した歴史的経緯を考察する。社会学における重要なキーワードの概念を検討しながら、基礎知識を学ぶ。

第2回 方法論的集合主義

E・デュルケムの業績を検討しながら、彼が確立した方法論的集合主義の中身を理解する。

第3回 方法論的個人主義

M・ヴェーバーの業績を検討しながら、彼が確立した方法論的個人主義の中身を理解する。

第4回 構造-機能アプローチ

T・パーソンズの業績を検討しながら、彼が確立した「構造-機能アプローチ」の中身を理解する。

第5回 意味学派のアプローチ

20世紀後半に活躍したアメリカの社会学者の業績をいくつか検討して、個人の主体的な意味付与という実践から、個人と社会の関係を捉えようとするアプローチを考察する。

第6回 近年の社会学理論

近年の社会学理論の主な業績を検討する。これまでにみてきた社会学の古典的業績との比較から、現時点での社会学の成果と課題を明らかにする。

第7回 社会学理論のまとめ

第1回から第6回までの授業で学んだことを振り返り、要点の整理をする。

第8回 現代社会の特性と諸問題

現代社会の特性と諸問題について、近代社会の成熟化という観点から、具体的な事例を用いて検討をする。

第9回 家族論

社会学における家族研究の成果をみながら、現代社会の家族の特性を明らかにし、その意味や問題点を考察する。

第10回 組織論

社会学における組織研究の成果をみながら、現代社会の組織の特性を明らかにし、その意味や問題点を考察する。

第11回 地域社会論

社会学における地域社会をめぐる研究の成果も用いて、現代社会における地域社会の実態を明らかにし、その意味や問題点を考察する。

第12回 文化と社会

現代社会における文化のありよう、それをめぐる問題点について、「グローバリゼーション」をキーワードにして考察をする。

第13回 政治と社会

現代社会における政治のありようについて、「民主主義のパラドクス」をキーワードにして、具体的な事例も交えながら考察をする。

第14回 経済と社会

現代社会における経済のありようについて、「消費社会」をキーワードにして、具体的な事例も交えながら考察

をする。

## 第15回 全体のまとめ

これまでの授業で学んだことを振り返り、要点の整理をする。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

宗教学概論（資格）

能川 元一  
-----

### < 授業の方法 >

講義形式による授業を基本とするが、授業中に課題に取り組む時間をとることもある（3回ほどを予定）。

資料は OneDrive を通じて配布する。

新型コロナウイルス感染症の観戦状況により、授業形態が対面授業となるか遠隔授業となるかが左右されるため、大学からの案内に留意すること。

### < 授業の目的 >

宗教は人類の歴史、現代社会を理解するうえで重要なファクターの一つであり、また人間という存在を理解するうえでも欠かせない手がかりである。本講義では主として仏教、キリスト教、イスラム教の歴史を題材としながら、宗教に対するさまざまな学問的アプローチを紹介し、宗教の多面性を明らかにしたい。また宗教現象の多様性と、多様性を貫く一般性の双方を明らかにすることを目指す。

また教員を目指すものにとって必要と思われる、宗教史、宗教思想史に関する知識を学ぶことも目的とする。また、本学ディプロマ・ポリシーに定める目標のうちとりわけ「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」と「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導く」に関わる能力の学修を目標とする。

### < 到達目標 >

・仏教の歴史についての基本的な知識を身につけるとともに、仏教が日本社会に与えた影響と仏教が日本で被った変容について理解する。

・キリスト教の歴史についての基本的な知識を身につけるとともに、宗教社会学、宗教人類学、宗教心理学などの諸学問がどのように宗教現象へとアプローチするのかを学ぶ。

・イスラム教の歴史についての基本的な知識を身につけるとともに、「スカーフ問題」「ムハンマド諷刺画事件」などに象徴される、イスラム社会と欧米社会の間の摩擦について、その背景を理解する。

### < 授業のキーワード >

原始仏教、根本分裂、大乘仏教、顕密体制、鎌倉新仏教、寺請制度

バビロン虜囚、律法、ユダヤ戦争、史的イエス / 信仰のイエス、信仰義認

本文批評、禁忌、カリスマ、回心

シャリーア、政治的イスラーム主義、スカーフ問題

### < 授業の進め方 >

講義時に使用する資料等は OneDrive の「宗教学概論講義資料」フォルダ（URLは下記参照）にPDFファイルとしてアップロードするので、あらかじめ内容を確認したうえで、各自プリントアウトして持参すること。タブレット等、授業中に資料PDFファイルにアクセスできるデバイスを持参する場合には、プリントアウトは必要ない。

「宗教学概論講義資料」フォルダへのリンク

[https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hm145017\\_human\\_kobegakuin\\_ac\\_jp/EtUlrArgVfRjQsg0xKPnjigBuaTC9G83wHd-\\_sweZEwVwQ?e=qLUeec](https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hm145017_human_kobegakuin_ac_jp/EtUlrArgVfRjQsg0xKPnjigBuaTC9G83wHd-_sweZEwVwQ?e=qLUeec)

### < 履修するにあたって >

第1回講義時に詳細なガイダンスを行うので、第1回講義を欠席した場合は初回出席時に申し出ること。

### < 授業時間外に必要な学修 >

講義前に講義ホームページで配布した資料を閲覧し、理解しにくい箇所をチェックしておくこと（30分程度）。講義後に再び閲覧して、講義の理解度を確認しておくこと（30分程度）。

### < 提出課題など >

各講義の最後に時間を設けて、その回の要点をまとめるミニ・レポートを作成し、提出する。課題の評価ポイントについては次回講義時に解説する。

### < 成績評価方法・基準 >

成績評価は前期期間中の課題、後期については定期試験の成績または課題、および講義中に課すミニ・レポートによる。

総合的な評価に占めるそれぞれの比率は前期期間中の課題が40%、後期の定期試験または課題が40%、ミニレポートが20%（全講義期間を通じて）である。

### < テキスト >

なし（教材プリントを配布する）。

### < 参考図書 >

馬場紀寿『初期仏教 ブッダの思想をたどる』、岩波新書

石井公成『東アジア仏教史』、岩波新書

末木文美士『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』、新潮文庫

五来重『日本の庶民仏教』、講談社学術文庫

山我哲雄『聖書時代史 旧約篇』、岩波現代文庫

佐藤研『聖書時代史 新約篇』、岩波現代文庫

バート・D. アーマン『書き換えられた聖書』、ちくま学芸文庫

カレン・アームストロング『イスラームの歴史：1400



年の軌跡』、中公新書  
飯塚正人『現代イスラーム思想の源流』、山川出版社(世界史リブレット)  
塚田穂高『宗教と政治の転軸点 保守合同と政教一致の宗教社会学』、花伝社

< 授業計画 >

- 第1回 現代日本と仏教  
現代社会における仏教のあり方について概観する。
- 第2回 原始仏教  
ブッダの生涯と原始仏教の基本的な教義について解説する。
- 第3回 大乘仏教の成立  
ブッダ入滅後の仏教史、特に大乘仏教の成立について概観する。
- 第4回 日本仏教史(1)  
仏教の日本への伝来から平安仏教までを概観する。
- 第5回 日本仏教史(2)  
神仏習合の歴史について概観する。
- 第6回 日本仏教史(3)  
鎌倉新仏教について概観する。
- 第7回 日本仏教史(4)  
鎌倉新仏教の思想史的な意義について考察する。
- 第8回 ユダヤ教の歴史  
ユダヤ民族の成立からユダヤ戦争までを概観する。
- 第9回 「旧約聖書」の世界(1)  
「旧約聖書」の成立過程を概観する。
- 第10回 「旧約聖書」の世界(2)  
「創世記」「出エジプト記」を中心にその内容を概観する。
- 第11回 「旧約聖書」の世界(3)  
「旧約聖書」に対する社会学的、人類学的分析のいくつかの例を紹介する。
- 第12回 ユダヤ教の神学(1)  
一神教における「神」と「人間」の関係について考察する。
- 第13回 ユダヤ教の神学(2)  
「ヨブ記」を題材に、一神教における「悪」の問題について考察する。
- 第14回 キリスト教の成立(1)  
イエス・キリストが現れた時代の社会的・宗教的背景について概観する。
- 第15回 キリスト教の成立(2)  
イエスの生涯と言行、弟子たちの活動について概観する。
- 第16回 新約聖書の成立(1)  
四福音書の成立過程について概説する。
- 第17回 新約聖書の成立(2)  
福音書以外の文書、および「新約聖書」の成立過程について概説する。
- 第18回 神話としての「新約聖書」(1)

- 「聖書」への神話学的アプローチについて紹介する。
- 第19回 神話としての「新約聖書」(2)  
「聖書」への神話学的アプローチについて紹介する。
- 第20回 キリスト教の発展(1)  
ローマ帝国における国教化から東西教会の分裂までを概観する。
- 第21回 キリスト教の発展(2)  
プロテスタント諸派の成立について、神学および政治的背景の二つの観点から考察する。
- 第22回 キリスト教の近代  
19世紀の復興運動とその現代への影響について解説する。
- 第23回 イスラームの成立  
ムハンマドの預言とウンマの成立について概観する。
- 第24回 クルアーンとイスラム法  
クルアーンの成立と内容について概観し、クルアーンを法源とするイスラム法について解説する。
- 第25回 イスラム教と近代  
欧米による植民地化に直面したイスラム社会の対応について概観する。
- 第26回 イスラム教と現代(1)  
フランスにおける「宗教シンボル禁止法」成立過程を例にとり、欧米社会とイスラム社会の間の対立についてその背景を分析する。
- 第27回 イスラム教と現代(2)  
デンマークの新聞社が掲載した諷刺画に端を発する「ムハンマド諷刺画事件」を例にとり、欧米社会とイスラム社会の間の対立についてその背景を分析する。
- 第28回 イスラム教と現代(3)  
ISIS(「イスラム国」)に欧米出身のムスリムが参加する背景、欧米社会で高まっているイスラム・フォビアについて紹介する。
- 第29回 現代日本社会と宗教(1)  
「宗教」という視点から見た場合の現代日本社会の特質について考える。
- 第30回 現代日本社会と宗教(2)  
現代日本社会における宗教現象について、宗教社会学的観点から考察する。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

宗教学概論(資格)

能川 元一

-----  
< 授業の方法 >

講義形式による授業を基本とするが、授業中に課題に取り組む時間をとることもある(3回ほどを予定)。  
資料は OneDrive を通じて配布する。

新型コロナウイルス感染症の観戦状況により、授業形態が対面授業となるか遠隔授業となるかが左右されるため、大学が



らの案内に留意すること。

#### < 授業の目的 >

宗教は人類の歴史、現代社会を理解するうえで重要なファクターの一つであり、また人間という存在を理解するうえでも欠かせない手がかりである。本講義では主として仏教、キリスト教、イスラム教の歴史を題材としながら、宗教に対するさまざまな学問的アプローチを紹介し、宗教の多面性を明らかにしたい。また宗教現象の多様性と、多様性を貫く一般性の双方を明らかにすることを目指す。

また教員を目指すものにとって必要と思われる、宗教史、宗教思想史に関する知識を学ぶことも目的とする。また、本学ディプロマ・ポリシーに定める目標のうちとりわけ「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」と「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導く」に関わる能力の学修を目標とする。

#### < 到達目標 >

・ 仏教の歴史についての基本的な知識を身につけるとともに、仏教が日本社会に与えた影響と仏教が日本で被った変容について理解する。

・ キリスト教の歴史についての基本的な知識を身につけるとともに、宗教社会学、宗教人類学、宗教心理学などの諸学問がどのように宗教現象へとアプローチするのかを学ぶ。

・ イスラム教の歴史についての基本的な知識を身につけるとともに、「スカーフ問題」「ムハンマド諷刺画事件」などに象徴される、イスラム社会と欧米社会の間の摩擦について、その背景を理解する。

#### < 授業のキーワード >

原始仏教、根本分裂、大乘仏教、顕密体制、鎌倉新仏教、寺請制度

バビロン虜囚、律法、ユダヤ戦争、史的イエス / 信仰のイエス、信仰義認

本文批評、禁忌、カリスマ、回心

シャリーア、政治的イスラーム主義、スカーフ問題

#### < 授業の進め方 >

講義時に使用する資料等は OneDrive の「宗教学概論講義資料」フォルダ（URLは下記参照）にPDFファイルとしてアップロードするので、あらかじめ内容を確認したうえで、各自プリントアウトして持参すること。タブレット等、授業中に資料PDFファイルにアクセスできるデバイスを持参する場合には、プリントアウトは必要ない。

「宗教学概論講義資料」フォルダへのリンク

[https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hm145017\\_human\\_kobegakuin\\_ac\\_jp/EuLcWtehGD5Ln\\_D2-McX3UUBM7L-GgnZh-We1\\_3HZA-Jzw?e=Nhhwll](https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hm145017_human_kobegakuin_ac_jp/EuLcWtehGD5Ln_D2-McX3UUBM7L-GgnZh-We1_3HZA-Jzw?e=Nhhwll)

< 履修するにあたって >

第1回講義時に詳細なガイダンスを行うので、第1回講義を欠席した場合は初回出席時に申し出ること。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

講義前に講義ホームページで配布した資料を閲覧し、理解しにくい箇所をチェックしておくこと（30分程度）。講義後に再び閲覧して、講義の理解度を確認しておくこと（30分程度）。

#### < 提出課題など >

各講義の最後に時間を設けて、その回の要点をまとめるミニ・レポートを作成し、提出する。課題の評価ポイントについては次回講義時に解説する。

#### < 成績評価方法・基準 >

成績評価は前期期間中の課題、後期については定期試験の成績または課題、および講義中に課すミニ・レポートによる。

総合的な評価に占めるそれぞれの比率は前期期間中の課題が40%、後期の定期試験または課題が40%、ミニレポートが20%（全講義期間を通じて）である。

#### < テキスト >

なし（教材プリントを配布する）。

#### < 参考図書 >

馬場紀寿『初期仏教 ブッダの思想をたどる』、岩波新書

石井公成『東アジア仏教史』、岩波新書

末木文美士『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』、新潮文庫

五来重『日本の庶民仏教』、講談社学術文庫

山我哲雄『聖書時代史 旧約篇』、岩波現代文庫

佐藤研『聖書時代史 新約篇』、岩波現代文庫

バート・D. アーマン『書き換えられた聖書』、ちくま学芸文庫

カレン・アームストロング『イスラームの歴史：1400年の軌跡』、中公新書

飯塚正人『現代イスラーム思想の源流』、山川出版社（世界史リブレット）

塚田穂高『宗教と政治の転軸点 保守合同と政教一致の宗教社会学』、花伝社

#### < 授業計画 >

第1回 現代日本と仏教

現代社会における仏教のあり方について概観する。

第2回 原始仏教

ブッダの生涯と原始仏教の基本的な教義について解説する。

第3回 大乘仏教の成立

ブッダ入滅後の仏教史、特に大乘仏教の成立について概観する。

第4回 日本仏教史（1）

仏教の日本への伝来から平安仏教までを概観する。

第5回 日本仏教史（2）

神仏習合の歴史について概観する。

第6回 日本仏教史(3)  
鎌倉新仏教について概観する。

第7回 日本仏教史(4)  
鎌倉新仏教の思想史的な意義について考察する。

第8回 ユダヤ教の歴史  
ユダヤ民族の成立からユダヤ戦争までを概観する。

第9回 「旧約聖書」の世界(1)  
「旧約聖書」の成立過程を概観する。

第10回 「旧約聖書」の世界(2)  
「創世記」「出エジプト記」を中心にその内容を概観する。

第11回 「旧約聖書」の世界(3)  
「旧約聖書」に対する社会学的、人類学的分析のいくつかの例を紹介する。

第12回 ユダヤ教の神学(1)  
一神教における「神」と「人間」の関係について考察する。

第13回 ユダヤ教の神学(2)  
「ヨブ記」を題材に、一神教における「悪」の問題について考察する。

第14回 キリスト教の成立(1)  
イエス・キリストが現れた時代の社会的・宗教的背景について概観する。

第15回 キリスト教の成立(2)  
イエスの生涯と言行、弟子たちの活動について概観する。

第16回 新約聖書の成立(1)  
四福音書の成立過程について概説する。

第17回 新約聖書の成立(2)  
福音書以外の文書、および「新約聖書」の成立過程について概説する。

第18回 神話としての「新約聖書」(1)  
「聖書」への神話学的アプローチについて紹介する。

第19回 神話としての「新約聖書」(2)  
「聖書」への神話学的アプローチについて紹介する。

第20回 キリスト教の発展(1)  
ローマ帝国における国教化から東西教会の分裂までを概観する。

第21回 キリスト教の発展(2)  
プロテスタント諸派の成立について、神学および政治的背景の二つの観点から考察する。

第22回 キリスト教の近代  
19世紀の復興運動とその現代への影響について解説する。

第23回 イスラームの成立  
ムハンマドの預言とウンマの成立について概観する。

第24回 クルアーンとイスラム法  
クルアーンの成立と内容について概観し、クルアーンを法源とするイスラム法について解説する。

第25回 イスラム教と近代  
欧米による植民地化に直面したイスラム社会の対応について概観する。

第26回 イスラム教と現代(1)  
フランスにおける「宗教シンボル禁止法」成立過程を例にとり、欧米社会とイスラム社会の間の対立についてその背景を分析する。

第27回 イスラム教と現代(2)  
デンマークの新聞社が掲載した諷刺画に端を発する「ムハンマド諷刺画事件」を例にとり、欧米社会とイスラム社会の間の対立についてその背景を分析する。

第28回 イスラム教と現代(3)  
ISIS(「イスラム国」)に欧米出身のムスリムが参加する背景、欧米社会で高まっているイスラム・フォビアについて紹介する。

第29回 現代日本社会と宗教(1)  
「宗教」という視点から見た場合の現代日本社会の特質について考える。

第30回 現代日本社会と宗教(2)  
現代日本社会における宗教現象について、宗教社会学的観点から考察する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

書道 (書写を含む。)(資格)

岡本 弘行  
-----

<授業の方法>

講義・演習

<授業の目的>

中学校(国語科書写)を指導するための専門的知識や技能を習得することを目標とする。また、日常使用する漢字や仮名の歴史や成り立ち、書体の変遷など書についての理論や表現についても研究する。なお、この授業の担当者は高等学校での国語・書道の教員として40年の実務経験のある教員であり、授業の実際に即した指導についてわかりやすく解説したい。

<到達目標>

硬筆指導や中学校書写における行書の指導に必要な書についての理解と表現方法を獲得することを目標とする。中高教科の国語科書写や高校書道に関する知識や指導に当たって必要な技能を身につけて授業が行えるようにできる。

<授業のキーワード>

中学校国語科書写 漢字の変遷と仮名の成立 毛筆を中心とした表現方法と指導方法

<授業の進め方>

硬筆・毛筆の表現法や技能を習得するため、演習を重視する。

<履修するにあたって>

技能の習熟には事前・事後の時間をとることが必要である。次回の授業のために準備や学習が求められる。

<授業時間外に必要な学修>

授業の前後の時間外学習として15時間程度の学習時間を必要とする。

< 提出課題など >

授業ごとに課題作品やレポートを提出する。

< 成績評価方法・基準 >

レポート・課題作品提出（60％）授業中の発表・準備・関心（40％）

< テキスト >

高等学校教科書（書 6教図 書 306）

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス・アンケート

授業ガイダンス（演習の方法や準備・評価について）・アンケート

第2回 文房四宝について

筆・墨・硯・紙その他、書の用具についての知識を習得する。

第3回 漢字・仮名の成立と変遷

平仮名・カタカナの字源について理解する。漢字の書体の変遷について資料を基に学習する。

第4回 漢字の筆順について

漢字の筆順についての原則を理解し、指導方法を考える。

第5回 毛筆による基本点画について

楷書の基本点画理解と技能を獲得する。

第6回 小学校・中学校書写について

小学校・中学校教材の指導法の理解と表現について学習する。

第7回 新学習指導要領について

新・旧の学習指導要領の相違点から新学習指導要領の目標をつかむ。

第8回 楷書の技法について

小・中学書写の目標から発展し、唐代の古典を臨書することにより技法を身につける。

第9回 行書・草書の技法について

王羲之 蘭亭序 空海 風信帖の臨書から行書の筆遣いを学習する。

第10回 漢字仮名交じりの書 1

小学校・中学校の漢字仮名交じりの作品の指導方法を学習する。

第11回 漢字仮名交じりの書 2

高等学校書道の漢字仮名交じりの作品の目標をつかむ。

第12回 隷書の技法について

漢代の隷書の特徴を学習し、臨書することで特徴を理解する。

第13回 篆書の技法について

篆書体（甲骨文・金文・小篆）を臨書することで特徴を理解する。

第14回 仮名について 1

平仮名の単体について理解し、仮名や変体仮名の表現に挑戦する。

第15回 仮名について 2

連綿について学習し、古筆の臨書を行う。

2022年度 後期

2.0単位

書道（資格）

岡本 弘行

< 授業の方法 >

講義・演習

< 授業の目的 >

書道の講義内容を踏まえ、さらなる古典教材の広がり  
と深化を図る。日常生活に用いる書についての様式などを理  
解し、表現できるようにする。また、書作品の製作や鑑  
賞を通じて身近な書に関心を持ち、生涯にわたり愛好す  
る心情を養うことも目標とする。

< 到達目標 >

様々な書についての理解と表現を可能とする。また、日  
常生活にある手書き文字に関心を持ち、必要に応じて表  
現する知識や技能を習得する。

< 授業のキーワード >

手書き文字の活用 実用書 作品制作と鑑賞

< 授業の進め方 >

古典教材の臨書を通して様々な表現ができるように知識  
や技能を習得する。作品制作に向けて、その狙いを明確  
にする。他者の作品を鑑賞することで、幅広い表現に触  
れたい。

< 履修するにあたって >

技能の習熟には事前・事後の時間をとることが必要であ  
る。次回の授業のために準備や学習が求められる。身の  
回りにある手書き文字や古筆、展覧会などの鑑賞をする  
こと。

< 授業時間外に必要な学修 >

日常から手書き文字について観察する習慣を身につける。  
また、機会があれば積極的に手書き文字を活用した取り  
組みをする。時間外学習として鑑賞や演習の学習時間を  
必要とする。

< 提出課題など >

授業ごとに課題作品やレポートを提出する。

< 成績評価方法・基準 >

レポート・課題作品提出（60％）授業中の発表・準備・  
関心（40％）

< テキスト >

高等学校教科書（書 6教図 書 306）

< 授業計画 >

第1回 殷代甲骨文字を学ぶ

中国書道史最古の文字について学習する。骨に刻まれ  
た文字

第2回 周代金文を学ぶ

青銅器に鑄込まれた文字について学習する。鑄型に彫  
られた文字

### 第3回 石鼓文を学ぶ

中国最古の石鼓文について学習する。石に彫られた文字

### 第4回 隸書を学ぶ

漢代の正式書体 隸書について学習する。筆で書かれた文字

### 第5回 木簡を学ぶ

筆の発展と実用の書木簡について学習する。木片に書かれた文字

### 第6回 草書を学ぶ

隸書から発展した早書きの書 草書について学習する。

#### 漢字の連綿

### 第7回 行書を学ぶ

同じく隸書から発展した実用の書 行書について学習する。漢字の連綿

### 第8回 楷書を学ぶ 1

北魏の楷書 始平公造像記を臨書し、新たな技法を学習する。

### 第9回 楷書を学ぶ 2

唐代の楷書 孟法師碑を臨書し、新たな技法を学習する。

### 第10回 仮名を学ぶ 1

平安時代の仮名 高野切第一種を臨書し、仮名の技法を学習する。

### 第11回 仮名を学ぶ 2

寸松庵色紙の臨書から散らし書きの技法を学習し、作品制作を行う。

### 第12回 漢字仮名交じりの書

漢字仮名交じりの書の作品を創作する。

### 第13回 身の回りの書の文字について

商品のラベルや看板、ポスター・パンフレットなどを探し、その文字の魅力について考える。

### 第14回 実用書を学ぶ

封書・はがき・金封の表書き、賞状の筆耕について学習する。

### 第15回 最終作品制作

今まで学んだ技法や気づいた文字の魅力をもとに作品を創作する。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

人文地理学 (資格)

西尾 正仁  
-----

#### < 授業の方法 >

対面による講義形式を原則としながら、受講生による調査・報告、実習を適宜取り入れる。なを、新型コロナウイルスの感染状況により、授業形態が変更される場合がある。

#### < 授業の目的 >

この授業は、全学DPに掲げる「共通教育を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している

」という到達目標に関連し、中学校社会科および高等学校地歴科の授業実施に必要な人文地理学的知識・技能・視点を習得すること目的とする。

なを、この授業の担当者は公立高等学校教諭を41年間にわたり務めた、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から、中・高等学校での授業実施に必要なスキルや考え方も併せて講義するものである。

#### < 到達目標 >

授業目的を達成するために、以下の到達目標を設定する。

- ・自然地理を含めた人文地理の基礎的知識を習得する。
- ・社会的諸事象を人文地理学的視点から理解しようとする態度を身につける。
- ・地図・統計を使って、物事を分析・判断したり、自分の主張を表現したりする技能を研鑽する。
- ・地理情報システム(GIS)への理解を深め、教育現場でGISを用いた学習を可能にするスキルを獲得する。

#### < 授業のキーワード >

主体的・対話的で深い学び、空間的相互依存、GIS、科目「地理基礎」

#### < 授業の進め方 >

講義中心で授業を進めるが、受講生による討議や実習を適宜織り交ぜて授業を進める。

授業終わりに、授業内容を確認するためのプリントを配布し、次の授業始めに回収する。

また、單元ごとに理解状況を確認するための小レポートを、前期と後期にレポートを課す。

#### < 履修するにあたって >

高等学校で地理A・Bを履修していない学生でも対応可能となるよう、基礎・基本から講義を実施する。将来中学校社会科・高等学校地歴・公民科の教員をめざす学生に受講してほしい。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

##### 事前学習

授業に関係するテキストを通読し、学ぶ内容や疑問点を整理しておく。(1時間)

##### 事後学習

講義最後に配布される確認プリントを完成させる。

#### (1時間)

單元ごとに出题される小レポートに取り組む。(3～4時間)

前後期に出题されるレポートに取り組む。(5～6時間)

#### < 提出課題など >

- ・授業ごとにだされる確認プリント
- ・單元ごとに出题される小レポート
- ・前後期レポート

#### < 成績評価方法・基準 >

・授業平常点(授業貢献度・討議参加・実習態度・確認プリント実施状況等) 30%

- ・小レポート6回 @5%  
30%
- ・前後期レポート @20%  
40%

<テキスト>

- ・帝国書院『資料 地理の研究』1,026円(税込)
- ・帝国書院『標準高等地図―地図でよむ現代社会』1,760円(税込)

<参考図書>

朝倉書店『地理学概論(第2版)』

<授業計画>

第1回 ガイダンス

講義の構成・評価方法の説明を受けた上で、2022年から実施される高等学校新指導要領から、科目「地理基礎」と「主体的・対話的で深い学び」について、学習する。

第2回 人間と環境

人文地理学の基本的な考え方である、地人相関と空間的相互依存について学ぶ。

第3回 空間を捉える(1)

地球上の絶対位置を表現する緯度と経度について学んだ上で、世界地図の投影法と特徴と用途を理解する。

第4回 空間を捉える(2)

世界地図をノートならびに黒板に描く技術を習得する。

第5回 空間を捉える(3)

地形図の基本的な読図技術について学ぶ。

小レポート出題

第6回 地形と生活(1)

営力(地形を形成する力)について学ぶ。

第7回 地形と生活(2)

大地形の成り立ちとそこで営まれる人間生活について学ぶ。

第8回 地形と生活(3)

河川が形成する地形とそこで営まれる人間生活について、地形図から読み解く。

第9回 地形と生活(4)

海岸地形・氷河地形等様々な地形とそこで営まれる生活を写真等を通じて読み解く。小レポート出題。

第10回 気候と生活(1)

気候要素の地理的分布を分布図等から読み解く。

第11回 気候と生活(2)

ケッペンの気候区分の概念を理解する。

熱帯・乾燥帯の景観と生活を、図表や画像から読み解く。

第12回 気候と生活(3)

温帯の景観とそこで営まれる生活を図表や画像から読み解く。

第13回 気候と生活(4)

亜寒帯・寒帯の景観並びに標高の差にもなう生活の変移を図表や画像から読み取る。小レポート出題。

第14回 自然環境と人間生活(1)

自然がもたらす観光資源や自然災害について学ぶ。

ハザードマップの利用方法を習得する。

第15回 自然環境と生活(2)

気候変動がもたらす人類的課題について考察する。

前期レポート出題。

第16回 経済地理(1)

世界の農業の地域性について学ぶ。

第17回 経済地理(2)

資源・エネルギーの分布とその交易について考察する。

第18回 経済地理(3)

工業立地とその歴史的变化について学ぶ。

第19回 経済地理(4)

貿易・交通・通信の様態を通じて、空間相互依存の実態と課題について考察する。小レポート出題。

第20回 社会地理(1)

国家の空間的構造と地域的統合の実態について考察する。

第21回 社会地理(2)

世界の人口分布と人口構成がもた課題について考える。

第22回 社会地理(3)

村落の歴史や立地を新旧地形図の比較等から読み解く。

第23回 社会地理(4)

都市の内部構造の変化や過密都市が抱える課題について学ぶ。

小レポート出題。

第24回 文化地理(1)

自然ならびに社会環境と生活文化の相互関係について考察する。

第25回 文化地理(2)

民族の概念を再検討し、文化の多様性を再確認する。

第26回 文化地理(3)

画像と動画から文化景観と文化変容について読み解く。

第27回 文化地理(4)

文化衝突と文化の画一化の2つの視点から、二元論的文化理解の問題点について考察する。小レポート出題。

第28回 地理情報システム(1)

ナビゲーションシステムや地図ソフト等を使って、地理情報システムが現代社会に浸透している現状を理解する。

第29回 地理情報システム(2)

フリーのGISソフトを使って統計地図を作成する。

第30回 総括

1年間を通して学んだ人文地理学的視点について振り返る。

後期レポート出題。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

人文地理学(資格)

西尾 正仁

-----  
<授業の方法>

対面による講義形式を原則としながら、受講生による調

査・報告，実習を適宜取り入れる。なを，新型コロナの感染状況により，授業形態が変更される場合がある。

#### < 授業の目的 >

この授業は，全学DPに掲げる「共通教育を通じて，広い教養を身につけ，豊かな人間性や社会性を涵養している」という到達目標に関連し，中学校社会科および高等学校地歴科の授業実施に必要な人文地理学的知識・技能・視点を習得すること目的とする。

なを，この授業の担当者は公立高等学校教諭を41年間にわたり務めた，実務経験のある教員であるので，より実践的な観点から，中・高等学校での授業実施に必要なスキルや考え方も併せて講義するものである。

#### < 到達目標 >

授業目的を達成するために，以下の到達目標を設定する。

- ・自然地理を含めた人文地理の基礎的知識を習得する。
- ・社会的諸事象を人文地理学的視点から理解しようとする態度を身につける。
- ・地図・統計を使って，物事を分析・判断したり，自分の主張を表現したりする技能を研鑽する。
- ・地理情報システム(GIS)への理解を深め，教育現場でGISを用いた学習を可能にするスキルを獲得する。

#### < 授業のキーワード >

主体的・対話的で深い学び，空間的相互依存，GIS，科目「地理基礎」

#### < 授業の進め方 >

講義中心で授業を進めるが，受講生による討議や実習を適宜織り交ぜて授業を進める。

授業終わりに，授業内容を確認するためのプリントを配布し，次の授業始めに回収する。

また，單元ごとに理解状況を確認するための小レポートを，前期と後期にレポートを課す。

#### < 履修するにあたって >

高等学校で地理A・Bを履修していない学生でも対応可能となるよう，基礎・基本から講義を実施する。将来中学校社会科・高等学校地歴・公民科の教員をめざす学生に受講してほしい。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

##### 事前学習

授業に関係するテキストを通読し，学ぶ内容や疑問点を整理しておく。(1時間)

##### 事後学習

講義最後に配布される確認プリントを完成させる。(1時間)

單元ごとに出题される小レポートに取り組む。(3~4時間)

前後期に出题されるレポートに取り組む。(5~6時間)

#### < 提出課題など >

- ・授業ごとにだされる確認プリント

- ・單元ごとに出题される小レポート

- ・前後期レポート

#### < 成績評価方法・基準 >

- ・授業平常点(授業貢献度・討議参加・実習態度・確認プリント実施状況等) 30%

- ・小レポート6回 @5% 30%

- ・前後期レポート @20% 40%

#### < テキスト >

- ・帝国書院『資料 地理の研究』1,026円(税込)
- ・帝国書院『標準高等地図-地図でよむ現代社会』1,760円(税込)

#### < 参考図書 >

朝倉書店『地理学概論(第2版)』

#### < 授業計画 >

##### 第1回 ガイダンス

講義の構成・評価方法の説明を受けた上で，2022年から実施される高等学校新指導要領から，科目「地理基礎」と「主体的・対話的で深い学び」について，学習する。

##### 第2回 人間と環境

人文地理学の基本的な考え方である，地人相関と空間的相互依存について学ぶ。

##### 第3回 空間を捉える(1)

地球上の絶対位置を表現する緯度と経度について学んだ上で，世界地図の投影法と特徴と用途を理解する。

##### 第4回 空間を捉える(2)

世界地図をノートならびに黒板に描く技術を習得する。

##### 第5回 空間を捉える(3)

地形図の基本的な読図技術について学ぶ。

##### 小レポート出題

##### 第6回 地形と生活(1)

営力(地形を形成する力)について学ぶ。

##### 第7回 地形と生活(2)

大地形の成り立ちとそこで営まれる人間生活について学ぶ。

##### 第8回 地形と生活(3)

河川が形成する地形とそこで営まれる人間生活について，地形図から読み解く。

##### 第9回 地形と生活(4)

海岸地形・氷河地形等様々な地形とそこで営まれる生活を写真等を通じて読み解く。小レポート出題。

##### 第10回 気候と生活(1)

気候要素の地理的分布を分布図等から読み解く。

##### 第11回 気候と生活(2)

ケッペンの気候区分の概念を理解する。

熱帯・乾燥帯の景観と生活を，図表や画像から読み解く。

##### 第12回 気候と生活(3)

温帯の景観とそこで営まれる生活を図表や画像から読み解く。

第13回 気候と生活(4)

亜寒帯・寒帯の景観並びに標高の差にともなう生活の変移を図表や画像から読み取る。小レポート出題。

第14回 自然環境と人間生活(1)

自然がもたらす観光資源や自然災害について学ぶ。ハザードマップの利用方法を習得する。

第15回 自然環境と生活(2)

気候変動がもたらす人類的課題について考察する。前期レポート出題。

第16回 経済地理(1)

世界の農業の地域性について学ぶ。

第17回 経済地理(2)

資源・エネルギーの分布とその交易について考察する。

第18回 経済地理(3)

工業立地とその歴史的变化について学ぶ。

第19回 経済地理(4)

貿易・交通・通信の様態を通じて、空間相互依存の実態と課題について考察する。小レポート出題。

第20回 社会地理(1)

国家の空間的構造と地域的統合の実態について考察する。

第21回 社会地理(2)

世界の人口分布と人口構成がもた課題について考える。

第22回 社会地理(3)

村落の歴史や立地を新旧地形図の比較等から読み解く。

第23回 社会地理(4)

都市の内部構造の変化や過密都市が抱える課題について学ぶ。

小レポート出題。

第24回 文化地理(1)

自然ならびに社会環境と生活文化の相互関係について考察する。

第25回 文化地理(2)

民族の概念を再検討し、文化の多様性を再確認する。

第26回 文化地理(3)

画像と動画から文化景観と文化変容について読み解く。

第27回 文化地理(4)

文化衝突と文化の画一化の2つの視点から、二元論的文化理解の問題点について考察する。小レポート出題。

第28回 地理情報システム(1)

ナビゲーションシステムや地図ソフト等を使って、地理情報システムが現代社会に浸透している現状を理解する。

第29回 地理情報システム(2)

フリーのGISソフトを使って統計地図を作成する。

第30回 総括

1年間を通して学んだ人文地理学的視点について振り返る。

後期レポート出題。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

人文地理学(資格)

金子 直樹  
-----

<授業の方法>

講義(対面授業)

ただし今後の状況によっては遠隔授業(オンデマンド授業)になる可能性もある。

\*金子個人のメールアドレス: ダミー@human.kobegakuin.ac.jp

<急激な感染拡大に伴う授業形態の一時的变化について>  
4月27日? 6月15日は授業形態をオンデマンド授業に変更します。

6月20日(日)に緊急事態宣言が解除された場合 対面授業(講義)に戻ります。

10月5日以降の授業は対面授業とする。

<授業の目的>

この科目は、全学のDPに示す、に掲げる「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」という方針のもと、人文地理学的内容を理解し、地理学的な視点を習得することを目的とする。

地理学は地域(region)や空間(space)、景観(landscape)、場所(place)など規定される対象の特徴および一般性を明らかにするという目的のもと、広範な人文・自然の両科学において研究がなされてきた。本講義では、人文地理学的内容である以下のテーマを中心に扱う。地理学的基本的資料となってきた地図の歴史と特徴、地図の中で特に精緻な地形図から確認される村落地域と自然環境との関わり、地域の歴史の変遷、都市の構造や機能(その画定・都市化・機能の地区別分化・郊外の開発)、人口と社会の変動(世界・日本の人口推移およびそれともなう種々の問題等)、様々な文化景観(歴史的景観の保全と活用など)への理解。各事例を概説しながら、地理学の特徴や視点などを確認していく。

<到達目標>

以下のような地理学的視点や考え方が理解できることを目標とする。地図資料の読み方や特徴、村落の形態やその立地に関連する地形、地域における歴史的痕跡を理解できる。様々な地域や地図について、自分でその地理的特徴を理解することができる。都市の変容や構造、人口の変動による社会へのインパクト、環境や政治経済現象と地域文化の状況を理解できる。都市や地域文化の諸相について、自分でその地理的特徴を理解することができる。

<授業のキーワード>

人文地理学・地図・地域・集落・村落・歴史・都市・人口・文化・景観

<授業の進め方>

地図・資料を配布・提示しつつ講義を進めるが、資料としてドキュメンタリーやニュース番組を紹介することもあ

る。  
<履修するにあたって>

高校社会科の地理を履修していなくても対応可能な講義とする予定である。ただし教職科目ということで、社会科の教員免許という点では、歴史学の知識や見方のみならず、地理学的な側面も必要となるので、本講義で少しでも地理学や地理的な話に関心を持ってのぞんでいただきたい。

<授業時間外に必要な学修>

授業各回の内容を事後に復習(15分)して、次回にのぞむこと。

<提出課題など>

毎回講義終了前に、講義内容に対する意見・感想・疑問点などをまとめる課題を行う。次の授業時にその総評などを行う。また上記課題や定期試験は、請求があれば採点基準や判定を文書にて回答する。

<成績評価方法・基準>

講義中の課題(30%)前期についてはレポート(35%)  
・後期については定期試験(35%)

<参考図書>

山口 覚・水田憲志・金子直樹・吉田雄介・中窪啓介・矢嶋 巖『図説 京阪神の地理(仮題)』ミネルヴァ書房、2019年。他は必要に応じて講義中に紹介する。

<授業計画>

第1回 ガイダンス:地理学の特徴と教職課程との関連  
地理学の概要および授業構成、成績評価などについて説明する。

第2回 地図の歴史

地理的世界の図化とそれに関連する地理的知識の拡大や理解について理解する。

第3回 地図の政治性

正確性を意図している地図の背後にある政治や軍事との関連について理解する。

第4回 地形図の歴史と読み方

地形図作成の歴史とその読図の特徴(縮尺・等高線・記号など)について理解する。

第5回 村落の立地と地形と関係1:「水」を必要とする村落

扇状地における村落立地の特徴をから水の有無の重要性を理解する。

第6回 村落の立地と地形と関係2:「水」を避ける村落  
氾濫原における村落立地の特徴から洪水との関係性を理解する。

第7回 村落形態の諸相

様々な村落の形態的特徴を確認し、地形との関連や歴史的背景を理解する。

第8回 散村の特徴と背景1:散村の特徴と気象現象

日本の典型的とされる砺波平野の散村について、その特

徴や立地の背景を理解する。

第9回 散村の特徴と背景2:散村立地の起源をめぐって  
砺波の散村について、その歴史的背景(加賀藩や集村化)や地形(扇状地)との関連を理解する。

第10回 農地に残る古代の開発の痕跡

古代に行われた農地区画整備(条里制)およびその痕跡の特徴を理解する。

第11回 道路から見る歴史

古代に整備され、その後変容した道路(古代官道とその名残)の特徴や痕跡を理解する。

第12回 古代都市の特徴とその痕跡

平城京や平安京などの古代都市(都城)の特徴やその痕跡を理解する。

第13回 古代都市の変容とその痕跡

平安京であった京都の変容について、特に豊臣秀吉との関連を理解する。

第14回 近世城下町の特徴とその痕跡

近世城下町の特徴とその痕跡

第15回 城下町の変容

近現代の開発等による変貌した城下町の特徴を理解する。

第16回 ガイダンス:日本の大都市

日本の大都市(政令指定都市)の種々の統計データからその特徴を確認する。

第17回 都市の特徴

都市の概念や画定についての様々な基準(人口・人口密度・景観・機能など)を理解する。

第18回 都市の発展

都市化による都市域の拡大およびその実像について理解する。

第19回 都市の衰退・再生

都市の人口減少や社会経済的衰退およびその再生の実像について理解する。

第20回 都市構造の諸相

同心円モデルとセクターモデルなどの大都市の構造モデルについて理解する。

第21回 都市近郊地域の開発

鉄道の整備と近郊地域の開発について理解する。

第22回 郊外住宅地の誕生

鉄道会社を中心にした住宅地開発について理解する。

第23回 世界の人口

人口の世界的分布と歴史的推移、および関連する問題について理解する。

第24回 日本の人口

日本の人口推移、およびそれに関連する地域の変容について理解する。

第25回 人口と都市問題

都市への人口移動、およびそれに関連する都市問題について理解する。

第26回 文化景観と地域

文化景観には自然環境および政治社会経済的背景が複雑



に関係していることを理解する。

## 第27回 歴史的景観の保存と活用

古い町並みや集落が保存され、それらが観光化していることを理解する。

## 第28回 農村および周辺地域の保存と活用

棚田や里山などの景観が注目され、その維持と活用が図られていること理解する。

## 第29回 文化景観に関する社会的背景

1960?70年代における景観をめぐる動向(古都法やディスプレイジャパンなど)について理解する。

## 第30回 サブカルチャーと景観

サブカルチャーが現代の景観に与える影響(形成や意味付け)について理解する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

生徒・進路指導論 (資格)

磯辺 次雄  
-----

< 授業の方法 >

対面形式 講義

< 授業の目的 >

生徒指導は一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会で生きるために必要な資質・能力を高める取り組みである。本講義は生徒指導を行うために必要な教師としての知識と理解を深めることを目的とする。受講者は自らの学校体験を振り返り、学校における人間関係の問題や、現実に生じている教育問題などを取り上げ、教員としての立場でどのようにして問題解決を図ることができるか考えてみる。これを通して多様な専門知識の獲得や協働して活動できる社会的態度の形成を目指す。

なお、この科目の担当者は中学校現場の実践および教育委員会での指導を経験した実務経験のある教員であり、現場での実践に向けて必要な知識・態度や実践事例を受講できる。

< 到達目標 >

本講義の学習により、学校における生徒指導の目的と原理を理解する。生徒指導の具体的な指導を実践できるように理解する。子どもの人権を尊重し、その発達や問題を理解・考察できる。進路指導論を含む生徒指導上必要な知識を身に付ける。多様な視点から教育問題とらえ主体的に問題に対応する力を養う。

< 授業のキーワード >

生徒指導、進路指導、キャリア教育、子どもの人権、合理的配慮、いじめ、不登校、人間関係

< 授業の進め方 >

基本的には講義を主とするが、講義の内容に応じて事例を導入し、教育事例についての集団討議を行う。

< 履修するにあたって >

生徒指導の学習は、現実に生じている多様な教育問題への関心を持つことが最も重要であり、それぞれの教育問題について、自分が教師であればどう考えどう対処するか、そのためにはどんな知識やスキルが必要かを常に考えるようにしていただきたい。

< 授業時間外に必要な学修 >

テーマにかかわる新聞記事や文献を探し、読むこと。

最終

レポートに向けて自分の関心をまとめておくこと。

< 提出課題など >

毎回ミニレポートの提出をもとめる。(講義時間内に書いてもらいます。15分程度)

レポートはコメントを加えフィードバックするので、最終レポート作成に活かしてください。

最終レポートはA4版2枚程度を求める。

< 成績評価方法・基準 >

課題のレポート(60%) 毎時間講義終了後のミニレポートの記載内容(40%)で評価する。

< テキスト >

文部科学省『生徒指導提要』

改訂版が出る予定ですので、講義の中で指示します。

< 授業計画 >

### 第1回 生徒指導の意義と課題

生徒指導の意義 教育課程における生徒指導の位置づけ  
学習指導における生徒指導

### 第2回 児童期・青年期の心理と発達

前提となる発達観・指導観 児童生徒理解の基本

### 第3回 児童期・青年期の心理と発達

児童期の心理と発達 具体的操作段階 抽象的概念 青年期の心理と発達

### 第4回 発達の課題と発達障害

発達障害の理解 合理的配慮とは

### 第5回 個別の課題を抱える生徒への指導

問題行動の早期発見 暴力行為の課題

### 第6回 個別の課題を抱える生徒への指導

いじめに関わる課題 インターネット・スマホの課題

不登校の課題

### 第7回 学校における生徒指導体制

生徒指導の方針と共通理解 指導体制の確立 資料の保管・活用

### 第8回 キャリア教育の基礎理論

進路指導からキャリア教育へ 基礎的・汎用的能力

### 第9回 キャリア教育と教科指導・特別活動・総合的な学習の時間

授業づくりの手順 特別活動・総合的な学習の時間における進路指導

### 第10回 教育評価について

教育評価の種類と目的 目標の設定

### 第11回 生き方を考える進路指導

キャリア教育と道徳教育・生徒指導・進路指導との関連  
第12回 学校と家庭・地域・関係機関との連携  
地域との関わり 職場体験活動 トライやる・ウィーク  
第13回 生徒指導の現場から  
短縮事例研究  
第14回 社会の形成者としての資質のまとめ  
生徒指導の目的とするところ  
第15回 社会の形成者としての資質のまとめ  
生徒指導・進路指導の目的とするところ

-----  
2022年度 前期

2.0単位

生徒・進路指導論（資格）

小寄 麻由  
-----

< 授業の方法 >

対面授業（講義、演習）

< 授業の目的 >

本講座は教員免許取得に必要な資格授業科目であり、学校教育における「生徒指導」・「進路指導」の在り方に関する基本的な知識やスキルを獲得し、教員としての実践力を身につけることが目的である。具体的な生徒指導の事例を様々な視点から考察することにより、教育現場での実践力を身につける。また進路指導の実際についても学習し、中高生のキャリア形成を図ることのできる教員になることを目指す。これは、本学ディプロマ・ポリシーの「専門分野に高い関心を持ち、専門領域の課題を考察し、解決するための知識や技能を身につけている」学生の育成につながるものである。なお、この授業の担当者は、教育現場で20年以上の実務経験のある教員である。

< 到達目標 >

事例や文献について学生同士で意見を出し合い、協調的、建設的な議論ができる。

生徒理解について最新の教育理論を説明することができる。

学校現場での生徒指導の実際を、豊富な事例から考察し、最適な指導を結論づけることができる。

キャリア形成としての進路指導の実際を、豊富な事例から考察し、最適な指導を結論づけることができる。

< 授業のキーワード >

生徒理解、自己形成、カウンセリングマインド、学級経営、いじめ、不登校、保護者対応、キャリア教育

< 授業の進め方 >

テキストとして示した小説の示された章を読んでから授業に臨み、少人数のグループで議論する。

生徒指導や進路指導の事例を学生同士で議論し、理解を深めるとともにコミュニケーション能力を高める。

ロールプレイやワークショップ形式の授業形態を取り、主体的で対話的な学習を行う。

授業時間外に教職サポート室を訪れて相談員の先生と課題を作成することを求める。

< 履修するにあたって >

小説を読んでくる、質の高いレポート課題を出すなどの自主的な学習を求める。

授業に意欲的に取り組み、学生同士の相互交流を積極的に行うことを求める。

< 授業時間外に必要な学修 >

テキストとして示した小説から毎回数章ずつ指定された部分を事前に熟読し、生徒指導として重要と思われる部分に付箋を貼って持参すること。（毎時間30分）

レポート2回と、最終講義の記述テストに向けて自主的に学習すること。（目安として1回のレポートに3時間）

2回目のレポートは教職サポート室を訪問しなければ書くことができない。必ず相談員の先生のお話を伺うこと。（目安として1時間）

< 提出課題など >

レポート課題は前期1回、中期1回の計2回を予定している。期日までに提出すること。

レポート課題の期日や内容は授業中で指示する。提出されたレポートは授業のなかで相互評価する。

出席カードに講義内容についての感想を必ず記入して提出すること。

最終講義で課題の論述を求め、その内容も成績評価に加味する。

< 成績評価方法・基準 >

出席カードの記載内容（30%）、レポート課題（40%）、最終講義での課題の論述（30%）（定期試験は実施しない）

< テキスト >

長田黎『若葉の頃に』（文芸社）・『生徒指導・進路指導の理論と実践』（法律文化社）

< 参考図書 >

文部科学省『生徒指導提要』（教育図書）

< 授業計画 >

第1回 生徒指導の意義と理解

1, 生徒指導とは何か、その考え方と意義 2, 生徒指導の目標 3, 教育課程と生徒指導の関係

第2回 生徒指導の原理

1, 人間観と発達観 2, 教育観と指導観 3, 集団指導と個別指導

第3回 教育課程と生徒指導

1, 教科指導における生徒指導 2, 道徳教育における生徒指導 3, 特別活動における生徒指導

第4回 学級経営

1, 生徒との信頼関係 2, 係活動 3, 学級掲示 4, 学級通信

第5回 保護者対応

1, 保護者との信頼関係 2, 家庭訪問 3, 懇談

4, 電話連絡			
第6回 生徒の心理とその理解			
1, 児童・生徒の発達と問題	2, 発達障害	3,	
多様な生徒の理解と方法			
第7回 教育相談			
1, カウンセリングマインド	2, 教育相談	3,	
学外機関との連携			
第8回 特別活動と生徒指導			
1, 生徒会活動	2, 学校行事	3,	校外学習
4, 宿泊行事			
第9回 生徒指導の個別課題			
1, いじめ問題	2, 中途退学問題	3,	LGBTQ
第10回 不登校			
1, 不登校とは	2, 不登校の原因	3,	初期対応
4, 不登校支援			
第11回 学校の危機管理			
1, 日常生活の中の危機管理	2, 長期休業中の危機管理	3,	災害時の危機管理
第12回 体験学習の実際			
1, 体験学習の意義と役割	2, 体験学習の実際	3,	学校外での体験学習
4, 地域社会との連携協力			
第13回 進路指導体制			
1, 進路指導と進路保障の関係	2, 校内進路指導体制の組織と役割	3,	生きる力の開発と進路問題
第14回 キャリア教育と進路指導			
1, キャリア教育とは何か、その基本的方向	2,		進路指導における保護者との連携の在り方とその方法
第15回 講座のまとめ			
1, メタ認知	2,		本講座のまとめ

-----

2022年度 後期

2.0単位

生徒・進路指導論 (資格)

立田 慶裕

-----

< 授業の方法 >

遠隔講義 (オンデマンド講義) か、対面かは、後期の状況で判断します

録画されたファイルは、dot compass  
または、one drive にアップされます。

< 授業の目的 >

生徒指導は、現実社会で暮らす生徒の生活を踏まえながら、学校において生徒の人格を尊重し、個性を伸ばし、社会で生きるために必要な資質と能力を育てる教育的取り組みである。本講義は、生徒指導を行うために必要な教師としての知識と理解を深め、実践的なスキルの習得を目的とする。受講者は、自らの学校体験を振り返り、

学校における人間関係の問題や現実に生じている教育問題について考えながら、教員としての立場でどのようにしてその問題解決を図ることができるか、そのための多様な制度的工夫、教育的工夫を学んでもらいたい。本講義によって、本学のDPに掲げられた教員としての専門知識とスキル、協働して活動できる社会的態度の形成を目指す。担当教員は、国立教育政策研究所にて20年以上の教育実践と理論研究に関する実務経験を生かし、教員に関する理論的・実証的な研究成果を本講義に反映させていく。

< 到達目標 >

本講義の学習により、(1)学校における生徒指導の目的と原理を理解できる。(2)生徒指導の具体的な指導法を理解し、実践できる。(3)子どもの人権を尊重するとともに、その発達や問題を理解し、考察できる。(4)進路指導を含む生徒指導上で必要な知識と力量を高めることができる。(5)教育問題への多様な視点を学び、自主的、自律的に問題に対応する力を持つことができる。

< 授業のキーワード >

生徒指導、進路指導、進学指導、キャリア教育、子どもの人権、合理的配慮、いじめ、不登校、人間関係

< 授業の進め方 >

基本的には、講義を主とするが、講義の内容に応じて、事例を導入し、教育事例についての集団討議を行う。

< 履修するにあたって >

生徒指導の学習は、現実に生じている多様な教育問題への関心を持つ事が最も重要であり、それぞれの教育問題について、自分が教師であればどう考え、どう対処するか、またそのためには、どんな知識やスキルが必要かをいつも考えるようにしていただきたい。

< 授業時間外に必要な学修 >

事前学習は、次回のテーマに関わる新聞記事や文献を探し、1時間程度読むこと。

事後学習については、各回に提示するが、最終レポートに向けて自分の関心を1時間程度でまとめておくこと。特に、学習コンテンツとして用意する「生徒指導提要」(PDF)については、2時間程度をかけて精読しておくこと。

< 提出課題など >

毎回の講義で、講義課題についてのアンケートを求める。コンテンツの『生徒指導提要』などの教材をよく読むこと。

< 成績評価方法・基準 >

毎回のミニレポートをmanaba上で求めます。

manabaへのアンケートを行ってください。

最後に、manaba上のテストで、評価します。

ミニレポートが70%、最終テスト30%の配分で評価を行います

< 参考図書 >

文部科学省『生徒指導提要』(PDF)。平成22年、授業内で提供

< 授業計画 >

第1回 生徒指導の意義と課題

ガイダンスと共に、教育課程における生徒指導 集団指導と個別指導 各教科別の生徒指導などについての講義を行う。

第2回 青少年期の発達の理解

児童期、青年期の心理と発達の課題 等の講義と学習

第3回 学校における生徒指導体制

生徒指導の方針、共通理解、組織的指導、教育相談、指導計画の作成と教員研修 について学ぶ

第4回 生徒指導の進め方

全体指導と個別指導、チームによる指導、生活習慣の確立、問題行動の発見、リスク管理について学ぶ

第5回 個別の課題への指導 1

暴力問題、いじめ問題を中心に学ぶ

第6回 個別の課題への指導 2

不登校、中途退学問題を中心に学ぶ

第7回 生徒指導に関する法制度等

校則の運用、懲戒と体罰、保護育成法令等について学ぶ

第8回 学校と家庭・地域・関係機関との連携

地域と家庭の教育との連携、社会的リテラシーの育成、体験学習について学ぶ

第9回 発達障害児の理解と生徒指導

発達障害児の学べる学校と統合教育や合理的配慮について学ぶ

第10回 キャリア教育の基礎理論

進路指導、進学指導は、生涯にわたるキャリアという視点から、キャリア教育の概念の中で考察されるようになってきた。まずはその基礎知識を学ぶ

第11回 中学校の進路指導

中学生の進路問題、進学問題、職業体験学習について考える。

第12回 高校の進路指導

高校生の進路問題、進学問題とともに、ボランティア学習の課題を考える。

第13回 生活指導と自律性・自立性の発達

生徒指導と進路指導は、生徒の生活指導と深い関係を持ち、特に生徒の自律性や自立性と深く関わっている。では、子どもたちが自律性と自立性を育てるには、どのような指導が必要かを考える。

第14回 生徒・進路指導の課題の探究

受講生が個別に関心を持つ生徒指導の問題について、参考文献を収集し、個別の生徒指導の問題についてのレポートを作成する。

第15回 課題のまとめ

前回に引き続き、レポートを個別にまとめて提出し、これまでの講義のまとめを行う。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

生徒・進路指導論（資格）

山下 恭  
-----

< 授業の方法 >

○対面での「講義」形式の授業を行います。

○毎回出席カードに授業の感想・意見・質問を書いてもらいます。

○学級経営実践記録を読みます。またその感想文を毎回提出してもらいます。

○学級経営、生徒会指導、人権教育指導、進路指導、部活指導、家庭訪問、危機管理などの項目を取り上げます。

< 授業の目的 >

学校教育の中でも重要な位置を占める生活指導と進路指導についてその現状を知る。「生徒指導論」の分野については、具体的な指導事例を学級経営実践、生徒会指導、部活動指導などから取り上げて解決方法を考察する。「進路指導論」については生徒の進路を支援する具体的な方法について考察する。担当講師は中学校8年間、高等学校33年間の勤務経験があり、大学の教職課程の教育に12年間携わった実務経験のある教員である。

< 到達目標 >

生活指導の意義を理解する 生活指導の事例を研究し、解決しようとする意欲を持つことが出来る。生活指導の目標には問題行動への対処のみならず、仲間づくりにより好ましい人間関係を作ることにあると理解把握し、それにもとづいて基本的な指導力を養うことができる。進路指導論を学ぶことで基本的な指導法を身につけることが出来る。

< 授業のキーワード >

学級経営 生徒会・リーダー指導 保護者面談 家庭訪問 生活指導 問題行動 スクールカウンセリング 進路指導 就職 公務員 面接指導

< 授業の進め方 >

講義および事例研究が中心になります。受講生の意見も求めます。

教育実践記録などを読み、感想や考えをレポートにまとめてもらいます。

課題レポートを課します。

< 履修するにあたって >

時間厳守のこと。途中の退出は認めません。

授業に積極的に参加し、積極的に発言してください。

授業に臨むにあたって資料をmanabaに掲載することがあります。

10回以上の出席が必要です。

20分以上遅れての入室は欠席扱いとします。

携帯電話の操作は禁止。携帯電話は電源を切ってカバ

ンの中へ仕舞ってください。

授業中の飲食は禁止。飲食物を机上に置かないでください。

< 授業時間外に必要な学修 >

この科目では毎回の予習と復習に2時間必要です。複数回課題がでますが、1回の課題研究レポートの作成に授業時間外に3時間の学修が必要です。

< 提出課題など >

課題・レポート（課題は授業中に指示します）

< 成績評価方法・基準 >

出席カードに毎時間課せられる意見・感想・質問

課題レポートの提出と内容評価

学級経営実践記録を読み、毎回提出する感想文

前期j実施予定の定期考査の成績

< テキスト >

講師が資料を配布します。

< 参考図書 >

文部科学省「生徒指導提要」

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス 開講にあたって

自己紹介 本講座の目的 授業の進め方 評価について

質疑応答

第2回 学級経営（1）生徒との信頼関係の構築

1．学級づくり 担任と生徒の信頼関係の構築

第3回 学級経営（2）保護者との信頼関係を結ぶ

1．保護者との信頼関係構築

第4回 部活指導 顧問の役割

1．家庭訪問指導（中学校・高等学校）

第5回 生徒会 リーダー指導とその成果

1．学年集会指導 2．生徒会活動の指導

第6回 生活指導（1）事例研究

1．クラスになじめない生徒の事例研究

第7回 生活指導（2）事例研究

1．いじめ・集団暴力行為の事例研究

第8回 災害・事故の発生とその対応 学校の危機管理

1．事故が発生したら 2．阪神・淡路大震災と学校

第9回 学校カウンセリング こころの相談

1．学校カウンセリング

第10回 生活指導と人権教育 他者を尊重し生き方を学ぶ

1．在日韓国人3世をめぐる進路指導上の問題

第11回 中学校の進路指導 高校入試に向けて

1．高校入試に向けて 2．三者面談 3．キャリア教育

第12回 高等学校の進路指導 進路の決定に向けて

1．高校の進路指導の実際 進路調査 三者面談  
大学・短期大学・専門学校 理系か文系か

第13回 公務員・就職指導 社会の一員としての自立

1．面接指導の重要性 2．民間企業への就職 3．公務員への就職

第14回 教員採用試験について

1面接試験の内容 生徒指導・進路指導関連の質問とその対応

第15回 生徒指導・進路指導の総括

授業アンケートなど

-----  
2022年度 後期

2.0単位

西洋の歴史（資格）

北村 厚

-----  
< 授業の方法 >

講義

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部DP1、2および人文学科DP1,2で示される教養としての基礎知識及び人間の文化についての専門知識を身につけることを目指すものです。

「西洋の歴史」では、いわゆるグローバル・ヒストリーを学びます。グローバル化が進む現代において、世界の歴史をただ各国別・時代別に学ぶのではなく、地球儀を俯瞰する視点から世界全体の動きを学ぶことが重要です。そこでは国家や英雄たちではなく、海や山や砂漠を超える人々の動きや、商品の交易、気候や疫病といった自然環境の影響、さらに文字や宗教といった人々の生活にかかわる文化の交流が主人公となります。すなわち異文化間ネットワークの歴史です。

世界中がつながるネットワークの一端には、当然ながら日本も加わっていました。グローバル・ネットワークにおける日本の役割の変遷を知ることによって、日本人の歴史を人類史的な視点で眺めなおすことができます。これによってグローバル時代に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養います。これは2022年度からはじまる「歴史総合」や「世界史探究」において必要なスキルとなります。

なお、この科目の担当者は、世界史を専門として高等学校での専任講師を3年間経験していた、実務経験のある教員です。従ってこの授業では、教職科目として必要な知識として、高校世界史の教科知識を身につけることができます。

< 到達目標 >

- 1．世界の諸地域の歴史を、異文化ネットワークの観点から結びつけて説明することができる。
- 2．日本史をグローバルな歴史から考えることができる。
- 3．世界史を題材として主体的に「問い」を立て、歴史的思考力を身につける。

## < 授業のキーワード >

グローバル・ヒストリー 海域アジア 異文化間ネットワーク 歴史総合 世界史探究 アクティブ・ラーニング

## < 授業の進め方 >

教科書と配布資料をもとに、スライドで授業をします。ノートを必ず取るようにしてください。授業の最後に課題を出しますので、3日間の期限で時間外に復習として課題に取り組み、DotCampusに投稿してください。

## < 履修するにあたって >

私語や途中退室は厳禁です。授業を受ける最低限のマナーを守ってください。

## < 授業時間外に必要な学修 >

授業の予習として、必ずテキストの次の範囲を読み込んでおいてください(1時間)。さらに復習として、授業後に課題に取り組みてください(1時間)。

## < 提出課題など >

毎回授業の最後に課題を提示します。3日間の期限でDotCampusに投稿してください。次の回の冒頭でフィードバックを行います。

## < 成績評価方法・基準 >

毎回の課題7点満点×15=105点で採点し、成績評価をします。

## < テキスト >

北村厚『教養のグローバル・ヒストリー 大人のための世界史入門』ミネルヴァ書房、2018年

## < 参考図書 >

小川幸司『世界史との対話 70時間の歴史批評』(上・中・下)地歴社、2011年

前川修一・梨子田喬・皆川雅樹『歴史教育「再」入門 歴史総合・日本史探究・世界史探究への「挑戦」』清水書院、2019年

## < 授業計画 >

### 第1回 グローバル・ヒストリーとは何か

最初に授業の概要を説明します。これまで日本史に限らず世界史においても各国史の集合体であることが少なくありませんでした。また避けがたい西洋中心史観も問題でした。これら乗り越えようとするグローバル・ヒストリーの試みを紹介します。

### 第2回 世界史探究のための「問い」

歴史教育の現場では、2022年に実施予定の「歴史総合」や「世界史探究」に向けた準備が進んでいます。これまでの歴史教育と異なり、史料の読み解きや生徒間のグループワークを想定した「主体的・対話的で深い学び」の実践が必要とされています。その成功は、いかにして生徒の興味を引き出し、能力を身につけさせる「問い」を創出するにかかっています。以降、受講生には毎回「問い」を創出してもらいますが、そのための方法論や考え方をレクチャーします。

### 第3回 大モンゴルのユーラシア：13世紀～14世紀

13世紀、モンゴルのチンギス・ハンによってユーラシア大陸の東西が直接結びつけられます。彼とその後継者たちは大陸と海洋を有機的に結び付け、周辺諸国をもまきこむ「ユーラシア・ネットワークの円環」を作り出します。空前の大帝国の時代と14世紀におけるその崩壊を概略します。

### 第4回 大交易時代の到来：15世紀

明帝国は鄭和の大船団を南海に派遣し、海域アジアを再び結びつけました。明を中心とする「海禁＝朝貢体制」は早期に破綻し、むしろ琉球王国やマラッカ王国、ヴィジャヤナガル王国といった海域アジア諸国の活躍により、「大交易時代」を迎えます。

### 第5回 15世紀の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

### 第6回 世界の一体化：16世紀

16世紀はグローバル・ヒストリーの画期をなします。大西洋へと漕ぎ出したポルトガルとスペインの活躍によりヨーロッパのアジアとアメリカへの進出が始まり、オスマン帝国の発展によりムスリム商人のネットワークが強化され、新大陸と日本からの銀が世界を結びつけます。言葉の真の意味での「グローバル・ネットワーク」の成立です。

### 第7回 16世紀の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

### 第8回 大交易時代の終焉：17世紀

ヨーロッパの海洋帝国はポルトガルからオランダに交代し、天下統一成った日本の江戸幕府は海域アジアへと朱印船を派遣して、大交易時代はさらに繁栄しましたが。しかし日本の鎖国と明清交代は交易を縮小させ、大交易時代は終わりを迎えます。

### 第9回 17世紀の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

### 第10回 アジア/大西洋の分岐点：18世紀

江戸幕府・清・オスマン帝国といった長期的な大帝国の安定によってアジアは平和の時代を迎え、人口も激増します。一方ヨーロッパは大西洋を舞台に戦争を繰り返し、やがてイギリスが覇権を握るに至ります。大西洋のネットワークは「環大西洋革命」を引き起こし、ヨーロッパの成長がアジアを圧倒していく原動力になるのです。

### 第11回 18世紀の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

### 第12回 不平等なネットワークの構築：19世紀前半

ナポレオン戦争を経てグローバルな海洋帝国となったイギリスは、アメリカ・アジアへと進出し、諸国と不平等条約を結んでいきます。英領インドで生産されたアヘンは中国に流れ込み、アヘン戦争を引き起こします。中国

を組み込んだ不平等なネットワークはタイや日本をも巻き込み、欧米列強が次々とアジアへと進出し、世界は激動の時代を迎えるのです。

#### 第13回 19世紀後半の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

第14回 ネットワークの緊密化と「帝国」：19世紀後半19世紀はグローバル・ネットワークの完成の時代です。世界中に蒸気船航路や鉄道網が張り巡らされ、さらにアメリカ横断鉄道とスエズ運河によってネットワークの短縮化が完成しました。欧米列強だけでなく、アジア諸国もこのネットワークを利用し、欧米の支配に対抗していくこととなります。欧米の「帝国」とそれに抗するアジアのネットワークの関係を学びます。

#### 第15回 19世紀後半の「問い」

前回課題として提出された「問い」を分類・提示し、皆でどのような歴史批評が行えるか考えます。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

総合的な学習の時間・特別活動の指導法（資格）

山下 恭

#### ----- < 授業の方法 >

○この授業は対面で行います。

#### 1．特別活動

○現在中学校・高等学校で行われている事例について紹介します。

○受講生の小学校～高等学校までの学校生活を振り返りかえる目的で課題を課します。

○教師の立場に立って、諸活動を模擬体験することを目的にしています。例えば「学級通信」の作成、「校外学習の実施計画」の作成、LHRの計画、夏休みの合宿計画の作成などのプランを練ってもらいます。

○人権教育の取り組みについて紹介し、その意義を考えます。

#### 2．総合的な学習の時間

○現在中学校や高等学校で行われている事例を紹介します。

この授業では教師が教育現場で行っていることを追体験します。また多くの課題がでます。

#### < 授業の目的 >

学校教育の中でも特別活動は生徒の心を豊かにし成長させる教育活動として重要なものである。中学校・高等学校の特別活動を振り返った時、最も印象に残った学校行

事は特別活動の行事であったことが多い。特別活動の意義を知り、より良い人間関係を生徒相互に築かせ、なおかつ社会性を養うための特別活動のあり方を学ぶことがこの講座の目的である。担当講師は中学校8年間、高等学校に33年間の勤務経験があり、大学の教職教育にも12年間携わった実務経験のある教員です。体験にもとづいた具体的な話を盛り込みながら授業を行います。

#### < 到達目標 >

特別活動の全体像を把握できる。年間指導計画を立てることができる。特別活動の指導案を作成できる。

特別活動の意義を理解しその実践に意欲的に取り組むことができる。

#### < 授業のキーワード >

生徒会 学級活動 LHR活動 仲間づくり 文化祭 体育大会 校外学習 部活動 総合的学習の時間

#### < 授業の進め方 >

講義および課題テーマでの討議。授業中に課題を与え適宜レポートの提出を求める。

manabaレポート欄への提出を原則とするが、その都度指示します。

授業の意見・感想・質問などを出席カードに記すこと。教職サポート室の指導員の方の協力を得て課題レポートを作成してください。

#### < 履修するにあたって >

出身中学校や高等学校での様々な行事についての資料（文集・しおり・行事予定プリント）を集めておいてください。

10回以上の出席が必要です。満たない場合は評価できません。

20分以上遅れての入室は欠席扱いとします。

授業中の飲食は禁止。また携帯電話は電源を切ってカバンの中へ仕舞ってください。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

この科目はt対面授業でおこないます。授業終了後、それをまとめるのに授業時間外に2時間の学修が必要です。複数回出される課題レポートの作成にそれぞれ2時間かかります。例えば課題として出される「学級通信」の作成には4時間ほど時間外の学修が必要です。

#### < 提出課題など >

課題レポート

（例） 校外学習指導案 LHRプランの作成 学級通信作成 部活動合宿計画 文化祭プラン 生徒会活動プラン

#### < 成績評価方法・基準 >

課題レポートなど提出物

出席カードに毎回記入する完走・意見・質問など

定期考査の成績評価

#### < テキスト >

講師がプリントなどの資料を用意します

< 参考図書 >

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』  
文部科学省『中学校学習指導要領』

< 授業計画 >

第1回 ガイダンス 開講にあたって

1. 講師自己紹介 2. 受講生の自己紹介 3. 講義の  
進め方とその内容 4. 評価について 5. アンケート

第2回 学習指導要領と特別活動 特別活動とは

1. 学習指導要領の記載 2. さまざまな特別活動

第3回 LHR活動について(1) LHR活動を通じたクラ  
ス仲間づくり

学級担任の仕事を追体験します

第4回 LHR活動について(2) LHR活動を通じたクラス  
仲間づくり

作ってみよう「学級通信」

第5回 校外学習について(1) 校外学習の目的  
校外学習プランを立ててみよう

第6回 学年行事について

学年行事について考える

第7回 生徒会活動(1) 1. 生徒会活動の目的 2.  
生徒会行事

生徒会活動の意義・役割

第8回 生徒会活動(2) 1. 生徒会執行部への指導  
リーダー指導の実際

第9回 部活動指導(1) 部活動の現状

1. 部活動の目的 2. さまざまな部活動 3. 運動部  
と文化部

第10回 部活動指導(2) 部活動顧問の役割

1. 活動計画 2. 備品管理 3. 会計処理 4. 部員  
の統率 5. 部活運営と問題の処理

第11回 人権教育・平和教育 人権・平和教育の概要

1. 身近な人権 2. 在日外国人問題 3. 国際ボ  
ランティア活動

第12回 修学旅行 修学旅行は学校生活のハイライト

1. 修学旅行の準備 2. 団体行動で求められるもの  
3. 思い出に残る旅行とは

第13回 文化祭 文化祭のめざすもの

1. 文化祭の準備 2. 舞台演技披露 3. クラスの出  
し物 4. 文化部の演出 5. 会計処理の重要性

第14回 総合的学習の時間の活用 学校の特色を生かし  
た総合的な学習

1. 学校での取り組み例の紹介

第15回 総合的学習の時間の活用 学校の特色を生かし  
た総合的な学習

1. 学校での取り組み例の紹介

-----  
2022年度 後期

2.0単位

総合的な学習の時間・特別活動の指導法(資格)

井上 豊久  
-----

< 授業の方法 >

講義及びワークショップ等

メールアドレスはダミー@human.kobegakuin.ac.jpで  
す。

私はメールは必ず1日に何度も見てますので、次の日  
までにもし私からの返信が無ければ、  
うまく届いてないことが考えられますので、再送してみ  
てください。

急ぎの場合はケータイ電話090-8627-042  
5に連絡ください。留守電付きです。留守電に入れてお  
いてもらうとこちらからも電話できます。

授業の方法・内容等については変更があるかもしれま  
せん。

< 授業の目的 >

学校教育全体における総合的な学習の時間・特別活動の  
意義を理解し、人間関係形成、社会参画、自己実現の視  
点やチームとしての学校の視点を深めた上で、総合的な  
学習の時間・特別活動の指導に必要な知識や素養を身に  
つける。DP複数の分野の基礎知識を教養として身につけ  
ること、相手の意見を正確に理解し、自分の考えや意見  
を口頭や文章で的確に表現できることを目的とする。

< 到達目標 >

1. 総合的な学習の時間・特別活動の目標及び内容の理  
解、2. 総合的な学習の時間・教育課程全体で取り組む  
指導の在り方の理解、3. 総合的な学習の時間・特別活  
動における家庭・地域住民や関係機関との連携の理解

< 授業のキーワード >

アクティブラーニング、社会に開かれた教育課程、クロ  
スカリキュラム、アイスブレイキング、指導案、メディ  
アリテラシー

< 授業の進め方 >

毎回、課題レポートを義務付ける。また、指導案作成を  
行う。

< 授業時間外に必要な学修 >

課題の提出、自己研究、各回60分の予習復習を基本と  
します。

< 提出課題など >

レポート、指導案、最終レポート、提出物は成績評価に  
反映させるほか、適宜、匿名にて論評を行う。

< 成績評価方法・基準 >

レポート40%、中間レポート20%、最終レポート4  
0%の総合判断

< 参考図書 >



学習指導要領、片岡徳雄編『特別活動論』福村出版、他  
適宜紹介

< 授業計画 >

## 第1回 オリエンテーション

講義の目標・内容と方法、評価の説明

## 第2回 総合的な学習の時間・特別活動とは何か

総合的な学習の時間・特別活動の定義と特徴

## 第3回 総合的な学習の時間・特別活動の目標と内容

学習指導要領の理解と授業展開

## 第4回 総合的な学習の時間・特別活動の歴史

明治以降の変遷、戦後の変遷

## 第5回 教科等との関連

教科、道徳、生徒指導等との関連

## 第6回 総合的な学習の時間・特別活動と授業実践

授業の計画・実施・評価の基本、個人、自己実現、集団、  
体験活動、社会参画

## 第7回 学級活動

学級活動の目標と内容

## 第8回 中間試験

中間総括と中間試験

## 第9回 総合的な学習の時間の実際と課題

総合的な学習の時間の実際と課題について事例等に基づ  
いて検討する

## 第10回 ワークショップ1

ワークショップの説明とアイスブレイキング、ブレイン  
ストーミングの説明を行う

## 第11回 ワークショップ2

カード分類法を使ったアクティブラーニングとプレゼン  
テーションの説明を行う

## 第12回 指導案作成1

指導案作成の基礎・基本の理解

## 第13回 指導案作成2

指導案作成の実践と学校経営、地域等との連携について  
検討する

## 第14回 発表

指導案の発表と省察、教育評価の内容と方法を理解する

## 第15回 まとめ

総括と最終レポート提出

-----  
2022年度 後期

2.0単位

総合的な学習の時間・特別活動の指導法（資格）

磯辺 次雄

-----  
< 授業の方法 >

対面形式 講義

< 授業の目的 >

総合的な学習の時間及び特別活動の意義、目標・内容や、  
その定め方についての理解を深め、指導計画作成、指導  
法、評価についての知識・技能や素養を身に付ける。

なお、この科目の担当者は中学校現場の実践および教育  
委員会での指導を経験した実務経験のある教員であり、  
現場での実践に向けて必要な知識・態度や実践事例を受講  
できる。

< 到達目標 >

・総合的な学習の時間の目標・内容・各学校において定  
める際の考え方、特別活動の目標・内容を説明できる。

・総合的な学習の時間の果たす役割を、必要となる資質  
・能力の視点から理解している。

・探究的な学習過程、主体的・対話的で深い学びを実現  
することの重要性と具体的事例を理解している。

・特別活動の教育課程における位置づけ、各教科等との  
関連を理解している。

・特別活動の内容の特質、指導の在り方、評価の重要性  
を理解し、話し合い活動や集団活動の指導の在り方を例  
示できる。

・特別活動の家庭、地域住民、社会教育施設等の関係機  
関との連携の在り方を理解している。

・教育活動の評価と改善の重要性、学習状況に関する評  
価の方法・留意点を理解している。

・この学習を通して、教育実践に対する意欲を高める。

< 授業のキーワード >

探究的な学習過程 主体的・対話的で深い学び 人間関  
係形成 生き方を考える 社会参画 自己実現

< 授業の進め方 >

テキストとレジユメを用いて講義を中心に進める。毎授  
業の最後にミニレポートを提出する。

< 履修するにあたって >

小・中学校、高等学校で経験してきた学校行事・校外学  
習・職場体験活動・ホームルームなどの内容や、それら  
の活動で感じたことを振り返っておく。

< 授業時間外に必要な学修 >

自分の興味・関心に応じた探究的な学習を考えること。  
最終レポートの作成に向けて、探究的な学習の具体をま  
とめておくこと。

< 提出課題など >

毎時間講義終了後、ミニレポートを提出する。講義時間  
内に書いてもらいます。（15分程度）

レポートはコメントを加えフィードバックするので、最  
終レポート作成に活かしてください。

最終レポートとして、特別活動を組み込んだ総合的な学  
習の時間の実施計画を立案して提出する

< 成績評価方法・基準 >

課題のレポート（60％） 毎時間講義終了後のミニ  
レポートの記載内容（40％）で評価する。

< テキスト >

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（

H 2 9 . 7 ) 東山書房発行 256円 + 税  
文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の  
時間編』(H 2 9 . 7 ) 東山書房発行 209円 + 税

< 授業計画 >

第1回 概要

学習指導要領と総合的な学習の時間・特別活動

第2回 総合的な学習の時間・特別活動の目標と内容

総合的な学習の時間及び特別活動の目標と内容 育成す  
る資質・能力

第3回 総合的な学習の時間の内容 1

探究的な見方・考え方 探究課題

第4回 総合的な学習の時間の内容 2

考える技法 道徳との関連

第5回 総合的な学習の時間の評価

教育評価とは 目標の設定について 指導と評価の一体  
化

第6回 考える技法の活用

授業づくりの手順 知識の構造化 単元構造図

第7回 内容の取り扱いについての配慮事項

総合的な学習の時間の特質に応じた学習の在り方

第8回 特別活動の目標と内容 1

学級活動 生徒会活動 学校行事

第9回 特別活動の目標と内容 2

特別活動の目標とは 実践事例より

第10回 特別活動の意義

人間形成と特別活動 各教科・道徳・総合的な学習の時  
間との関連

第11回 総合的な学習の時間の計画立案について

見通しを持った指導計画 単元計画

第12回 各学校において定める総合的な学習の時間の目  
標及び内容

各学校において総合的な学習の時間の目標及び内容を定  
める際の考え方

第13回 総合的な学習の時間の指導計画作成

総合的な学習の時間としての要件 総合的な学習の時間  
の指導計画の作成と配慮事項

第14回 総合的な学習の時間・特別活動の課題の研究

受講生が参考文献等の資料を収集して、特別活動を組み  
込んだ総合的な学習の時間の指導計画を、レポートとし  
て作成する中での問題点や質疑応答。

第15回 課題のまとめ

前回に引き続きレポートをまとめて提出し、これまでの  
講義のまとめをおこなう。

第16回

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

地誌学(資格)

西尾 正仁  
-----

< 授業の方法 >

対面による講義形式を原則にしながら、受講生による調  
査・報告、実習を適宜取り入れる。

なお、新型コロナウイルスの感染状況により、授業形態が変更さ  
れる場合がある。

遠隔授業となった場合は下の「遠隔授業情報」の欄を参  
考にください。

< 授業の目的 >

授業の目的は、全額DPに掲げる「共通教育等を通じて、  
広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養して  
いる」という到達目標に関連し、中学校社会科および高  
等学校地歴科の授業実施に必要な地誌学的知識・技能・  
視点を習得することを目的とする。

なお、この授業の担当者は公立高等学校教諭を41年間に  
わたり務めた、実務経験のある教員であるので、より実  
践的な観点から、中・高等学校での授業実施に必要な技  
能や考え方も併せて講義する者である。

< 到達目標 >

授業目的を達成するために、以下の到達目標を設定する。

- ・地誌学の基礎的知識を習得する。
- ・世界が多様性とその相互依存によって成立しているこ  
とを理解しようとする態度を身につける。
- ・地図・統計を使って、事象を分析したり、自分の主張  
を表現したりする技能を研鑽する。
- ・児童・生徒への学習指導に資する地域調査を行うため  
の基本的スキルを獲得する。

< 授業のキーワード >

多様性 空間相互依存 新科目「地理基礎」 地域調査

< 授業の進め方 >

講義中心で授業を進めるが、受講生による発表や実習を  
適宜織り交ぜて授業をすすめる。

授業終わりに、授業内容を確認するためのプリントを配  
布し、次の授業始めに回収する。

各単元ごとに理解度や講義に対する質問や意見を訊ねる  
小レポートを課す。

前期レポートと最終レポートを課す。最終レポートとし  
て各自が一国を取り上げ、第30回授業で発表する。

< 履修するにあたって >

高等学校で地理A・Bを履修していなくても対応可能と  
なるよう、基礎・基本に徹した講義を実施する。将来中  
学校や高等学校で社会科や地歴科の教員を目指す学生に  
受講してほしい。

< 授業時間外に必要な学修 >

## 事前学習

授業に関係するテキストの内容を通読し、学習内容や疑問点を整理しておく(1時間)

## 事後学習

・授業ごとに配布される確認プリントを完成させ、次授業の始めに提出する(1時間)

・各単元で出される小レポートを作成する(3~4時間)

・前期レポート・最終レポートを作成する(5~6時間)

### < 提出課題など >

・授業ごとにだされる確認プリント

・単元毎にだされる小レポート

・前期レポート

・最終レポート

### < 成績評価方法・基準 >

・授業平常点(発表・作業・復習プリント実施状況)

30%

・小レポート5回 @5%

25%

・前期レポート

20%

・最終レポート(発表態度等含めて)

25%

### < テキスト >

・帝国書院『新詳資料 地理の研究』1,026円(税込)

・帝国書院『標準高等地図 地図でよむ現代社会』1,

760円(税込)

### < 参考図書 >

朝倉書店『地誌学概論〔第2版〕』

### < 授業計画 >

#### 第1回 ガイダンス

講義の構成、評価方法の説明を受けた上で、地誌学の歴史と課題について学ぶ

#### 第2回 日本の地誌(1)

日本の自然と生活について学ぶ

#### 第3回 日本の地誌(2)

日本の産業や都市の特徴について統計や画像から読み解く

#### 第4回 日本の地誌(3)

西南日本の各地域の地誌的特徴を統計地図などを利用して考察する。

#### 第5回 日本の地誌(4)

東北日本の各地域の地誌的特徴を図表や統計から読み解く。

小レポート出題。

#### 第6回 地図・グラフを作成する

エクセルを用いて、地誌的考察の基本的資料となるグラフや統計地図の作成する。

#### 第7回 東アジアの地誌(1)

東アジアの自然や民族を白地図などを用いて把握する。

#### 第8回 東アジアの地誌(2)

中国の農業・工業について、統計地図や画像から読み解く。

#### 第9回 東アジアの地誌(3)

朝鮮半島の国々、中でも大韓民国の経済発展について、統計資料などから考察する。小レポート出題。

#### 第10回 東南アジアの地誌

東南アジアの民族、植民地支配の歴史、地域統合について学ぶ。

#### 第11回 南アジアの地誌(1)

南アジアの民族・宗教と国の成り立ちについて学ぶ。

#### 第12回 南アジアの地誌(2)

南アジアの自然環境と産業を図表や統計から読み解く。

小レポート(東南アジア・南アジア)出題

#### 第13回 西アジア・北アフリカの地誌

西アジア・北アフリカの自然と文化について学ぶ。

#### 第14回 アフリカの地誌

サハラ以南のアフリカの自然、歴史、資源について学ぶ  
砂漠化・食糧・人口等、アフリカの諸課題について考察する

#### 第15回 前期総括

アジア・アフリカ地域の地域交流を地誌学的視点から検討する

前期レポート出題

#### 第16回 ヨーロッパの地誌(1)

ヨーロッパの自然、民族、宗教について学ぶ

#### 第17回 ヨーロッパの地誌(2)

ヨーロッパの産業を画像や統計から読み解く

#### 第18回 ヨーロッパの地誌(3)

ヨーロッパの地域統合の歴史と意義、ブレクジットの意味について考察する

#### 第19回 ロシアの地誌

ロシアの自然・産業・社会について学ぶ

小テスト(ロシアを含むヨーロッパ)出題

#### 第20回 アングロアメリカの地誌(1)

北米の自然環境と歴史について学ぶ

#### 第21回 アングロアメリカの地誌(2)

アングロアメリカの産業を図表や画像から読み解く

#### 第22回 アングロアメリカの地誌(3)

アメリカ合衆国が抱える社会問題について学ぶ

#### 第23回 ラテンアメリカの地誌(1)

ラテンアメリカの自然と民族・歴史を画像や統計から読み解く

#### 第24回 ラテンアメリカの地誌(2)

ラテンアメリカの産業や社会について学ぶ

小レポート(アングロアメリカとラテンアメリカ)出題。

#### 第25回 オセアニアの地誌

オーストラリアの自然・産業・多文化共生主義について学ぶ

## 第26回 地域研究(1)

地域研究の方法論について学ぶ

各自の最終レポートの課題を決める(冬季休業最終日に提出)

## 第27回 歴史地誌学

港湾都市神戸の発展を歴史地誌の視点から学ぶ

## 第28回 グローバル化と地誌

グローバル化の進展の中で地誌の捉え方を空間相互依存をキーワードに検討する

## 第29回 地域研究(2)

各自の最終レポートの進行状況を確認したうえで、最終レポートの作成についてアドバイスを受ける

## 第30回 最終レポート報告

冬季休業最終日に提出したレポートの要点を報告する

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

地誌学(資格)

西尾 正仁

### <授業の方法>

対面による講義形式を原則にしながら、受講生による調査・報告、実習を適宜取り入れる。

なお、新型コロナの感染状況により、授業形態が変更される場合がある。

遠隔授業となった場合は下の「遠隔授業情報」の蘭を参考にしなさい。

### <授業の目的>

授業の目的は、全額DPに掲げる「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養している」という到達目標に関連し、中学校社会科および高等学校地歴科の授業実施に必要な地誌学的知識・技能・視点を習得することを目的とする。

なお、この授業の担当者は公立高等学校教諭を41年間にわたり務めた、実務経験のある教員であるので、より実践的な観点から、中・高等学校での授業実施に必要な技能や考え方も併せて講義する者である。

### <到達目標>

授業目的を達成するために、以下の到達目標を設定する。

- ・地誌学の基礎的知識を習得する。
- ・世界が多様性とその相互依存によって成立していることを理解しようとする態度を身につける。
- ・地図・統計を使って、事象を分析したり、自分の主張を表現したりする技能を研鑽する。
- ・児童・生徒への学習指導に資する地域調査を行うための基本的スキルを獲得する。

### <授業のキーワード>

多様性 空間相互依存 新科目「地理基礎」 地域調査

### <授業の進め方>

講義中心で授業を進めるが、受講生による発表や実習を適宜織り交ぜて授業をすすめる。

授業終わりに、授業内容を確認するためのプリントを配布し、次の授業始めに回収する。

各單元ごとに理解度や講義に対する質問や意見を訊ねる小レポートを課す。

前期レポートと最終レポートを課す。最終レポートとして各自が一国を取り上げ、第30回授業で発表する。

<履修するにあたって>

高等学校で地理A・Bを履修していなくても対応可能となるよう、基礎・基本に徹した講義を実施する。将来中学校や高等学校で社会科や地歴科の教員を目指す学生に受講してほしい。

<授業時間外に必要な学修>

### 事前学習

授業に関係するテキストの内容を通読し、学習内容や疑問点を整理しておく(1時間)

### 事後学習

- ・授業ごとに配布される確認プリントを完成させ、次授業の始めに提出する(1時間)
- ・各單元で出される小レポートを作成する(3~4時間)

・前期レポート・最終レポートを作成する(5~6時間)

### <提出課題など>

- ・授業ごとにだされる確認プリント
- ・単元毎にだされる小レポート
- ・前期レポート
- ・最終レポート

### <成績評価方法・基準>

- ・授業平常点(発表・作業・復習プリント実施状況) 30%
- ・小レポート5回 @5% 25%
- ・前期レポート 20%
- ・最終レポート(発表態度等含めて) 25%

### <テキスト>

- ・帝国書院『新詳資料 地理の研究』1,026円(税込)
- ・帝国書院『標準高等地図 地図でよむ現代社会』1,760円(税込)

### <参考図書>

朝倉書店『地誌学概論〔第2版〕』

### <授業計画>

#### 第1回 ガイダンス

講義の構成、評価方法の説明を受けた上で、地誌学の歴史と課題について学ぶ

#### 第2回 日本の地誌(1)

日本の自然と生活について学ぶ

第3回 日本の地誌(2)  
日本の産業や都市の特徴について統計や画像から読み解く

第4回 日本の地誌(3)  
西南日本の各地域の地誌的特徴を統計地図などを利用して考察する。

第5回 日本の地誌(4)  
東北日本の各地域の地誌的特徴を図表や統計から読み解く。  
小レポート出題。

第6回 地図・グラフを作成する  
エクセルを用いて、地誌的考察の基本的資料となるグラフや統計地図の作成する。

第7回 東アジアの地誌(1)  
東アジアの自然や民族を白地図などを用いて把握する。

第8回 東アジアの地誌(2)  
中国の農業・工業について、統計地図や画像から読み解く。

第9回 東アジアの地誌(3)  
朝鮮半島の国々、中でも大韓民国の経済発展について、統計資料などから考察する。小レポート出題。

第10回 東南アジアの地誌  
東南アジアの民族、植民地支配の歴史、地域統合について学ぶ。

第11回 南アジアの地誌(1)  
南アジアの民族・宗教と国の成り立ちについて学ぶ。

第12回 南アジアの地誌(2)  
南アジアの自然環境と産業を図表や統計から読み解く。  
小レポート(東南アジア・南アジア)出題

第13回 西アジア・北アフリカの地誌  
西アジア・北アフリカの自然と文化について学ぶ。

第14回 アフリカの地誌  
サハラ以南のアフリカの自然、歴史、資源について学ぶ  
砂漠化・食糧・人口等、アフリカの諸課題について考察する

第15回 前期総括  
アジア・アフリカ地域の地域交流を地誌学的視点から検討する  
前期レポート出題

第16回 ヨーロッパの地誌(1)  
ヨーロッパの自然、民族、宗教について学ぶ

第17回 ヨーロッパの地誌(2)  
ヨーロッパの産業を課像や統計から解き明かす

第18回 ヨーロッパの地誌(3)  
ヨーロッパの地域統合の歴史と意義、ブレクジットの意味について考察する

第19回 ロシアの地誌  
ロシアの自然・産業・社会について学ぶ  
小テスト(ロシアを含むヨーロッパ)出題

第20回 アングロアメリカの地誌(1)

北米の自然環境と歴史について学ぶ

第21回 アングロアメリカの地誌(2)  
アングロアメリカの産業を図表や画像から読み解く

第22回 アングロアメリカの地誌(3)  
アメリカ合衆国が抱える社会問題について学ぶ

第23回 ラテンアメリカの地誌(1)  
ラテンアメリカの自然と民族・歴史を画像や統計から読み解く

第24回 ラテンアメリカの地誌(2)  
ラテンアメリカの産業や社会について学ぶ  
小レポート(アングロアメリカとラテンアメリカ)出題。

第25回 オセアニアの地誌  
オーストラリアの自然・産業・多文化共生主義について学ぶ

第26回 地域研究(1)  
地域研究の方法論について学ぶ  
各自の最終レポートの課題を決める(冬季休業最終日に提出)

第27回 歴史地誌学  
港湾都市神戸の発展を歴史地誌の視点から学ぶ

第28回 グローバル化と地誌  
グローバル化の進展の中で地誌の捉え方を空間相互依存をキーワードに検討する

第29回 地域研究(2)  
各自の最終レポートの進行状況を確認したうえで、最終レポートの作成についてアドバイスを受ける

第30回 最終レポート報告  
冬季休業最終日に提出したレポートの要点を報告する

-----

2022年度 前期～後期

4.0単位

地誌学(資格)

金子 直樹

-----

<授業の方法>  
講義(対面授業)  
ただし今後の状況によっては遠隔授業(オンデマンド授業)の可能性もある。  
\*金子個人のメールアドレス: ダミー@human.kobegakuin.ac.jp  
<急激な感染拡大に伴う授業形態の一時的変更について>  
4月27日? 6月15日は授業形態をオンデマンド授業に変更します。  
6月20日(日)に緊急事態宣言が解除された場合 対面授業(講義)に戻ります。  
10月5日以降の授業は対面授業とする。

<授業の目的>  
この科目は、全学のDPに示す、に掲げる「共通教育等を通じて、広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」という方針のもと、日本や世界の地誌的な内

容を理解し、地理学的な視点を習得することを目的とする。

地理学の領域における地誌学の独特な位置づけを理解した上で、様々な地理資料（地図や統計・写真等）を用いて、世界の各地域の自然環境と人間生活との関わりについて、社会的、歴史的な文脈から総合的に概説していく。また、今日における社会的、文化的、経済的事象の地域や国境を越えた関係性についての理解も目指す。その過程を通じて、中学・高校の教職にも必要となるべき地理的思考や知識の体系を確認していく。

#### <到達目標>

以下のような地誌的視点や考え方が理解できることを目標とする。日本・世界の様々な地理的特徴への基本的知識（日本列島・各地方・大陸・各国の位置、人口・産業・資源・環境などの状況）の理解、地誌がいかにかの国際情勢と関連しているかを認識し、グローバル化社会に対する基礎知識としての地誌の重要性への理解

#### <授業のキーワード>

地誌・地理学・地域・日本・世界・時事問題

#### <授業の進め方>

地図・資料を配布・提示しつつ講義を進めるが、資料としてドキュメンタリーやニュース番組を紹介することもある。

#### <履修するにあたって>

高校社会科の地理を履修していなくても対応可能な講義とする予定である。ただし教職科目ということで、社会科の教員免許という点では、歴史学の知識や見方のみならず、地誌を含めた地理学的な側面も必要となるので、本講義で少しでも地理学や地理的な話に関心を持ってのぞんでいただきたい。

#### <授業時間外に必要な学修>

授業各回の内容を事後に復習(15分)して、次回にのぞむこと。

#### <提出課題など>

毎回講義終了前に、講義内容に対する意見・感想・疑問点などをまとめる課題を行う。次の授業時にその総評などを行う。また上記課題や定期試験は、請求があれば採点基準や判定を文書にて回答する。

#### <成績評価方法・基準>

講義中の課題（70%）およびレポート（30%）

#### <テキスト>

使用しない

#### <参考図書>

中学校社会科地理の教科書など。講義中に紹介する。

#### <授業計画>

第1回 オリエンテーション

「地誌学」の特徴と課題

第2回 日本の諸地域1 九州地方1

自然的特徴：地形・気候など

第3回 日本の諸地域1 九州地方2

人文社会的特徴：人口・産業など

第4回 日本の諸地域2 中国・四国地方1

自然的特徴：地形・気候など

第5回 日本の諸地域2 中国・四国地方2

人文社会的特徴：人口・産業など

第6回 日本の諸地域3 近畿地方1

自然的特徴：地形・気候など

第7回 日本の諸地域3 近畿地方2

人文社会的特徴：人口・産業など

第8回 日本の諸地域4 中部地方1

自然的特徴：地形・気候など

第9回 日本の諸地域4 中部地方2

人文社会的特徴：人口・産業など

第10回 日本の諸地域5 関東地方1

人文社会的特徴：人口・産業など

第11回 日本の諸地域5 関東地方2

人文社会的特徴：人口・産業など

第12回 日本の諸地域6 東北地方1

自然的特徴：地形・気候など

第13回 日本の諸地域6 東北地方2

人文社会的特徴：人口・産業など

第14回 日本の諸地域7 北海道地方1

自然的特徴：地形・気候など

第15回 日本の諸地域7 北海道地方2

人文社会的特徴：人口・産業など

第16回 オリエンテーション

世界・日本の区分

第17回 世界各地域の概要1

自然的特徴：地形・気候など

第18回 世界各地域の概要2

人口・人種・民族など

第19回 世界の諸地域1；東アジア

自然的（地形・気候）・人文社会的特徴（人口・産業）

第20回 世界の諸地域2；東南アジア

自然的（地形・気候）・人文社会的特徴（人口・産業）

第21回 世界の諸地域3；南アジア

自然的（地形・気候）・人文社会的特徴（人口・産業）

第22回 世界の諸地域4；西アジア・中央アジア

自然的（地形・気候）・人文社会的特徴（人口・産業）

第23回 世界の諸地域5；アフリカ

自然的（地形・気候）・人文社会的特徴（人口・産業）

第24回 世界の諸地域6；ヨーロッパ1

自然的特徴：地形・気候など

第25回 世界の諸地域6；ヨーロッパ2

人文社会的特徴：人口・産業など

第26回 世界の諸地域7；アングロアメリカ1

自然的特徴：地形・気候など

第27回 世界の諸地域7；アングロアメリカ2

人文社会的特徴：人口・産業など

第28回 世界の諸地域8；ラテンアメリカ1

自然的特徴：地形・気候など

第29回 世界の諸地域8：ラテンアメリカ2

人文社会的特徴：人口・産業など

第30回 世界の諸地域9：オセアニア

自然的（地形・気候）・人文社会的特徴（人口・産業）

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

哲学概論（資格）

能川 元一  
-----

< 授業の方法 >

講義形式による授業を基本とするが、授業中に課題に取り組む時間をとることもある（3回ほどを予定）。

資料は OneDrive を通じて配布する。

新型コロナウイルス感染症の観戦状況により、授業形態が対面授業となるか遠隔授業となるかが左右されるため、大学からの案内に留意すること。

< 授業の目的 >

哲学の役割は、本来、日常生活で当たり前だと思われていることを改めて問い直し、その意味を受け取り直すことである。例えば「私が私である」ことは私たちの日常の営みにとって自明の前提とされているが、この自明性を疑い「私が私である、とはどういうことか？」を問うことが哲学的な思考である。本講義では哲学における基本問題のいくつかをとりあげ、古代から近代までの哲学史においてそれらがどのように論じられてきたかを概観するとともに、哲学的な思考の実践例について学ぶ。

また教員を目指すものにとって必要と思われる、思想史に関する知識を学ぶことも目的とする。また、本学ディプロマ・ポリシーに定める目標のうちとりわけ「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」と「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導く」に関わる能力の学修を目標とする。

< 到達目標 >

各回ごとに課題となるキーワードを指定するので、そのキーワードについて「それがなぜ問題になるのか（問題の拝啓）」「それはどのような問題なのか（問題の内容）」「それについてどのような学説があるのか」を説明できるようになることが目標である。

< 授業のキーワード >

素朴実在論、アイデア論、懐疑論、生得観念、コペルニクスの転回、主観主義／客観主義、最大多数の最大幸福、定言命法、自然権、社会契約論、抵抗権、格差原理、承認、イドラ、方法的懐疑とコギト、科学革命、基礎付け主義、帰納法、演繹、アブダクション、言語行為論、会話の作法、魂の不死、人格の同一性、心身問題

< 授業の進め方 >

講義時に使用する資料等は OneDrive の「哲学概論講義資料」フォルダ（URLは下記参照）にPDFファイルとしてアップロードするので、あらかじめ内容を確認したうえで、各自プリントアウトして持参すること。タブレット等、授業中に資料PDFファイルにアクセスできるデバイスを持参する場合には、プリントアウトは必要ない。

「哲学概論講義資料」フォルダへのリンク

[https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hm145017\\_human\\_kobegakuin\\_ac\\_jp/Eug7aW5UJYhMu63MSC\\_R1VwB2ugk6bwqwZvikJZCZa-0XA?e=X1YEMd](https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hm145017_human_kobegakuin_ac_jp/Eug7aW5UJYhMu63MSC_R1VwB2ugk6bwqwZvikJZCZa-0XA?e=X1YEMd)

< 履修するにあたって >

第1回目の講義で講義の進め方についての詳細なガイダンスを行う。第1回目を欠席した場合には初回出席時に申し出ること。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義ホームページで配布するPDFファイルの資料を講義前に閲覧し、理解の困難な箇所をチェックしておくこと（30分程度）。

講義後にも再び閲覧して、講義の理解度を確認しておくこと（30分程度）。

< 提出課題など >

各講義の最後に時間を設けて、その回の要点をまとめるミニ・レポートを作成し、提出する。課題の評価ポイントについては次回講義時に解説する。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価は前期期間中の課題、後期については定期試験の成績または課題、および講義中に課すミニ・レポートによる。

総合的な評価に占めるそれぞれの比率は前期期間中の課題が40%、後期の定期試験または課題が40%、ミニレポートが20%（全講義期間を通じて）である。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

熊野純彦、『西洋哲学史 古代から中世へ』、岩波新書  
熊野純彦、『西洋哲学史 近代から現代へ』、岩波新書  
國分功一郎、『中動態の世界 意志と責任の考古学』、医学書院

戸田山 和久、『恐怖の哲学 ホラーで人間を読む』、NHK出版新書

野矢茂樹（監修）、『ロソリのちから 「読み解く・伝える・議論する」論理と思考のレッスン』、三笠書房  
植原亮、『自然主義入門：知識・道徳・人間本性をめぐる現代哲学ツアー』、勁草書房

ピーター・ゴドフリー＝スミス、『タコの心身問題 頭足類から考える意識の起源』、みすず書房

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスおよびイントロダクション

講義のテーマ、講義の進め方などについてのガイダンスを行うとともに、現代における哲学の意義について概説する。

第2回 ものはなぜそう見えるか？(1)

素朴実在論はなぜ間違っているのか？ 認識論におけるもっとも基本的な問いについて、それがどのような問題であるのかを論じる。

第3回 ものはなぜそう見えるか？(2)

ものの実在に関する懐疑論の説得力がどのような点にあるのか、にもかかわらず懐疑論を克服すべき理由は何なのかについて考える。

第4回 ものはなぜそう見えるか？(3)

「生得観念」をめぐるイギリス経験論と大陸合理論の対立と、その対立がもつ現代的な意義について論じる。

第5回 ものはなぜそう見えるか？(4)

懐疑論を克服しつつイギリス経験論と大陸合理論とを総合しようとしたカントの試みについて論じる。

第6回 ものはなぜそう見えるか？(5)

「色」はものの表面にあるのか？ 光のなかにあるのか？ 人の心のなかにあるのか？ 「色の知覚」を例にとり、「ものはなぜそう見えるか？」という問いを改めて考え直す。

第7回 ものはなぜそう見えるか？(6)

「色」の認識論と存在論をめぐる現代哲学の議論を紹介する。

第8回 「道徳的」であるとはどのようなことか(1)

現代倫理学における基本的な立場の一つである、ベンサム「功利主義」について解説する。

第9回 「道徳的」であるとはどのようなことか(2)

現代倫理学における基本的な立場の一つである、カントの「義務論」について解説する。

第10回 「道徳的」であるとはどのようなことか(3)

人間の自律性について、ベンサムとカントの思想を対比させながら考える。

第11回 国家はなんのためにあるのか(1)

ホッブス、ロック、ルソーの社会契約論について概観する。

第12回 国家はなんのためにあるのか(2)

啓蒙主義と人権思想について概観する。

第13回 国家はなんのためにあるのか(3)

自由をめぐるミルとヘーゲルの議論を紹介する。

第14回 国家はなんのためにあるのか(4)

ロールズの『正義論』とそれに対する批判について解説する。

第15回 前半のまとめ

第14回までの講義について補足説明を加えるとともに、受講者の関心の高いテーマについて討論する。

第16回 確実な知識を求めて(1)

デカルトの「方法的懐疑」と「コギト」について解説する。

第17回 確実な知識を求めて(2)

17世紀の「科学革命」の思想的な意義について解説する。

第18回 確実な知識を求めて(3)

論理実証主義と現象学による「基礎づけ」の試みについて概説する。

第19回 確実な知識を求めて(4)

「基礎づけ主義」の挫折とプラグマティズムの真理論について概説する。

第20回 「考える」ことを考える(1)

フランシス・ベーコンの「イドラ論」について、現代における心理学の知見もふまえて解説する。

第21回 「考える」ことを考える(2)

帰納と演繹についての基本的な事項を解説する。

第22回 「考える」ことを考える(3)

人間が犯しやすい論理的な錯誤について学ぶ。

第23回 「考える」ことを考える(4)

アブダクション(仮設形成)や類推といった思考方法の特徴について概説する。

第24回 「考える」ことを考える(5)

第20回から23回までの講義内容に関して、練習問題に取り組んでみる。

第25回 「考える」ことを考える(6)

第20回から24回までの講義を踏まえて、ITC時代に必要メディア・リテラシーについて考える。

第26回 20世紀の言語哲学(1)

言語行為論および「会話の作法」について概説し、20世紀の言語哲学の知見に触れる。

第27回 20世紀の言語哲学(2)

20世紀に大きく発展を見せた記号理論について紹介する。

第28回 自己同一性(1)

「人格の同一性」についての様々な哲学的議論を紹介する。

第29回 自己同一性(2)

「心」と「身体」の関係はどのようなものであるのかを考える(心身問題)。

第30回 後半のまとめ

第16回から29回までの講義について補足説明を加えるとともに、受講者の関心の高いテーマについて討論する。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

哲学概論(資格)

平光 哲朗

-----  
<授業の方法>

講義

<授業の目的>



前期

主題 問いからはじめる哲学

目的

本講義では、哲学的な疑問から出発して、著名な哲学者たちの考察のなかへ入っていきます。それにより受講者は考える力を養い、哲学の基礎的な考え方を獲得します。

私たちは、日常に訪れるふとした隙間のなかで、哲学的な疑問を持つことがあります。この講義では、そうした疑問のいくつかを受講者と一緒に考えます。

例えば夜寝る前、こんな風に考えたことはないでしょうか。「...このまま眠って、もし目覚めることがないなら、それが死ぬということだろうか。明かりが消えるように私の意識も消える...」。こうしたぼんやりとした疑問を、さらに著名な哲学者たちの考察のなかに置き直して考えます。

また例えば、夢と現実の区別についての疑問では、デカルトの省察を導きの糸にします。そうすることで受講者は、おそらく極端と思われるような結論に行き当たることでしょう。

本講義で取り上げる哲学者たちは、それぞれに考察を極限まで推し進めたことで、私たちの足元に大きな穴がぽっかりと開いていることに、気づかせてくれます。

この講義全体を通して、小さな哲学者が受講者一人ひとりのなかに生まれることを期待しています。

後期

主題 西洋哲学の歴史を辿る

目的

本講義では、古代ギリシヤに端を発した西洋哲学の流れを、現代の手前まで辿ります。それにより受講者は、理性を中心においたものの考え方の始まりからひとつの終わりまでを、さまざまな哲学者たちとともに、自ら辿り直すこととなります。受講者は、哲学者たちが生み出してきた、それぞれに独創的な思考の体系のなかに身を置き、自分でも彼らと同じ問いを考え、議論の展開につき従います。そうすることで、受講者が自分で問いを立て、問題の前提を考察し、議論を展開するときに必要なものの考えかたの、最も徹底された諸形態を学びます。

講義では、各回のテーマについて、最も肝心な問いに焦点を絞って論じます。参加者が、その問いを引き継いで思索を深め、自ら探究をはじめめることを期待します。

本講義は、人文学科DP1、2、4、5、7、8、9に対応しています。

<到達目標>

前期

問いを持つ。

問いについての自分の考えを展開できる。

哲学者たちの議論を適切に理解できる。

哲学者たちの議論のなかに自分の問いを位置づけることができる。

後期

哲学者たちの思考を体系的に理解し、説明できる。

西洋哲学の基礎知識を獲得する。

哲学者たちの問いと考察を受けて、自らの問いを立てることができる。

<授業の進め方>

これは講義です。受講者は講義を受けて考えたことを毎回コメントとして記述します。その内容を、教員が次回講義の冒頭で紹介し、それにより、受講者のみなさんが考えたことを、受講者全体で共有します。そうすることで、受講者がさらなる考察への刺激と啓発を互いに与え合うことができるようにします。こうした双方向的で相互的な授業過程をとおして、受講者のみなさんが問題の理解を深め、自発的に考察を続けていくよう促します。

<授業時間外に必要な学修>

事後学習として、講義内容について自らの考察を深める（目安として1時間程度）

<提出課題など>

講義各回についてのコメント記述とレポート課題。

<成績評価方法・基準>

講義内容の理解度と考察（60%）、レポート課題（40%）

<授業計画>

第1回 ガイダンス

私はいま夢を見ているのではない、と知ることができるか

デカルトによる省察。方法的懐疑における夢の懐疑について。

第2回 私はいま夢を見ているのではない、と知ることができるか

ベルクソンにおける現実と夢の違い。身体と夢。

第3回 私たちは自由か

決定論について。スピノザにおける必然主義。

第4回 私たちは自由か

ライプニッツにおける可能世界論。

第5回 これまでの問いのレビューと討議

受講者による第1回から第4回の問いへの考察と討論。

第6回 心と体の関係について、または魂は存在するか  
デカルトにおける精神と身体二元論、スピノザの平行説。

第7回 心と体の関係について、または魂は存在するか  
現代の脳科学における諸前提について。ベルクソンの心身関係論。

第8回 死とは何か

ソクラテスと死。

第9回 死とは何か

ハイデガーによる死の考察。

第10回 これまでの問いのレビューと討議

受講者による第6回から第8回の問いへの考察と討論。

第11回 私はなんのために生きているのか

アリストテレスにおける最高善について。

第12回 私はなんのために生きているのか

ニーチェにおけるニヒリズムについて。

第13回 神は存在するか

世界を創造する神と世界に内在する神。

第14回 神は存在するか

神の死について。

第15回 これまでの問いのレビューと討議

受講者による第11回から第14回の問いへの考察と討論。

第16回 哲学とは何か

ギリシヤにおける哲学の始まり。ソクラテス以前の哲学者たちについて。

第17回 ソクラテス

無知の知、問答、ソクラテスの死。

第18回 プラトン

イデア、想起説、哲人王。

第19回 アリストテレス

形相と質料、自然学、形而上学。

第20回 中世哲学

神学、普遍論争、トマス・アクィナス。

第21回 ルネサンス期の哲学

ルネサンス、宗教改革、科学革命。

第22回 デカルト

理性、方法的懐疑、「我思う故に我在り」。

第23回 スピノザ、ライプニッツ

実体、神即自然、モナド。

第24回 ロック、バークリ、ヒューム

ロックの認識論、バークリの観念論、ヒュームの批判。

第25回 カント

理性批判、コペルニクス的転回、二律背反。

第26回 ヘーゲル

弁証法、歴史、絶対知。

第27回 キルケゴール

実存の三段階、単独者、信仰。

第28回 マルクス

物象化、史的唯物論、革命。

第29回 ニーチェ

「神は死んだ」、力への意志、永遠回帰。

第30回 総括

講義全体のレビューと総括。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

東洋の歴史 (資格)

大原 良通  
-----

< 授業の方法 >

遠隔授業(オンデマンド)

< 授業の目的 >

講義該当内容での教員採用試験に合格するだけの知識を身につける。

この授業では、建学の精神「真理愛好・個性尊重」に則り、人間の行動や文化を学際的に研究し、現代社会の大きな変化に対応しうる人材となることを目的とします。

この授業では、私たちが社会や文化をどのように築き上げ、どう運営してきたかについて理解してもらいます。人文学部のDPに依拠しながら、この授業から得た広い教養を身につけ、獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる(思考力・判断力・表現力)。

また、さまざまな人間の社会的・文化的活動を学ぶことで、複数の分野の基礎知識を教養として身につけます(知識・技能)。さらに、この授業を通して多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できるようになります(主体性・協働性)。人文学の知見にもとづき、知的好奇心をもって、自立的に深く学修できます。(主体性・協働性)。学部教育と融合した教職教育をとおして、学校教育の目的や目標、地域社会の課題を理解し、さまざまな要求や問題解決に取り組む、生徒の知識や技能、主体的・協働的に学習に取り組む態度の育成を図る教員として活躍できる(教職志望者)。

< 到達目標 >

中国史の各王朝の基本的な事項について説明できる。東アジアと西方諸国の交流を理解し、その影響について考察できる。

高校世界史の東洋史関連項目についてほぼ理解できる。

社会人として恥ずかしくない程度の東洋史の知識を身につけ、教員採用試験の東洋史関連分野に関しては高得点をとれるようになる。

< 授業のキーワード >

世界史 教職

< 授業の進め方 >

北村厚『教養のグローバル・ヒストリー』と高校世界史の教科書を使用し、課題を提出してもらいます。

課題はdotCampusで通知しますので、授業時に必ず確認してください。

前向きに、教員採用試験合格レベルの知識を得るんだ！  
という強い気持ちで頑張りましょう。

<履修するにあたって>

学習した範囲の基本事項を復習して、覚えておくこと。  
予習や復習の際には、高校の世界史で使用していた教科書や資料集も活用すること。

<授業時間外に必要な学修>

教科書の読解と暗記、課題制作で、週に4時間ぐらいをめどにしてください。

<成績評価方法・基準>

ほぼ毎回、dotCampusのテスト機能を利用した試験、もしくはレポートの提出をしてもらい、それらの総合得点を100点満点に按分して成績評価とします(100%)。

<テキスト>

北村厚、『教養のグローバル・ヒストリー』、ミネルヴァ書房。

ISBN978-4-623-08288-9

<授業計画>

第1回 ガイダンス、東洋史のあゆみ

この、シラバスを読んでください。

OneDriveもしくはdotCampusに授業に関する注意事項があります。

{[https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/hy105233\\_human\\_kobegakuin\\_ac\\_jp/EdIRMaUwsa9FovgmyTTWwCMBGcIsIDApS-UfALMQHiWvqw?e=9VXkmu](https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/hy105233_human_kobegakuin_ac_jp/EdIRMaUwsa9FovgmyTTWwCMBGcIsIDApS-UfALMQHiWvqw?e=9VXkmu)}

第2回 教員採用試験に見る世界史1

授業内容はOneDriveにあります。

世界史の東洋史部分がどのように扱われてきたのか、教員採用試験を使用して考察する。

{[https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/hy105233\\_human\\_kobegakuin\\_ac\\_jp/EQXM95cgxb1CvjjuLZBW\\_q6wBuzd6FnZZwYUV-8kcbSwZKw?e=zz1bfo](https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/hy105233_human_kobegakuin_ac_jp/EQXM95cgxb1CvjjuLZBW_q6wBuzd6FnZZwYUV-8kcbSwZKw?e=zz1bfo)}

第3回 南越国と南海交易

dotCampusで授業をおこないます。兵庫県の地歴公民の教員採用試験。南越国と南海交易。

第4回 古代の東アジア

班超と甘英など。

第5回 海の道の形成

漢代の東アジアと西方諸国の東西交流について学び、それが物や文化に与えた影響について考察する。

第6回 教員採用試験に見る世界史2

教員採用試験から、古代史がどのように扱われて以下について確認する。

第7回 東西の大帝国

唐の制度と文化、周辺諸国との関係について学ぶ。

第8回 イスラーム・ネットワークの拡大

タラス河畔の戦いと製紙法の西伝。

第9回 東西帝国の衰退

ウイグルと安史の乱

第10回 海洋の発展と大陸の分裂

日宋貿易や陶磁器

第11回 教員採用試験に見る世界史3

教員採用試験で唐代などがどのように扱われているかを確認します。

第12回 大モンゴルのユーラシア

モンゴル帝国の発展と、それが東西交流に与えた影響について学ぶ。ジンギス・ハン、ジャムチ。

第13回 大モンゴルユーラシア・ネットワーク

ラマ教やジャムチ制度、マルコポーロやモンテ・コルヴィノ

第14回 教員採用試験に見る世界史4

教員採用試験でアジアがどのように取り上げられきたかを確認する。

第15回 全体を俯瞰する

授業内容を確認しながら、学生の習熟度を測ります。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

日本の歴史(資格)

森栗 茂一  
-----

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

本授業は、人文学科の専門教育科目に属し、本学人文学部DPIにもとづき、歴史の「問題の解決」に向け、歴史随想によって「総合的かつ主体的に理解」し、「協働によって問題解決」する能力を養うことを目的とする。

なお、この授業担当者は、高等学校教諭を7年、国立歴史民俗博物館客員助教授を3年つとめ、神戸まちづくり研究所を設立運営してきた高校教育と博物館展示企画、歴史的まちづくりに関する実務経験のある教員である。これらの経験を柔軟に活かし、総合的な人文研究、歴史教育に対する知識や経験の少ない一般学生に対しては極めて解り易く講じ、既に専門的な知識や経験を有する学生には更に高度な教育が可能である。

<到達目標>

- ・歴史問題に対処する系統的な判断ができるようになる。
- ・歴史教育に対する総合的な知識、主体的に学ぶ態度を身に着ける。

<授業のキーワード>

歴史教育、歴史問題、生き方と歴史

<授業の進め方>

対面(社会状況、個人状況により遠隔参加の可能性あり)

使用するブログ、ZOOM、GoogleDriveのURLは、{森栗メ

ール,ダミー@human.kobegakuin.ac.jp}で連絡する。スマホ、PCによるチャットを活用することもある。

<履修するにあたって>

視聴覚教材等は、準備の都合によって変更することがある。

<授業時間外に必要な学修>

毎回の宿題に90分程度が必要である。

<提出課題など>

毎回、試験を実施する。範囲は、宿題と当日の視聴覚教材のなかから。次回授業で、フィードバックする。

<成績評価方法・基準>

毎回の試験 13回×6点=78点 随想等に関する諮問...22点

<テキスト>

東京アカデミー編『2021年度教員採用試験対策 専門教科 中学社会』（2020年度の古いものでも可）

<参考図書>

森栗茂一『河原町の歴史と都市民俗学』明石書店、2003年（図書館に複数用意する）

<授業計画>

1 オリエンテーション

自己紹介動画、授業の組立、宿題提出法

2 NHK歴史番組をみる1

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

3 歩き、見る、聞く実践

神戸、明石on-line動画を活用し、各自で予習する。

4 歩く・見る・聞く まちあるき実践

必要な動画を撮り、投稿する。

5 教員採用試験の経験1（古代、中世）

自己採点で自己確認

6 地歴教員物語（大学生篇）

地理学教室の学び、社会科初志の会、教員教員採用試験の経験

7 NHK歴史番組をみる2

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

8 地歴新書を読む1

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

9 教員採用試験の経験2（近世）

自己採点で自己確認

10 地歴教員物語（鈴高、定時制編）

新任教員経験を知る。教師か研究か？ 社会矛盾と社会科教育に悩む。

11 NHK歴史番組をみる3

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

12 地歴新書を読む2

受験歴史と歴史学、深く歴史を考えることとは違うことを知る。

13 教員採用試験の経験3（現代、総合）

自己採点で自己確認

15 地歴教員物語（大学教育編）

大学教育の教師像を知る。（学に志す。イケイケ国立歴博。大学院教養・キャリア教育。）

地歴探究教育の志

社会科の初志、地歴の意味

-----  
2022年度 後期

2.0単位

日本漢文学（資格）

藤井 宏

-----  
<授業の方法>

対面授業（講義）

特別警報（すべての特別警報）または暴風警報発令の場合（大雨、洪水警報等は対象外）

の本科目の取扱いについて

授業を実施します。

ただし、避難指示、避難勧告が発令されている場合はご自身の安全を最優先にし、自治

体の指示に従って行動してください。

#### 緊急事態が発生した場合の取扱い

教務センター所長の判断により措置するものとし、その内容を速やかに大学ホームページ（学内情報サービス）に掲載することで、周知するものとします。

なお、問い合わせの際のメールアドレスは以下の通りです。

ダミー@ge.kobegakuin.ac.jp

この授業を通して、複数の分野の基礎知識を身につけ、獲得した知識を活用して自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察を通して、解決・解明へと導くことができるようになることを目指す。

#### < 授業の目的 >

日本人が書いた漢文を読みながら、その意味と国語との関連を考える。

#### < 到達目標 >

日本語は漢語を導入してから、言葉の質が大きく変わり、表現力がアップした。しかし日本人は漢語をそのまま取り入れるのではなく、自らの言葉の中で、その質を変化させながら使用し、言葉としての日本語の質を大きく高めてきた。この時間は、日本語との関連を考えながら、日本人の書きたいいくつかの漢文を読んで、その変遷をたどることによって、日本語の中の漢文に慣れ、館文脈の入った国語の表現に慣れるということを目指したい。

#### 授業のキーワード

#### < 授業の進め方 >

教材文を読みながら、問題点をこちらから説明するだけでなく、質問したりしながら進めていきます。

#### < 履修するにあたって >

国語とのつながりということをつねに考えながら参加してください。

#### < 授業時間外に必要な学修 >

特に指定はしませんが、中国と日本の文化的かかわり（特に言葉や文学に関して）に関する本を読んでみてください。1時間程度の予習・復習をしてください。

#### < 提出課題など >

必要がある場合は、授業中に指示する。課題はmanabaから、添付ファイルで回答するものとする。

#### < 成績評価方法・基準 >

平常の発表点とまとめテストによる。

#### < テキスト >

プリント使用。

#### < 参考図書 >

特になし。日本語や日本文学と漢文について考察した本で、興味のあるものは何でも読んでみてください。

#### < 授業計画 >

第1回 プリントの配布とガイダンス。

教材プリント（ 1 ）の配布とこの授業ならびに最初の教材についての説明。

第2回 教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めていきます。

第3回 教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めていきます。

第4回 教材プリント（ 2 ）の配布と教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めていきます。

第5回 「注の読み方」を中心とした教材文の検討。

古典の「注の読み方」を中心に内容を検討して行きます。

第6回 「注の読み方」を中心とした教材文の検討。

古典の「注の読み方」を中心に内容を検討して行きます。

第7回 教材プリント（ 3 ）の配布と「注の読み方」。

古典の「注の読み方」を中心に内容を検討して行きます。

第8回 教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めていきます。

第9回 教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めていきます。

第10回 教材プリント（ 4 ）の配布と教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めていきます。

第11回 教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めていきます。

第12回 教材プリント（ 5 ）の配布と教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めていきます。

第13回 教材プリント（ 6 ）の配布と教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めていきます。

第14回 教材プリント（ 7 ）の配布と教材文の内容の検討。

語彙的な点や文化的な点、文法的な点から教材を読み進めていきます。

第15回 前期のまとめ。

この授業のまとめと質疑応答。

-----  
2022年度 後期

2.0単位

日本文学概論 (資格)

中村 健史  
-----

< 授業の方法 >

講義。対面。

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施される。

この科目は言語文学科目群に属する専門教育科目であり、同時に教職科目(国語)に属する。

この科目ではもっぱら国文学の成立と展開をたどりながら、形態、理念、文学史の流れ、構想と表現、文学研究および教材研究の方法論・視点・知識などを講義する。

授業の目的は以下の通りである。

(1) 国文学の成立と展開を踏まえ、作品の形態、理念、文学史の流れ、構想と表現などを理解する。

(2) 文学研究および教材研究の方法論・視点・知識を習得する。

この科目は、実務経験(高等学校を中心とする国語科教員)のある教員が担当する。必要に応じて、教育現場での実例や知見にも触れつつ授業を進めてゆく。

< 到達目標 >

(1) 国文学の成立と展開を踏まえ、作品の形態、理念、文学史の流れ、構想と表現などが理解できている。

(2) 文学研究および教材研究の方法論・視点・知識を習得している。

< 授業のキーワード >

国文学、形態、理念、構想、表現

< 授業の進め方 >

講義形式で行うが、受講生には積極的な発言・討議を求める。

< 履修するにあたって >

履修登録者はこのシラバスを読み、内容に同意したものと見なす。

この科目は教職科目(国語)を兼ねており、専ら教職履修者に照準を据えた進度・形式・難易度で授業を進めてゆく。

授業計画は、実際の授業の進度に応じて順序を変更する場合がある。

予習なしに出席することは認めない。

授業中は私語を禁じる。私語が見られた場合、課題を

提出する権利を剥奪することがある。

受講生は積極的な発言・討議が求められる。

提出物はフィードバックに利用する場合がある(全体に配布・掲示する場合には、氏名・学籍番号等が分からないように加工する)。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。あらかじめ指定されたテキストを読み、その作品の文学史的知識を調査しておくこと。また、必要に応じて、前時の授業内容を復習し、理解・記憶すること。

< 提出課題など >

学期末に期末レポートを課す。優秀作を受講生に提示し、必要に応じて解説を加える等する。

< 成績評価方法・基準 >

期末レポートによって評価する。平常点は加味しない。

評価の基準は、「到達目標」(1)~(2)が達成できているかどうかである。

< テキスト >

プリントを使用する。

< 参考図書 >

久保田淳他『日本文学史』おうふう 1997年 2052円 ISBN:9784273029883

購入を強く推奨する。

< 授業計画 >

第1回 序説

授業の内容を案内し、あわせて国文学における文学形式(ジャンル)、時代区分、研究方法および研究史について概説する。「授業の目的」(1)(2)に対応(以下すべて同じ)。なお、以下の授業内容については講義の都合上、順序が前後する場合がある。

第2回 神話

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第3回 和歌

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第4回 物語

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第5回 日記

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第6回 説話

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第7回 歌論

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第8回 軍記

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第9回 能

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第10回 俳諧

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第11回 戯作

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第12回 浄瑠璃

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第13回 小説（19世紀）

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第14回 小説（20世紀）

当該分野における理念、叙述、形態、教材研究について講義する。

第15回 原論

文学の本質について講義する。

-----  
2022年度 前期

2.0単位

日本文学史概論（資格）

中村 健史

-----  
< 授業の方法 >

講義。対面。

< 授業の目的 >

この科目は、人文学部のディプロマポリシーのうち「複数の分野の基礎知識を教養として身につけている」「獲得した知識と体験と技能を活用して、自らが設定した課題や問題点を論理的な分析と考察をとおして解決・解明へと導くことができる」「多様な他者と共存して、異なった価値観を尊重し、積極的に交流・協働できる」「将来にわたって知的好奇心を失わず、自立的に深く学修できる」ことを目指して実施される。

この科目は言語文学科目群に属する専門教育科目であり、「日本文学史2」への導入科目として位置づけられる。この科目は教職科目（国語）に属する。

この科目では国文学史を通史的に学ぶ。授業で取り扱う範囲は、奈良時代にはじまりおおむね江戸時代を下限とする。文学史の見地から個々の作品の特色を知り、主に日本語による文学表現の生成・発展を探求する。

授業の目的は以下の通りである。

（1）各時代・各分野の代表的な作品について、作者・成立・概要を知る。

（2）文学史全体の流れのなかで作品が占める位置や

影響関係を知る。

この科目は、実務経験（高等学校を中心とする国語科教員）のある教員が担当する。必要に応じて、教育現場での実例や知見にも触れつつ授業を進めてゆく。

< 到達目標 >

（1）「授業の目的」（1）について、授業1回あたり20項目程度列挙できる。

（2）「授業の目的」（2）について、特に代表的な作品であれば、参考書等を利用することなく、暗記した知識を基に短い文章で説明できる。

< 授業のキーワード >

国文学、文学史、文学

< 授業の進め方 >

講義

< 履修するにあたって >

履修登録者はこのシラバスを読み、内容に同意したものと見なす。

この科目は教職科目（国語）を兼ねており、専ら教職履修者に照準を据えた進度・形式・難易度で授業を進めてゆく。

授業計画は、実際の授業の進度に応じて順序を変更する場合がある。

授業中は私語を禁じる。私語が見られた場合、課題を提出する権利を剥奪することがある。

提出物はフィードバックに利用する場合がある（全体に配布・掲示する場合には、氏名・学籍番号等が分からないように加工する）。

< 授業時間外に必要な学修 >

授業時間外に必要な学修の目安となる時間は、1回あたり3時間程度である。第7回に中間試験を予定しており、また期末にも試験があるので、それに向けて、授業の内容を整理し、よく理解した上で、主要な情報については暗記しておいてほしい。また、授業内で紹介した作品・参考書を読むことが不可欠である。予習は必要ない。

< 提出課題など >

なし

< 成績評価方法・基準 >

中間試験（40%）と期末試験（60%）で評価する。平常点は加味しない。

評価の基準は、「到達目標」（1）（2）が達成できているかどうかである。

中間試験・期末試験については、原則として教育実習、介護等体験（以上の理由による欠席は事前の申し出を必須とする）、指定感染症（含新型コロナウイルス感染症疑い）による欠席（公認欠席の証明もしくは診断書必須）、忌引き、災害等によってやむを得ず出席できなかった場合にかぎり、代替試験の受験を認める。

授業欠席回数が3分の1を超過する受講生は単位取得の資格を失うものとする。その際、公欠およびやむをえない欠席の取り扱いが大学の規定に拠る。受講生は欠席の

事由が消滅し次第、速やかに手続きを行うこと。手続きが遅れた場合、取り扱いに不利が生ずることがある。なお、課外活動を理由とする欠席については一切配慮しない。

<テキスト>

資料配付

<参考図書>

久保田淳他『日本文学史』おうふう 1997年 2052円 ISBN:9784273029883

乾安代他『日本古典文学史』暁印書館 2016年 1870円 ISBN:9784870155152

いずれかを購入することが望ましい。

<授業計画>

第1回 序説

「日本」文学史の範囲・定義について講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第2回 奈良時代

主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第3回 平安時代(1)

詩歌に関して、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第4回 平安時代(2)

物語に関して、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第5回 平安時代(3)

日記等に関して、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第6回 和歌知識

和歌に関する技巧、知識、概要、文学史上の位置、影響関係について講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第7回 まとめ

奈良・平安時代文学の主題・特色を考察し、全体をまとめた上で、中間試験を行う。

第8回 鎌倉時代(1)

和歌・物語等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第9回 鎌倉時代(2)

軍記等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第10回 室町時代

主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第11回 江戸時代(1)

俳諧に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第12回 江戸時代(2)

浮世草子等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第13回 江戸時代(3)

洒落本等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第14回 江戸時代(4)

浄瑠璃等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

第15回 江戸時代(5)

和歌・漢詩等に関し、主要な作品の作者、成立、概要、文学史上の位置、影響関係を講義する。「授業の目的」(1)(2)に対応。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

福祉科教育法(資格)

小坂 享子  
-----

<授業の方法>

講義を中心に進める。

<授業の目的>

学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解したうえで、福祉科教員として必要な資質を確認すること、学習意欲を高める授業を創っていくために必要となるスキルを獲得することを目的とする。

<到達目標>

- ・学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造、さらには学習評価の考え方について理解している。
- ・日本における社会福祉の現状と課題を知り、教材研究に活用することができる。
- ・福祉に関わる課題追求型の授業を創ることができる。

<授業のキーワード>

学習指導案、課題解決型学習、模擬授業

<授業の進め方>

授業は講義が中心になる回と、受講生の発表、受講生同士のディスカッションが中心となる回がある。模擬授業では受講生一人ひとりが教壇に立ち、受講生が相互に批評する形式となる。

<履修するにあたって>



社会福祉に関わる科目を復習しておくこと。人々が抱える生活課題について把握し、その解決に向けた方策を考える姿勢をもっていること。福祉実践やまちづくり活動の現場を経験していることが望ましい。

無断欠席、遅刻は厳禁。

< 授業時間外に必要な学修 >

新聞を読む。

授業の内容を必ず復習する。

< 提出課題など >

レポートの提出を求めることがある。

模擬授業に際しては、学習指導案、評価票の提出を求める。

< 成績評価方法・基準 >

定期試験は実施しない。

授業への参加度（40％）、レポート（20％）、模擬授業（40％）

< テキスト >

高等学校学習指導要領解説 福祉編 文部科学省編 海文堂出版

< 授業計画 >

第1回 オリエンテーション

授業の目的、進め方、履修上の留意点を確認する。

第2回 福祉教育の歴史的展開

教育と福祉が結合した福祉教育が、時代の要請で現実化してきた歴史的展開を、その時代の社会的背景を理解しつつ学ぶ。

第3回 福祉教育の理念

福祉教育の理念を学び、福祉教育と高校における教科「福祉」の関わりを考察する。

第4回 教科「福祉」について

教科「福祉」創設の経緯について学ぶ。

第5回 教科「福祉」について

教科「福祉」の意義を考察する。

第6回 教科「福祉」について

教科「福祉」の構成について学ぶ。

第7回 教科「福祉」について

教科「福祉」の内容について学ぶ。

第8回 学習指導要領の概要

学習指導要領にみる教科「福祉」の全体構造を学び、各科目の内容を概観する。平成11年に教科「福祉」が学習指導要領に位置付けられてから10年を経て改訂がなされたが、この改訂の内容から新しい「福祉」のポイントを読み解く。

第9回 福祉教育とボランティア

福祉教育も教科「福祉」も、現実社会から生活課題を見

出し、その解決を目指すところにその特徴がある。ここでは、教科「福祉」にけるボランティアの位置づけについて理解する。

第10回 教材研究

具体的な授業場面を想定した授業設計を行うために、地域社会における福祉問題について、今まで、知っていること、経験したこと、感じたこと、読んだこと、について話し合う。

第11回 課題追求型学習の意義

子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解したうえで、前回あげられた地域社会における福祉問題を解決するために、我々がなすべき具体的方策を考える意義を確認する。

第12回 模擬授業演習

「社会福祉基礎」および「介護福祉基礎」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第13回 模擬授業演習

「社会福祉基礎」および「介護福祉基礎」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第14回 模擬授業演習

「社会福祉基礎」および「介護福祉基礎」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第15回 介護課程の意義

学習指導要領の改訂により、介護に関わる科目が新設された。教科「福祉」における介護課程の意義と位置づけについて学ぶ。

第16回 模擬授業演習

「コミュニケーション技術」および「こころとからだの理解」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第17回 模擬授業演習

「コミュニケーション技術」および「こころとからだの理解」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第18回 模擬授業演習

「コミュニケーション技術」および「こころとからだの理解」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

第19回 模擬授業演習

「生活支援技術」・「介護過程」・「介護総合演習」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模

擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

#### 第20回 模擬授業演習

「生活支援技術」・「介護過程」・「介護総合演習」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

#### 第21回 模擬授業演習

「生活支援技術」・「介護過程」・「介護総合演習」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

#### 第22回 模擬授業演習

「福祉情報活用」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

#### 第23回 模擬授業演習

「福祉情報活用」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

#### 第24回 模擬授業演習

「福祉情報活用」について、学習指導計画を作成の上、模擬授業を行う。模擬授業担当者以外の受講生も評価票を記入し、全員で相互評価を行い、授業設計の向上に取り組む。

#### 第25回 模擬授業演習

教育実習における生徒理解を試みることにより、自身が行った模擬授業の内容を総括する。

#### 第26回 文献検討報告

受講生が読んだ福祉教育、あるいは教科「福祉」に関わる論文等の内容報告を行う。

#### 第27回 シンポジウム等報告

受講生が参加した福祉教育、あるいは教科「福祉」に関わる研修会、学会大会、シンポジウムの報告を行う。

#### 第28回 社会福祉を取り巻く 今日的状況

社会福祉士及び介護福祉士に関わる動向や、社会福祉を取り巻く今日的状況について理解し、そこからみえてくる課題を考える。

#### 第29回 教科「福祉」の課題と展望

社会福祉を取り巻く今日的状況のなかでの教科「福祉」の意義について整理する。

#### 第30回 総括

1年間の本講義の成果について総括する。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

倫理学概論（資格）

能川 元一  
-----

< 授業の方法 >

講義形式による授業を基本とするが、授業中に課題に取り組む時間をとることもある（4回ほどを予定）。

資料は OneDrive を通じて配布する。

新型コロナウイルス感染症の観戦状況により、授業形態が対面授業となるか遠隔授業となるかが左右されるため、大学からの案内に留意すること。

< 授業の目的 >

私たち人間が社会的存在であるかぎり、私たちが行うことは不可避免的に他者に影響を与え、また私たち自身も他者の行動の影響を被ることになる。ここから、私たちの行動の原則についての学としての倫理学（ないしは道徳哲学）が要請されることになる。

この授業の前半では倫理や道徳についての古典的な議論について学び、どのような問題が見出され論じられてきたのかを理解することを目的とする。上述のような条件は古今東西を問わず人間の生の基本的な条件であり、先人たちの思索の努力は今日を生きる私たちにとっても指針となりうるからである。

他方で現代に固有の倫理的問題が生まれていることも指摘されている。この授業の後半ではそうした新たな倫理的課題について、それらが現れてきた背景と主な論点を理解し、前半で学んだ古典的な倫理学の可能性と限界について自ら考えることを目的とする。

また教員を目指すものにとって必要と思われる、倫理学に関する知識を学ぶことも目的とする。また、本学ディプロマ・ポリシーに定める目標のうちとりわけ「広い教養を身につけ、豊かな人間性や社会性を涵養」と「幅広い知識を活用してさまざまな問題を発見し、それを解決する方策を導く」に関わる能力の学修を目標とする。

< 到達目標 >

(1) 古典的な倫理思想、道徳哲学の主要な論点を理解すること、またそれを通じて、倫理的な判断を下す際に考慮を払うべき事柄としてどのようなものがあるかを学ぶこと。

(2) 現代社会において新たに登場した倫理的問題についてその論点と背景を理解すること。

(3) 現代を生きる私たちが自らの権利を守り、また他者の権利を守るために必要な実践的な知識を身につけること。

< 授業のキーワード >

道徳的ジレンマ、徳（アレテー）、アパテイア、応報主義、寛容、善意志、定言命法、最大多数の最大幸福、自

由主義、パターンリズム、応用倫理学、世代間倫理、ケアの倫理 / 正義の倫理

< 授業の進め方 >

講義時に使用する資料等は OneDrive の「倫理学概論講義資料」フォルダ (URL は下記参照) に PDF ファイルとしてアップロードするので、あらかじめ内容を確認したうえで、各自プリントアウトして持参すること。タブレット等、授業中に資料 PDF ファイルにアクセスできるデバイスを持参する場合には、プリントアウトは必要ない。

「倫理学概論講義資料」フォルダへのリンク

[https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hm145017\\_human\\_kobegakuin\\_ac\\_jp/EmlDnJn1aWp0qQyYMErgNTMBNpAVF92yihgqi9\\_Zfb0UhA?e=zml3UH](https://kobegakuin-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/hm145017_human_kobegakuin_ac_jp/EmlDnJn1aWp0qQyYMErgNTMBNpAVF92yihgqi9_Zfb0UhA?e=zml3UH)

< 履修するにあたって >

第1回目の講義で「講義の進め方についての詳細なガイダンスを行う。第1回目を欠席した場合には初回出席時に申し出ること。

< 授業時間外に必要な学修 >

講義ホームページで配布する PDF ファイルの資料を講義前に閲覧し、理解の困難な箇所をチェックしておくこと (30分程度)。

講義後にも再び閲覧して、講義の理解度を確認しておくこと (30分程度)。

< 提出課題など >

各講義の最後に時間を設けて、その回の要点をまとめミニ・レポートを作成し、提出する。課題の評価ポイントについては次回講義時に解説する。

< 成績評価方法・基準 >

成績評価は前期期間中の課題、後期については定期試験の成績または課題、および講義中に課すミニ・レポートによる。

総合的な評価に占めるそれぞれの比率は前期期間中の課題が40%、後期の定期試験または課題が40%、ミニレポートが20% (全講義期間を通じて) である。

< テキスト >

なし。

< 参考図書 >

マーティン・コーエン、『倫理問題101問』、ちくま学芸文庫、2007年

E・トゥーгентハット他、『ぼくたちの倫理学教室』、平凡社新書、2016年

徳永哲也、『プラクティカル 生命・環境倫理』、世界思想社、2015年

フィリッパ・フット、『人間にとって善とは何か：徳倫理学入門』、筑摩書房、2014年

ジョナサン・ハイト、『社会はなぜ左と右にわかれるのか 対立を超えるための道徳心理学』、紀伊國屋書店、2014年

浅見昇吾・盛永審一郎、『教養としての応用倫理学』、丸善出版、2013年

< 授業計画 >

第1回 ガイダンスおよびイントロダクション

講義のテーマ、講義の進め方など「についてのガイダンスを行うとともに、倫理学を学ぶことの意義について概説する。

第2回 道徳的ジレンマ (モラルジレンマ) はなぜ発生するのか?

道徳的ジレンマと呼ばれる状況の典型例をいくつか紹介し、そのような状況がなぜ生じるのかを考える。また、それを通じて、道徳的判断の原理を明らかにしようとする倫理学はなぜ必要なのかを考える。

第3回 ソクラテスはなぜ死刑を受け容れたか

古代ギリシャの哲学者ソクラテスは、不当な告発により死刑判決を受けたが、友人たちによる脱獄の勧めを断り死刑を甘受する。このソクラテスの決断はなにを意味しているのかについて考える。

第4回 「徳」は教えることができるか?

ソクラテスの弟子プラトンの著書『メノン』に依りつつ「得」は教えることができるか否かという問題について考える。これは「得」の本性に関わる問いであり、現代的な文脈においては道徳教育の可能性に関わる問いでもある。

第5回 「優れた性格」とはどのようなものか

アリストテレスの倫理学における「中庸」について解説する。

第6回 人間の本性とは?

ヘレニズム時代の哲学のうちキニク派とストア派の倫理思想について紹介する。

第7回 応報主義について

古代・中世の宗教思想から、「善行を積みば報われる」「悪行には罰が下る」という応報思想の倫理学的意味についての思索を紹介する。

第8回 「自由意志」は存在するか?

キリスト教神学の伝統における「自由意志」をめぐる施策について紹介するとともに、その現代的な意義について考える。

第9回 「寛容」について

異なる宗教間の「寛容」をめぐるD・ヒュームの思想について紹介する。

第10回 なにが「善」を構成するのか? (1)

現代倫理学における基本的な視座の一つ、功利主義について紹介する。

第11回 なにが「善」を構成するのか? (2)

現代倫理学における基本的な視座の一つ、義務論について紹介する。

第12回 「自由」とはなにか (1)

J・S・ミルの古典的な自由主義の定式化について紹介し、その可能性と限界について考える。

第13回 「自由」とはなにか(2)

「?からの自由」とは区別された「?への自由」としての自由論について紹介する。

第14回 応用倫理学の歴史的背景

20世紀の後半に新たに浮上してきた倫理的課題を扱う「応用倫理学」の諸問題について、その歴史的な背景を解説する。

第15回 応用倫理学の思想的背景

20世紀の後半に新たに浮上してきた倫理的課題を扱う「応用倫理学」の諸問題について、その思想的な背景を解説する。

第16回 環境倫理(1)

環境倫理学がとりあげてきた代表的な問題を紹介する。

第17回 環境倫理(2)

環境倫理学の問題提起のうち、世代間倫理について考える。

第18回 環境倫理(3)

生物多様性を保護することはなぜ重要なのかについて考える。

第19回 情報倫理

SNS時代の新しい問題、「忘れられる権利」について考える

第20回 医療倫理(1)

『安楽死』『尊厳死』についての古典的な事例を紹介する。

第21回 医療倫理(2)

「終末期鎮静」「胃ろう」などの事例について紹介し終末期の医療について考える。

第22回 医療倫理(3)

人体実験の歴史と臨床試験の倫理について紹介する。

第23回 生命倫理(1)

「リベラルな優生学」と呼ばれる事例について紹介する。

第24回 生命倫理(2)

「ハイテク義肢」など、人体改造の「いま」について紹介する。

第25回 生命倫理(3)

スポーツおよびそれ以外の分野における「ドーピング」の事例について紹介する。

第26回 生命倫理(4)

「生命への人為的な介入はどこまで許されるのか?」について考察する。

第27回 ロボット倫理

自律的なロボットの過失や「犯罪」の責任は誰が負うのか? 自律的なロボットは道徳的な配慮の対象になるのか? 人間に近づきつつあるロボットが提起する倫理的問題について考える。

第28回 ケアの倫理と正義の倫理(1)

倫理学に対するフェミニズムの問題提起について紹介する。

第29回 ケアの倫理と正義の倫理(2)

「普遍性の追究」がもつ意義と問題点について考察する。

第30回 まとめ

従前の講義について補足説明を行うとともに、受講生の関心の高いテーマについて討論する。

-----  
2022年度 前期～後期

4.0単位

倫理学概論(資格)

平光 哲朗  
-----

<授業の方法>

講義

<授業の目的>

前期主題 他者からはじまる倫理

目的

私たちはふだん、「自己」、「意識」、「主体性」、「理性」、そして「人間」といった概念を深く問い直すことなく用いています。しかしこれらの概念は、20世紀を通して根本的に問い直されてきました。「自己」に対して「他者」が、「意識」に対して「無意識」が、「主体的決定」に対して「構造的決定」が、「理性」に対して「欲望」が、それぞれ徹底的な仕方で対置されたのです。それによって私たちが近代以降前提にしてきた思考の形式が、「自我中心」、「自民族中心」、「人間中心」として批判されました。またそれとともに「人類の進歩」という言葉を、私たちはもはや素朴な仕方で信じることはできなくなりました。

この講義ではまず、第二次世界大戦後の実存主義という思想潮流が「自己」、「意識」、「主体性」、そして「人間」に強い信頼を保持していたことを確認します。そして、その次にあらわれた構造主義という思想潮流が、どのようにこれらの諸概念を批判し、「他者」、「無意識」、「構造」という概念に基づいて思考を展開したかを、ひとつずつ辿っていきます。

こうした講義の展開を通して、本講義では、現代に生きる人間の倫理を考えるための前提を受講者と共有します。そしてそのうえで、「他者」から出発する倫理の可能性を探究します。それは、ますます多様化し複雑化すると同時に、また断絶をも深める世界に生きる私たちが、「異なること」を受け入れて生きる仕方を模索する試みです。

後期主題 宗教の基礎的な理解を築く

目的

私たちは現在、多様な諸文化が複雑に絡みあう世界を、また同時に、異なる諸文化が相互に断絶した世界を生きています。これらの多様性、異質性が生じる根には宗教の違いがあります。

本講義の中心は、三つの一神教、ユダヤ教、キリスト教、イスラームの解説です。それを通して受講者には、とりわけ一神教と多神教との違いについて、考察を促します。次いで仏教を取り上げます。そして大乘仏教における空の思想と唯識について理解を深めます。

本講義は、緩やかな仕方でベルクソンの宗教論を下敷きにしています。彼は呪術、精霊信仰、神話などから成る静的な宗教と動的な宗教を区別します。そして動的な宗教のなかでも特にキリスト教神秘主義において、人類が開かれた社会へ至る可能性を見出します。私たちは、講義全体を通して得た知見と考察から、最後にこの宗教論を批判的に検討します。

宗教は私たちが、私たちの生の全体の意味を、人間とは何かということ、根本的に問いなおされる審級です。本講義は、受講者がこの問いなおしに触れることで、私たちの生について思索を深めるよう誘います。

本講義は、人文学科DP1、2、4、5、7、8、9に対応しています。

<到達目標>

前期到達目標

サルトルの実存主義について理解し、説明できる。  
構造主義者たちの諸理論について理解し、説明できる。  
レヴィナスの他者論について理解し、説明できる。  
他者から出発する倫理を理解し、自らの見解を述べることができる。

後期到達目標

一神教と多神教の違いを理解し、説明できる。  
ユダヤ教、キリスト教、イスラームの基本的な理解を持つ。

仏教の基本的な理解を持つ。

神秘主義の意義を理解し、説明できる。

静的な宗教と動的な宗教の区別を理解し、説明できる。

<授業の進め方>

これは講義です。受講者は講義を受けて考えたことを毎回コメントとして記述します。その内容を、教員が次回講義の冒頭で紹介します。それにより、受講者のみなさんが考えたことを、受講者全体で共有します。そうする

ことで、受講者がさらなる考察への刺激と啓発を互いに与え合うことができるようにします。こうした双方向的で相互的な授業過程をとおして、受講者のみなさんが問題の理解を深め、自発的に考察を続けていくよう促します。

<授業時間外に必要な学修>

事後学習として、講義内容について自らの考察を深める（目安として1時間程度）。

<提出課題など>

講義各回についてのコメント記述とレポート課題。

<成績評価方法・基準>

講義内容の理解度と考察（60%）、レポート課題（40%）。

<授業計画>

第1回 前期講義ガイダンス

前期講義の全体像を理解する。

第2回 実存主義

サルトルの実存主義

・「主体性から出発しなければならない」

・神なき人間の在り方について」

第3回 構造主義

レヴィストロースの文化人類学

・『親族の基本構造』

・文化相対主義

第4回 構造主義の二つの源泉

フロイトによる無意識の発見

第5回 構造主義の二つの源泉

ソシュールの構造言語学

第6回 構造主義

ラカンの精神分析

・「無意識は言語によって構造化されている」

・主体を成立させる三つの次元

第7回 構造主義

フーコー、知の考古学

・『狂気の歴史』

・『言葉と物』、エピステーメー

第8回 ポスト構造主義

フーコー、権力批判

・『監獄の誕生』

・『性の歴史』

第9回 他者からはじまる倫理

サルトルにおける他者

・まなざしとしての他者

第10回 他者からはじまる倫理

レヴィナスにおける他者

・顔における他者

第11回 他者からはじまる倫理

レヴィナスの他者論、二つの前提

・フッサール現象学とその批判

第12回 他者からはじまる倫理

レヴィナスの他者論、二つの前提  
・ハイデガーの存在論とその批判  
第13回 他者からはじまる倫理  
デリダ、脱構築としての正義  
・デリダによるレヴィナス批判  
第14回 他者からはじまる倫理  
レヴィナスの応答  
・『存在するとは別の仕方、あるいは存在の彼方へ』  
第15回 前期講義総括  
前期講義の全体を振り返る  
第16回 後期講義ガイダンス  
宗教とは何か  
第17回 呪術、精霊信仰、トーテミズム  
呪術、精霊信仰、トーテミズムについて  
第18回 神々への信仰  
神話について  
第19回 多神教  
多神教の諸形態について  
第20回 ユダヤ教  
モーセ、十戒、トーラーとタルムード  
第21回 ユダヤ教  
ユダヤ教神秘主義、カバラ  
第22回 キリスト教  
イエス、隣人愛、キリスト教の成立  
第23回 キリスト教  
キリスト教神秘主義  
・マイスター・エックハルト  
・ニコラウス・クザーヌス  
第24回 イスラーム  
ムハンマド、『クルアーン』  
第25回 イスラーム  
イスラーム神秘主義  
・イブン＝アラビー  
・スフラワルディー  
第26回 仏教  
輪廻と解脱、ブッダ、縁起の法と慈悲  
第27回 仏教  
大乘仏教  
・空  
第28回 仏教  
大乘仏教  
・唯識  
第29回 静的宗教から動的宗教へ  
ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』の宗教論  
第30回 静的宗教から動的宗教へ  
ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』の宗教論に対する批判的考察